



ViewStation FX/VS4000 ユーザーガイド

重要情報

© 2000 2001 Polycom Inc. All rights reserved.

この文書のいかなる部分も、Polycom, Inc. の明白な許可なしで、いかなる目的でも、電氣的または機械的などのいかなる手段でも、複製または転送することを禁じます。法律の下では、他の言語やフォーマットへの翻訳も複製に含まれます。

当事者間で、Polycom, Inc. は、この製品に含まれるソフトウェアに関するすべてのタイトル、所有権、占有権を保有します。このソフトウェアは、アメリカの著作権および国際条約規定によって保護されています。このため、このソフトウェアは、その他の著作権がある物件（例、本または録音レコード）のように取り扱われなければなりません。

警告

この製品は、クラス A 製品です。家庭的環境では、この製品は通信妨害を起こす可能性があります。その場合は、十分な処置を取ってください。

その他の制約

お客様は以下の作業を行ったり、または第三者が行うことを許可できません。1) 分散、分解、その他の逆工学操作を行うこと、また、ソースコードやソフトウェアの基礎をなす概念や互除法を、いかなる方法をもっても発見または再構築したりすること、または 2) 製品を取り除くこと。

商標情報

Polycom®, ShowStation®, および Polycom のロゴデザインは登録商標です。また、ViewStation™ はアメリカおよびその他の諸国で、Polycom, Inc. の商標となっています。ADTRAN® は登録商標です。また Expert ISDN™ は ADTRAN, Inc. の商標です。その他すべての商標は、それぞれの会社の所有です。あらゆる努力を傾注して、このマニュアルの情報が正確であることを期しました。Polycom, Inc. は印刷エラーまたは事務的エラーには責任を一切負いません。この文書中の情報は、予告なしに変更することがあります。

特許情報

この付随製品も 1 つ以上のアメリカと外国の特許権、および Polycom, Inc. による特許申請中として保護されています。

保証

Polycom, Inc. は、その製品が購買日から (36) ヶ月間、材料および工場での出来映えに関して欠陥がないことを保証します。この保証は、Polycom, Inc. が公認したサービス設備 / 販売店以外による、事故、誤用、サービスまたは変更の結果による破損には適用されません。この保証は最初の購買者だけに制限されており、譲渡できません。この製品またはその性能に関する Polycom, Inc. またはその供給者の負債は、いかなる保証書、不注意、厳格責任またはその他のセオリーの元にあっても、上記のように製品修理または交換に厳格に限られます。上記を除き、製品は、何の保証もない「無保証」として提供されており、無制限に 特定目的用の商品性または適合性を保証するものではありません。システムに含まれているソフトウェア プログラムの品質と性能のすべてのリスクは、お客様が負担するものとします。

破損と修理の制限

Polycom, Inc.、その代理人、使用者、供給者、販売店およびその他の権限を与えられた代表者は、製品、またはそれに関連する事柄に関し、いかなるコントラクト、不注意、厳格責任の元に生じる、情報、ビジネス、または利益の損失に限らず、いかなる間接的、付随的または結果的損傷について、一切の責任および負債を負いません。

州または国によっては、保証と結果的損傷の制限を許容していないので、上記の制限、放棄、除外が適用されないこともあります。この保証書は、特別な法的権利を付与します。州と国が付与するその他の権利もあります。

重要な安全措置

システムの使用する前に以下の指示を読み理解してください。

- ・ お子様のそばでこのシステムを使用する場合は、保護者の注意深い監視が必要です。使用中は、席を離れないでください。
- ・ 延長電気コードの使用に関しては、少なくともこのシステムのものと同質の新しいコードだけを使用してください。
- ・ クリーニング中、メンテナンス中、または使用していない時は、必ずシステムの電源を抜いてください。
- ・ クリーニングの際、液を直接システムにスプレーしないでください。必ず、静電気防止加工された布にまず液を適用します。
- ・ システムを液体に浸したり、システムに液体をかけたりしないでください。
- ・ （製造元指示による以外は）このシステムを分解しないでください。感電の危険を軽減し、システム保証を維持するためには、システムへのサービスや修理は資格のある技術者によって行われなければなりません。
- ・ この機器はアース付きコンセントに接続します。
- ・ 雷雨の場合は、電話線をシステムから外して、電力サージ保護のあるコンセントにシステムを接続します。
- ・ 換気口付近に障害物を置かないでください。
- ・ これらの説明書を保管しておいてください。

USA およびカナダの規定通知

FCC 通知

クラス A デジタル デバイス

この機器は、テストの結果、FCC ルールの 第 15 部に則り、クラス A デジタル デバイス制限に準拠していると判断されました。この制限は、機器が商業環境で操作される場合に有害な障害に対する適切な保護を提供する意図のもとに作成されました。この機器は、無線周波エネルギーを生成、使用または放出しており、マニュアルの指示通りにインストールまたは使用しないと、無線通信に有害な障害を引き起こす恐れがあります。住宅地域でこの機器を作動すると、有害な障害を引き起こす恐れがあり、その場合、ユーザは自己負担でこの障害を修正する必要があります。

FCC ルールの 第 15 部に準拠して、ユーザーが Polycom Inc. の明白な承認なしに、この装置に変更または修正を加えると、Polycom Inc. は、ユーザーがこの装置を操作する権利を無効することができます。

この装置を接続するコンセントは、機器の近くにインストールされ、いつでも簡単にアクセスできるようにする必要があります。

FCC 規制 第 15 部

この機器は、FCC 規制の第 15 部に準拠しています。操作は、以下の 2 条件に服します。

1) このデバイスが有害な干渉を起こさないこと。そして、2) このデバイスが、望ましくない操作を起こす干渉を含むいかなる干渉も受け入れなければならないこと。

FCC 規制 第 68 部

この機器は、FCC 規制の第 68 部に準拠しています。以下の情報については装置のラベルを参照してください。依頼に応じて、この情報を電話会社に提供します。

- ・ 登録番号
- ・ リンガー 等価 (REN)
- ・ 被授与者の名前
- ・ モデル番号
- ・ シリアル番号そして / または製造日付

- ・ 出身国名

この機器は、電話会社が提供するコイン使用の公衆電話では使用できません。パーティ回線への接続は、特別料金の対象になります。州の公共事業コミッションまたは企業コミッションから情報を得てください。

その装置に問題が生じた場合には、電話線から切断して、登録装置が不機能かどうか決定します。不機能な場合には、問題が解決されるまで装置を切断したままにします。

ViewStation FX または VS4000 が電話ネットワークに害を与えた場合、電話会社はサービスの一時的切断が必要なことを事前に通知します。しかし、事前通知が困難な場合は、できるだけ早く通知されます。必要と判断すれば、FCC に提訴する権利があることが通知されます。

電話会社は、ユーザの機器操作に影響を与える変更を、施設、機器、操作または手順に施行するかもしれません。その場合は、サービスの断続を避ける機会があるように、事前通知があります。

REN は電話回線に接続されるデバイスの品質を決定するのに有益です。電話回線に REN が過剰になると、デバイスに電話がかかってくるでも、呼び出しベルが鳴らないことがあります。例外もありますが、大抵の地域では、電話回線に接続できる REN は、REN 合計によって決定されます。地域の電話会社に連絡してください。

FCC 承認の電話線とモジュラー プラグが、この機器と共に提供されます。この機器は、パート 68 に則り、電話ネットワークまたは適合するモジュラ ジャックを使用した構内の配線に接続されるように設計されています。詳細はインストールの説明を参照してください。

産業カナダ (IC)

このクラス A デジタル機器は、カナダの ICES-003 によって承認されています。

Cet appareil numerique de la classe A est conforme a la norme NMB-003 du Canada.

産業カナダのラベルは、保証装置を認定しています。この保証は、この装置が、適切なターミナル装置のテクニカル必要条件文書の説明に応じた、テレコミュニケーション ネットワークの保護的、操作的また安全性の必要条件を充たしていることを意味します。この部署は、装置がユーザーが満足するように作動することを保証するものではありません。

この装置をインストールする前に、ユーザーはローカル テレコミュニケーション会社の施設に接続する許可があるかどうか確認してください。この装置は、承認された方法でインストールしなければなりません。顧客は、上記の条件に従っても、ある状況下ではサービスの低下を必ずしも防ぐとは限らないことをご承知ください。保証装置の修理は、供給者が指定する代理人によってコーディネートされる必要があります。この装置または装置の不機能に対してユーザーが加えた修理または変更が、テレコミュニケーション会社が装置を切断することを要請する原因になる場合があります。

電源ユーティリティ、電話回線そして内部金属パイプ システムの電気グラウンド接続がしっかりと接続されているように確認してください。これは自分保護のためです。この注意は、地方では特に重要です。

注意 ユーザーはこのような接続を自分で行わないで、適切な電気検査当局または適切な技師に連絡してください。

該当する各ターミナル デバイスに割り当てられたリング等価番号 (REN) は、電話インターフェイスに接続を許可されているターミナルの最大数を指示したものです。インターフェイスのターミネーションは、デバイスの組合せから成り立っており、すべてのデバイスの REN の総計が 5 を超過しないという必要条件だけに従います。

EEA 規定通知

警告

この製品は、クラス A 製品です。家庭的環境では、この製品は通信妨害を起こす可能性があります。その場合は、十分な処置を取ってください。

設置指示

設置は、該当する国の配線ルールに準拠して実行されなければなりません。

プラグは切断デバイス機能

この装置を接続するコンセントは、機器の近くにインストールされ、いつでも簡単にアクセスできるようにする必要があります。

CE Mark R & TTE 指図

この VIEWSTATION FX/VS4000 は CE マークが付いています。このマークは、EEC Directives 89/336/EEC, 73/23/EEC 1999/5/EC の承認を得ていることを示します。準拠宣言書の完全なコピーは、Polycom Ltd. 270 Bath Road, Slough UK, SL1 4DX で取得できます。

準拠保証書：

ここに、Polyspan Ltd. は、VIEWSTATION FX/VS4000 が、Directive 1999/5/EC の重要な必要条件および該当規定に準拠していることを宣言します。

Konformitetserklæring:

Hermed erklærer Polyspan Ltd., at indestående VIEWSTATION FX/VS4000 er i overensstemmelse med de grundlæggende krav og de relevante punkter i direktiv 1999/5/EF.

Konformitätserklärung:

Hiermit erklärt Polyspan Ltd., dass der VIEWSTATION FX/VS4000 die grundlegenden Anforderungen und sonstige maßgebliche Bestimmungen der Richtlinie 1999/5/EG erfüllt.

Δήλωση Συμμόρφωσης:

Δια του παρόντος, η εταιρεία Polycom Ltd. δηλώνει ότι η παρούσα συσκευή (δρομολογητής) VIEWSTATION FX/VS4000; πληροί τις βασικές απαιτήσεις και άλλες βασικές προϋποθέσεις της Οδηγίας 1999/5/EK.

Vaatimustenmukaisuusvakuutus:

Polycom Ltd. vakuuttaa täten, että VIEWSTATION FX/VS4000 on direktiivin 1999/5/EC keskeisten vaatimusten ja sen muiden tätä koskevien säännösten mukainen.

Déclaration de conformité:

Par la présente, PolycomLtd. déclare que ce VIEWSTATION FX/VS4000 est conforme aux conditions essentielles et toute autre modalitépertinente de la Directive 1999/5/CE.

Dichiarazione di conformità:

Con la presente PolycomLtd. dichiara che il VIEWSTATION FX/VS4000 soddisfa i requisiti essenziali e le altre disposizioni pertinenti della direttiva 1999/5/CE.

Verklaring van overeenstemming:

Hierbij verklaart PolycomLtd. dat diens VIEWSTATION FX/VS4000 voldoet aan de basisvereisten en andere relevante voorwaarden van EG-richtlijn 1999/5/EG.

Declaração de Conformidade:

Através da presente, a PolycomLtd. declara que este VIEWSTATION FX/VS4000 se encontra em conformidade com os requisitos essenciais e outras disposições relevantes da Directiva 1999/5/CE.

Declaración de conformidad:

Por la presente declaraci, PolycomLtd. declara que este VIEWSTATION FX/VS4000 cumple los requisitos esenciales y otras cl-usulas importantes de la directiva 1999/5/CE.

Överensstämmelseförklaring:

Polycom Ltd. förklarar härmed att denna VIEWSTATION FX/VS4000 överensstämmer med de väsentliga kraven och övriga relevanta stadganden i direktiv 1999/5/EG.

CE マーク LVD と EMC 指示

この VIEWSTATION FX/VS4000 は CE マークが付いています。このマークは、EEC Directives 89/336/EE と C73/23/EEC の承認を得ていることを示します。準拠宣言の完全コピーは、Polycom Ltd, Whichford House, Parkway Court, Oxford Business Park South, Oxford, OX4 2JY, UK. から取得できます。

研究所保証ステートメント

このシステムは付随の電源ユニットだけによって、電源供給されるように意図されています。

Omnitel ステートメント

ここに含有または説明されているソフトウェアプログラムは、POLYCOM 会社とそのライセンサーの機密情報および専有製品です。

VideoServer ステートメント

購入者は、サブライセンス合意に加入したエンドユーザーそして / またはリセラーを除いて、このプログラムをサブライセンスまたは配給することはできません。この合意下での“サブライセンス合意”とは、購入者と購買者間の文書のライセンス合意を意味します。また、購入者とリセラー間の場合には、そのリセラーとエンドユーザー間の 1) エンドユーザーが署名した文書によるライセンス合意、または 2) エンドユーザーがそのコンピューター装置をオンにすることによってサブライセンス合意を承認したことを指示するリーズナブルな方法で、文書に含める必要があります。VideoServer は、いわゆる“シールを破るソフトウェア ライセンス”を文書に含めるべきです。そして購入者は、これに関連したサブライセンス合意または、通知または警告ステッカーを取り除いたり変更してはなりません。購入者は、VideoServer の事前の承認なしに、サブライセンス合意を無視、変更または修正することはできません。

対象プログラムの権利は、常に VideoServer とそのライセンサーだけに付与されるものとします。購入者は、対象プログラムが商売上の秘密で内密の財産であるという VideoServer の主張を認め、そのように取り扱うべきです。購入者は、対象プログラムを分解、分析、リバースエンジニアリングなどをして、対象プログラムに具体化された方法と概念を発見または摘発することはできません。この合意下で明白に許可されている場合を除き、VideoServe からの事前に文書による許可なしに、購入者は、対象プログラムの全部または一部をコピー、修正、複写翻訳、販売、リースまたはその他の手段によって転送または配給することはできません。購入者は、コンピューター装置の著作権、パテント、商標またはその他の専用マークまたは通知を取り除いたり破棄することはできません。また、ここにある対象プログラムのいかなるコピーのマークを再現することもできません。

目次

はじめに

ボックスの内容確認	1
ViewStation FX	1
VS4000	2
ネットワーク インターフェイス モジュール	3
リモコン	4
マイク ポッド	4
使用開始必要品	5
ネットワーク インターフェイス	5
テレビモニタ	5
電源	5
カメラ	6
NT-1 デバイス	6
装置インストール	7
ViewStation FX	7
VS4000	8
ネットワーク インターフェイス モジュール	8
V.35 ネットワーク インターフェイス設定	9
PRI ネットワーク インターフェイス設定	11
Quad BRI ネットワーク インターフェイス設定	15
システムの初期設定	18
「第 1 システム構成」画面	18
ようこそ	18
メニュー項目の選択方法	19
システム名	20
国名	21
通信タイプ設定	21
H.323 設定	22
ゲートキーパー	24
ネットワーク インターフェイス構成画面	25
V.35 ネットワーク インターフェイス構成画面	25
PRI ネットワーク インターフェイス構成画面	30
「Quad BRI ネットワーク インターフェイス構成画面	33
継続システム構成」画面	35
外線発信	35
電話番号	36
VS4000 カメラ入力	36
テスト	37
メイン画面 (ViewStation FX と VS4000)	37
ネットワーク接続用アイコンとインジケータ	38

テレビ通話の手動発信	40
1 つの番号の使用	40
2 つの番号の使用	42
テレビ通話の応答	44
カメラと音質の調整	45
カメラ	45
こちら側のカメラの調節	45
相手側カメラの調節	45
音	45
ヘルプの使用	47
ヘルプ トピック	47
テクニカル サポート	48
基本的トラブルシューティング	49
一般	49
音声	50
画像	51

ViewStation FX と VS4000 の使用

テレビ通話	54
[アドレス帳] から通話を発信	54
短縮ダイヤル通話の発信	55
テレビ通話の自動応答	56
テレビ通話の終了	57
アナログ音声通話	57
音声通話の発信	58
テレビ通話への音声通話の追加	59
音声通話の終了	59
テレビ通話を音声通話へ追加	60
多地点通話	61
多地点ダイヤル速度情報	61
多地点通話とファイアウォール情報	62
多地点テレビ通話の実行	63
H. 323 多地点通話とスライド	63
多地点表示モード	63
モードの説明	64
モード切替	65
多地点会議パスワード	65
特定多地点会議パスワードの設定	65
一般ミーティングパスワードの設定	66
多地点カスケード機能	67
チェア コントロール	67
「チェア コントロール」画面操作	69
チェア操作	69

4 モニタ サポート	70
アドレス帳	71
アドレス帳へのエントリ追加	72
アドレス帳の既存エントリの編集	73
アドレス帳エントリの削除	73
アドレス帳の転送	74
グローバル アドレス帳の使用	75
多地点アドレス帳エントリ	76
カメラと音質の制御	78
カメラ制御	78
こちら側のカメラの選択	78
相手側カメラの選択	79
こちら側のカメラの制御	79
二番目カメラの調節	81
カメラ設定	81
カメラ プリセット	81
音の制御	83
ストリーミング 画像	84
ViewStation FX または VS4000 でのストリーミングの有効化	84
Apple QuickTime を使用したストリームの表示	85
ViewStation FX または VS4000 ストリーム構成	85
PC ストリームの設定	86
スナップショット	87
スナップショットの送信	87
スナップショット タイムアウト	87
オプション装置	89
モニタ	89
パン / 傾斜 / ズーム カメラ	89
Sony EVI-D30 カメラの接続	89
VCR	90
ドキュメント カメラ	90
ShowStation® IP	91
Visual Concert™ DC,	91
Visual Concert™ FX	91
グラフィック カーソル	93
一般情報	93
グラフィック カーソルの使用	93

ViewStation FX または VS4000 の PC との使用

PC 設定	96
PC 必要条件	96
PC と ViewStation FX または VS4000 を LAN に接続	96

PC を LAN 上ではなく ViewStation FX または VS4000 に直接接続.....	98
ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスの使用	100
Web インターフェイスへのアクセス	101
通話発信	102
プレゼンテーションの表示	106
会議の表示	107
プレゼンテーションの選択	108
PC のスライド プレゼンテーションの読み込み.....	108
FX または VS4000 でのスライド プレゼンテーションの表示.....	110
スライド表示の情報.....	114
クローズ キャプション	114
クローズ キャプションへの アクセスとその使用.....	114
クローズ キャプションについての追加情報.....	115
システム設定とリモート管理.....	116
管理者設定と診断 Web 画面	116
「システム診断」画面.....	120
NetMeeting の基本設定	122
ViewStation FX または VS4000 での NetMeeting の有効化.....	122
NetMeeting へのアクセス.....	123
NetMeeting 情報.....	124
NetMeeting で H. 323 テレビ通話.....	125
ユーティリティ	125
PolycomSnap.....	125
アドレス帳ユーティリティ.....	127
PC を使用したソフトウェアのアップグレード	128
LAN (H. 323) でのソフトウェア アップグレード 323.....	128

詳細設定

V. 35 詳細設定	131
V. 35 詳細設定	131
ブロードキャスト モード	132
ダイヤル速度	134
ダイヤル方式設定	135
詳細 PRI 設定	137
PRI ISDN 番号.....	138
PRI ネットワーク (T1 と E1)	138
PRI 情報 (T1 と E1)	139
PRI 設定 (T1 と E1)	140

PRI 状況 (T1 と E1)	142
詳細 PRI 設定 (T1 と E1)	143
音質設定	146
ダイヤル方式設定	147
ダイヤル速度	148
詳細 BRI 設定	149
IMUX 設定	149
ISDN 番号	150
自動 SPID 検出	150
音質設定	151
ダイヤル方式設定	152
ダイヤル速度	153
LAN/H. 323 詳細設定	154
LAN / イントラネット	155
H. 323 設定 (メイン)	157
H. 323 設定 (基本構成)	157
サービス品質とファイアウォール	159
ダイヤル速度	161
ゲートウェイ / ゲートキーパー	161
ゲートウェイ番号	164
ゲートウェイ (ゲートウェイ設定)	165
ストリーミング	166
SNMP 設定	167
グローバル アドレス帳	169
グローバル アドレス帳 (サーバ)	169
グローバル アドレス帳基本設定	170
ダイヤル ルール 1	172
ダイヤル ルール 2	174
グローバル管理 (メイン)	175
グローバル管理 (設定)	175
グローバル管理情報	178

システム情報と診断

システム情報	179
診断	181
ネットワーク情報	181
詳細情報	182
通話状況	183
カラーバー	183
音声	183
ニア ループ	184
システム リセット	184
ユーザ設定	185

管理者設定	187
基本設定	188
通信設定	190
LAN	192
データ会議	192
ViewStation FX または VS4000	
での NetMeeting の有効化	193
ShowStation IP の使用	194
MicroSoft NetMeeting の使用	194
音声設定	195
画像設定	196
モニタ	197
カメラ	200
VCR 設定	202
VGA 入力調節	203
セキュリティ	203
ソフトウェア / ハードウェア	204
ソフトウェア	204
RS-232	205
ハードウェア情報	208

トラブルシューティング

音声	209
画像	210
ネットワークと通信	212
IMUX	214
LAN/ イン트라ネット	215
プレゼンテーション	216
リモコン	217
一般的な問題	218

ネットワーク アドレス変換

一般情報	219
構成	220
NAT 構成開始前の注意事項	220
NAT の設定	220

画像と音声の入出力レベル

画像レベル	221
画像出力レベル	221
画像入力レベル	221

音声出力	221
音声出力レベル	221
音声入力レベル	222

V.35 技術情報

シリアル インターフェイス コントロール	
シグナル	223
状態マシン	224
発信状態マシン	224
受信状態マシン	225
非ダイヤル式ユーザー開始通話状態マシン	227
非ダイヤル式ネットワーク開始通話状態マシン	228
暗号化再同期	229
LED	229
V.35 ケーブル	231
HD-44M から RS-366/V.35 Y 型ケーブル図	232
HD-44M へのピン配置と RS-366/V.35 Y 型ケーブル図	233
HD-44M から RS-449/V.-422 Y 型ケーブル図	234
HD-44M から RS-449/V.-422 Y 型ケーブルへのピン配置図	235
Ascend HD-44M から HD-44M へのケーブル図	236
Ascend HD-44M から HD-44M ケーブルへのピン配置図	237

PRI テクニカル情報

概要	239
PRI ネットワーク インターフェイス モジュール	239
P-LINK ケーブル	240
PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの	
NETWORK 側面	240
PRI ネットワーク インターフェイス	
モジュールの P-LINK 側面	241
ネットワーク ケーブルとネットワーク接続	242
チャンネル サービス ユニット	243
外部 CSU	243
内部 CSU	244
外部電源装置	245
LED	245
更新シーケンス	245
ViewStation FX または VS4000 へ	
接続する P-LINK 側面	245
ISDN PRI ネットワークへ接続する	
ネットワーク側	246
LED 動作状況	246
ネットワーク側の LED	246

周辺リンク (P-LINK) 側 LED	249
PBX	250
スイッチ プロトコル	250
回線信号方式	251
制限	251
PRI ケーブル	253
RJ-45 から RJ-45 へのクリア ケーブル図	253
キー RJ-45 からキー RJ-45 へのケーブル図	254
キー RJ-45 からキー RJ-45 へのケーブル図	255
用語集	256

ViewStation FX と VS4000 のフレーム率の仕様

フレーム率仕様表	259
----------	-----

ISDN 情報

NT-1 情報	261
NT-1 設定のサンプル	261
Adtran NT-1 Ace	261
Motorola NT-1D	262
Alpha Telecom UT620F	262
ISDN スイッチ	263
ISDN エラー	263
ISDN でのソフトウェア アップグレード (H. 320)	269

BRI テクニカル情報

Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール	271
BRI ネットワーク インターフェイス	
モジュールのネットワーク側面	272
BRI ネットワーク インターフェイス モジュールの P-LINK 側面	272
ケーブル	273
P-LINK ケーブル	273
ネットワーク ケーブル	273
ネットワーク接続	274
Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール上の LED 動作状況	274
自動 Quad BRI ソフトウェア更新	275
BRI ケーブル	276
RJ-45 から RJ-45 へのクリア ケーブル図	276
キー RJ-45 から標準 RJ-45 へのケーブル図	277
キー RJ-45 のピン配置から標準 RJ-45 ケーブル	278

4- モニタ サポート表

サポート表	279
-------------	-----

相互運用性情報

H. 320 エンドポイント相互運用性	283
H. 323 エンドポイント相互運用性	284
MCU H. 320 相互運用性	285
MCU H. 323 相互作用	285
ゲートウェイ / ゲートキーパー / T120 サーバの 相互運用性	286

Polycom OneDial™ とグローバル ディレクトリ

エンドポイント間の異なったダイヤル方法	287
エンドポイントが互いに会話できる基本設定	288
H. 320 エンドポイント (ネイティブ ISDN のあるエンドポイント)	288
H. 323 エンドポイント (ネイティブ ISDN のないエンドポイント)	288
適切なエントリを表示するようにアドレス帳を基本設定する	290
グローバル ディレクトリに必要なエンドポイント情報	291
グローバル ディレクトリを使用した場合のダイヤル作動	292

索引

はじめに

この章では、迅速なシステム設定方法と基本的機能の使用方法について説明します。

システムで使用するソフトウェアの最新情報については ViewStation FX または VS4000 の Read Me First ファイル を参照してください。

ボックスの内容確認

以下のセクションでは、ViewStation FX または S4000 の出荷コンテナの内容について説明します。

ViewStation FX

以下の品目が、ViewStation FX の箱に含まれています。

- Read Me First ファイル
- ViewStation FX クイックスタート
- ViewStation FX ユニット
- マイク ポッド 2 つ
- 電源装置とコード 1 本
- リモコン 1 つ
- 必要なケーブル バック
 - RJ-9 マイク コード（茶色）2 本
 - S-Video/ トリプル RCA モニタ用 ケーブル（黄色、白色、そして赤色）1 本
 - ネットワーク インターフェイス モジュール接続用の RJ-45 キー ケーブル（薄い青）1 本
- 以下が入っているオプション装置のケーブル バッグ
 - RJ-11 電話コード（ピンク）1 本（承認されている場合）
 - 追加モニタまたはドキュメント カメラの S-Video ケーブル（黄色）2 本

- 音声ミキサー接続用の RCA ケーブル（黒色）1 本
- LAN 接続用の RJ-45 ケーブル（オレンジ）1 本
- PC 接続用の RJ-45 ケーブル（青色）1 本
- VCR 接続用のトリプル RCA ケーブル（黄色、白色、そして赤色）2 本
- オプション装置のケーブル バッグ
 - 追加モニタまたはプロジェクタ接続用の DB-15 XGA ケーブル 1 本
 - タッチ パネル接続用の DB-9 シリアル ポート ケーブル 1 本
 - パン / 傾斜 / ズーム カメラのケーブル 1 本
- オプションのネットワーク インターフェイス モジュール（別個に出荷）

VS4000

以下の品目が VS4000 のボックスに含まれています。

- Read Me File ファイル
- VS4000 クイックスタート
- VS4000 ユニット
- ラックマウント ブラケットとネジ 2 本
- マイク ポッド 2 つ
- 電源コード 1 本
- リモコン 2 つ
- リモコン赤外線（IR）検出器 1 つ
- ネットワーク インターフェイス モジュール 1 つ（VS4000 の H. 323 バージョンを注文した場合は、ネットワーク インターフェイス モジュールは付いていません。）
- モニタ ケーブル バック
 - S-Video ケーブル（黄色）4 本
 - シングル RCA ケーブル（黄色）4 本
 - 追加モニタまたはプロジェクタ接続用の DB-15 XGA ケーブル 1 本
- ビデオ ケーブル バック
 - S-Video ケーブル（黄色）3 本

- シングル RCA ケーブル（黄色）3 本
- シリアル音声ケーブル バッグ
 - タッチ パネル デバイス接続用の DB-9 シリアル ポート ケーブル 1 本
 - パン / 傾斜 / ズーム カメラのケーブル 2 つ
 - VCR 接続用のトリプル RCA ケーブル（黄色、白色、そして赤色）2 本
 - 音声ミキサー接続用の RCA ケーブル（黒色）1 本
 - ダブル RCA ケーブル 1 本
- RJ ケーブル バック
 - RJ-9 マイク コード（茶色）2 本
 - ネットワーク インターフェイス モジュール接続用の RJ-45 キー ケーブル（薄い青）1 本
 - RJ-11 電話コード（ピンク）承認されている場合
 - LAN 接続用の RJ-45 ケーブル（オレンジ）1 本
 - PC 接続用の RJ-45 ケーブル（青色）1 本

ネットワーク インターフェイス モジュール

ViewStation FX または VS4000 には、以下のネットワーク インターフェイス モジュール装置の 1 つが含まれている場合もあります（ユーザー指定による）。

- V.35 ネットワーク インターフェイス
 - V.35 モジュール
- PRI ネットワーク インターフェイス
 - PRI モジュール
 - ケーブル（RJ-45 1 本、電源装置ケーブル 1 本）
- Quad BRI ネットワーク インターフェイス
 - Quad BRI インバース マルチプレクサ（IMUX）
 - RJ-45 ケーブル 4 本
 - RJ-45 キーコネクタ付きケーブル 1 本

リモコン

リモコンはシステムの重要な一部です。リモコンを使用して、ViewStation FX または VS4000 を基本設定また操作できます。システム設定が完了し稼動し始めたら、リモコンの黄色の [情報] ボタンを押して、リモコン ボタンについての基本的な説明を参照します。

マイク ポッド

マイク ポッドは、デジタル音声入力を ViewStation FX と VS4000 に提供します。

各マイク ポッドは、約 9 メートルの音声範囲があり、自動的制御、雑音抑制およびエコー キャンセルを提供しています。マイクの [ミュート] ボタンを押して、こちら側の通話を無音にできます。[ミュート] ボタンにライトが点いている場合、こちら側の通話はミュートです。

二番目のマイク ポッドは、ViewStation SP を除くすべての ViewStation モデルの音声収集力を高めます。ViewStation FX または VS4000 は最大 2 つのデイジーチェーンで繋がったマイク ポッドをサポートしています。

9 メートルのケーブルを ViewStation FX または VS4000 およびマイク ポッドの 1 つに接続します。3 メートルのケーブルで 2 つのマイク ポッドを接続します。

使用開始必要品

ネットワーク インターフェイス

以下の情報は、ネットワーク インターフェイスを ViewStation FX または VS4000 で使用している場合にだけ適用されます。各ネットワーク インターフェイスに対するネットワーク装置とアクセス必要条件を示します。

V.35 ネットワーク インターフェイス：DCE (Data Communications Equipment [データ通信装置]) または DSU (Data Service Unit [データ サービス ユニット]) にアクセスする必要があります。

PRI ネットワーク インターフェイス：PRI 回線をサービス プロバイダに注文する必要があります。

Quad BRI ネットワーク インターフェイス：BRI 回線をサービス プロバイダに注文する必要があります。

V.323 ネットワーク インターフェイス：LAN (Local Area Network [構内情報通信網]) にアクセスできる必要があります。

テレビモニタ

ViewStation FX または VS4000 は、4 台のテレビ モニタ、および解像度が 800 x 600、1024 x 768 または 1280 x 1024 で 75 Hz 以上で作動する 1 台の VGA モニタと一緒に使用できます。

ViewStation FX では、S-Video または コンポジット テレビ モニタをプライマリ モニタとして使用できます。その他 3 台のモニタは S-Video でなければなりません。VS4000 では 4 台すべてのモニタがコンポジット モニタでも構いません。

テレビ モニタの大きさは ViewStation を使用する部屋の大きさに比例します。

電源

ViewStation FX には外部電源装置があり、VS4000 には内部電源装置があります。100V と 240V 間、あるいは 50 Hz と 60 Hz 間の電源電圧がサポートされています。

警告 提供された電源装置を使用しないと、ViewStation FX を破損する恐れがあり、製品保証は無効になります。

カメラ

VS4000 は多くの S-Video またはコンポジット ビデオ カメラとの互換性があります。パン / 傾斜 / ズーム能力に関しては、Sony の EVI-D30、EVI-D31、EVI-D30L、または EVI-D31L を使用しなければなりません。

注意 このカメラは、ViewStation FX または VS4000 と一緒に出荷されるリモコンでコントロールします。手動でカメラを調整すると、ユニットを破損する恐れがあります。

注記 ViewStation FX は Polycom の広角レンズだけをサポートします。他ベンダの広角レンズを付けると、製品保証でカバーされない破損が生じる恐れがあります。他社のレンズは、カメラをリセットする際に、ViewStation FX エンクロージャを傷つける恐れがあります。Polycom の広角レンズ アダプタは、販売店または www.polycom.com の Polycom Store で購入できます。

NT-1 デバイス

ISDN ネットワーク終端 (NT-1) デバイスが、ISDN 回線 と ViewStation との間に必要な場合があります。ViewStation が PBX などの内部スイッチボードに接続されていない場合、システムに ISDN 終了レジスターをインストールする必要があります。

装置インストール

以下のセクションでは、以下の装置を設定する方法について説明します。

- ViewStation FX
- VS4000
- ネットワーク インターフェイス モジュール (V.35, PRI, および BRI)

ViewStation FX

ケーブルと装置を ViewStation FX の背面に接続するには、以下の指示に従ってください。

1. ViewStation FX をテレビ モニタの上に置いて、テレビ モニタの上から前面のへりが突き出るようにします。
2. マイク ポッドは、会議参加者と テレビ モニタ間の平らな表面の真中に配置します。マイク ポッドをテレビ モニタのスピーカーの近くに置かないでください。
3. 「ViewStation FX クイックスタート」に表示されているように、ViewStation FX の背面に必要装置を接続します。
4. 「ViewStation FX クイックスタート」に表示されているように、ViewStation FX の背面にオプションの装置を接続します。オプション装置には、PC、VCR、電話、音声ミキサー、ドキュメント カメラ、XGA プロジェクタまたはモニタ、セカンダリパン / 傾斜 / ズーム カメラまたは追加テレビ モニタが含まれます。

注記 ケーブルの色は ViewStation FX 背面の色にマッチしています。

5. ケーブルがもつれないように、全てのケーブルの周りを同封のケーブル タイで束ねます。
6. 電池をリモコンに入れます。

ネットワーク インターフェイスを設定する準備が完了しました。詳細は、3 ページの「ネットワーク インターフェイス モジュール」を参照してください。

VS4000

ケーブルと装置を VS4000 の背面に接続するには、以下の指示に従ってください。

1. 提供したブラケットとネジを使用して、VS4000 ユニットをラックに取り付けます。
2. マイク ポッドは、会議参加者と テレビ モニタ間の平らな表面の真中に配置します。マイク ポッドをテレビ モニタのスピーカーの近くに置かないでください。
3. IR 検出器は、テレビモニタ上のような会議参加者が見える場所に置きます。
4. 「VS4000 クイックスタート」に表示されているように、VS4000 の背面に必要な装置を接続します。

注記 ケーブルの色は VS4000 背面の色にマッチしています。

カメラは、電源をオンにする前に、VS4000 ユニットに取り付けなければなりません。そうしないと、VS4000 はユニットに取り付けられた適切なカメラを見付けられない場合があります。

5. 「VS4000 クイックスタート」に表示されているように、VS4000 の背面にオプション装置を接続します。オプション装置には、PC、VCR、電話、音声ミキサー、ドキュメント カメラ、XGA プロジェクタまたはモニタ、セカンダリ パン / 傾斜 / ズーム カメラまたは追加テレビ モニタが含まれます。
6. ケーブルがもつれないように、全てのケーブルの周りを同封のケーブル タイで束ねます。
7. 電池をリモコンに入れます。

ネットワーク インターフェイスを設定する準備が完了しました。

ネットワーク インターフェイス モジュール

このセクションでは、以下のネットワーク インターフェイスをインストールする方法について説明します。

- V. 35
- PRI
- BRI

V.35 ネットワーク インターフェイス設定

V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールを ViewStation FX または VS4000 に接続するには、以下の指示に従ってください。

V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールを FX または 4000 へ接続する


1. ViewStation FX または VS4000 がオフになっていることを確認します。
2. 薄青色のキーケーブルの先端を ViewStation FX または VS4000 背面の薄青色ポートに挿入します。ケーブルには、普通の RJ-45 コネクタとは交換できない特別の RJ-45 コネクタがついています。
3. 薄青色の RJ-45 ケーブルのもう一方の先端をネットワーク インターフェイス モジュールの  とラベルされた入力ポートに挿入します。

図 1-1 は、ViewStation FX または VS4000 に接続する Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールの周辺リンク (P-LINK) 側面を示しています。

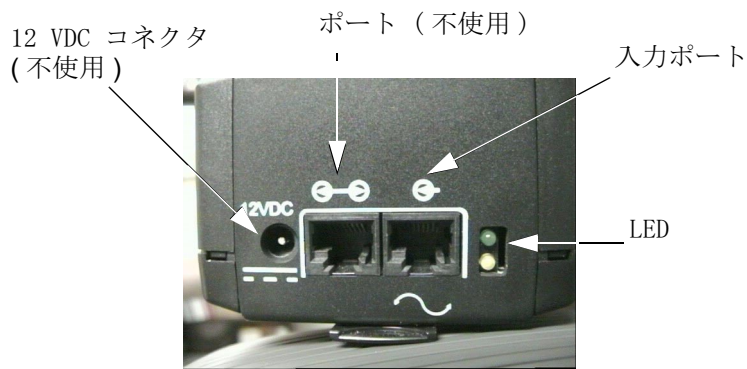


図 1-1. V.35 ネットワーク インターフェイス モジュール (P-LINK 側面)

V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールの V.35 DCE への接続

V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールには、データ通信装置 (DCE) に接続する 2 つの HD-44 メス ポート (ラベル 1 と 2) が含まれています。ネットワーク デバイスへ接続するには以下の指示に従ってください。

1. HD-44 オスケーブルの先端をネットワーク インターフェイス モジュールのポート 1 と 2 とに接続します。ケーブルを 1 本だけ接続する場合は、インターフェイス モジュールのポート 1 に接続します。
2. コネクタのネジを締めます。
3. 反対側のケーブル先端を DCE V.35/RS-449 ポート および DB-25/RS-366 ダイアルポート（使用されている場合）に接続します。ケーブルを 1 本だけ接続する場合には、DCE の最も低いポートに接続します。
4. コネクタのネジを締めます。
5. テレビ モニタの電源を入れます。
6. ViewStation FX または VS4000 の電源を入れます。システムの電源を入れてから Polycom ログが表示されるまで約 20 秒かかります。
7. インターフェイスが適切に接続されたら、ViewStation FX または VS4000 を基本設定する準備完了です。18 ページの「システムの初期設定」に進んでください。

図 1-2 は V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールの NETWORK（ネットワーク）側面を示しています。

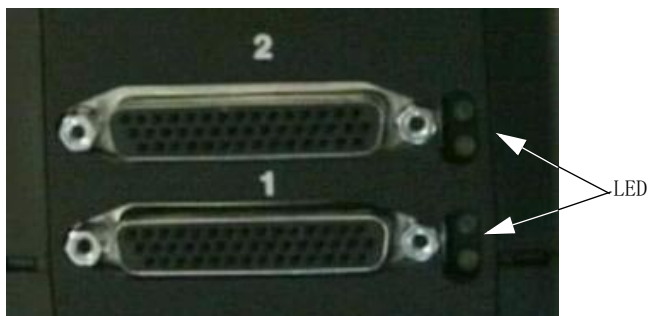


図 1-2. V.35 ネットワーク インターフェイス モジュール（ネットワーク 側面）

特別情報

V.35 モジュールの交換性。ViewStation FX または VS4000 の V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールは、以前の V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールと交換できません。新しいモジュールは HD-44F コネクタ（ポート 1 と 2）を使用し、また ViewStation FX または VS4000 の背面パネルへのシリアル リンクには RJ-45 キー コネクタを使用します。HD-44M から

DB-25F へのアダプタ ケーブルは、既成 V.35 ネットワーク ケーブルへ接続するオプションとして利用できます。

ケーブル情報 DCE への接続用に、Polycom では以下のオプション ケーブルを提供しています。

- V.35 “Y” ケーブル : HD-44M から DB-25M/RS-366 および M34 “Winchester” V.35
- RS-449/422 “Y” ケーブル : HD-44M から DB-25M/RS-366 および DB-37M/RS-449/422
- Ascend ケーブル : HD-44M から HD-44M

これらのケーブルのケーブル見取図とピン配置情報は、V.35 テクニカル情報付録を参照してください。

V.35 ケーブル アダプタ キット また、追加ケーブル アダプタ キットを購入して（販売店で購入可能）ViewStation FX または VS4000 と V.35 ネットワーク インターフェイス モジュール間の距離を拡張することもできます。

V.35 と RS-366 の接続 V.35 ケーブルの V.35 接続はデータ用に使用され、RS-366 接続はダイヤル発信に使用されます。2 x 56 Kbps または 2 x 64 Kbps の通話をかける場合は、各ポートに 1 つのケーブルを使用します。

注記 DCE がダイヤルを使用しない場合は、RS-366 (DB-25M) コネクタを使用しないでください。

LED 情報

229 ページの「LED」を参照してください。

PRI ネットワーク インターフェイス設定

以下の情報は、PRI E1 と PRI T1 ネットワーク インターフェイスの両方に適用されます。この指示は、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを ViewStation FX または VS4000 システムに接続する方法を説明しています。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを FX または VS4000 に接続する

1. ViewStation FX または VS4000 の電源を切ります。

2. 12 ボルトの DC 電源装置は、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに接続してからウォールジャックに接続します。

注記 ViewStation FX または VS4000 の電源が切断された際に PRI シグナルを失うのを避ける予防措置として、PRI ネットワーク インターフェイスを提供した外部 12 ボルト DC 電源装置に接続します。そうしない場合は、PRI 回線が赤警報を発します。

ヨーロッパの国々では、外部 12 ボルトの DC 電源装置が必要です。

外部 12 ボルトの DC 電源装置についての詳細は、245 ページの「外部電源装置」を参照してください。


3. 薄青色の RJ-45 PRI キー ケーブルの先端を、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの  とラベルされたコネクタに接続します。
4. 薄青色の RJ-45 キー ケーブルのもう一方の先端を、ViewStation FX または VS4000 の背面の RJ-45 キー インターフェイス ジャック ポートに接続します。

図 1-3 は、ViewStation FX または VS4000 に接続する PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの周辺リンク (P-LINK) 側面を示しています。

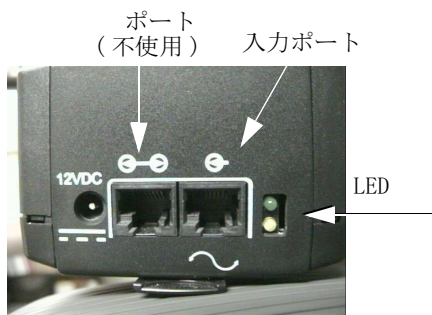


図 1-3. PRI ネットワーク インターフェイス モジュール (P-LINK 側面)

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを PRI ネットワークに接続する

次の手順で、ネットワーク インターフェイス モジュールを ISDN PRI ネットワークに接続します。

1. ISDN PRI ネットワークからの既成の RJ-45 ネットワーク ケーブルを PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの NETWORK とラベルされたコネクタに接続します。
2. テレビ モニタの電源を入れます。
3. ViewStation FX または VS4000 の電源を入れます。システムの電源を入れてから Polycom ログが表示されるまで約 20 秒かかります。
4. インターフェイスが適切に接続されたら、ViewStation FX または VS4000 を基本設定する準備完了です。18 ページの「システムの初期設定」に進んでください。

図 1-4 は、ISDN PRI ネットワークに接続した PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの ネットワーク 側面を示しています。

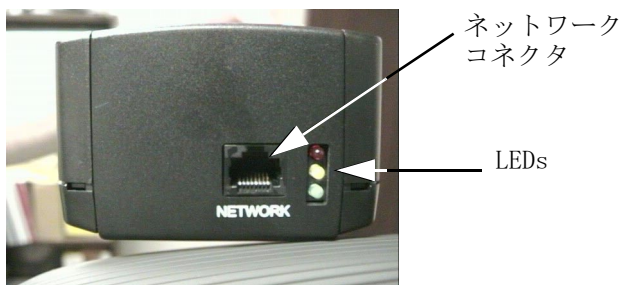


図 1-4. PRI ネットワーク インターフェイス モジュール（ネットワーク 側面）

特別情報

交差ケーブル RJ-45： 交差ケーブルは、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを PBX またはその他のサードパーティー ネットワーク アクセス デバイスに接続する場合に必要な場合があります。

外部 PRI 電源ソース： 11 ページの「PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを FX または VS4000 に接続する」の項目 3 の下の注記を注意して読んでください。

外部 CSU：外部 CSU（北米 T1 だけ）を使用している場合は、CSU の CPE 装置側面の RJ-45 ケーブルを PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに接続します。

PRI ケーブル アダプタ キット：また、追加ケーブル アダプタ キットを購入して（販売店で購入可能）ViewStation FX または VS4000 と PRI ネットワーク インターフェイス モジュール間の距離を拡張することもできます。


LED 情報

245 ページの「LED」を参照してください。

Quad BRI ネットワーク インターフェイス設定

ここでは、Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールを ViewStation FX または VS4000 システムに接続する方法を説明します。

Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールを FX または VS4000 に接続する

1. ViewStation FX または VS4000 がオフになっていることを確認します。
2. 薄青色の RJ-45 キー コネクタが先端にあり、もう一方の先端には緑色の RJ-45（非キー方式）コネクタがあるケーブルを見つけます。
3. この薄青色の RJ-45 キー コネクタを ViewStation FX または VS4000 背後の薄青色の RJ-45 キーポートに挿入します。
4. 緑色の（非キー方式）RJ-45 コネクタを、ネットワーク インターフェイス モジュールの  とラベルされた緑色の RJ-45 ポートに挿入します。

1-5 下記の図は、ViewStation FX または VS4000 に接続する Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールの周辺リンク（P-LINK）側面を示しています。



図 1-5. Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール（P-LINK 側面）

Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールを FX または VS4000 に接続する

1. ISDN PRI ネットワークのポート 1 からの RJ-45 1 ネットワーク ケーブルを PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの ISDN S/T とラベルされたコネクタに接続します。

2. テレビ モニタの電源を入れます。
3. ViewStation FX または VS4000 の電源を入れます。システムの電源を入れてから Polycom ログが表示されるまで約 20 秒かかります。
4. インターフェイスが適切に接続されたら、ViewStation FX または VS4000 を基本設定する準備完了です。18 ページの「システムの初期設定」に進んでください。

図 1-6 は、ISDN PRI ネットワークに接続した Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールのネットワーク側面を示しています。



図 1-6. Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール（ネットワーク側面）

特別情報

Quad BRI/IMUX 設定 Quad BRI は、また IMUX（インバース マルチプレクサ用）とも呼ばれます。Quad BRI では、最大 4 本までの ISDN 回線をテレビ会議ユニットに接続できます。Quad BRI ではマルチ回線 ISDN 接続を一緒にして、相手側デバイスへのより高度な接続帯域幅を生成することができます。各 ISDN 回線は、作動回線へ 128 Kbps を追加します。

ISDN 回線 ViewStation FX と VS4000 は最大 4 本までの ISDN 回線を使用できます。ViewStation FX と VS4000 は 1 本の ISDN 回線で作動しますが、128 Kbps 以上の速度では追加 ISDN 回線が必要とします。

NT-1 通常 PBX と呼ばれる内線電話システムに接続していない場合は、ViewStation FX または VS4000 の ISDN ケーブルを、ISDN ウォール ジャックに接続している ネットワーク終端 (NT-1) デバイスと Quad BRI モジュールに接続する必要があります。

ISDN についての詳細は、261 ページの「ISDN 情報」を参照してください。

自動 Quad BRI ソフトウェア更新 Quad BRI には、少なくとも FX または VS4000 と同レベルのソフトウェア バージョンがあります。再起動した際、ViewStation FX または VS4000 が Quad BRI に古いバージョンがあることを検出した場合は、Quad BRI が同じバージョンになるように自動的に更新します。この場合には、ダウンロードに説明メッセージが付きます。ダウンロード中は、システムをオフにしないでください。

注記 Quad BRI に ViewStation FX または VS4000 より最近のバージョンがある場合には、自動更新は行われません。

LED 情報

274 ページの「Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール上の LED 動作状況」を参照してください。

システムの初期設定

ViewStation FX または VS4000 の電源をオンにすると、テレビ モニタに一連の設定画面が表示され、初期設定プロセスが示されます。

この初期設定プロセスには 3 つの順次部分ありますが、以下のセクションでこれを説明します。

- 「第 1 システム基本設定」画面（18 ページ）
- 「ネットワーク インターフェイス構成」画面（V. 35、PRI、そして BRI 用）（25 ページ）
- 「SPID 自動検出」画面（34 ページ）

注記 システム障害を避けるために、このセクションで詳細する手順を厳守してください。

第 1 システム構成画面

ようこそ

テレビ モニタに表示される最初の設定画面は、「ようこそ」画面です。



図 1-7. 「ようこそ」（言語）画面

ViewStation FX または VS4000 で表示される言語を選択します。

1. リモコンの矢印ボタンを押して言語をハイライトします。


- それから  リモコンのボタンを押して、次画面に進みます。
次の画面が表示されます。



図 1-8. 「ようこそ」(情報)画面

注記 リモコンで選択を行うには、リモコンをリモコン IR 検出器あるいは ViewStation FX または VS4000 ユニット前面の **Clarity by Polycom** ロゴに向けます。

メニュー項目の選択方法



この画面では、テレビ モニタで ViewStation FX または VS4000 の項目を選択する方法を説明します。それから  リモコンのボタンを押して、次の画面に進みます。



図 1-9. メニュー項目の選択方法

注記 前画面に戻るには、リモコンの〔メニュー〕ボタンを押すか、またはリモコンの矢印ボタンを使用して〔メニュー〕アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

システム名

「システム名」画面を使用して、ViewStation FX または VS4000 に名前を付けます。システムに名前を付けておくと、接続した際に LAN で自分の ViewStation FX または VS4000 を見付けるのが簡単です。システム名は最大 34 文字です。

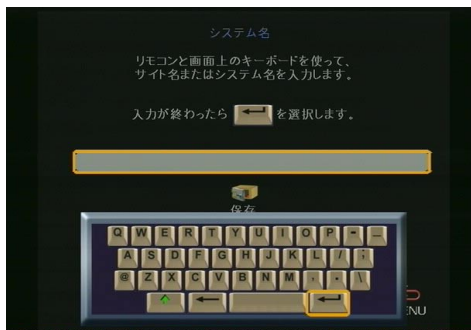






図 1-10. 「システム名」画面

システム名の入力： スクリーン キーボードへアクセスするには以下の操作を行います。

1. リモコンの  ボタンを押します。
2. 矢印ボタンを使用してキーボード上を動き回り、 ボタンを押して文字を選択します。
3. この画面でのエントリを終了したら、エントリが正しく入力されていることを再確認して、スクリーン キーボードの  キーを選択します。
4. システム名を保存するには、〔保存〕アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

国名

「国名」画面で、ViewStation FX または VS4000 をインストールする国を選択します。



図 1-11. 「国名」画面


通信タイプ設定

「通信タイプ設定」画面で、使用する通話タイプを選択します。

- **V.35 テレビ通話 または ISDN テレビ通話**
 - V.35 テレビ通話：このオプションが利用できるのは（左下画像を参照）、ViewStation FX または VS4000 が V.35 ネットワークに接続されている場合です。
 - ISDN テレビ通話 (H.320)：このオプションが利用できるのは（右下画像を参照）、ViewStation FX または VS4000 が PRI または BRI ネットワークに接続されている場合です。
- **LAN/Internet 通話 (H.323)**：IP 通話をかける場合はこのオプションを選択します。
- **IP ダイアル内線の表示**：この内線は、ゲートウェイを通して通話する場合に必要です。このオプションを選択すると、「内線」フィールドが「テレビ通話」画面に表示されます。ゲートウェイ構成についての詳細は、セクション 161 ページの「ゲートウェイ / ゲートキーパー」を参照してください。



図 1-12. 「通信タイプ設定」画面（V.35 と ISDN テレビ通話オプション）

完了後、選択を再確認してから、[保存] アイコンをハイライトしリモコンの  ボタンを押します。

H. 323 設定

この画面が表示されるのは、[LAN/Internet 通話 (H.323)] オプションを前画面（「通信タイプ設定」）でチェックした場合です。

H.323 オプションでは、LAN（local area network [構内情報通信網]）または WAN（wide area network [広域情報通信網]）で IP を使用してテレビ通話をかけることができます。「H.323 設定」画面では、ViewStation FX または VS4000 へのダイヤルに使用できる H.323 名と内線を基本設定することができます。

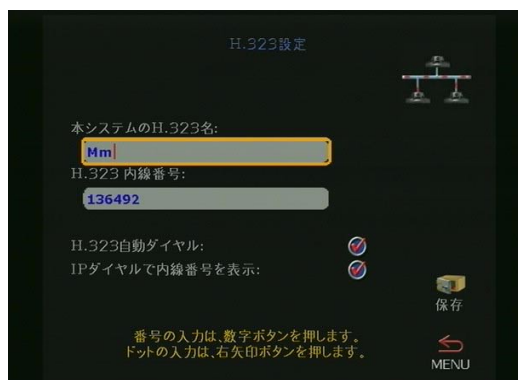


図 1-13. 「H.323 設定」画面


H. 323 名：システム名（「システム名」画面で以前に基本設定）が H. 323 名として表示されますが、この画面で変更することもできます。

H. 323 内線 (E. 164)：内線を簡単に覚えられる番号に変更することもできます。管理者が特定の名前と内線を保持している場合もあります。ネットワークにゲートキーパーをインストールしてある場合は、他のパーティーが H. 323 名または内線を使用してユーザーを呼び出すことができます。H. 323 名と内線はゲートキーパーに登録されます。ゲートキーパーは通話をユーザーのシステム IP アドレスにダイレクトします。

自動 H. 323 ダイアル：このオプションはデフォルトで有効にされており、ユーザーがかける通話タイプ（IP または ISDN）を、ビデオ番号フォーマットに基づいて、FX または VS4000 で自動検出できるようにします。このオプションが有効にされていると、「テレビ通話」画面で [ISDN] と [H. 323] フィールドが見えなくなります。

IP ダイアル内線表示：このオプションは以前に「通信タイプ設定」画面で設定されました。この詳細は、21 ページの「通信タイプ設定」を参照してください。

H. 323 についての追加情報は、154 ページの「LAN/H. 323 詳細設定」を参照してください。

完了後、選択の正確性を再確認してから、[保存] アイコンをハイライトし リモコンの  ボタンを押します。

ゲートキーパー

「ゲートキーパー」画面で、基本 H.323 ゲートキーパーを基本設定します。ゲートキーパーについての詳細は、161 ページの「ゲートウェイ / ゲートキーパー」を参照してください。

注記 ゲートキーパーは IP-to-IP LAN 通話に必要ありません。この場合には、[オフ] オプションを選択します。

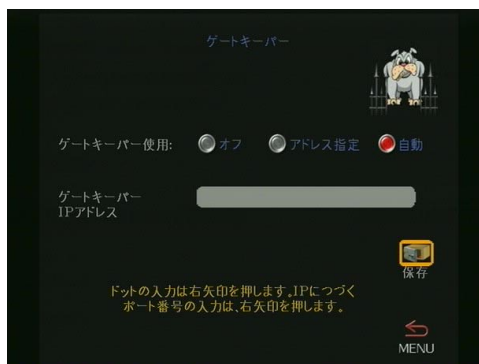



図 1-14. 「ゲートキーパー」画面

- **ゲートキーパーの使用**
 - **オフ** : ゲートキーパーにアクセスする必要がない場合には、このオプションを選択します。
 - **指定** : ゲートキーパーを指定するには、このオプションを選択して [ゲートキーパー IP アドレス] フィールドにゲートキーパーの IP を入力します。この情報はネットワーク管理者から取得できます。
 - **自動** : ViewStation FX または VS4000 が自動的に利用可能なゲートキーパーを自動的に検出できるようにするには、[自動] オプションを選択します。
- **ゲートキーパー IP アドレス** : このアドレスはネットワーク管理者が提供します。

完了後、選択の正確性を再確認してから、[保存] アイコンをハイライトしリモコンの  ボタンを押します。

ネットワーク インターフェイス構成画面

V.35 ネットワーク インターフェイス構成画面

V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールがある場合、以下の画面は v.35 構成を助けるために作成されたものです。

通信設定

「通信設定（ビデオ ネットワーク）」画面を使用して、V.35 ビデオ ネットワークのパラメータを設定します。

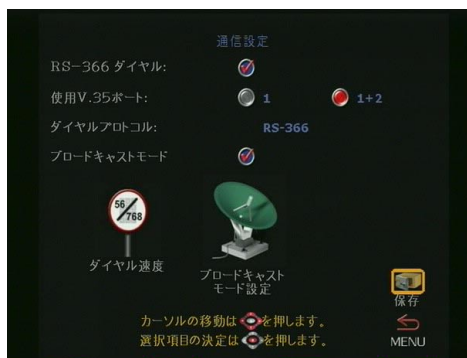


図 1-15. 「通信設定」画面


この画面で以下のオプションを設定します。

- RS-366**：このオプションを有効にするのは、ViewStation FX または VS4000 から DCE 接続を通して相手側のテレビ会議システムに通話する場合です。このオプションを有効にするのは、DCE を使用して通話をダイヤルする場合か、または相手側への専用接続がある場合です。

注記 [RS-366 ダイヤル] オプションが有効にされている場合は、この画面の [ダイヤル速度] を選択します（以下の [ダイヤル速度] セクションを参照）。

- V.35 ポート使用**：1 チャネルだけの通話をかける場合は [1] を選択します。2 x 56 Kbps または 2 x 64 Kbps チャネル通話をかける場合は、[1+2] を選択します。
- ダイヤル プロトコル** [RS-366 ダイヤル] オプションが有効の場合、RS-366 がダイヤル プロトコルとして表示されます。[RS-366 ダイヤル] オプションが無効の場合は、[ダイヤル プロトコル] は表示されません。

- ブロードキャスト モード：ViewStation FX または VS4000 がサテライト経由でネットワークに接続されている場合は、H. 331 [ブロードキャスト モード] を有効または無効にします。

終了後、[保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

ダイヤル速度

[RS-366 ダイヤル] を有効にした場合は、「通信設定」画面の [ダイヤル速度] アイコンを選択します。

1. この画面でダイヤル速度を選択します。デフォルト速度は、2 x 64 Kbps、256 Kbps、384 Kbps、512 Kbps および 768 Kbps です。
2. 速度を追加または削除するには、データ レートをスクロールして、リモコンの [選択] ボタンを押して、適当なダイヤル速度を選択します。ダイヤル速度を選択した際は赤いチェックマークが表示されます。

注記 選択したダイヤル速度は RS-366 通話にだけ適用されます。Nx56 と Nx64 は H. 320 通話用で、IPx56 と IPx64 は H. 323 通話用です。非ダイヤル通話のダイヤル速度は DCE によって決定されます。



図 1-16. 「ダイヤル速度」画面

ブロードキャスト モード

「通信設定」画面で[ブロードキャスト モード] オプションを有効にした場合は、[ブロードキャスト モード設定] アイコンが表示されます。このアイコンを選択すると、「ブロードキャスト モード」画面に進みます。「ブロードキャスト モード」画面についての詳細は、132 ページの「ブロードキャスト モード」を参照してください。

V. 35 ダイアル設定

[RS-366 ダイアル] を有効にした場合は、ViewStation FX と VS4000 からの通話にダイアル接頭番号と接尾番号が「V. 35 ダイアル設定」画面に設定されます。

「V. 35 ダイアル設定」画面では、DCE を通したダイアルに関連した [Calling Profile (通話プロファイル)] を選択できます。

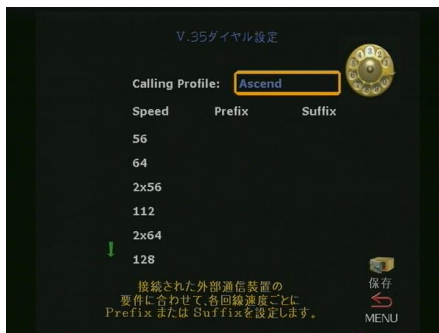


図 1-17. 「V. 35 ダイアル設定」画面

複数製造元の通話プロファイルは、ViewStation FX と VS4000 に含まれています。

1. これらのプロファイルを選択または修正するには、[通話プロファイル] フィールドを選択します。以下の通話プロファイルが表示されます。

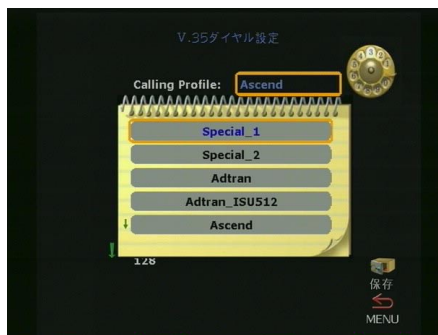



図 1-18. 「V. 35 ダイヤル設定」画面（通話プロファイル一覧）

2. ドロップダウンリストで適切な装置 / 製造元を選択して、リモコンの [選択] ボタンを押します。
3. 終了後、エントリを確認します。接頭番号または接尾語情報（選択した装置による）が「V. 35 ダイヤル設定」画面に表示されます。
4. [保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

注記 この情報は一度だけ「V. 35 ダイヤル設定」画面に入力します。通話する場合、接頭番号を再び入力する必要はありません。好きなダイヤル速度を選択すると、ViewStation FX または VS4000 が適切な接頭番号を入力します。

ダイヤル接頭番号と接尾番号情報 ダイヤル接頭番号はダイヤルした番号が送信される前に DCE 装置に送信される番号や文字です。

ダイヤル接頭番号は、DCE 装置のダイヤル速度を定義します。これによってユーザーは、通話時にダイヤル速度を選択することができます。

接頭番号と接尾番号は DCE の機能です。ダイヤル プロファイル設定についての追加情報については、DCE のユーザーガイドを参照してください。

ISDN 番号

[RS-366 ダイアル] を有効にすると、「ISDN 番号」画面が表示されます。

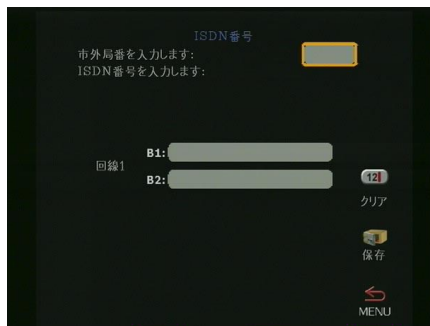



図 1-19. 「ISDN 番号」画面

1. 相手側がユーザーの ViewStation FX または VS4000 に通話ダイヤルできるように番号を入力します。
2. 完了後、選択を再確認してから、[保存] アイコンをハイライトしリモコンの  ボタンを押します。

V.35 についての追加情報は、131 ページの「V.35 詳細設定」を参照してください。

V.35 ネットワーク インターフェイス特定の初期構成プロセスが完了しました。初期構成プロセスを継続するには、34 ページの「自動 SPID 検出」画面に進みます。

注記 [RS-366 ダイアル] を無効にすると、直接接続モードになり「ISDN 番号」画面は表示されません。

PRI ネットワーク インターフェイス構成画面

PRI T1 または E1 ネットワーク インターフェイス モジュールがインストールされている場合は、以下の画面が表示されます。

注記 PRI 構成中、ViewStation FX または VS4000 は PRI ネットワーク モジュールを検出し、必要に応じてモジュールを更新します。

PRI 回線番号 (E1 - T1)

「PRI 回線番号」画面を使用して、市外局番と PRI 電話回線に関連した PRI 番号を入力します。

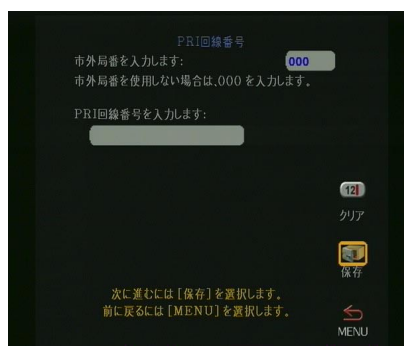


図 1-20. 「PRI 回線番号」画面

PRI 設定 (E1)

この画面は PRI E1 インターフェイスに特定です。



図 1-21. 「PRI 設定」(E1) 画面

以下のオプションを「PRI 情報」画面で設定できます。

- 回線信号方式：[回線信号方式] フィールドは、以下の選択を提供しています。
 - **CRC4/HDB3**：これがデフォルト値です。データは均一になるように HDB3 を使用してエンコードされ、また CRC4 エラー チェックは発信と受信の両方で有効にされています。
 - **HDB3**：CRC4 エラー チェックが使用不可です。
- **スイッチ プロトコル**：NET5/CTR4 はデフォルト値です。NET5/CTR4 は ITU Q.931 から派生した標準の ETSI プロトコルです。

国名設定を変更すると、新しい一連の PRI スイッチ プロトコルが読み込まれます。

現行スイッチ プロトコルが利用できない場合、「継続しますか?」というメッセージが表示されます。継続する場合、現行スイッチ プロトコルは選択した国のデフォルト値に変更されます。この場合、PRI インターフェイスがリセットされます。

1 つ以上のスイッチ プロトコルがサポートされている場合は、電話サービス プロバイダに連絡しどのプロトコルを選択するか決定します。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、データ通話だけの送受信を行い、受信する PRI 選択通話やその他の非 PRI 回線とは作動しません。発信者の ID ブロックまたは通話転送などの特別サービスはサポートされていません。

PRI 設定 (T1)

PRI T1 ネットワーク インターフェイス モジュールがある場合は、以下の画面が表示されます。

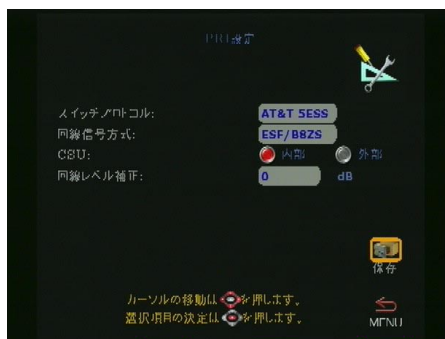


図 1-22. 「PRI 設定」(T1) 画面

この画面のフィールドについての情報は、PRI サービス プロバイダから入手できます。この画面で以下のオプションを設定します。

- **スイッチ プロトコル**：ネットワーク スイッチ プロトコルを選択します。日本、香港、台湾などのアジア諸国の一部では、NET5/CTR4 も提供されています。

国名設定を変更すると、新しい一連の PRI スイッチ プロトコルが読み込まれます。現行スイッチ プロトコルがもはや利用可能ではない場合、「継続しますか？」というプロンプトが表示されます。継続する場合、現行スイッチ プロトコルは選択した国のデフォルト値に変更されます。この場合、PRI インターフェイスがリセットされます。

1 つ以上のスイッチ プロトコルがサポートされている場合は、電話サービス プロバイダに連絡しどのプロトコルを選択するか決定します。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、データ通話だけの送受信を行い、受信 PRI 選択通話やその他の非 PRI 回線とは作動しません。発信者の ID ブロックまたは通話転送などの特別サービスはサポートされていません。

- **回線信号方式**：Extended Super Frame（拡張スーパーフレーム）(ESF)/B8ZS（Binary 8 Zero Substitution [バイナリ 8 ゼロ代用]）は、それぞれデフォルト フレーミング フォーマットとデフォルト回線エンコード フォーマットです。D4 のようなレガシ フレーム フォーマットはサポートされていません。
- **CSU**：デフォルト値では、T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールが内部 CSU モードとして設定されています。外部 CSU を使用する場合は、この画面で以下の情報を指定しなければなりません。

1. [CSU] フィールドで、[External（外部）]を選択します。
2. [回線レベル修正] フィールドで、PRI インターフェイスと外部 CSU 間のケーブル距離に対応する適切なケーブル距離範囲を選択します。

注記 北米 T1 のみ：外部 CSU の CPE 装置側面からの RJ-45 を PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに接続します。CSU についての詳細は、243 ページの「チャンネル サービス ユニット」を参照してください。

- **回線レベル修正**：内部 CSU を使用している場合は出力減衰を dB で入力します。外部 CSU を入力している場合は出力減衰をフィート（1 ft = 30.48 cm）で入力します。


詳細 PRI 設定については、137 ページの「詳細 PRI 設定」を参照してください。

Quad BRI ネットワーク インターフェイス構成画面

Quad BRI は 4 本の入力 BRI ISDN 回線を受領するインバース マルチプレクサで、これらの回線を ViewStation FX または VS4000 に接続する 8 チャンネル回線 1 本に組み合わせます。

ISDN 番号

「ISDN 番号」画面で、市外局番または STD コードおよび ViewStation FX または VS4000 に割り当てられた ISDN 番号を入力します。この番号は、ISDN 回線を購入した際にサービス プロバイダから受け取っているはずです。

終了後、[保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

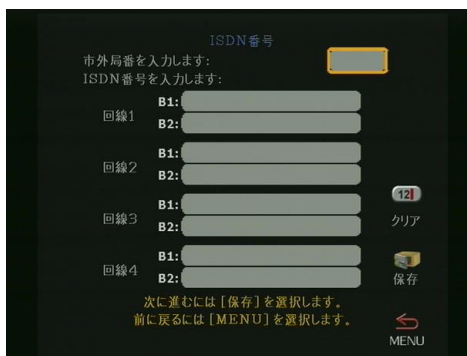


図 1-23. 「ISDN 番号」画面

ヒント 桁の間に点を入力する必要がある場合は、リモコンの [右矢印] ボタンを押します。

自動 SPID 検出

「自動 SPID 検出」画面で、ViewStation FX または VS4000 の [Service Profile ID (サービス プロファイル ID)] 番号を入力します。内線電話システム (PBX) に接続している場合は、SPID を入力する必要はありません。

システムが SPID を検出できない場合は、接続および ISDN 番号が正しく入力されているか確認します。

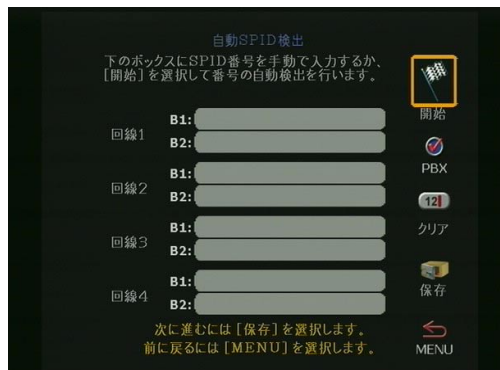


図 1-24. 「自動 SPID 検出」画面

ISDN 設定

ISDN ネットワークで使用されている ISDN スイッチ タイプに応じて、ISDN 設定を選択します。

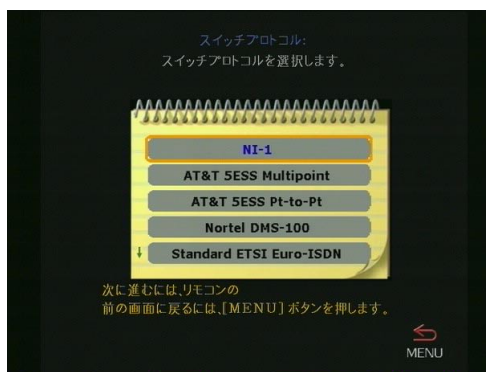


図 1-25. 「ISDN 設定」画面

継続システム構成 画面

以下の画面で、システムの初期設定を完了します。

外線発信


システムが PBX にある場合には、「外線発信」画面で外線アクセス用のダイヤル番号を入力します。



図 1-26. 「外線発信」画面

この番号は普通 9 または 0 です。ViewStation FX または VS4000 は、ISDN 番号の前に自動的にこの番号をダイヤルします。

外線にアクセスする番号をダイヤルする必要がある場合には、この画面を空にしておきます。

終了後、[保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

電話番号

「電話番号」画面で、ViewStation FX または VS4000 に接続したアナログ電話回線の番号を入力します。

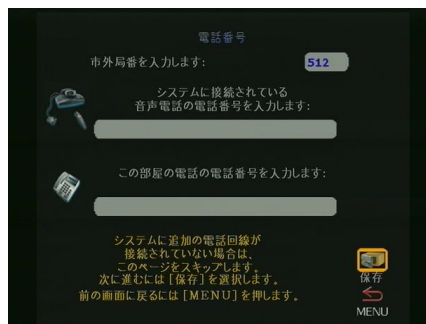



図 1-27. 「電話番号」画面

ViewStation FX または VS4000 と同じ部屋にある別の電話番号を入力できます。終了後、[保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

VS4000 カメラ入力

この画面は VS4000 特定で、カメラ装置を基本設定します。

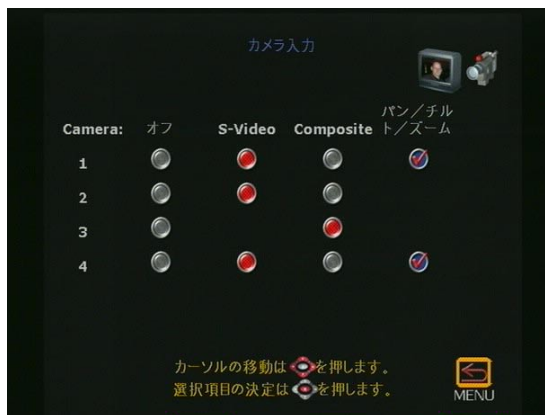


図 1-28. 「VS4000 カメラ入力」画面

4 つのカメラを VS4000 に接続できます。S-Video モードには 3 つ、またパン / 傾斜 / ズーム モードには 2 つのカメラを設定できます。




カメラを有効にするには、カメラ入力を S-Video またはコンポジット (VS4000 だけ) に設定して、カメラのパン / 傾斜 / ズーム機能を有効にします。

初期システム構成は完了しました。メイン画面に戻ります。

テスト

ViewStation FX または VS4000 の基本設定が終了したら、ViewStation FX または VS4000 のアドレス帳に前もってプログラムされている番号の 1 つにテスト通話をかけます。

以下の手順で、通話します。

1. メイン画面の [アドレス帳] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。
2. [アドレス帳] アイコンを再びハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。
3. リモコンの矢印ボタンを使用して場所を選択し、リモコンの  ボタンを押して呼び出しをします。

メイン画面 (ViewStation FX と VS4000)

初期システム構成が完了すると、システムはメイン メニューに戻ります。

メイン画面は、ViewStation FX と VS4000 で行うすべての作業の出発点です。メイン画面から「テレビ通話」画面で ([テレビ通話] アイコンを選択して)、[アドレス帳]、すべての「システム情報」画面、および [音声通話] にアクセスできます。

ネットワーク接続用アイコンもメイン画面に表示されます (詳細は次セクションを参照)。

IP アドレスと ISDN 番号 リモコンのフィートを押さえると、メイン ページの下に ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスおよび / または ISDN 番号が表示されます。これは、IP アドレスと ISDN 番号を表示する簡単で便利な方法です。

ネットワーク接続用アイコンとインジケータ

ネットワーク回線チェック ViewStation FX または VS4000 の電源を入れるごとに、各ネットワーク回線に対する黄色の番号付きアイコンが「テレビ通話」アイコンの下に表示されます。黄色のアイコンは、ViewStation FX または VS4000 がネットワーク回線の接続をチェックしていることを示します。

アイコンが緑の上矢印に変更された場合は、ViewStation FX または VS4000 がネットワーク回線を見付けたことを示します。

アイコンが赤の下矢印に変更された場合は、ViewStation FX または VS4000 がネットワーク回線を見付けられなかったことを示します。この場合は、ネットワーク接続をチェックし、また番号が正しく入力されているか確認します。



図 1-29. ViewStation FX / VS4000 メイン画面

ISDN 回線チェック ViewStation FX または VS4000 は、電源を入れるたびに ISDN 回線の基本構成をチェックします。ViewStation FX または VS4000 が各回線を確認する際は、別の回線インジケータが ISDN チェック アイコンに表示されます。最初の ISDN 回線（回線 1）が接続すれば、通話することができます。

チェックが完了し、ISDN 回線が適切に基本設定されていると、アイコンは非表示になります。非表示にならなかった場合には、物理的接続と ISDN 回線の基本設定をチェックします。



図 1-30. メイン画面（ネットワーク状態の表示）

〔ゲートキーパー状態〕アイコン 「ゲートキーパー」画面で選択したオプションによって、ViewStation FX または VS4000 の電源を入れるたびに、以下の状態アイコンがメイン画面に表示されます。

- **黄色アイコン**：ViewStation FX または VS4000 がゲートキーパーを見つけられませんでした。
- **赤色アイコン**：ViewStation FX または VS4000 はゲートキーパーを見つけましたが、ゲートキーパーで登録することができません。
- **緑色アイコン**：ViewStation FX または VS4000 はゲートキーパーを見つけ、またゲートキーパーで登録しました。
- **アイコンなし**：ゲートキーパーが指定されていないか、または「ゲートウェイ & ゲートキーパー」画面（〔システム情報〕>〔管理者設定〕>〔LAN/H. 323〕>〔H. 323〕>〔ゲートウェイ & ゲートキーパー〕）で〔自動〕に設定されています。

テレビ通話の手動発信

1 つの番号の使用

以下のようにして、手動でテレビ通話をかけることができます。


1. メイン画面の [テレビ通話] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。次の画面が表示されます。



図 1-31. 「テレビ通話」画面

2. リモコンの数字キーパッドを使用して、ダイヤルしたい番号を入力します。
英数字を入力する必要がある場合には、リモコンの [自動] ボタンを押してキーボードを出します。
3. リモコンの矢印ボタンを使用して、画面の [速度] アイコンをハイライトし、表示される一覧から通話の速度を選択します。
4. 通話するには、リモコンの緑色の [CALL・HANG UP (通話 / 終了)] ボタンを押します。画面の上にダイヤルしている番号と速度が表示されます。
画面左下の通話進行インジケータが、通話の進展を指示します。通話が進行するにつれて、インジケータは順番に、青、黄色、オレンジそして緑色に変化します。



図 1-32. 通話進行インジケータ


5. 呼び出しが完了すると、呼び出した相手が画面に表示され、右下の「PIP (picture-in-picture [ピクチャ イン ピクチャ])」画面に自分が表示されます。モニタが 2 つある場合には、呼出相手がメイン モニタに表示され、自分は二番目のモニタに表示されます。


呼び出しが完了しないと、エラー メッセージが表示されます。エラー メッセージを受信したら、リモコンの「情報」ボタンを押して説明を見ます。V. 35 システムの場合は、エラー メッセージが表示されたら DCE インターフェイスを見ます。

6. 通話を終了するには、リモコンの「通話 / 終了」ボタンを押します。次の画面が表示されます。



図 1-33. 「通話終了の選択」画面

7. 「テレビ通話の終了」アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。アドレス帳にない番号に通話した場合には、ダイアログボックスがその番号を追加する機会を提供します。「はい」を選択すると、その情報を入力できるアドレス帳に進みます。「いいえ」を選択すると、モニタにメイン画面が表示されます。

注記  ボタンを押さずに、この画面に 60 秒間留まると、通話は自動的に終了します。

また、「アドレス帳」または「短縮ダイヤル」を使用して、テレビ通話をかけることができます。詳細は、71 ページの「アドレス帳」を参照してください。

2 つの番号の使用

2 つの番号を使用してテレビ通話をかけるには、以下の手順を実行してください。

1. 「テレビ通話」アイコンを選択します。選択した速度がボンド通話（たとえば、2 x 56 Kbps）の場合、二番目の番号フィールドが表示されます。「自動 H. 323」オプションが有効にされていると、番号のフォーマットに基づいてダイヤルする際、システムはどの通話タイプを使用するか認知します。このオプションが有効にされていないと、IP と ISDN オプションが「テレビ通話」画面で表示されるので、適切なオプションを選択する必要があります。
2. 呼び出す相手側の最初の ISDN 番号を入力するには、リモコンの数字キーパッドを使用します。

エントリをクリアするには、リモコンの矢印ボタンを使用し、ハイライト ボックスを画面の「クリア」アイコンに移動して「選択」ボタン（または「通話 / 終了」ボタン）を押します。

右からエントリの一部をクリアするには、削除したい各文字に対する「右矢印」ボタンを一度だけ押します。

3. 以下の手順で、二番目の番号を入力します。
 - 最初の番号より一桁大きい ISDN 番号の場合は、「右矢印」ボタンを押して、その番号を入力し手順 5 に進みます。
 - 最初の番号と同じ ISDN 番号の場合は、「下矢印」ボタンを押して、手順 4 に進みます。

- その他の場合は、[下矢印] ボタンを押して、オレンジのハイライト ボックスを画面の二番目の回線に移動します。リモコンの [左矢印] ボタンを使用して番号を左に削除し、また数字キーパッドを使用して、呼び出し相手の 2 番目の ISDN 番号を入力します。
4. [選択] ボタン（または [通話 / 終了] ボタン）を押して、呼び出します。
 5. 通話接続が完了に近づくにつれて、画面左下の呼び出し進行インジケータが青から緑に変化します。2 つの呼び出し進行インジケータが利用できる各回線に表示されます。

通話が接続できなかった場合は、画面中央の上にエラー ボックスが表示されます。「テレビ通話」画面から再ダイヤルすると、入力した番号は他の番号が取って代わるまで、あるいはシステムがオフになるまで表示されたままになります。

通話が接続されると、呼び出し相手がメイン ウィンドウに表示され、こちら側の画像は右下のより小さな画面に表示されます。基本構成がデュアル モニタの場合には、呼出相手がメイン モニタに表示され、自分は二番目のモニタに表示されます。



図 1-34. 「テレビ通話」画面（ ISDN 番号と速度インジケータを表示）

6. 通話を終了するには、リモコンの「通話 / 終了」ボタンを押します。すると「通話終了の選択」画面に進みます。



図 1-35. 「通話終了の選択」画面

7. 矢印キーを使用して、「テレビ通話の終了」アイコンをハイライトし、リモコンの「選択」ボタンを押します。アイコンをハイライトして選択を押さないと、通話は 60 秒後に自動的に切断されます。

通話を手動でダイヤルし、その番号が「アドレス帳」にない場合は、「アドレス帳」に通話の名前と番号を入力することができます。

はいと答えると、「アドレス帳」に新しいエントリを追加するのに使用する画面に進みます。その通話の番号がすでに入力されている場合、エントリ記入を完了できます。いいえと答えると、メイン通話画面に戻ります。

テレビ通話の応答

ViewStation FX と VS4000 は、デフォルトで自動的に受信通話に応答するように設定されています。

このオプションを無効にするには、「基本設定」画面で、「システム情報」>「管理者設定」>「基本設定」を選択します。

テレビ通話に手動で応答するには、ViewStation FX または VS4000 によってメッセージが表示された際に「はい」をハイライトしてリモコンの [決定] ボタンを押します。

カメラと音質の調整

カメラ

こちら側のカメラの調節

ViewStation FX または VS4000 のカメラを調節するには、リモコンの [NEAR (ニア)] ボタンを押します。ユーザーのカメラがテレビ モニタの全画面に表示されます。右上隅に、ユーザーの方向を向いた カメラ アイコンが表示されます。

リモコンの矢印ボタンを使用して、カメラを上下に傾斜させ、左右にパンします。

[ズーム] ボタンを使用して、ズームイン、ズームアウトします。

相手側カメラの調節

相手側 ViewStation FX または VS4000 のカメラを調節できるのは、相手側で [ニアカメラの 相手側制御] オプションが有効にされている場合です。このオプションを有効にする方法についての詳細は、78 ページの「カメラ制御」セクションを参照してください。

リモコンの [FAR (相手側)] ボタンを押します。右上隅に、ユーザーの逆方向を向いたカメラ アイコンが表示されます。

リモコンの矢印ボタンを使用して、カメラを上下また左右に動かします。

[ズーム] ボタンを使用して、ズームイン、ズームアウトします。

通話中に調節する場合には、メニュー画面に行って、リモコンの [ニア] または [相手側] ボタンを押して、通話表示に直接に戻ります。

音

ViewStation FX と VS4000 の通話音量は、テレビ モニタの音量に関連しており以下のように設定します。

1. テレビ モニタのボリュームを最大ボリュームの半分に設定します。

2. ViewStation FX または VS4000 の音量を快適なレベルに設定します。
3. ViewStation FX または VS4000 の音量を調節するには、リモコンの音量ボタンを押します。

効果音量：ViewStation FX と VS4000 の効果音量については別個の音量制御があります。

1. この音量設定を調節するには、[システム情報]>[管理者設定]>[音声設定] を選択します。
2. [効果音量] フィールドを選択します。
3. 音量設定を調節するには、リモコンの音量制御ボタンを使用します。

ヘルプの使用

ViewStation 「ヘルプ」画面にアクセスするには、リモコンの [INFO (情報)] ボタンを押します。ViewStation FX または VS4000 が Global Management System (グローバル管理システム) に登録されている場合には、以下の「ヘルプ」画面が表示されます。

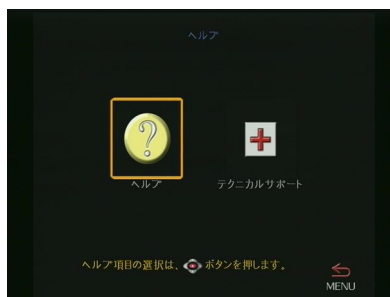


図 1-36. 「ヘルプ」(メイン)画面

ヘルプ トピック

[ヘルプ] アイコンをクリックして、「ヘルプ」画面にアクセスします。

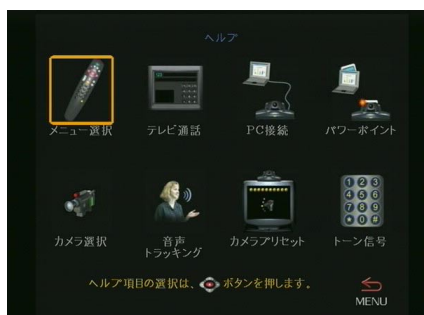


図 1-37. 「ヘルプ」(トピック)画面

この画面から適切なヘルプ トピックを選択します。対応する情報画面が表示されます。

テクニカル サポート

テクニカル サポートを得るには、[テクニカル サポート] アイコンを「ヘルプ」画面で選択します。ダイアログボックスが表示され、電話番号を入力するよう要求するメッセージが表示されます。

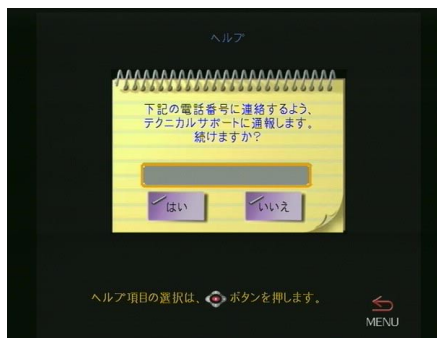


図 1-38. 「ヘルプ」(テクニカル サポート) 画面

サポートを迅速に提供できるように、電話番号と一緒に市外局番も入力してください。電話番号がいったん入力されると、確認画面が表示されます。ViewStation FX または VS4000 を最初に設定した際に、テクニカル サポートが提供された場合には、この確認画面で地区のテクニカル サポートの電話番号も提供します。

注記 【テクニカル サポート】アイコンが表示されるのは、ViewStation FX または VS4000 が Polycom Global Management System™ に登録されている場合だけです。

基本的トラブルシューティング

このセクションには、基本的なトラブルシューティング情報が含まれています。トラブルシューティング詳細については、209 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。

一般

リモコンが作動しません。

電池がインストールされているか確認します。リモコンが ViewStation FX または VS4000 IR 検出器に向けられているか確認します。電池の電力が低い場合は、メイン画面に電池アイコンが表示されます。

ViewStation FX または VS4000 の電源を入ると、[ソフトウェア更新]が表示されます。

システム ソフトウェアが破損しているか、正しく読み込まれていません。PC からシステム ソフトウェアを ViewStation FX または VS4000 に読み込ませます。これを実行する手順については 128 ページの「PC を使用したソフトウェアのアップグレード」を参照するか、ネットワーク装置プロバイダに問い合わせます。

こちら側または相手側の画面の左側に稲妻の形をしたインジケータが表示されます。

稲妻は、WAN または LAN ネットワークに問題があることを知らせるビジュアルなインジケータです。ViewStation FX または VS4000 のパフォーマンスの問題を指摘しているものではありません。

H. 320 通話中である場合は、電話会社の回線にバイト エラーが生じていることを示しています。電話会社に連絡して、この問題について通知します。

H. 323 通話中である場合は、LAN ネットワークが画像と音声の低下を伴うパケット損失を被っていることを意味する場合があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

稲妻は、バージョン 2.5 以上の H. 320 と H. 323 通話では異なっています。

- H. 320 通話では、稲妻が表示されるのは、1 秒間に 3 つ以上の CRC (Cyclic Redundancy Check [周期冗長性検査]) エラーがあるか、または 1 秒間に 10 以上の FEC (Forward Error Correction [フォーワード エラー修正]) エラーがある場合です。
- H. 323 通話では、稲妻が表示されるのは 100 以上の音声と画像のパケットが損失された場合です。稲妻が表示されるごとに、表示カウンタがリセットされます。

稲妻がトリガされるのは、ネットワークである一定レベルのパケット損失が検出された場合です。パケット損失レートの周波数はリモコン シェルを使用して修正できます (RS-232 経由または Ethernet/Telnet 経由)。ドキュメンテーション CD に含まれている FX または VS4000 リモコン API 文書を参照してください。

音声

通話に音声がありません。

- ViewStation FX または VS4000 がモニタの間違った音声入力に接続されています。モニタのケーブルが ViewStation FX または VS4000 クイックスタート の色ケーブル図に表示されているように接続されているか確認します。
- 相手側がミュートになっています。相手側がミュートの場合は、相手側の [ミュート] アイコンがモニタの左下隅に表示されます。相手側にリモコンの [ミュート] ボタンを押すように頼んで、ミュートなのか、正しく接続されていないのかをチェックします。
- ViewStation FX と VS4000 の [トーン作成] テストを使用して、問題の診断をします。

話している際にエコーが聞えます。

エコーは、相手側通話に問題があります。相手側に音量を下げてもらい、相手側マイクが ViewStation FX または VS4000 とモニタのスピーカーから離れたところに配置されるように確認します。

通話の音量が足りません。

ViewStation FX、VS4000 またはテレビ モニタの音量設定が低すぎます。最良の結果を得るためには、テレビ モニタの音量を最大音量の半分に設定し、ViewStation FX または VS4000 の音量を快適なレベルに設定します。

画像

メインモニタに画像がありません。

システムは 3 分間何の操作も行われないとスリープ モードになります。スリープ モードでは、システムは電源オフのようになります。システムの「目を覚ます」には ViewStation FX または VS4000 のリモコンを取り上げて、ViewStation FX の前でボタンを押します。

最初のモニタと二番目のモニタの画像が同じです。

- [スナップショット] ボタンを押します。二番目のモニタは、スナップショット用にプライマリ モニタの画像のプレビューをしています。[スナップショット] を押して、スナップショットをし、[スナップショット] を再び押すと、ライブ画像に戻ります。
- 二番目のコンポジット モニタを ViewStation FX または VS4000 の背面の VCR 出力 ポートに接続した可能性があります。

ViewStation FX と VS4000 の使用

この章では、ViewStation FX と VS4000 の使用方法に関する情報を説明します。以下のトピックを含んでいます。

- テレビ通話：このセクションでは、テレビ通話を発信、応答、および終了する方法を説明します。(54 ページ)
- アナログ音声通話：このセクションには、音声通話をする方法、テレビ通話に音声通話を追加する方法、その逆を行う方法、および音声通話を切断する方法が含まれています。(57 ページ)
- 多地点通話：このセクションでは、多地点通話をかける方法を説明します。また、多地点ダイヤル速度とファイアウォール、モード表示、パスワード、カスケード機能、チェア コントロール、そして 4 モニタ サポートについての詳細が含まれています。(61 ページ)
- アドレス帳：このセクションでは、アドレス帳 エントリの追加、編集および削除方法について説明します。アドレス帳を 1 つのシステムから別のシステムへの転送方法、またグローバル アドレス帳の使用法、および多地点 [アドレス帳] エントリの作成方法を説明します。(71 ページ)
- カメラと音質の制御：このセクションではカメラと音の制御方法について説明します。カメラ設定、プリセットおよび自動トラッキングが含まれています。(78 ページ)
- ストリーミング 画像：このセクションでは、Apple QuickTime を使用したストリーミングの有効化方法とストリーム表示方法について説明します。(84 ページ)
- スナップショット：このセクションでは、スナップショットの方法を説明します。また、[スナップショット タイムアウト] オプションについての情報も含んでいます。(87 ページ)
- オプション装置：このセクションでは、ViewStation FX または VS4000 といっしょに使用できるオプション装置を一覧しています。(89 ページ)
- グラフィック カーソル：このセクションでは、グラフィック カーソルとその使用方法について説明します。(93 ページ)

テレビ通話

テレビ通話を発信するには、4 つの方法があります。

1. アドレス帳から発信
2. 短縮ダイヤル
3. 手動ダイヤル
4. Web インターフェイスからのダイヤル



手動でテレビ通話をかける方法についての詳細は、40 ページの「テレビ通話の手動発信」を参照してください。

Web インターフェイスからテレビ通話をかける方法についての詳細は、102 ページの「通話発信」を参照してください。

〔アドレス帳〕から通話を発信

〔アドレス帳〕から直接通話を発信することができます。〔アドレス帳〕に番号を入力する方法についての詳細は、71 ページの「アドレス帳」を参照してください。


次の手順で、〔アドレス帳〕から通話します。

1. メイン画面で〔アドレス帳〕アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。「短縮ダイヤル」画面が表示されます。
2. 〔アドレス帳〕アイコンをハイライトして、 ボタンを押します。〔アドレス帳〕画面が表示されます。各エントリごと

に、番号と共にダイヤル速度および通話が H. 320 (ISDN) か H. 323 (IP) かを表示するアイコンが表示されます。



図 2-1. 「アドレス帳」画面

- リモコンの矢印ボタンを使用して、名前一覧をスクロールします。必要なエントリが見つかったら、 ボタンを押します。ViewStation FX または VS4000 は自動的に画像番号のダイヤルを開始します。



短縮ダイヤル通話の発信

短縮ダイヤルは ViewStation FX または VS4000 から最後にダイヤルした 6 つの番号を保存します。ただし、これらの番号が「アドレス帳」になればいけません。



図 2-2. 「短縮ダイヤル」画面

以下の手順で、手動で短縮ダイヤル通話をかけることができます。


1. メイン画面で [アドレス帳] アイコンをハイライトして、 ボタンを押します。「短縮ダイヤル」画面が表示されます。
2. ダイヤルしたいエントリの短縮ダイヤルをハイライトして、 ボタンを押します。ViewStation FX または VS4000 は自動的に画像番号のダイヤルを開始します。また、リモコンでもダイヤルしたい短縮ダイヤル エントリの番号を押すことができます。たとえば、短縮ダイヤル エントリ 1 を呼び出すには、リモコンの 1 を押します。

短縮ダイヤル エントリのロック短縮ダイヤル エントリをロックして、それが常に「短縮ダイヤル」画面に表示されるようにできます。これは、頻繁にダイヤルする番号には便利です。番号をロックするには、「短縮ダイヤル」画面でエントリをハイライトして、リモコンの [#] ボタンを押します。[ロック] アイコンが、ロックした短縮ダイヤル エントリの横に表示されます。番号をロック解除するには、そのエントリをハイライトしてリモコンの [*] ボタンを押します。

テレビ通話の自動応答

以下の手順で、ViewStation FX または VS4000 が自動的にテレビ通話に応答するように設定できます。

1. メイン画面で、[システム情報] > [管理者設定] > [設定] > [基本設定] を選択します。
2. Auto Answer Video Call (テレビ通話自動応答) オプションを有効にします。
3. 「メイン」画面に戻るまで、リモコンの [メニュー] ボタンを押します。

[テレビ通話自動応答] オプションが無効にされている場合は、テレビ通話は手動で応答する必要があります。誰かがテレビを通して呼び出している場合、ダイアログボックスが表示されて通話に応答したいかどうかたずねます。[はい] または [いいえ] をハイライトして  ボタンを押します。

テレビ通話の終了

1. 通話を終了するには、リモコンの〔通話 / 終了〕ボタンを押します。次の画面が表示されます。

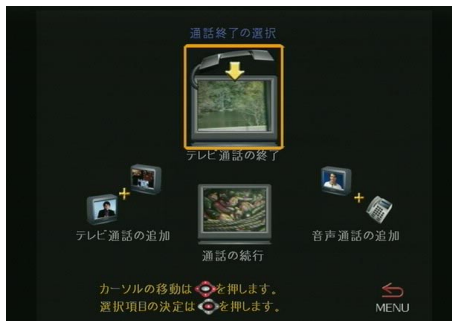





図 2-3. 「通話終了の選択」画面

2. 〔テレビ通話の終了〕アイコンをハイライトして、 ボタンを押すか、またはリモコンの〔通話 / 終了〕ボタンを二度押します。アドレス帳にない番号に通話した場合には、ダイアログボックスがその番号を追加する機会を提供します
 - 〔はい〕を選択すると、その情報を入力できるアドレス帳に進みます。
 - 〔いいえ〕を選択すると、モニタにメイン画面が表示されます。
 - 通話を続行するには、〔通話の続行〕アイコンを選択して、 ボタンを押します。

注記  ボタンを押さずに、この画面に 60 秒間留まると、通話は自動的に終了します。

アナログ音声通話

許可されている国では、アナログ電話回線を ViewStation FX または VS4000 に接続します。こうすると、ViewStation FX または VS4000 を通して音声通話をかけることができ、またテレビ通話に音声のサードパーティを含めることができます。

音声通話の発信

ViewStation FX または VS4000 を標準スピーカーフォンとして使用できます。

以下の手順で、ViewStation FX または VS4000 から音声通話をかけます。


1. メイン通話画面から「音声通話」を選択して、 ボタンを押します。「音声通話」画面が表示されます。




図 2-4. 「音声通話」画面

2. リモコンの数字キーパッドを使用して、ダイヤルしたい番号を入力します。

PBX システム内でダイヤルしている場合は、番号の最後の 4 桁をダイヤルしなければなりません。



数字を削除するには、リモコンの「左矢印」ボタンを押します。

電話番号全体を削除するには、画面の「クリア」アイコンをハイライトして  ボタンを押します。

3. 通話を発信するには、リモコンの「通話 / 終了」ボタンを押します。
4. 通話を終了するには、リモコンの「通話 / 終了」ボタンを押します。

テレビ通話への音声通話の追加


テレビ通話が接続されたら、次のようにして音声通話を追加します。

1. リモコンの [CALL (通話)] ボタンを押します。「通話終了の選択」画面が表示されます。
2. [音声通話の追加] アイコンを選択して、 ボタンを選択します。「音声通話」画面が表示されます。
3. サードパーティの電話番号をリモコンの数字キーパッドで入力して、 ボタンを押します。ViewStation FX または VS4000 が、このサードパーティーへのダイヤルを開始します。
4. 電話がサードパーティに接続されたら、リモコンの [NEAR (ニア)] または [FAR (相手側)] ボタンを押してテレビ会議に戻ります。

注記 3 方向通話がサポートされるのは、地元の電話会社からの 3 方向通話を有効にしてある場合だけです。「音声通話」画面の [フラッシュ] ボタンを選択して、1 つの回線を取得します。


音声通話の終了

以下の手順で、音声通話を終了します。

1. リモコンの [通話] ボタンを押します。「通話終了の選択」画面が表示されます。
2. [音声通話の終了] アイコンを選択して、 ボタンを押します。サードパーティが切断されます。

テレビ通話を音声通話へ追加

テレビ通話が接続されたら、次のようにして音声通話を追加します。

1. 「メイン通話」画面に戻るまで、リモコンの〔メニュー〕ボタンを押します。
2. 〔テレビ通話〕アイコンをハイライトして、 ボタンを押します。「テレビ通話」画面が表示されます。
3. リモコンの数字キーパッドを使用して、ダイヤルしたい番号を入力します。

PBX システム内でダイヤルしている場合は、番号の最後の 4 桁をダイヤルしなければなりません。

数字を削除するには、リモコンの〔左矢印〕ボタンを押します。

電話番号全体を削除するには、画面の〔クリア〕アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

4. 通話を発信するには、リモコンの〔通話 / 終了〕ボタンを押します。
5. 通話を終了するには、リモコンの〔通話 / 終了〕ボタンを押します。

多地点通話

2 つ以上のパーティがテレビ通話に参加している場合、多地点通話と呼ばれます。ViewStation FX または VS4000 では、通話に最大 4 つのパーティまで参加できます。

PRI または BRI ネットワーク インターフェイスがある場合には、PRI または BRI 回線または LAN の H. 323 を通して多地点通話を行うことができます。V. 35 ネットワーク インターフェイスの場合には、LAN の H. 323 を通してのみ多地点通話を行うことができます。

多地点ダイヤル速度情報

以下の表は、通話のサイト数に応じた許可最大ダイヤル速度を表示しています。多地点通話のパーティはすべて同じ速度で接続されていなければなりません。

ネットワーク インターフェ イス	通話サイト数	通話での各パーティの最 大速度 (Kbps)	
		H. 320	H. 323
V. 35	2	1472	1920
	3		512
	4		384
PRI	2	1472	1920
	3	512	512
	4	384	384

ネットワーク インターフェ イス	通話サイト数	通話での各パーティの最 大速度 (Kbps)	
		H. 320	H. 323
BRI	2 サイト 2 回線	256	1920
	2 サイト 3 回線	384	1920
	2 サイト 4 回線	512	1920
	3 サイト 2 回線	128	512
	3 サイト 3 回線	168	512
	3 サイト 4 回線	256	512
	4 サイト 2 回線	64	384
	4 サイト 3 回線	128	384
	4 サイト 4 回線	128	384
H. 323 のみ		この表の H. 323 速度 を参 照	

多地点通話とファイアウォール情報

以下の情報は、多地点通話のファイアウォールを通して TCP と UDP のポートをいくつ開くかを指定します。

このポート割り当ては、「QoS / ファイアウォール」画面の [固定ポートの使用] の下で定義されています。


1. 「QoS / ファイアウォール」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [QOS] を選択します。
2. [固定ポートの使用] オプションを選択します。
3. 固定ポートの正確な数を多地点通話に割り当てます。この情報については下の表を参照してください。

通話のサイト 数	TCP ポート	UDP ポート
2	3230-3231	3230-3235
3	3230-3233	3230-3241
4	3230-3235	3230-3247

多地点テレビ通話の実行

テレビ通話に手動でサイトを追加するか、または多地点アドレス帳エントリを作成して、多地点通話を実行します。多地点アドレス帳エントリ作成についての詳細は、71 ページの「アドレス帳」を参照します。

次の手順で、多地点テレビ通話を行います。

1. テレビ通話を 40 ページの「テレビ通話の手動発信」に説明されているように行います。
2. リモコンの [通話] ボタンを押します。「通話終了の選択」画面が表示されます。
3. [テレビ通話の追加] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。「テレビ通話」画面が表示されます。
4. ダイアルしたい番号を入力するか、またはアドレス帳の短縮ダイアルを使用します。通話を発信するには、リモコンの [通話 / 終了] ボタンを押します。テレビ通話が接続しました。
5. すべてのサイトが接続されるまで、手順 2 から 4 を繰り返します。

H. 323 多地点通話とスライド

すべてのシステムがバージョン 2.5 以上の場合は、H. 323 多地点通話で PowerPoint のスライドとスナップショットを送受信できます。

多地点表示モード

多地点通話で、リモート サイト用の 4 つの異なった表示モードを選択できます。

- 自動モード
- 会話モード
- プレゼンテーション モード
- 全画面モード

デフォルトは [自動] で、会議の会話スタイルに応じて自動的に、[会話]、[プレゼンテーション] モードに切り替わります。

モードの説明

自動：〔自動モード〕では、システムが、サイト間の相互交流に基づいて最適な表示モードを決定します。1 つ以上のサイトが同時に話している場合、システムは〔会話〕モードを使用します。

1 つのサイトが中断せずに話している場合には、システムは〔プレゼンテーション〕モードを使用します。システムは単一プレゼンターがいるかどうか 15 秒間待ってから決定し、それから〔プレゼンテーション〕モードに切り替えます〔プレゼンテーション〕モード中に、相手側の 1 人が数秒間プレゼンターを中断すると、直ちに〔会話〕モードに切り替わります。

会話：〔会話モード〕では、すべてのサイトから同時にすべての会議参加者を見ることができます。この機能は、〔継続表示〕モードと呼ばれることもあります。サイトの 1 つとして、自分を見ることができます。多地点通話の場合は、自分の画像が少し遅れることがあります。これは正常です。相手側サイトでは、こちら側の声と動作とが同期化されています。

単一モニタシステムを使用している場合は、通話に参加している数だけのウィンドウにサイトが画面表示されます。4 方向通話でデュアル モニタ システムを使用している場合は、こちら側（ユーザー）は二番目のテレビ モニタに表示され、相手側は最初のテレビ モニタのウィンドウに表示されます。3 方向通話でデュアル モニタ システムを使用している場合は、各相手側が各モニタに全画面で表示され、こちら側はメイン モニタの PIP ウィンドウに表示されます。

プレゼンテーション：〔プレゼンテーション〕モード（音声切り替えとも呼ばれる）では、話している人が、相手側に全画面表示されます。単一モニタシステムを使用している場合は、話し手またはプレゼンターがモニタ全画面に表示されます。

リモコンを持ち上げると、ユーザーの画像が自動的に PIP ウィンドウに表示されます。デュアル モニタ システムを使用している場合は、話し手がメイン モニタに表示され、他のパーティは 2 番目のモニタのウィンドウに表示されます。

全画面：〔全画面モード〕では、通話の各サイトで話し手が全画面に表示されます。

モード切替

以下の手順で、多地点会議のモードを切り替えます。

1. メイン通話画面で、[システム情報]>[ユーザー設定] を選択します。

注記 多地点通話中にモードを変換する場合は、リモコンの [MENU (メニュー)] ボタンを押して [メイン通話] 画面に進みます。

2. [MP モード] フィールドを選択します。「多地点設定」画面が表示されます。
3. [自動]、[会話]、[プレゼンテーション] または [全画面] を選択します。
4. 「メイン」画面に戻るまで、リモコンの [メニュー] ボタンを押します。

多地点会議パスワード

会議パスワードはサードパーティを使用する多地点会議で必要になることがあります。ViewStation FX または VS4000 を基本設定して、一般的な [ミーティングパスワード] または特定の [多地点会議パスワード] を MCU に送信することができます。

特定多地点会議パスワードの設定

1. メイン画面で、[システム情報]>[管理者設定]>[セキュリティ] を選択します。
2. 「セキュリティ」画面で、[多地点会議パスワード] を有効にし、パスワードを入力します。

注記 このパスワードは通常システム管理者が設定します。

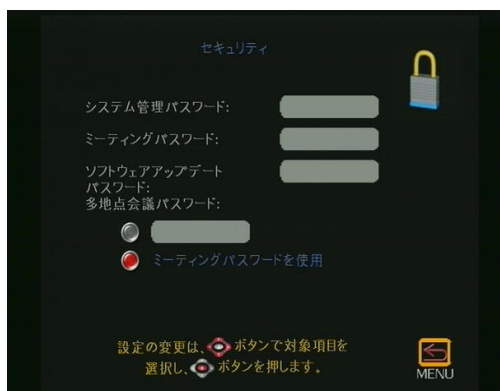


図 2-5. 「セキュリティ」画面

一般ミーティングパスワードの設定

以下の手順で、[ミーティングパスワード] を多地点会議パスワードとして使用することを選択します。

1. メイン画面で、[システム情報]>[ユーザー設定]を選択します。
2. 「ユーザー設定」画面の[ミーティングパスワード]で、自分のパスワードを入力します。
3. このパスワードは、[多地点会議パスワード]として「セキュリティ」画面で有効にされていなければなりません。このステップは、通常システム管理者が以下のようにして行います。
 - a. メイン画面で、[システム情報]>[管理者設定]>[セキュリティ]を選択します。
 - b. 「セキュリティ」画面で[ミーティングパスワードを使用]を選択します。すると、以前に「ユーザー設定」画面で、入力した[ミーティングパスワード]が有効になります。

多地点会議パスワードを基本設定すると、それが[多地点会議パスワード]でも[ミーティングパスワード]の場合でも、自動的に透過的に多地点会議のパスワードとして送信されます。

注記 システム管理者が「ミーティングパスワード」を使用するのを好むのは「ユーザー設定」画面で利用可能で、基本設定するのにシステム管理パスワードを必要としないからです。

多地点カスケード機能

ViewStation FX と VS4000 システムでは、カスケードで最大 10 サイトまでの多地点 ISDN (H. 320) 通話を行うことができます。下記の図解を参照してください。

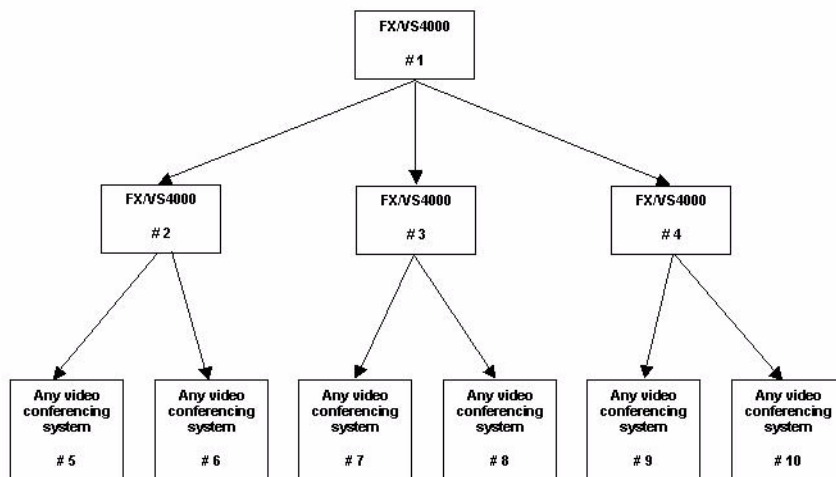


図 2-6. 多地点通話で 10 サイトをカスケードする

チェア コントロール

チェア コントロールは、非-H. 323 多地点通話で ViewStation FX または VS4000 に許可されている機能で、次のことができます。

- 表示場所の選択
- どのサイトが画像をその他のサイトにブロードキャストするか選択
- 多地点通話からの切断サイト

通話中のどのサイトからも「チェア コントロール」画面にアクセスできます。ただし、一度に複数の場所がチェア コントロールを使用することはできません。別の場所がチェア コントロールを獲得する前に、一方の場所がチェア コントロールを解放する必要があります。

「チェア コントロール」画面にアクセスするには、多地点通話に参加していなければなりません。リモコンの〔ニア〕ボタンを押して、〔Gabel（小鉗）〕アイコンを選択します。

次の画面が表示されます。

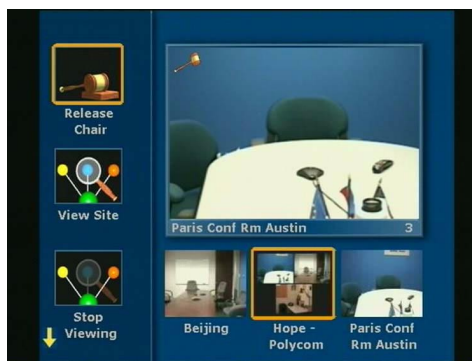


図 2-7. 「チェア コントロール」画面

画面左のアイコンは、Chair Control Actions（チェア コントロール操作）です。右下のアイコンは通話中のサイトです。通話中のサイトを選択する場合は、リモコンの〔左〕または〔右〕の矢印キーを使用します。

通話中のサイトが 4 ヶ所以上の場合は、右側にスクロールすると他のサイトを表示できます。〔上〕または〔下〕の矢印キーを使用して、ハイライトされたサイトで行う操作を選択します。

チェア コントロールでは、以下の操作を行うことができます。

「チェア コントロール」画面操作

多地点通話のどのサイトでもこれらの操作を行うことができます。

- **Aquire chair（チェアの取得）**：自分のサイトにチェア コントロールを有効にする。テレビ通話中の他のサイトは、ユーザがこのチェアを解放するまでチェアを取得できません。チェア コントロールがあると、チェア コントロール モードに小さな小槌が表示されます。別のサイトでチェア コントロールを使用している間にチェア コントロールを取得しようとすると、別の場所でチェア コントロールが使用されていることを示すメッセージが表示されます。
- **View Site（表示サイト）**：選択したサイトをライブ ウィンドウで表示する。表示サイトは、音声切り替えまたはチェアからのブロードキャスト操作を上書きします。この操作によって他の場所のテレビは影響を受けません。
- **Stop Viewing Site（表示サイトの停止）**：ViewStation FX または VS4000 を音声切り替えまたはチェアが設定したブロードキャスト操作に戻します。
- **Make me the Broadcaster（ブロードキャストする）**：チェア コントロール サイトに要求をして、すべてのサイトが自分のサイトを表示するように強制します。

チェア操作

チェアのサイトだけがこれらの操作を行うことができます。

- **Release Chair（チェアのリリース）**：自分のサイトのチェア コントロールを無効化します。通話の他のサイトがチェアを取得できます。
- **Select Broadcaster（ブロードキャストを選択）**：すべてのサイトが選択サイトを見るようにして、[音声切り替え] を無効にします。
- **Voice Switching（音声切り替え）**：音声切り替えを有効にします。話しているサイトが通話中のすべてのサイトに全画面モードで表示されます。
- **Disconnect Site（サイトの切断）**：多地点通話から選択したサイトを切断します。
- **End the Conference（会議の終了）**：多地点通話のすべてのサイトを切断します。

4 モニタ サポート

この機能では、マルチウェイ通話（最大 4 つまでの参加サイト）の各相手側サイトを別々のモニタに表示できます。この機能は、MCU 機能を提供しているサイトだけで利用可能です。通話の他サイトでは、2 つのモニタに制限されています。

1. この機能を有効にするには、[システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]>[モニタ]>[TV モニタ] を選択します。
2. TV 「モニタ」画面で、ViewStation FX または VS4000 に接続されていて利用可能なモニタの数を指定します。4 つまでのモニタを指定できます。

注記 異なったモニタの基本構成と各モニタの表示結果については、279 ページの「4- モニタ サポート表」を参照してください。

アドレス帳

〔アドレス帳〕は、名前でテレビ通話を発信できるので時間が節約できます。〔アドレス帳〕では 1,000 エントリまで事前プログラムできます。

所属機関で Polycom の Global Management System™ ソフトウェアを使用している場合、所属機関で使用するすべてのアドレスを自動的に表示するようアドレス帳を基本設定できます。

〔アドレス帳〕から通話を行う方法についての詳細は、この章の 54 ページの「〔アドレス帳〕から通話を発信」を参照してください。

以下の手順で〔アドレス帳〕にアクセスします。


1. メイン画面で、〔アドレス帳〕アイコンを選択します。「短縮ダイヤル」画面が表示されます。
2. 〔アドレス帳〕アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。メイン「アドレス帳」画面が次のように表示されます。



図 2-8. 「アドレス帳」画面

この画面からすべての〔アドレス帳〕タスクを実行します。

注記 〔新規〕、〔編集〕そして〔削除〕アイコンが表示されるのは、〔アドレス帳更新可〕オプションが「基本設定」画面（〔システム情報〕>〔管理者設定〕>〔基本設定〕）で有効にされている場合だけです。）

アドレス帳へのエントリ追加

次の手順で、エントリをアドレス帳に追加します。



1. 「新規」アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。次の画面が表示されます。



図 2-9. 「アドレス帳の新規エントリ」画面

2. 「1 地点」アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。「エントリの追加 / 変更」画面が表示されます。

注記 多地点エントリの作成については、76 ページの「多地点アドレス帳エントリ」を参照してください。

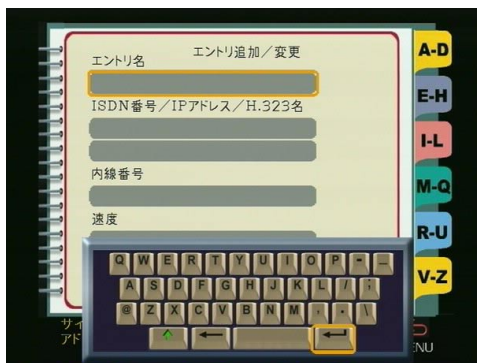





図 2-10. 「エントリの追加 / 変更」画面

3. スクリーン キーボードとリモコンを使用して、この画面に必要な情報を入力します。ドットを入力するには、リモコンの [右矢印] ボタンを押します。
4. [保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。すると、メイン「アドレス帳」画面に戻ります。

アドレス帳の既存エントリの編集


次の手順で、既成アドレス帳エントリを編集します。

1. リモコンの [上下矢印] ボタンを使用して、アドレス帳エントリをハイライトします。
2. [編集] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。[エントリ追加 / 変更] 画面とスクリーン キーボードが表示されます。
3. スクリーン キーボードとリモコンを使用して、必要に応じてこの画面に情報を入力します。
[名前] フィールドで、スクリーン キーボードのバックスペース キーを使用して文字を削除します。
[番号] フィールドで、[左矢印] ボタンを使用して番号を削除します。
4. [保存] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。すると、変更が保存され、メインの「アドレス帳」画面に戻ります。

注記 グローバル アドレス帳エントリは編集できません。これらのエントリは、GAB (Global Address Book [グローバル アドレス帳]) サーバにログインしている ViewStation FX または VS4000 から動的に取得したものです。

アドレス帳エントリの削除

次の手順で、エントリをアドレス帳から削除します。

1. 削除したいエントリをハイライトします。
2. 左矢印ボタンを使用して、[削除] アイコンをハイライトします。
3. リモコンの  ボタンを押します。選択したエントリは [アドレス帳] から削除されました。

アドレス帳の転送

ViewStation FX または VS4000 アドレス帳の内容を相手側 ViewStation に ISDN 通話中に転送できます（アドレス帳転送は、すべての ViewStation モデル間で可能です）。アドレス帳の内容を転送するには、次の操作を実行します。

1. メイン通話画面から、[システム情報]>[管理者設定]>[ソフト/ハード]へ進みます。
2. Send Address Book（アドレス帳送信）アイコンをクリックします。
3. 相手側 ViewStation の [管理者パスワード] と [ソフトウェアアップデートパスワード] を入力します。
4. [開始] アイコンをクリックして、転送を開始します。

注記 この機能は、システムが単一エンドポイントに ISDN 通話を行っている場合だけに利用できます。

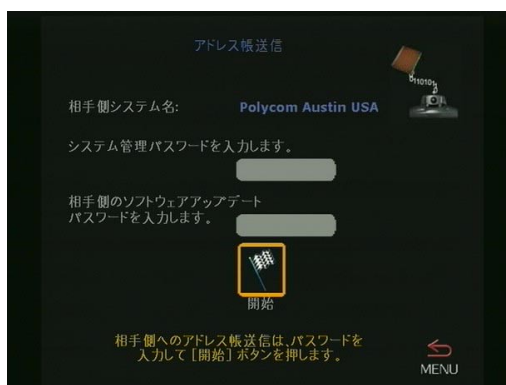


図 2-11. 「アドレス帳送信」画面

グローバル アドレス帳の使用

所属組織で Polycom の Global Management System™ ソフトウェアを使用して、ViewStation FX または 4000 が GAB サーバに登録設定されている場合、グローバル アドレス帳にアクセスすることができます。GAB は ViewStation FX と VS4000 のユーザーがボタン 1 つで簡単に世界のどこへでもダイヤルできる機能を提供します。GAB は ViewStation FX または VS4000 のダイヤル情報、国番号、および使用する回線速度を自動的に取得また更新します。ViewStation FX または VS4000 ユーザーは、一覧から名前を選択するだけで通話を行えます。

GAB サーバにサブスクライブしている ViewStation FX または VS4000 のアドレス帳にアクセスすると、手動で入力されたアドレスとさまざまなアドレス帳からのグローバル アドレスが表示されます。

「アドレス帳」画面に表示される次のアイコンは、GAB 状態と個別アドレスの状態を示します。



このアイコンが右上隅にある場合は、ViewStation FX または VS4000 が GAB サーバに接続されていることを示します。このアイコンが回転しているのは、ViewStation FX または VS4000 が GAB サーバのアドレスにアクセスしていることを示しています。アドレス一覧をすべて見ていくと、アイコンが回転することに注意してください。



このアイコンは、選択されたアドレスが GAB にあるアドレスであることを示します。ViewStation FX または VS4000 からグローバル アドレスを編集または削除することはできません。編集や削除などのタスクは、GAB コンソールからしか実行できません。



このアイコンを使うと、グローバル アドレスのエントリをローカルのアドレス帳に保存できます。



このアイコンは、選択されたアドレスが手動で入力されたことを指示します。これらのアドレスは ViewStation FX または VS4000 のローカルで、GAB サーバにはレポートされていません。ViewStation FX または VS4000 からこれらのアドレスを編集または削除することができます。

Global Management System ソフトウェアについての詳細は、Web サイト www.polycom.com を参照してください。

多地点アドレス帳エントリ

多地点テレビ通話を行うには、多地点エントリを アドレス帳に作成すると便利です。多地点エントリは、アドレス帳またはグローバル アドレス帳に既に一覧されている単一サイト エントリで作成されます。多地点エントリを使用する際は、1 つのアドレス帳エントリですべての選択サイトへ通話できます。

多地点エントリを構成している 1 つの単一サイト エントリを削除すると、その多地点エントリはアドレス帳から自動的に削除されます。

次の手順で、多地点エントリを作成します。



1. [新規] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。「新規アドレス帳エントリ」画面が表示されます。
2. [多地点会議] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。「マルチサイト会議」画面が表示されます。





図 2-12. 「マルチサイト会議」画面

3. スクリーン キーボードを使用して、会議の名前を入力します。
4. 通話のダイヤル速度を選択します。この通話のすべてのサイトは、個別アドレス帳エントリで設定されたダイヤル速度を無視して、この速度でダイヤルされます。
5. [追加] アイコンをハイライトして、アドレス帳から通話への参加者を追加します。「会議に追加」画面が表示されます。



図 2-13. 「会議に追加」画面

6. 追加したいエントリをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。そのエントリを追加した「多地点アドレス帳エントリ」画面が表示されます。
7. 通話にすべてのサイトを入力し終わるまで、ステップ 5 と 6 を繰り返します。
8. 保存アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押し、メインの「アドレス帳」画面に戻ります。
9. [アドレス帳] から多地点通話を行う場合は、多地点エントリを選択し [通話 / 終了] ボタンを押します。すべてのサイトが自動的に呼び出されます。

カメラと音質の制御

以下のセクションでは、ViewStation FX または VS4000 のカメラと音を制御する方法を説明します。

カメラ制御

こちら側のカメラの選択

以下の手順で、こちら側のカメラを選択します。

1. リモコンの [ニア] ボタンを 2 度押します。以下の番号付きローカル画像ソースが画面の下に表示されます。
 - 1 = メイン カメラ
 - 2 = ドキュメント カメラ
 - 3 = VCR
 - 4 = 二番目のパン / 傾斜 / ズーム カメラ

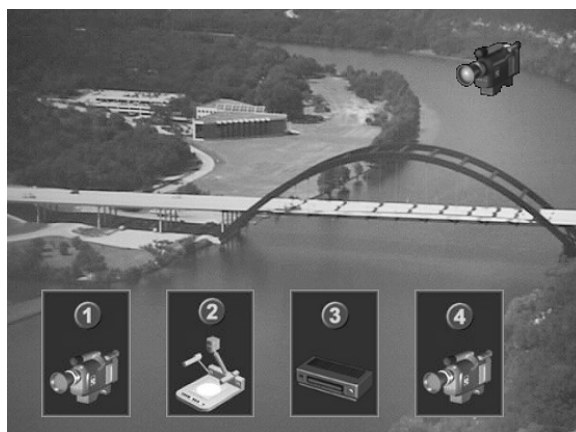


図 2-14. ローカル画像ソース

2. リモコンの [左] または [右] 矢印キーを押して、画像ソースをハイライトします。それから、リモコンの [選択] ボタンを押します。
または
リモコンの [ニア] ボタンを二度押してから、ボタン 1、2、3、または 4 を押して特定のカメラへジャンプします。

注記 カメラ アイコンが画面に表示されるのを確認します。そうしないと、番号ボタンを押した際に、異なったカメラ プリセットがカメラ ソースの代りに選択されてしまいます。

3. ViewStation FX または VS4000 は、カメラの現在ビューをテレビ モニタの全画面に表示します。右上隅に、ユーザーの方向を向いたカメラ アイコンが表示されます。

相手側カメラの選択

1. 通話中に相手側ソースを選択するには、リモコンの [相手側] ボタンを二度押します。ユーザーの逆方向を向いた (相手側方向) 一連のカメラが表示されます。
2. リモコンの [左] または [右] 矢印キーを押して、画像ソースをハイライトします。それから、リモコンの [選択] ボタンを押します。

または

リモコンの [相手側] ボタンを二度押してから、ボタン 12, 3, 4, または 5 を押して特定のカメラへジャンプします。

3. リモコンの [選択] ボタンを押します。
4. ViewStation FX または VS4000 は、相手側カメラの現在ビューをテレビ モニタの全画面に表示します。右上隅に、ユーザーの逆方向を向いたカメラ アイコンが表示されます。

注記 選択した画像ソースに接続したカメラがない場合には、青い画面かまたは最後の画像ソースからの凍結画像が表示されます。

こちら側のカメラの制御

カメラ制御モード：ViewStation FX または VS4000 のカメラを制御または調節するには、リモコンの [ニア] ボタンを押します。右上隅に、ユーザーの方向を向いたカメラ アイコンが表示されます。

傾斜、パン：リモコンの矢印ボタンを使用して、カメラを上下に傾斜させ、左右にパンします。

ズーム：[ズーム] ボタンを使用して、拡大または縮小します。

以下の図は、カメラを制御するためにリモコンで使用されるボタンを示しています。



図 2-15. リモコンのカメラ制御ボタン

相手側カメラの制御

相手側のカメラを調節できるのは、相手側で「こちら側カメラの相手側制御」オプションが有効にされている場合です。相手側サイトがこちら側の ViewStation FX または VS4000 のカメラを制御できるのは、このオプションが有効な場合です。ViewStation FX または VS4000 でこのオプションを有効にするには、「システム情報」>「管理者設定」>「画像設定」>「カメラ」を選択します。

カメラ制御モード： ViewStation FX または VS4000 のカメラを制御または調節するには、リモコンの「相手側」ボタンを押します。相手側カメラ像がテレビモニタに全画面表示されます。右上隅に、ユーザーの逆方向を向いたカメラ アイコンが表示されます。リモコンを使用して、自分のカメラを調整するのと同じ方法で相手側カメラを調節します。


傾斜、パン： リモコンの矢印ボタンを使用して、カメラを上下に傾斜させ、左右にパンします。

ズーム： 「ズーム」ボタンを使用して、拡大または縮小します。

通話中に、メニュー画面に行って調節しなければならない場合には、リモコンの「ニア」または「相手側」ボタンを押して、通話表示に戻ります。

二番目カメラの調節

ViewStation FX または VS4000 に接続した二番目のパン / 傾斜 / ズーム カメラがある場合には、これもリモコンで調節できます。

1. 別のカメラを調節するには、[ニア] ボタンを押します。すべての接続したローカル カメラのアイコンが表示されます。
2. 二番目カメラのアイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。

カメラ設定


カメラ設定の調節は、「カメラ」画面で行います。この画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [画像設定] > [カメラ] を選択します。

「カメラ」画面で利用可能なオプションは、200 ページの「カメラ」セクションで説明します。

カメラ プリセット

カメラを設定し、10 までのプリセット ポジションを保存できます。これらの 10 のプリセット ポジションは、相手側カメラと 4 つのこちら側カメラに配布できます。

以下のステップで、プリセットを行います。

1. リモコンの [相手側] または [ニア] ボタンを使用して、こちら側のカメラか相手側のカメラを選択します。
2. [ニア] ボタンを押した場合は、もう一度押してこちら側カメラを選択します。
3. リモコンの [矢印] ボタンと [ZOOM (ズーム)] 制御を使用して、カメラの位置を定めます。
4. リモコンの  ボタンを押します。カメラ プリセット サークルが表示されます。"0-9 を押してプリセットを保存します" というメッセージがメイン モニタに表示されます。

注記 1 サークルが透明の場合は、プリセットはありません。

注記 2 サークルが黄色の場合は、プリセットが割り当てられています。

注記 3 すべてのプリセットをクリアするには、リモコンの [パウンド (#)] キーを押します。

5. リモコンの [数字] ボタンを押して、そのボタンに特定のプリセットを割り当てます。
6. カメラのプリセットを選択した場合は、希望するカメラに応じて [ニア] または [相手側] ボタンを押し、それから設定したいプリセットに対するリモコンの [数字] ボタンを押します。

自動音声トラッキング (ViewStation FX のみ)

ViewStation FX のメイン カメラは、会議で話している人に自動的に向けられます。カメラが新しい話者を認識するには、その人が数秒間連続して話さなければいけません。一度認識すると次回からは、その人が話すとすぐにそちらを向きます。

[自動音声トラッキング] を有効にするには、リモコンの [AUTO (自動)] ボタンを一度押します。モーターの付いた [カメラ] アイコンがメイン モニタの右上隅に表示されます。

カメラの自動音声トラッキング、パン、傾斜またはズームをオフします。この操作のどれか 1 つを行うと、カメラは手動モードに戻ります。

注記 VS4000 は自動音声トラッキングをサポートしません。

カメラ プリセットの自動トラッキング (ViewStation FX のみ)

ViewStation FX メイン カメラは自動的にプリセット位置をトラッキングするので、自動音声トラッキングの制御と柔軟性を向上させます。

以下の手順で、カメラ プリセットの自動トラッキングを有効にします。

1. ニアまたは相手側カメラを選択し、[自動] ボタンを二度押して、自動トラッキングをプリセット位置に有効にします。
2. カメラは、プリセットされた話し手に対する最接近位置に移動します。

カメラ プリセットの自動トラッキングを無効にするには、リモコンの〔矢印〕ボタンでカメラを移動します。自動カメラトラッキングは、以下の条件下では一時的に無効になります。

- ユーザーのサイトがミュートの場合。
- 相手側から大きな音が聞こえる場合、または相手側が話している場合。
- こちら側でカメラを移動している場合。

注記 この機能は VS4000 システムでは利用できません。

音の制御

ViewStation FX または VS4000 の音量はテレビ モニタの音量に関連します。

1. テレビ モニタのボリュームを最大ボリュームの半分に設定します。
2. ViewStation FX または VS4000 の音量を耳に快適なレベルに設定します。
3. ViewStation FX または VS4000 の音量を調節するには、リモコンの〔VOL (音量)〕ボタンを押します。

〔ミュート〕ボタンとインジケータ：相手側参加者からこちら側の会話が聞こえないようにするには、リモコンまたはマイク ポッドの〔ミュート〕ボタンを押します。マイク ポッド上部の赤いライトがつきます。

〔ミュート〕アイコンがテレビ モニタの左下隅に表示され、こちら側と相手側にミュートがオンになったことを示します。ミュート インジケータは、ISDN と H.323 通話でサポートされています。ただし、H.323 通話のミュート インジケータは Polycom エンドポイントだけでサポートされています。

ストリーミング 画像

ViewStation FX または VS4000 でストリーミング機能を使用すると、他の人は PC からライブでプレゼンテーションまたは会議を見ることができます。

ViewStation FX または VS4000 でのストリーミングの有効化

以下の手順で、まず最初に自分の ViewStation FX または VS4000 でストリーミングを有効にします。

1. ViewStation FX または VS4000 でストリーミングを許可するように設定するには、[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[ストリーミング]を選択します。
2. [ストリーミング可] オプションを有効にします。

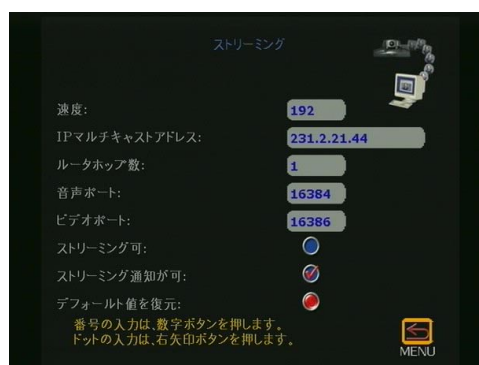



図 2-16. 「ストリーミング」画面

注記 ストリーミングが有効になると、「通話 タイプ」アイコンが、メイン画面に表示され、ストリーミングの開始準備ができたことを示します。

3. 以下のオプションを「ストリーミング」画面で設定できます。
 - **速度**：リモコンの  ボタンを押して、画像ストリームの好きな速度を選択します。

- **IP マルチキャスト アドレス** : デフォルト アドレスはシリアル番号に基づいて入力されます。これは、同じマルチキャスト アドレスを別の ViewStation FX または VS4000 のアドレスにしないようにするためです。このアドレスは変更できます。
- **ルーター ホップの数** : ストリーミング画像を渡したいルーターの数を入力します。これによって、ストリーミング画像を見ることができる人数をコントロールできます。
- **音声ポート** : これは固定ポートです。ユーザーがファイアウォールを通り抜けなくてはならない場合は、ネットワーク管理が変更することがあります。
- **ビデオポート** : これは固定ポートです。ユーザーがファイアウォールを通り抜けなくてはならない場合は、ネットワーク管理が変更することがあります。
- **ストリーミング可** : このオプションが有効になると、ユーザー インターフェイスのメイン画面のアイコンが [電話] から [通話タイプ] に変更されます。[通話タイプ] をクリックして、「ストリーミング通話」画面にアクセスします。「ストリーミング通話」画面で [ミーティングパスワード] を設定できます。[開始] アイコンをクリックして、ストリーミングを開始します。
- **ストリーミング通知許可** : このオプションを有効にすると、ViewStation FX または VS4000 にログオンしたユーザーの名前が画面に表示されます。
- **デフォルト値を復元** : このオプションを選択すると、速度、IP マルチキャスト アドレス、ルーター ホップ数、音声ポートおよび画像ポートのデフォルトが復元されます。

Apple QuickTime を使用したストリームの表示

ViewStation FX または VS4000 ストリーム構成

1. 以下の手順で、ViewStation FX または VS4000 のストリームを有効にします。
 - a. 「ストリーミング」画面 ([システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [ストリーミング]) に進みます。
 - b. [ストリーミング通知許可] が有効にされていることを確認します。デフォルトで設定されています。
 - c. [ストリーミング可] を有効にします。

2. 以下の手順で、ストリームを開始します。
 - a. メイン画面から [通話タイプ] を選択します。
 - b. [ストリーミング通話] を選択します。パスワードが必要かどうか決定します。
 - c. 「開始」をクリックします。[ストリーミング] アイコンがテレビ モニタの左上隅に表示されます。

ストリーミングは、テレビ通話を実行する前でも後でも開始できます。プレゼンテーションをストリーミングする場合は、プレゼンテーションをすぐに開始してください。

PC ストリームの設定

1. ステップ 1 での説明に従って、ViewStation FX または VS4000 のストリーミングを有効にします。
2. 86 ページの「PC ストリームの設定」のステップ 2 での説明に従って、ストリーミングを開始します。
3. Apple QuickTime を使用してストリーミングを表示するには以下の操作を行います。
 - a. Web ブラウザを起動します。
 - b. IP ブラウザ アドレス フィールドで、ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを入力します。
 - c. View a Meeting (会議の表示) アイコンをクリックします。
 - d. 「会議の表示」画面で、View Streaming Video (ストリーム画像の表示) アイコンをクリックします。
 - e. プロンプトに応じて、ユーザー名とパスワードを入力します。
 - f. Apple QuickTime がブラウザ内で起動されます。

Apple QuickTime がインストールされていない場合は、Polycom/QuickTime Web ページからインストールするようにプロンプトされます。インストールした後にステップ 1 から 3 を繰り返します。

スナップショット

テレビ会議参加者にローカルカメラからのスナップショットを ViewStation FX または VS4000 のスナップショット機能を使用して送信できます。

スナップショットの送信

以下の手順で、会議参加者にスナップショットを送信します。

1. リモコンの [SNAPSHOT (スナップショット)] ボタンを押します。
2. カメラを選択します。カメラの選択についての詳細は、78 ページの「カメラ制御」を参照してください。
3. 必要に応じて、カメラ位置を定めます。
4. リモコンの [スナップショット] ボタンをもう一度押します。通話中のすべての相手に画像が送信されます。
5. 送信する前にスナップショットをプレビューするには、[スナップショット] ボタンを一度押し、好みのカメラ ソースに対する 1、2 または 3 を押します。相手側がこちら側を見ている間に、選択したカメラからのライブ プレビューを見ることができます。
6. 画像を送信するには、[スナップショット] ボタンを再び押します。

スナップショット タイムアウト

デフォルトで、スライドとスナップショットのすべては 4 分間表示されます。4 分間の表示時間が終了すると、ViewStation FX または VS4000 は自動的にライブ画像に戻ります。このオプションを無効にした場合、ユーザーがリモコンの [スナップショット] ボタンを押してライブ ビデオに戻すまで、スナップショットやスライドは画面上に表示されます。

以下の手順で、このオプションを無効にします。

1. [システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]>[TV モニタ]を選択します。
2. 「TV モニタ」画面で、Snapshot Timeout (スナップショット タイムアウト) を非選択にします。

注記 この機能が作動するには、両サイトが「スナップショット タイムアウト」オプションを無効にしておく必要があります。片方のサイトが「スナップショット タイムアウト」を無効にしていないと、ViewStation FX または VS4000 はデフォルト設定に戻ります。

オプション装置

オプション装置を使用してテレビ会議の機能を拡張します。
ViewStation FX QuickStart または VS4000 QuickStart 文書で、オプション装置を ViewStation FX または VS4000 のどこに接続するかを表示するカラー ケーブル図を参照します。

以下のオプション装置を ViewStation または FX VS4000 に接続することができます。

モニタ

追加モニタを接続して、表示オプションの範囲を拡大します。

パン / 傾斜 / ズーム カメラ

追加カメラを使用すると、同じ部屋にいる別の話者の画像を継続的に提供できます。

以下では、Sony EVI-D30 カメラを ViewStation FX または VS4000 に接続する方法を説明します。FX と VS4000 では異なったケーブルを必要とします。

Sony EVI-D30 カメラの接続

FX : FX では、2 本の (Y 型) ケーブルに分れる単一 PTZ カメラ制御ケーブルを使用します。

1. PTZ 制御ケーブルの 2 本に分かれたコネクタ端末をそれぞれ以下のように接続します。
 - a. S-Video コネクタをカメラの S-Video ポートに接続します。
 - b. 8 ピン DIN コネクタをカメラの 8 ピン VISCA IN ポートに接続します。
2. PTZ 制御ケーブルの 1 本の方のコネクタ端末を以下のように接続します。
 - a. (PTZ) 制御ケーブルの 7 ピン コネクタを FX 補助カメラポート (4) に接続します。

VS4000 : VS4000 では 2 本の別個ケーブルを使用します。S-video ケーブル 1 本とカメラ制御ケーブル 1 本です (DB-9 から 8 ピン ミニ DIN)。

1. S-video ケーブルを以下のように接続します。
 - a. 一方の S-video ケーブルの先端を VS4000 のカメラ入力 1 ポートに接続します。
 - b. もう一方の先端をカメラの S-video ポートに接続します。
2. カメラ制御ケーブルを以下のように接続します。
 - a. DB-9 コネクタを VS4000 のカメラ制御 1 ポートに接続します。
 - b. 8 ピン ミニ DIN コネクタを補助カメラ VISCA IN ポートに接続します。

VCR

ビデオ カセット レコーダ (VCR) を使用して、テレビ会議を録画したりまたはテレビ会議の一部として録画した材料を提示したりできます。VCR は、こちら側のメイン テレビ モニタから画像を録画し、音声はこちら側と相手側の両方から録音します。テープを再生する場合、VCR は音声と画像をテレビ通話の全参加者に提供します。

1. テープを VCR で再生するには、リモコンの [ニア] ボタンを二度押します。
2. [矢印] ボタンを使用して、画面の [VCR] アイコンをハイライトします。リモコンの [選択] ボタンを押します。
3. VCR リモコンを使用して、テープを再生します。

ドキュメント カメラ

ドキュメント カメラを使用して、オブジェクトまたは文書の写真を撮り、それを相手側に送信できます。

1. ドキュメント カメラを ViewStation FX または VS4000 で、使用するには、リモコンの [ニア] ボタンを二度押します。
2. それから [矢印] ボタンを使って、画面の [ドキュメント カメラ] アイコンを選択します。リモコンの [選択] ボタンを押します。

ShowStation® IP

ShowStation IP では、どんなタイプの文書でも、Microsoft Office® ファイルでも、大きな画面形式でプロジェクトできるので、場所を問わず直ちに共有することができます。この詳細は、5 章 194 ページの「ShowStation IP の使用」を参照してください。

Visual Concert™ DC

Visual Concert DC は、Visual Concert シリーズの共同製品でテレビ会議を最大化するために作成されました。これは顧客統合のドキュメント カメラで、SXGA (1280 x 1024) 解像度で、テレビ通話中にフル モーション キャプチャで送信する機能があります。これを使用すると、ガラスから PCMCIA カードへ画像を保存したり、画像に仮想筆記ペンでコメントを付けたり、逆光補正を使用して透明品目を表示したり、また [スナップショット] ボタンで高解像度のプレビューを送信したりできます。

Visual Concert DC についての詳細は、『Visual Concert DC ユーザーガイド』を参照してください。

Visual Concert™ FX

Visual Concert FX は Visual Concert の共同開発製品で、多地点通話中にも、高解像度 SXGA (1280 x 768) のライブ グラフィックと音声で最大 15 fps の速度で送信する機能です。ラップトップ、デスクトップまたはマッキントッシュでも機能します。

ライブ画像は、PowerPoint、Excel、Web ページ、または専用ソフトウェア アプリケーションなどのラップトップ、デスクトップ上にあるあらゆるソースフォーマットです。

Visual Concert FX は SXGA 解像度 (1280 x 768) でグラフィックを送信するように作成されていますが、ラップトップ解像度や相手側の最高の解像度にマッチするように、自動的に再同期化されます。ユニットの VGA 出力 ポートには、高解像度のプロジェクトシステムまたは室内表示用モニタに接続できる柔軟性があります。画像とグラフィック画像とを、こちら側と相手側の両方でデュアル ストリーム モードで表示できます。すなわち、1 つのモニタで画像を表示し、二番目のモニタでライブ グラフィックを表示します。

Visual Concert FX についての詳細は、『Visual Concert FX ユーザーガイド』を参照してください。

グラフィック カーソル

Graphics Cursor（グラフィック カーソル）は、スライドの上で表示し動き回ることができる矢印（マウスポインタ）です。カーソルは、項目や領域について話している場合に、スライドの特定の項目や領域を指差す便利な方法です。

一般情報

グラフィック カーソルはスライド / スナップショット表示モードでだけ利用でき、以下から受け取ったスライドで使用できます。

- リモコンの [スナップショット] ボタンを押している人
- Microsoft PowerPoint プレゼンテーション
- PolycomSnap

注記 カーソルはプレビュー モードでは利用できません。

グラフィック カーソルは現在のスライドだけで表示できます。つまり、カーソルが有効にされたときに表示されているスライドだけです。他のスライドに行くと、カーソルは表示されません。カーソルを再び表示しなければなりません。

グラフィック カーソルは、グラフィック モニタまたは VGA モニタで使用できます。このカーソルは、デュアル モニタまたはマルチ モニタ システムだけで使用でき、メイン モニタだけを使用している単一モニタでは使用できません。

テレビ通話に参加しているすべてのパーティーがグラフィック カーソルを操作できます。また、1 つのサイトがカーソルを表示していれば、すべてのパーティーがカーソルを見ることができます。

グラフィック カーソルの使用

グラフィック カーソルの表示 : リモコンの番号 (1-9) の 1 つを押します。グラフィック カーソルは黄色の矢印として表示されます。カーソルは 30 秒間表示されると、画面から消えます。

カーソルを再表示するには、番号 5 を押します。すると、グラフィック カーソルを [オン] または [オフ] にできます。

グラフィック カーソルの移動 グラフィック カーソルは画面中を移動でき、特定オブジェクトを指示できます。カーソルは、上下、左右また斜めに動かすことができます。

以下の表は、リモコンの特定数字ボタンと関連した各グラフィック カーソル機能を要約したものです。

リモコンの 番号	グラフィック カーソルの機能
1	カーソルを斜め上また左側に移動します。
2	カーソルを上を移動します。
3	カーソルを斜め上また右側に移動します。
4	カーソルを左に移動します。
5	カーソルの表示と非表示を切り替えます。
6	カーソルを右に移動します。
7	カーソルを斜め下また左側に移動します。
8	カーソルを下に移動します。
9	カーソルを斜め下また右側に移動します。

ViewStation FX または VS4000 の PC との使用

この章では、ViewStation FX または VS4000 を PC と使用する方法を説明します。次の 3 つのセクションから構成されています。

PC 設定：このセクションでは、FX または VS4000 Web インターフェイスまたはアップグレード ソフトウェアとして使用できる必要条件として、PC を設定し ViewStation FX または VS4000 に接続する方法を説明します。特に、以下の方法について説明します。

- PC と ViewStation FX または VS4000 を LAN に接続する方法。(96 ページ)
- PC を LAN 上ではなくて ViewStation FX または VS4000 に直接に接続する方法。(98 ページ)

FX または VS4000 Web インターフェイスを PC で使用：このセクションでは、以下の Web インターフェイス機能を使用する方法について説明します。

- 通話発信 (102 ページ)
- プレゼンテーションの表示 (106 ページ)
- 会議の表示 (107 ページ)
- プレゼンテーションの選択 (108 ページ)
- クローズ キャプション (114 ページ)
- システム設定（診断、リモート管理機能を含める）(116 ページ)
- NetMeeting の基本設定 (122 ページ)
- ユーティリティ (PolycomSnap、アドレス帳) (125 ページ)

PC を使用したソフトウェアのアップグレード：この最後のセクションでは、PC を使用して、ViewStation FX または VS4000 でソフトウェアをアップグレードする説明をします。128 ページの「PC を使用したソフトウェアのアップグレード」を参照してください。

PC 設定

PC 必要条件

PC を ViewStation FX または VS4000 に接続するには、以下の項目を必要とします。

- Microsoft Windows 95、98、2000、または NT
- 10 Mbps または 100 Mbps Ethernet LAN カードのある LAN に接続したデスクトップ PC あるいは ラップトップ
- Ethernet ケーブル
- Microsoft Internet Explorer の 4.0 以降（推奨）、または Netscape 4.5 以降

PC と ViewStation FX または VS4000 を LAN に接続

以下の手順で、PC と ViewStation FX または VS4000 を LAN に接続します。

1. 以下の手順で、ViewStation FX または VS4000 を LAN に接続します。
 - a. 提供したオレンジ色の RJ-45 ケーブルを ViewStation FX または VS4000 の背面のオレンジ色 LAN ポートに接続します。
 - b. ケーブルのもう一方の端を LAN ポートに接続します。この接続は、ViewStation FX QuickStart と VS4000 QuickStart に表示されています。
2. 以下の手順で、PC を ViewStation FX または VS4000 に接続します。
 - a. 提供した青色の RJ-45 ケーブルを ViewStation FX または VS4000 の背面の青色の LAN ポートに挿入します。
 - b. ケーブルのもう一方の端をコンピュータの Ethernet ポートに挿入します。
3. ViewStation FX または VS4000 の電源を入れます。
4. [システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [LAN/ イントラネット] を選択して、ViewStation FX または VS4000 の LAN/H. 323 を基本設定します。「LAN / イントラネット」画面が表示されます。

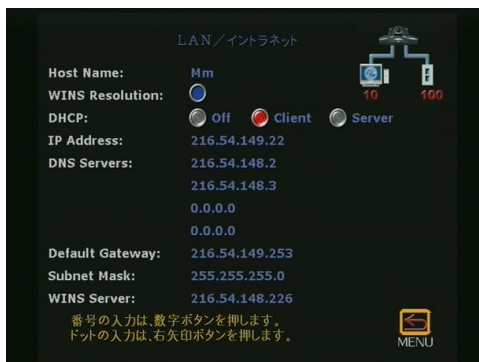


図 3-1. 「LAN / イン트라ネット」画面

5. 「LAN / イン트라ネット」画面で、ViewStation FX または VS4000 DHCP 設定を次のように基本設定します。

LAN が DHCP を使用している場合

- a. [Client (クライアント)] を [DHCP] フィールドで選択して、ViewStation FX または VS4000 を有効にし、ネットワークのサーバから IP アドレスを取得します。
- b. DHCP 設定を変更した後に、その変更を保存するには、FX または VS4000 をリセットしなければならないというメッセージが表示されます。[はい]を選択します。もう 1 つのメッセージが FX または VS4000 が再起動されることを通知します。
- c. [システム情報] アイコンを選択して、「システム情報」画面に進みます。システムの IP アドレスが [IP アドレス] フィールドに表示されます。

注記 IP アドレス フィールドが「... 待機中 ...」を表示した場合は、ViewStation FX または VS4000 が LAN のサーバからアドレスを得ることができなかったことを意味します。ViewStation FX または VS4000 の背面の LAN 接続をチェックしてから再試行します。ViewStation FX または VS4000 が正しく接続されている場合には、コネクタの緑色のライトが点灯され、オレンジ色のライトが点滅します。

LAN が DHCP を使用しない場合

- a. [オフ] を [DHCP] フィールドで選択し、システム管理者が提供する IP アドレス、サブネット マスクそしてゲートウェイ アドレスを手動で入力します。
- b. **PC 側**：PC を FX または VS4000 に接続できたら、正しく基本設定するようにしてください。このプロセスはかなり複雑なので、ネットワーク管理者が取り扱うのが理想的です。
- c. DHCP 設定を変更した後に、変更を保存するには、FX または VS4000 をリセットしなければならないというメッセージが表示されます。[はい] を選択します。もう 1 つのメッセージが FX または VS4000 が再起動されることを通知します。ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスにアクセスする手順については、100 ページの「PC を再起動します。ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスへアクセスする方法の説明については、次のセクションに進んでください。」を参照してください。

PC を LAN 上ではなく ViewStation FX または VS4000 に直接接続

以下の手順で、PC を LAN 上にない ViewStation FX または VS4000 に接続します。

1. 以下の手順で、ViewStation PC を FX または VS4000 に接続します。
 - a. 提供した青色の RJ-45 ケーブルを ViewStation FX または VS4000 の背面の青色の LAN ポートに挿入します。
 - b. ケーブルのもう一方の端をコンピュータの Ethernet ポートに挿入します。
2. ViewStation FX または VS4000 の電源を入れます。
3. デスクトップまたはラップトップ コンピュータに接続するには、ViewStation FX または VS4000 を DHCP サーバとして設定する必要があります。これは、Allow System to be a DHCP Server（システムを DHCP サーバとして許可）オプションが、ViewStation FX または VS4000 のソフトウェア アップグレード中に有効にされている必要があります。DHCP サーバを次のようにして有効にします。
 - a. ViewStation で、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [LAN/ イントラネット] を選択します。

- b. リモコンの [上] 矢印を押して、[DHCP] フィールドに進み、それを [サーバ] に設定します。以下のメッセージが表示されます。「システムは、LAN 上の他の PC に IP アドレスを発行します。継続しますか?」

注意 ViewStation が LAN でその他のコンピュータに接続されている場合は、この設定を使用しないでください。使用すると、LAN には既に DHCP サーバがあるのに、ViewStation はそのコンピュータに IP アドレスを送ってしまいます。そうするネットワーク問題が生じ、IT 係員またはシステム管理者がを修理しなければならなくなります。

- c. [はい] を選択するのは、システムを DHCP サーバとして使用したいことがはっきりしている場合だけです。
 - d. [メニュー] を押します。以下のメッセージが表示されます。「変更を保存するには、電源をリセットしなければなりません。継続しますか?」 [はい] を選択します。
 - e. ViewStation は自動的に再起動されます。DHCP サーバとして機能し、1 つ以上の PC に IP アドレスを提供します。
4. 「システム情報」画面に進みます。IP アドレス 1.1.1.2 が表示されますが、これらは ViewStation の IP アドレスです。
 5. IP アドレスを取得したら、PC に行って以下の手順に従ってください。

Windows 95 と 98 の場合：

- a. [ネットワーク コンピュータ] アイコンを右クリックしてから [プロパティ] を右クリックします。
- b. [ネットワーク] ボックスが表示されたら、[基本構成] タブを選択し、それから TCP/IP をダブルクリックします。
- c. [IP アドレス] タブを選択します。[IP アドレスの自動取得] ボタンが選択されていることを確認します。それから [OK] をクリックします。

Windows NT 4.0 の場合：

- a. [ネットワーク コンピュータ] アイコンを右クリックしてから [プロパティ] を右クリックします。
- b. [ネットワーク] ボックスが表示されたら、[プロトコル] タブを選択し、それから [TCP/IP プロトコル] をダブルクリックします。
- c. [IP アドレス] タブを選択します。[IP アドレスの自動取得] ボタンが選択されていることを確認します。それから [OK] をクリックします。

Windows 2000 の場合：

- a. 「マイ ネットワーク」アイコンを右クリックしてから
「プロパティ」を右クリックします。
 - b. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウで、
「ローカル エリア接続」を右クリックして、「プロパ
ティ」を右クリックします。
 - c. 「ローカル エリア接続プロパティ」ウィンドウで、「イン
ターネット プロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックしま
す。
 - d. 「インターネット プロトコル (TCP/IP) プロパティ」ウィ
ンドウで、「IP アドレスの自動取得」ボタンが選択されて
いることを確認します。それから [OK] をクリックします。
6. PC を再起動します。ViewStation FX または VS4000 Web イン
ターフェイスへアクセスする方法の説明については、次のセ
クションに進んでください。

ViewStation FX または VS4000 Web インターフェ イスの使用

このセクションでは、ViewStation FX または VS4000 の埋込み
Web インターフェイスへアクセスする方法について説明します
(101 ページ)。また、以下の Web インターフェイス機能とユー
ティリティの使用方法についても説明します。

- 通話発信 (102 ページ)
- プレゼンテーションの表示 (106 ページ)
- 会議の表示 (107 ページ)
- プレゼンテーションの選択 (108 ページ)
- クローズ キャプション (114 ページ)
- システム設定とリモート管理 (ユーザー インターフェイスで
利用できるのとほとんど同じような設定とテスト画面が含ま
れています)。(116 ページ)
- NetMeeting の基本設定 (122 ページ)

上記の機能に加えて、以下のユーティリティにも Web インターフェイス メイン画面からアクセスできます (125 ページ)。

- PolycomSnap : このスナップショット アプリケーションは、Web インターフェイス メイン ページでアイコンをクリックしてダウンロードできます。
- アドレス帳ユーティリティ : これは本質的にはエディタで、アドレス帳を簡単に管理また編集できます。
- www.polycom.com : この URL リンクは、Polycom Web サイトへ簡単なアクセスを提供します。

Web インターフェイスへのアクセス

このセクションでは、PC が既に ViewStation FX または VS4000 に直接または LAN 経由で接続されていることを前提としています。そうでない場合は、前セクションの 96 ページの「PC 設定」を参照してください。

以下の手順で、ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスにアクセスします。

1. PC で Internet Explorer を起動します。
2. ブラウザのアドレス フィールドで、ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを入力します。(ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスは、「システム情報」画面に表示されています。)

ViewStation FX または VS4000 の Web インターフェイス メイン ページが、インターネット ブラウザに表示され、ViewStation FX または VS4000 の名前を表示します。

メイン アイコンが Web ページの左パネルに表示されます ([Place a Call (通話発信)]、[View a Presentation (プレゼンテーションの表示)]、[Select a Presentation (プレゼンテーションの選択)]、[Close Caption (クローズ キャプション)]、[System Setup (システム設定)]、[Configure Net Meeting (NetMeeting 基本設定)])。

注記 [ストリーミング] アイコンが表示されるのは、ストリーミングが既に有効にされている場合です。この詳細

は、119 ページの「ストリーミング」を参照してください。

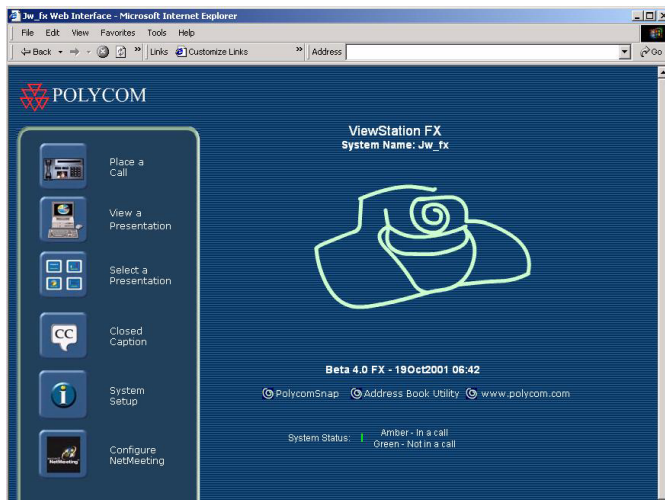


図 3-2. 「Web インターフェイス メイン」画面

3. [インターネット オプション] をブラウザの [ツール] メニューから選択し、セキュリティが必ず [セキュリティ] タブで [中] に設定されるようにします。[OK] をクリックします。

通話発信

Web インターフェイスは、ViewStation FX または VS4000 から長距離通話を行う時に使用されます。通話はローカル アドレス帳、グローバル アドレス帳または手動で（手動ダイヤル）で行うことができます。

注記 [グローバル アドレス帳] タブが利用できるのは、グローバル アドレス帳が ViewStation FX または VS4000 の「グローバル アドレス」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[サーバ]>[グローバル アドレス]）で有効にされている場合だけです。

[リモート監視が可] オプションが、ViewStation FX または VS4000 ([システム 情報]>[ユーザー設定]) で有効にされている場合には、通話状態の情報と通話からのストリーミング画像スナップショットが表示されているページの下で、通話の接続状況を見ることができます。

以下のステップで、通話を発信します。

1. Web インターフェイス メイン ページで、[通話発信] を選択します。Place a Call Web (通話発信 Web) ページが表示されます。

注記 複数のアイコンが Web ページの上と左パネルに表示されます。左パネル アイコンで、統計ツール、仮想リモコンそしてストリーミングにアクセスします。Web ページの上のアイコンでは、「管理者設定」と「診断」画面、および [プレゼンテーションの表示]、[スライド プレゼンテーション]、そして [通話発信] などの最も頻繁に使用される機能に迅速にアクセスできます。これらのアイコンと関連機能の詳細については、この章の 116 ページの「システム設定とリモート管理」を参照してください。

2. 選択した通話方法に適切なタブをクリックします ([ローカル アドレス帳]、[グローバル アドレス帳] または [手動ダイヤル])。
3. 選択した通話方法に適用される手順を下記に表示します。
 - **ローカル アドレス帳** : 次の手順で、ローカル アドレス帳から通話を行います。
 - a. [Local Address Book (ローカル アドレス帳)] タブを選択します。
 - b. 一覧からサイトを選択します。
 - c. [Call this Site (このサイトに通話)] ボタンをクリックします。

図 3.3 はローカル アドレス帳からの通話を表示しています。[リモート監視が可] オプションが有効にされていることに注意してください (通話からの通話状態情報とストリーミング画像スナップショットが表示されます)。

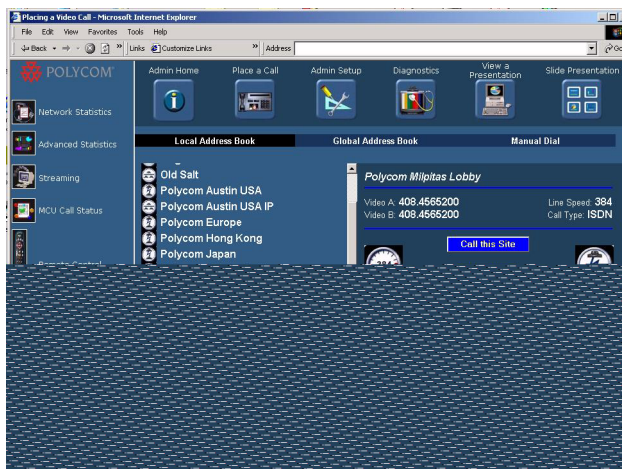


図 3-3. 「ローカル アドレス帳」 Web 画面

- 手動ダイヤル：次の手順で、手動通話を行います。
 - a. [手動ダイヤル] タブを選択します。
 - b. ISDN 番号または内線を入力します。これが、2 つの異なった ISDN 番号のあるボンド通話である場合は、最初の ISDN 番号を [Video A (ビデオ A)] フィールドにそして二番目の ISDN 番号を [Video B (ビデオ B)] フィールドに入力します。両方のチャンネルに対する ISDN 番号が同じである場合には、[ビデオ A] フィールドに入力します。
 - c. 回線速度を入力します。
 - d. 通話タイプを選択します (IP/H. 323 または ISDN)。[自動 H. 323 ダイヤル] が FX または VS4000 ([管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[設定]) で有効にされている場合には、ISDN 番号フォーマットに基づいて、実行している通話タイプ (IP または ISDN) が自動検出されます。このため、この Web ページの ISDN と H. 323 フィールドは表示されません。
注記 [自動 H. 323 ダイヤル] はデフォルトで有効になっています。
 - e. [CALL (通話)] ボタンをクリックします。

図 3.4 は手動での通話発信を図解しています（手動ダイヤル）。[リモート監視が可] オプションが有効にされていないことを確かめてください（通話からのストリーミング 画像スナップショットが表示されます）。

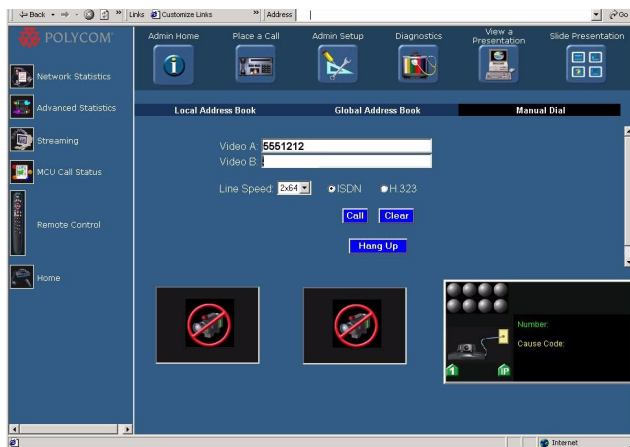


図 3-4. 「手動ダイヤル」 Web 画面

- **グローバル アドレス帳**：次の手順で、グローバル アドレス帳から通話を行います。
 - a. [グローバル アドレス帳] タブを選択します。
 - b. 左の一覧からダイヤルする名前を選択します。
 - c. [このサイトに通話] をクリックします。

図 3.5 グローバル アドレス帳からの通話を示しています。

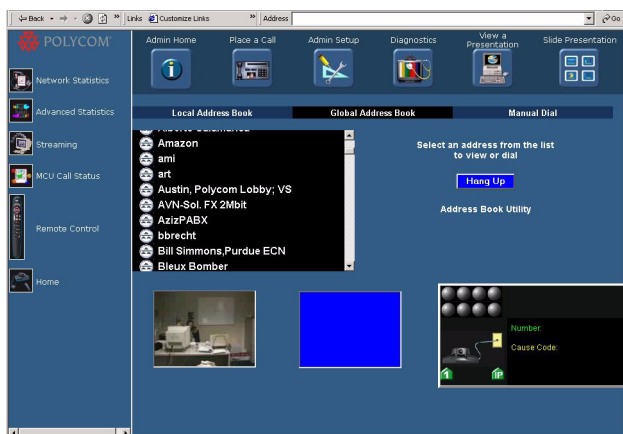


図 3-5. 「グローバル アドレス帳」 Web 画面

4. 通話を終了するには [Hang Up (終了)] ボタンをクリックします。

プレゼンテーションの表示

FX または VS4000 Web インターフェイスを使用して、PC でテレビ会議を表示できます。

最大 30 パーティが、通話中同時に、ViewStation FX または VS4000 のプレゼンテーションを見ることができます。たとえば、ViewStation FX または VS4000 がもう 1 台ある (2 システム) 通話では、60 パーティが 60 台の別個の PC (2 システム x 30 パーティ) でプレゼンテーションを見ることができます。

プレゼンテーションの表示

1. Internet Explorer の 4.0/5.0 以降、または Netscape 4.5 以降を起動します。
2. テレビ会議に参加している ViewStation FX または VS4000 システムの 1 つに IP アドレスを入力します。Web インターフェイス メイン ページが表示されます。
3. [プレゼンテーションの表示] アイコンをクリックします。
[ネットワーク パスワード] ダイアログボックスが表示されます。

4. 必要に応じて名前とパスワードを入力します。パスワードは [ミーティング パスワード] で FX または VS4000 の「セキュリティ」画面 ([システム情報]>[管理者設定]>[セキュリティ]) または「ユーザー設定」画面 ([システム情報]>[ユーザー設定]) に設定されています。リモコンの [メニュー] ボタンを押してパスワードを保存します。
5. [OK] をクリックします。スライドが表示されます。

会議の表示

ストリーミングが有効になっていると、[プレゼンテーションの表示] アイコンに代って [View a Meeting (会議の表示)] アイコンになります。ストリーミングについての詳細は、119 ページの「ストリーミング」セクションを参照してください。

[会議の表示] を選択した場合には、2 つのオプションが利用できます。[View a Slide Presentation (スライド プレゼンテーションの表示)] と [View Streaming Video (ストリーミング画像の表示)] です。



図 3-6. 「会議の表示 Web」画面

ストリーミングされた スライド プレゼンテーションを表示するには、[スライド プレゼンテーションの表示] をクリックします。ストリーミング画像を表示するには、[ストリーミング画像の表示] をクリックします。

プレゼンテーションの選択

以下では、Web インターフェイスを使用して、PC から ViewStation FX または VS4000 にスライド プレゼンテーションを読み込ませる方法を説明します。

最大 8 つのプレゼンテーションを ViewStation FX または VS4000 に読み込ませることができます。各プレゼンテーションは異なった PC から送信されなければなりません。

PC のスライド プレゼンテーションの読み込み

以下の手順で、PC から ViewStation FX または VS4000 にスライド プレゼンテーションを読み込ませます。

1. Internet Explorer 4.0/5.0 または Netscape 4.5 以上を起動します。

注記 必ずブラウザがクッキーを受け取るように基本設定してください。

2. スライドを表示したい ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを入力します。メイン Web ページが表示されます。
3. [Select a Presentation for Viewing (プレゼンテーションの選択)] アイコンをクリックします。[表示するプレゼンテーションの選択] Web ページが表示されます。

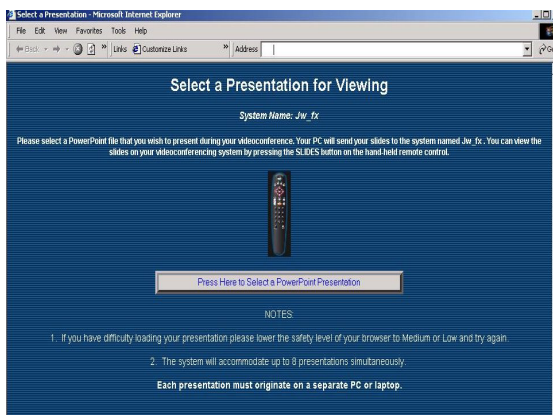


図 3-7. 「表示するプレゼンテーションの選択」 Web 画面

4. [PRESS HERE TO SELECT A POWERPOINT PRESENTATION (ここを押してパワーポイントプレゼンテーションを選択)] ボタンをクリックします。[pcPresent] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 3-8. 「pcPresent」画面

5. プレゼンテーション用に確立したい場合には、名前（デフォルトでシステム名がここにある場合もあります）とプレゼンテーション パスワードを入力します。後でプレゼンテーションを選択した際にこのパスワードがプロンプトされます。

注記 ブラウザのセキュリティ レベルの設定が高過ぎると、パスワードをバイパスできません。この場合は、セキュリティ レベルを [低] または [中] に変更します。

6. [ここを押してパワーポイントプレゼンテーションを選択] ボタンをクリックします。[File Open (ファイルを開く)] ダイアログ ボックスが現れます。

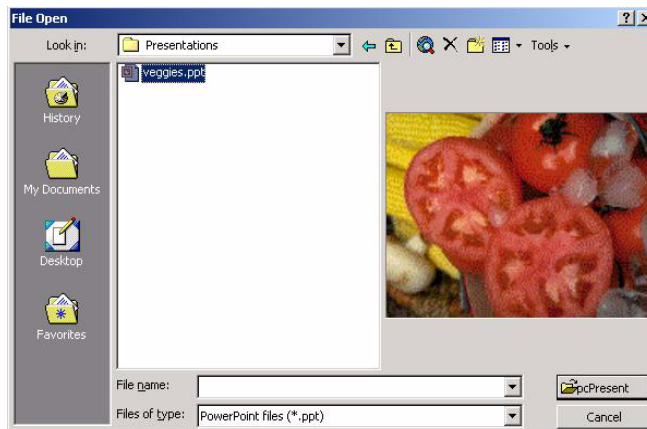


図 3-9. pcPresent「ファイルを開く」画面

7. PC でプレゼンテーション ファイルを参照し選択します。
[pcPresent] ボタンをクリックします。ウィンドウが現れて、スライドが縮小表示サイズに変換中であることを指示します。これが完了すると、縮小表示サイズが ViewStation FX または VS4000 のフラッシュ メモリに読み込まれます。

FX または VS4000 でのスライド プレゼンテーションの表示

以下の手順で、ViewStation FX または VS4000 でプレゼンテーションを表示します。

1. リモコンの [SLIDES (スライド)] ボタンを押します。「使用できるプレゼンテーション」画面が、ViewStation FX または VS4000 に付属したモニタに表示されます。

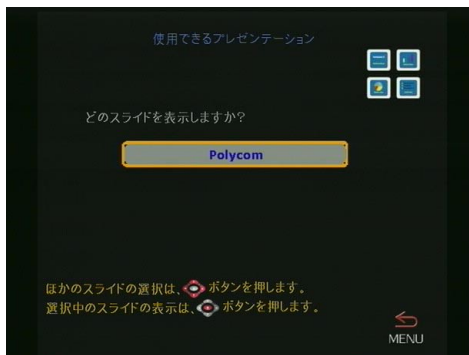


図 3-10. 「使用できるプレゼンテーション」画面


2. プレゼンテーションを選択し、リモコンの  ボタンを押して、プレゼンテーションを開始します。継続するにはプレゼンテーション パスワードが必要な場合があります（これは、前に「pcPresent」画面で設定したパスワードです）。



図 3-11. 「プレゼンテーション用パスワード」画面

3. 「プレゼンテーション一覧」画面が表示され、ViewStation FX または VS4000 にスライドが読み込まれていくのがわかります。

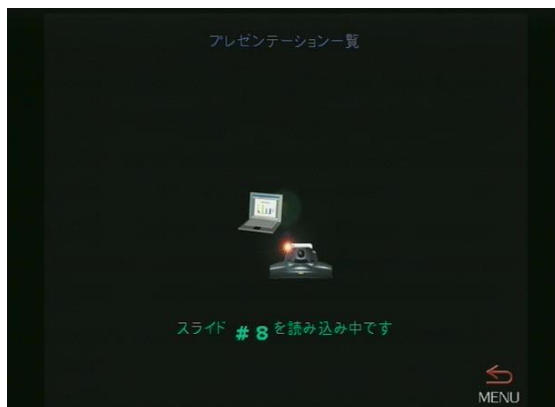


図 3-12. 「プレゼンテーション一覧」（スライド読み込み中）画面


4. 読み込まれた各スライドの縮小表示サイズが、「プレゼンテーション一覧」画面に表示されるので、すべてのスライドを一度に見ることができます。リモコンの矢印ボタンを使用してスライドをハイライトし、リモコンの  ボタンを押します。



図 3-13. 「プレゼンテーション一覧」（読み込まれたスライド）画面

5. 表示されているスライド: の情報を得るには、リモコンの [INFO (情報)] ボタンを押します。プレゼンターとプレゼンテーションの名前、およびスライド番号と閲覧用パスワードが表示されます。閲覧用パスワードが「セキュリティ」画面に、[ミーティング パスワード] フィールド ([システム情報] > [管理者設定] > [セキュリティ]) として設定されています。プレゼンテーションのパスワードは表示中に変更できます。[閲覧用パスワード] フィールドを「スライド プレゼンテーション情報」画面でハイライトして、新しいパスワードを入力します。

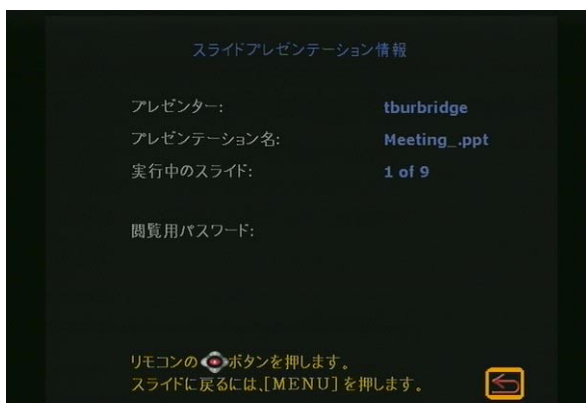


図 3-14. 「スライド プレゼンテーション情報」画面

6. 次のようにして、リモコンを使用しプレゼンテーションを動かします。
- プレゼンテーションを前後に動かす場合には、[左矢印] と [右矢印] ボタンを使用します。
 - プレゼンテーションの最初に戻るには、[上矢印] ボタンを押します。
 - 最後のスライドに行くには、[下矢印] ボタンを押します。
 - スライド表示から縮小表示サイズ表示に変換したい場合には、リモコンの [メニュー] ボタンを押します。 リモコンの [戻る] ボタンを押して、ライブ画像に戻ります。 [スライド] ボタンを押すと、他のプレゼンテーションを選択できます。

スライド表示の情報

高解像度スライド: ViewStation FX または VS4000 では、付属モニタで解像度の高いグラフィックを表示することができます。この詳細は、197 ページの「モニタ」を参照してください。

スライド プレゼンテーション機能と ANNEX-D: サポート受信システムで ANNEX-D の高解像度標準がサポートされていない場合には、1 つのテレビ会議システムからそのシステムに送信したグラフィック スライドまたはスナップショットは正しく表示されない場合があります。

Polycom はこのグラフィック標準をサポートします。しかし、Polycom システムがスライドまたはスナップ ショットを、ANNEX-D をサポートしない他ベンダのシステムに送信した場合、グラフィックは相手側モニタに数秒間表示されて消えます。この問題に遭遇したら、相手側システムが ANNEX-D 高解像度標準をサポートするかを確認します。

注記 すべての Polycom テレビ会議製品は、ViaVideo デスクトップ システムを含め、ANNEX-D 高解像度グラフィック標準をサポートします。

クローズ キャプション

クローズ キャプションは、Polycom 専用のソフトウェア機能で、ViewStation FX または VS4000 システムのこちら側と相手側のメイン画像画面でテキストを表示することができます。これは、ViewStation FX または VS4000 の Web インターフェイスを使用して行います。

クローズ キャプションは、筆記メッセージだけを通して通信するテレビ会議参加者、あるいは他参加者とのやりとりを即座に書き下したり、または翻訳する必要のある参加者に最適です。クローズ キャプションは、難聴者や外国人にも有用なツールです。

クローズ キャプションへのアクセスとその使用

1. Internet Explorer 4.0 またはそれ以降、あるいは Netscape 4.0 またはそれ以降。
2. 相手側への通話を行います。

3. ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスを起動するには、ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを Web ブラウザの [アドレス] フィールドに入力します。
4. ViewStation または VS4000 Web インターフェイスのメインページで、[クローズ キャプション] を選択します。
5. ユーザーの名前を [ユーザー名] エントリ ボックスに入力します。
6. 設定されている場合には、ViewStation FX または VS4000 ミーティング パスワードを入力します。パスワードが設定されているかどうか調べるには、ViewStation の「ユーザー設定」画面をチェックします。[OK] を押します。
7. [クローズ キャプション] ページが表示されます。
8. テキストを [Current (現在)] フィールドに入力します。一行に 250 字まで一度に入力できます。[Enter (入力)] を PC キーボードで押すと、タイプしたばかりのテキストが [History (履歴)] フィールド に表示され、ViewStation FX または VS4000 のこちら側と相手側に表示されます。メッセージは 15 秒間だけ表示されます。

クローズ キャプションについての追加情報

- クローズ キャプションは通話中でも通話中でないときでも作動します。
- クローズ キャプションは H.323 と ISDN H.320 通話で使用できます。
- クローズ キャプションは、Polycom ViewStation SP、MP、V.35、または バージョン 6.5 以上の 512 システム、およびバージョン 2.5 以上を使用する FX または VS4000 システムだけでサポートされています。
- クローズ キャプションは、多地点通話ではサポートされていません。
- クローズ キャプション機能は、通話の開始後または通話の終了後に、名前（そしてパスワードがあれば、ミーティング パスワード）を入力する必要があります。テレビ通話を終了し、通話でクローズ キャプションを使用する場合、ブラウザをリフレッシュする必要があります。

システム設定とリモート管理

ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスでは、FX または VS4000 ユーザー インターフェイスで利用できるほとんどの設定、基本構成そして診断タスクを行うことができます。これらのツールは 2 つのアイコンの下にグループ化されています。

Admin Set up (管理者設定) : ほとんどの 設定、基本構成、そしてメッセージ画面は、このアイコンからアクセスできます。

Diagnostics (診断) : ほとんどのテスト画面とツールはこのアイコンからアクセスできます。

これらの画面にアクセスするには以下のセクションを読んでください。

管理者設定と診断 Web 画面

[管理者設定] と [診断] アイコンの下にグループ化されている ViewStation FX または VS4000 の管理画面に、次のようにしてアクセスします。

1. Web ブラウザを起動して、Web ブラウザの [アドレス] フィールドで管理する ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを入力します。ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスのメイン ページが表示されます。

注記 Netscape Navigator よりも Internet Explorer 4.0 以上の方を推奨します。これは、ViewStation FX または VS4000 が Microsoft の ActiveX 制御を使用して PowerPoint プレゼンテーション機能を有効にするためです。

2. 「System Setup (システム設定)」アイコンをクリックします。[System Information (システム情報)] Web 画面が表示されます。この画面には、FX または VS4000 、およびメイン管理と機能アイコンの情報が含まれています。

注記 パスワードが設定されている場合には、システム管理パスワードを「セキュリティ」画面 ([システム情報]>[管理

者設定]>[セキュリティ]) に入力するようにプロンプトされます。ユーザー名は、“admin” です。

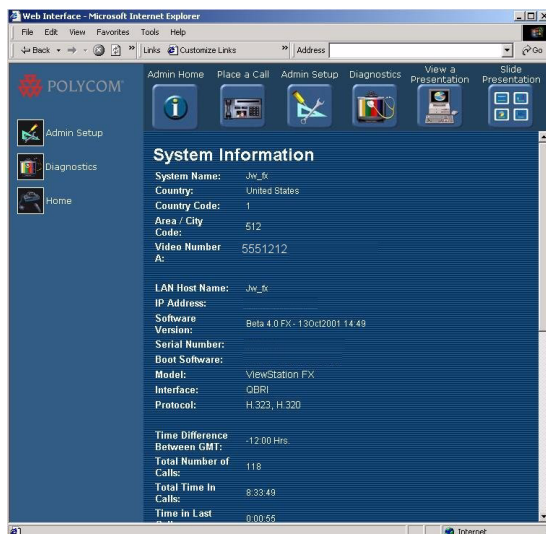


図 3-15. 「システム情報」 Web 画面

- 適切なアイコンを選択して、該当する管理画面に進みます。アイコンは以下のように整理されています。

Web ページ左パネル（アイコンは垂直に整列）:

[管理者設定] と [診断] アイコンからは、FX または VS4000 で利用できるほとんどの設定、基本構成そしてテスト ツールにアクセスできます。[Home (ホーム)] メイン Web ページへのショートカットです。

Web ページの上（アイコンは水平に整列）

これらのアイコンは、「管理者設定」と「診断」画面、および [プレゼンテーション表示]、[スライドプレゼンテーション]、そして [通話発信] などの最も頻繁に使用される機能に迅速にアクセスすることを可能にします。これらのアイコンは、管理者設定環境内のどの画面からも利用できます。

管理者設定 / 基本構成画面

以下の情報では、ほとんどの設定と基本構成ツールが利用できる「基本設定」画面にアクセスする方法について説明します。

1. 「基本設定」画面（下記表示）で、Web 画面の左または上のアイコンから「管理者設定」を選択します。

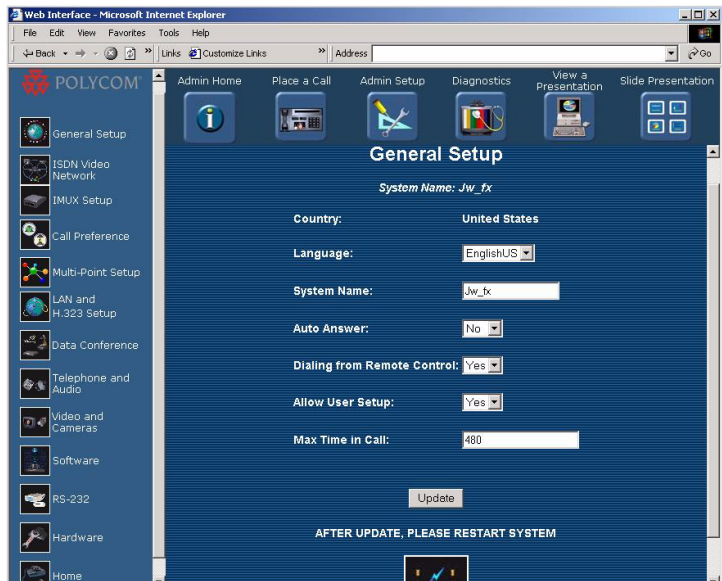


図 3-16. 「基本設定」Web 画面

2. 変更したい機能のアイコンをクリックします。この画面には、「セキュリティ」画面を除き、FX または VS4000 ユーザー インターフェイスで利用できるのと同じ設定と基本設定ツールが含まれています。
設定と基本設定オプションについての詳細は、179 ページの「システム情報と診断」を参照してください。
3. [Update (更新)] ボタンをクリックして、ViewStation FX または VS4000 を新しい設定で更新します。
4. システムをリブートするのと同じオプションが必要です。この場合には、Web ページの下方にある [Restart (再起動)] ボタンを押します。

注記 「基本設定」画面（FX/FS4000 ユーザー インターフェイス）にある [Allow User Setup（ユーザー設定可）] オプションは、ユーザー インターフェイスの「システム情報」画面の [ユーザー設定] アイコンを有効または無効にするのに使用されます。管理者はこのオプションを使用して、ユーザー設定機能がユーザーによって変更されるのを防ぎます。

ストリーミング

Web インターフェイスは、ユーザーが遠隔地からストリーミングを開始できるようにします。以下のステップで、ストリーミングを開始します。

1. [システム 設定] > [管理者設定] > [LAN と H.323 設定] > [ストリーミング] を選択します。

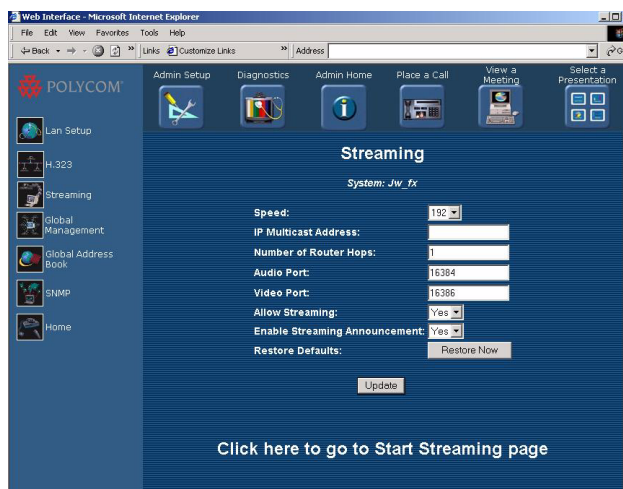


図 3-17. 「ストリーミング」 Web 画面

2. [ストリーミング] ページが表示されます。[ストリーミング許可] オプションは、ドロップダウン ボックスからはいを選択して有効にします。
3. [更新] をクリックします。
4. 現在の [ストリーミング] ページから [Start Streaming（ストリーミング開始）] ページへのアクセスには、3 つの異なる方法があります。

- ページ下方のテキスト [Click here to go to Start Streaming (ここをクリックしてストリーミング開始ページに行く)] をクリックする。
 - [通話発信] アイコンをクリックする。[ストリーミング] アイコンをクリックする。
 - Web ページ左のフィールドにある [ホーム] アイコンをクリックします。Web インターフェイスメインページに表示される [ストリーミング] アイコンをクリックします。
5. [ストリーミング開始] をクリックします。

システム診断画面

メイン「診断」画面

このセクションでは メイン「診断」画面（システム診断）へのアクセス方法、および 仮想リモコン と [Send a Message（メッセージ送信）] 機能の使用法についての情報を提供します。

「システム診断」Web 画面には、ViewStation FX または VS4000 から実行できるのと同じ診断テストが含まれています。実行できるテストは、リアルタイムです。

1. 「システム診断」Web 画面へアクセスするには、[システム設定]>[診断]を選択します。

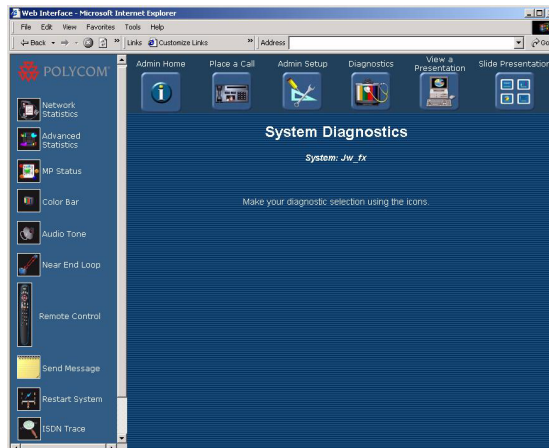


図 3-18. 「システム診断」Web 画面

2. Web 画面の左側アイコン フィールドから管理している ViewStation FX または VS4000 の診断テストを選択します。

注記 実行できる診断テスト タイプについての詳細は、179 ページの「システム情報と診断」を参照してください。

仮想リモコン

1. 「システム診断」Web 画面で、[リモコン] アイコンをクリックして、Web インターフェイス リモコンを使用します。
2. Web 画面の仮想リモコンを使用して、ViewStation FX または VS4000 のほとんどの機能をコントロールできます。

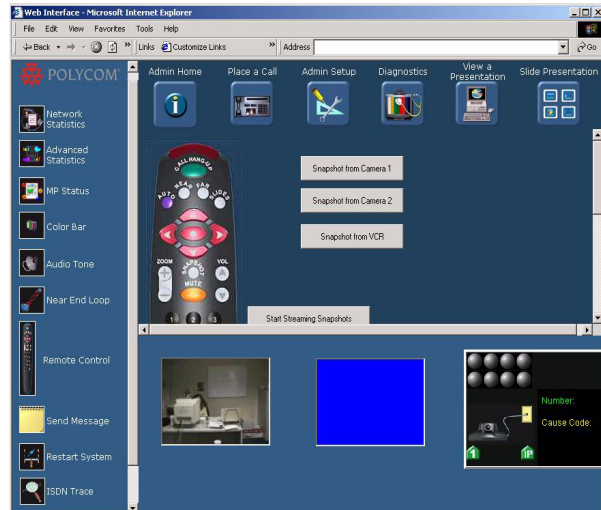


図 3-19. 「仮想リモコン」Web 画面

注記 仮想リモコンを使用するには、Internet Explorer 4.0 以上の Web ブラウザが必要です。

3. 3 つのスナップショット ボタンを使用して、スナップショットを撮ることができます。適切なボタンをクリックして、ソースを選択します（カメラ 1 からのスナップショット、カメラ 2 からのスナップショット、または VCR からのスナップショット）。[Start Streaming Snapshots（ストリーミングスナップショットの開始）] 機能は、FX または VS4000 が位置している部屋のスナップショットを普通の間隔でストリーミングさせます。各スナップショットは数秒間表示されます。表示時間は [Snap Interval（スナップ間隔）] フィールドで設定できます。

メッセージ

1. 「システム診断」Web 画面で、[Send Message (メッセージ送付)] アイコンをクリックして、ViewStation FX または VS4000 にメッセージを送信します。テキスト メッセージは、100 字まで入力できます。
2. 「メッセージ送付」Web ページが表示されたら、メッセージをタイプし、[メッセージ送付] ボタンを押します。メッセージはユーザーが管理している ViewStation FX または VS4000 の画面に 15 秒間表示されます。

NetMeeting の基本設定

Microsoft NetMeeting を通してテレビ通話を行うことができます。NetMeeting のデータは、ネットワークを通じて転送され、各サイトの PC に表示されます。データ会議は H.320 通話中だけ利用でき、また相手側システムでサポートされていなければなりません。

注記 データ会議 についての詳細は、192 ページの「データ会議」を参照してください。このセクションには、ShowStation IP の使用方法についての情報が含まれています。

ViewStation FX または VS4000 での NetMeeting の有効化

ViewStation FX または VS4000 データ会議機能を使用したい場合は、以下の手順で ViewStation FX または VS4000 を有効にします。

1. [システム情報] > [管理者設定] > [データ会議] を選択します。「データ会議」画面が表示されます。
2. NetMeeting または T.120 デバイス オプションを有効にします。ShowStation IP オプションが表示されるのは、ShowStation IP が ViewStation FX、VS4000、または LAN に接続されている場合だけです。

NetMeeting へのアクセス

次の手順で NetMeeting にアクセスします。

1. 2 地点間 H.320 (ISDN) 通話を相手側に発信します。相手側もこちら側に通話を発信するようにします。
2. Internet Explorer 4.0 以上または Netscape 4.5 以上を PC に開始して、ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスをブラウザの [アドレス] フィールドに入力します。
ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイス メイン ページが PC に表示されます。
3. [Configure Net Meeting (NetMeeting の基本設定)] アイコンをクリックします。

システム管理パスワードが必要な場合には、[Enter Network Password (ネットワーク パスワードの入力)] ウィンドウが表示されます。

- a. [User Name (ユーザー名)] フィールドに名前を入力します (ユーザー名には “admin” を使用します)。
 - b. システム管理パスワードをパスワード フィールドに入力します。このパスワードは ViewStation FX または VS400 の「セキュリティ」画面 ([システム情報]>[管理者設定]>[セキュリティ]) に設定されています。
 - c. [OK] をクリックします。
4. 「How to Start a NetMeeting Call (NetMeeting 通話の開始方法)」Web 画面が表示されます。スクリーン手順か現在の手順のどちらかに従って進みます。
 5. PC の IP アドレスを入力します。

Windows 95/98/ME では、PC デスクトップの [開始] ボタンを押して、PC の IP アドレスを検索します。それから、[実行] をクリックして、winipcfg を [開始] ボックスにタイプします。

Windows NT/2000 では、コマンド プロンプトに従って ipconfig とタイプして IP アドレスを検索します。

PC の IP アドレスは NetMeeting アプリケーションからも取得できます。[Help (ヘルプ)] と [About NetMeeting (Windows NetMeeting について)] をクリックします。

6. NetMeeting を PC で開始するには、[NetMeeting Application (NetMeeting アプリケーション)] アイコンをダブルクリックします。相手側も NetMeeting を起動するようにしてください。

7. テレビ会議を開始した ViewStation FX VS4000 に接続した PC の NetMeeting メニューから [Call (通話)] > [New Call (新規通話)] を選択します。またはメニュー右の電話アイコンをクリックすることもできます。[通話発信] ウィンドウが開きます。
8. [To] フィールドに、PC に接続している ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを入力します。簡単に参照できるように、[NetMeeting 通話の開始方法] Web ページに ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスがあります。

NetMeeting 中は、ホワイトボード、チャット、アプリケーション共有、そしてファイル転送能力が利用可能です。音声と画像は ViewStation FX または VS4000 経由で提供されます。

追加の参加者が NetMeeting 会議に加わりたい場合は、NetMeeting 通話をどちらかの PC の IP アドレスに送信します。

NetMeeting 情報

NetMeeting のアプリケーション共有、ファイル転送そしてホワイトボードを使用するには、PC が ViewStation FX または VS4000 に直接または LAN 経由で接続されていなければなりません。

NetMeeting データは H. 320 ネットワークを経由して送信されます。使用中の帯域幅は、動的に割り当てられています。これは、NetMeeting がデータを送信していないときに、使用帯域幅をビデオデータに戻すためです。

システム互換性と NetMeeting 3.0 : T. 120 アプリケーション共有、ファイル転送およびホワイトボードは、NetMeeting 3.0 が 2 つの ViewStations FX または VS4000 システムで使用される場合にサポートされます。テレビ会議には、両方のシステムに同じバージョンの NetMeeting がインストールされている必要があります。これらの機能が NetMeeting 3.0 でサポートされないのは、ViewStation FX または VS4000 が他ベンダのテレビ会議ユニットと使用された場合です。このような状況では、NetMeeting 2. 11 をインストールしなければなりません。

セキュリティ制限 : セキュリティ上の問題があるので、(ViewStation FX または VS4000 の) H. 323 通話の際、ファイアウォールはアプリケーション共有、ファイル転送、ホワイトボードを許可しません。相手側との接続が確立されたら、NetMeeting を使用して 2 つの PC 間でこれらの機能を実行します。

NetMeeting で H.323 テレビ通話

H.323 テレビ通話は、NetMeeting 2.11 または 3.0 を使用して、PC から送受信することができます。

回線速度 : NetMeeting から ViewStation FX または VS4000 へのテレビ通話の回線速度は、NetMeeting での帯域幅の設定に依ります。

- ケーブル, xDSL, または ISDN = 128 Kbps
- 構内情報通信網 = 384 Kbps

ViewStation FX または VS4000 から NetMeeting への通話の回線速度は、64 kbps 以上でなければなりません。

制限 : ViewStation FX または VS4000 との H.323 通話では、NetMeeting でのアプリケーション共有は使用できません。

互換性 : H.323 テレビ通話では、NetMeeting 3.0 は ViewStation FX または VS4000 バージョン 3.0 以上と互換性があります。これらの通話では、[セキュリティ] タブ ([NetMeeting ツール]>[オプション]) で 2 つのセキュリティ オプションを無効にしないでください。

- セキュリティで保護された受信通話を受け取ります。
- すべての送信通話をセキュリティで保護します。

ユーティリティ

PolycomSnap

PolycomSnap は PC-resident アプリケーションで、PC 画面全体または特定ウィンドウまたは PC 画面の部分で JPEG 画像をキャプチャし、1 つ以上の Polycom ViewStation FX または VS4000 システムで表示することを可能にします。PolycomSnap は多地点のテレビ会議で使用され、PC からのスナップショットをすべての参加システムに同時に表示します。

1. PolycomSnap ユーティリティをダウンロードするには、Web インターフェイス メイン ページの [PolycomSnap] をクリックします。

2. [File Download (ファイルのダウンロード)] ウィンドウが表示されます。オプション ([Run this program from its current location (このプログラムを上記の場所から実行する)] または [Save it to disk (ディスクに保存する)]) の 1 つを選択し、[OK] をクリックします。
3. スクリーン手順に従って、アプリケーションをダウンロードします。PolycomSnap アプリケーションを起動すると、以下のインターフェイスが表示されます。



図 3-20. PolycomSnap インターフェイス

4. PolycomSnap インターフェイスの [Connect (接続)] タブをクリックします。ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを [アドレス] フィールドに入力します。これはスナップショットが送信されるシステムの IP アドレスです。ミーティング パスワードが要求されるかもしれません。
5. [接続] ボタンをクリックします。ViewStation FX または VS4000 はスナップショットを受信する準備が完了しました。
6. [Area (領域)] タブをクリックします。キャプチャしたいスナップショットの領域を選択します。
7. [Snapshot (スナップショット)] タブをクリックします。スナップショット キャプチャ モードを選択します。
8. それから、PolycomSnap の [Snap (スナップ)] ボタンを押すか、または PC キーボードの F9 キーを押して、PC デスクトップからスナップショットを接続している ViewStation FX または VS4000 に送信します。
9. 切断するには、[接続] タブの [Disconnect (切断)] ボタンを押します。

アドレス帳ユーティリティ

アドレス帳ユーティリティは、ViewStation FX または VS4000 アドレス帳を PC で簡単に編集できるようにします。アプリケーションは、インターフェイス メイン ページから [Address Book Utility (アドレス帳ユーティリティ)] をクリックしてダウンロードできます。

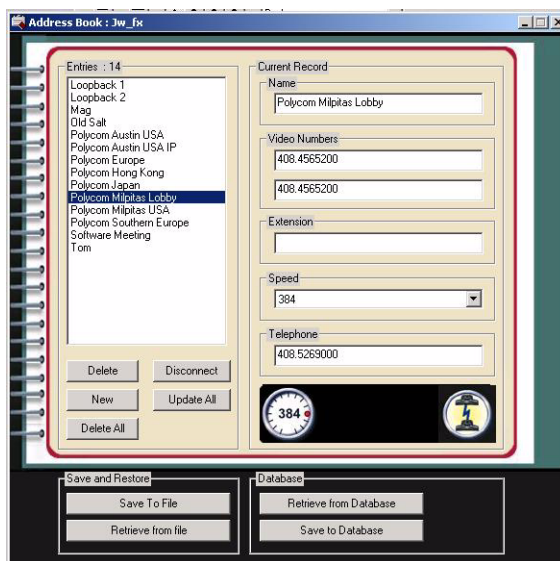


図 3-21. 「アドレス帳ユーティリティ」画面

PC を使用したソフトウェアのアップグレード

LAN (H. 323) でのソフトウェア アップグレード 323

SoftUpdate アプリケーションを使用して、LAN でソフトウェアをアップデートします。

注記 ISDN (H. 320) でのソフトウェアのアップグレードについては、269 ページの「ISDN でのソフトウェア アップグレード (H. 320)」を参照してください。

以下の手順で、ソフトウェアをアップグレードします。

1. **www.polycom.com** から最新のソフトウェアをダウンロードして、PC に保存します。インターネット アクセスがない場合は、販売元がアプリケーションを供給します。
2. ソフトウェアの Zip ファイルをダブルクリックして、ファイルの抽出先ディレクトリを選択します。WinZip はファイルを展開します。パスワードを要求された場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。
3. アプリケーションが抽出できたら、**SoftUpdate.exe** ファイルをダブルクリックします。SoftUpdate ダイアログ ボックスが表示されます。

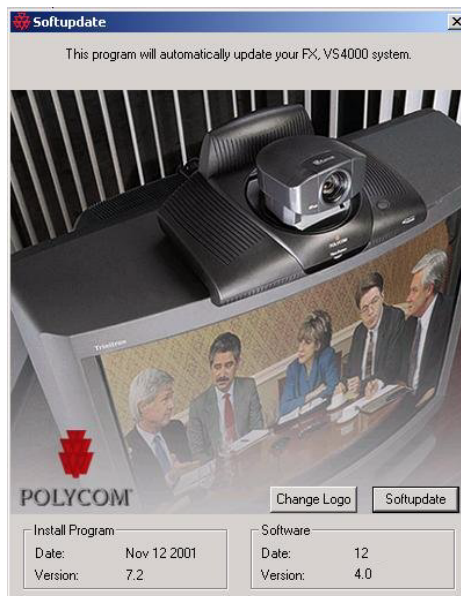


図 3-22. 「Softupdate」画面

4. [Softupdate] ボタンをクリックします。[IP Address (IP アドレス)] 画面が表示されます。
5. アップデートしたい ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスおよび必要に応じて管理者パスワードを入力します。
6. [OK] をクリックします。以下のオプションが [Delete (削除)] フィールドにある「System Info (システム情報)」画面が表示されます。
 - **Address Book (アドレス帳)**：このオプションをチェックした場合は、既成のアドレス帳が削除されます。
 - **System Files (システム ファイル)**：このオプションをチェックした場合は、既成のシステム ファイルが削除されます。

- **Allow System to be a DHCP Server (システムが DHCP サーバになることを許可)** : このオプションをチェックした場合は、ユーザー インターフェイスの [サーバ] ボタンが「LAN / イントラネット」画面で表示され（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[LAN/ イントラネット]）、ViewStation FX または VS 4000 が DHCP サーバになるオプションを付与します。チェック解除にしておくと、[サーバ] オプションは、「LAN / イントラネット」画面に表示されず、また利用できません。

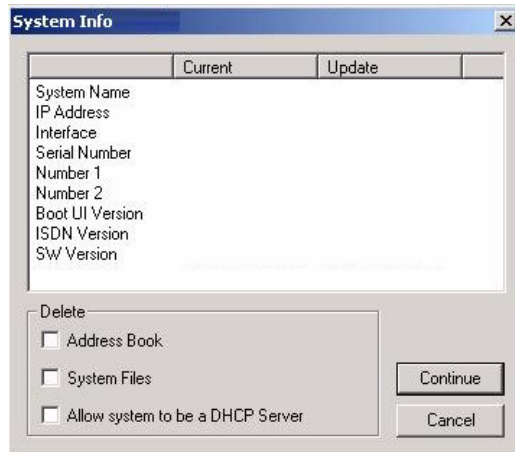


図 3-23. 「Softupdate システム情報」画面

7. [CONTINUE (続行)] ボタンをクリックし、アップデート処理を開始します。
8. ソフトウェア アップグレード中、ソフトウェア インターフェイスはアップグレード状態を通知します。終了後、[OK] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

システムソフトウェアといっしょに提供した Read Me First ファイルを忘れずに印刷してください。このガイドには含まれていない情報が含まれています。

詳細設定

この章には、V.35、PRI、BRI そして LAN/H.323 ネットワーク インターフェイスに対する詳しい設定情報が含まれています。4 つの大きなセクションがあります。

- V.35 詳細設定 (131 ページ)
- 詳細 PRI 設定 (137 ページ)
- 詳細 BRI 設定 (149 ページ)
- LAN/H.323 詳細設定 (154 ページ)

V.35 詳細設定

このセクションでは、以下の画面に対する情報と設定を説明します。

- V.35 詳細設定 (131 ページ)
- ブロードキャスト モード (132 ページ)
- ダイヤル速度 (134 ページ)
- ダイヤル方式設定 (135 ページ)

注記 画面での情報編集を完了したら、変更を保存して前の画面に戻りますが、それには 2 つの方法があります。リモコンの [メニュー] ボタンを押すか、画面の [メニュー] アイコンをハイライトします。

V.35 詳細設定

「V.35 詳細設定」画面で各通話の接続機能に対するパラメータを定義できます。

この画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]>[詳細 V.35] を選択します。



図 4-1. 「V.35 詳細設定」画面

これらのシグナルに対するデフォルト設定は、[通常]です。これらのシグナルを反転させるには、[極性反転]を選択します。

この詳細は、223 ページの「シリアル インターフェイス コントロール シグナル」を参照してください。

ブロードキャスト モード

ViewStation FX または VS4000 V.35 は、サテライト経由のブロードキャスト伝送に対する H.331 ブロードキャスト モードをサポートします。このモードでは、ViewStation FX または VS4000 は相手側 ViewStation または H.331- 互換システムとのハンドシェイクなしに、音声や画像をまた受信することができます。

1 つの ViewStation FX または VS4000 で、多くの ViewStation FX または VS4000 システムあるいは大きなサテライト ネットワークのようなその他の H.331 互換システムに、画像と音声を送信できます。

ブロードキャスト構成パラメータは、ブロードキャストを受信するシステムの最低公分母を受け入れるように設定します。たとえば、会議に参加するシステムの中に H.261 だけをサポートするシステムが 1 つあれば、すべてのシステムが会議に参加できるようにブロードキャストは H.261 に設定します。

次の手順で、「ブロードキャスト モード」画面にアクセスします。

1. 「通信設定」画面（[システム情報] > [管理者設定] > [通信設定] > [通信設定]）で [ブロードキャスト モード] を有効にします。[ブロードキャスト モード設定] サテライト アイコンが表示されます。
2. [ブロードキャスト モード設定] アイコンを選択して、「ブロードキャスト モード」画面にアクセスします。



図 4-2. 「通信設定」画面と「ブロードキャスト モード」画面

「ブロードキャスト モード」画面で、画像と音声の基本設定を設定できます。

- **Video Format (ビデオ形式)** : Quarter Common Interchange Format (クオータ共通インターチェンジ形式) 176 X 144 解像度を送信するには、[QCIF] を選択します。FCIF (Full Common Interchange Format [フル共通インターチェンジ形式] 352 X 288 解像度) を送信するには、FCIF を選択します。
- **Video Protocol (画像プロトコル)** : H. 261 を選択し、H. 261 画像標準を使用して、画像を転送します。H. 263 拡張画像アルゴリズムを使用して画像を送信するには、H. 263 を選択します。H. 263 をサポートする相手側システムは H. 263 を受信します。
- **Audio Mode (音声モード)** : 音声送信用の音声プロトコルを選択します。G. 728, G. 711u, G. 711A, G. 722-56, G. 722-48, またはオフ。
- **Frame Rate (フレームレート)** : ブロードキャスト伝送の画像フレーム レートを選択します。30 fps、15 fps、10 fps、または 7.5 fps。

ダイヤル速度

1. 通話に使用するダイヤル速度を選択するには、[RS-366 ダイアル] を「通信設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[通信設定]）で選択します。
2. ダイアル速度を選択します。「ダイヤル速度」画面で適切なダイヤル速度を選択します。

デフォルト速度は、2 x 64 Kbps, 256 Kbps, 384 Kbps, 512 Kbps, および 768 Kbps です。

3. 速度を追加または削除するには、データレートをスクロールして、リモコンの [SELECT (選択)] ボタンを押して、好きなダイヤル速度を選択します。ダイヤル速度を選択した際は赤いチェックマークが表示されます。

選択したダイヤル速度は RS-366 通話にだけ適用されます。

Nx56 と Nx64 は H.320 通話用で、IPx56 と IPx64 は H.323 通話用です。

非ダイヤル通話のダイヤル速度は DCE よって決定されます。



図 4-3. 「ダイヤル速度」画面

ダイヤル方式設定

1. 「V35 ダイヤル設定」画面にアクセスするには、[RS-366 ダイヤル] を「通信設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]）で選択します。
2. 「通信設定」画面で、[ダイヤル方式設定] を選択します。
「V35 ダイヤル設定」画面では、DCE を通したダイヤルに関連した [Calling Profile（通話プロファイル）] を選択できます。

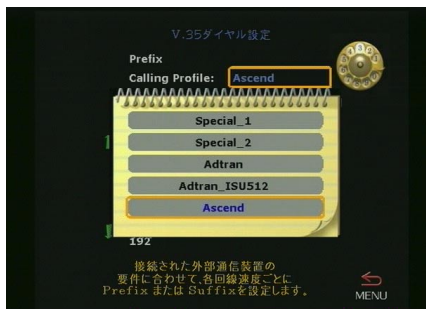


図 4-4. 「V.35 詳細設定」画面（1 ページ）

複数製造元の通話プロファイルは、ViewStation FX と VS4000 に含まれています。

1. これらのプロファイルを選択または修正するには、[通話プロファイル] フィールドを選択します。以下の通話プロファイルが表示されます。



図 4-5. 「V35 ダイヤル設定」画面（通話プロファイル一覧）

2. ドロップダウン一覧で適切な装置 / 製造元を選択して、リモコンで [選択] ボタンを押します。

3. 終了したら、エントリを再確認します。接頭番号または接尾語情報（選択した装置による）が「V35 ダイアル設定」画面に表示されます。

注記 この情報は一度だけ「V35 ダイアル設定」画面に入力します。通話する場合、接頭番号を再び入力する必要はありません。好きなダイヤル速度を選択すると、ViewStation FX または VS4000 が適切な接頭番号を入力します。

ダイヤル接頭番号と接尾番号の情報：ダイヤル接頭番号はダイヤルした番号がされる前に DCE 装置に送信される番号と文字です。

ダイヤル接頭番号は、DCE 装置のダイヤル速度を定義します。そうするとユーザーは、通話時にダイヤル速度を選択することができます。

接頭番号と接尾番号は DCE の機能です。ダイヤル プロファイル設定についての追加情報については、DCE ユーザーガイドを参照してください。

詳細 PRI 設定

このセクションでは、「IMUX 設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]）にグループ化されている一連の詳細設定画面の情報と設定について説明します。

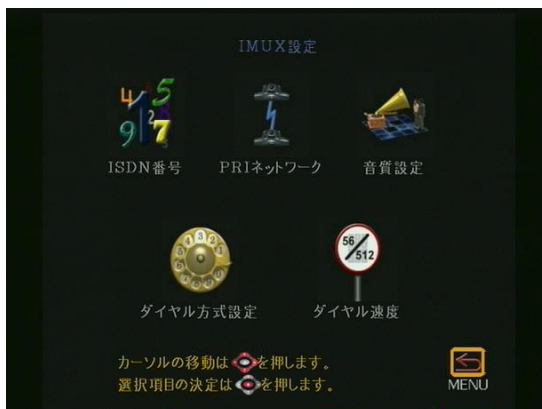


図 4-6. 「IMUX 設定」画面

以下が、PRI 基本設定画面です。

- PRI ISDN 番号 (138 ページ)
- PRI ネットワーク (T1 と E1) : この画面からさらに以下の画面にアクセスできます。
 - PRI 情報 (T1 と E1) (139 ページ)
 - PRI 設定 (T1 と E1) (詳細 PRI 設定 (T1 と E1)) (140 ページ)
 - PRI 状況 (T1 と E1) (142 ページ)
- 音質設定 (146 ページ)
- ダイヤル方式設定 (147 ページ)
- ダイヤル速度 (148 ページ)

PRI ISDN 番号

次のようにして、「ISDN 番号」画面にアクセスします。[システム情報] > [管理者設定] > [通信設定] > [IMUX 設定] > [ISDN 番号]。

この詳細は、30 ページの「PRI 回線番号 (E1 - T1)」を参照してください。

PRI ネットワーク (T1 と E1)

「PRI ネットワーク」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [通信設定] > [IMUX 設定] > [PRI ネットワーク] を選択します。次の画面が表示されます。



図 4-7. 「PRI ネットワーク」画面

この画面から、「PRI 情報」、「PRI 設定」そして「PRI 状況」画面にアクセスできます。これらの画面は、以下の 3 つのセクションで説明します。

PRI 情報 (T1 と E1)

「PRI 情報」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[PRI ネットワーク] を選択します。次の画面が表示されます。

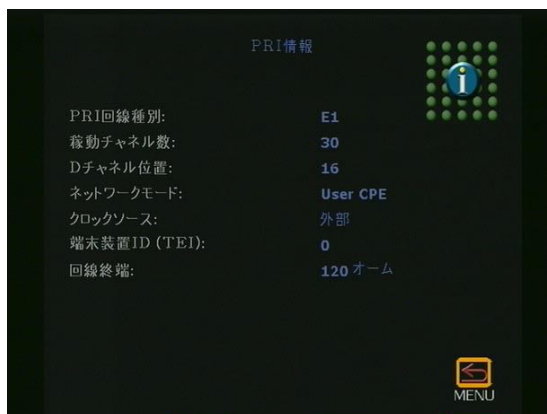


図 4-8. 「PRI 情報 (E1)」画面

これは情報画面です。その他の PRI 関連画面で行った変更は、この画面に反映されます。

- **PRI 回線タイプ**：PRI 回線タイプ は、ViewStation FX または VS4000 によって自動的に検出されます。
- **稼動チャネルの数**：この数は自動的に設定されます。T1 回線には 23 の稼動チャネルがあります。E1 回線には 30 の稼動チャネルがあります。
- **D チャネルの場所**：この場所は自動的に設定されます。チャネルの場所 E1 回線には 16 そして T1 回線には 24
- **ネットワーク モード**：[ユーザー CPE] は、ViewStation FX と VS4000 のデフォルト設定です。
- **クロック ソース**：外部 が ViewStation FX と VS4000 のデフォルト設定です。
- **端末装置 ID (TEI)**：0 がデフォルト値として使用されており、この編集はできません。
- **回線端末 (PRI E1 のみ)**：回線端末が必要となるのは、ViewStation FX と VS4000 への電源がある場合です。

PRI 設定 (T1 と E1)

「PRI 設定」画面には、次のようにしてアクセスします。[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[PRI ネットワーク]>[PRI 設定] 以下は、E1 と T1 の「PRI 設定」画面を示しています。



図 4-9. 「PRI 設定」(E1) と「PRI 設定」(T1) 画面

注記 「詳細 PRI 設定」画面に、この画面からアクセスできます。この詳細は、143 ページの「詳細 PRI 設定 (T1 と E1)」を参照してください。

この画面のフィールドについての情報は、PRI サービス プロバイダから入手できます。この画面で以下のオプションを設定します。

- **スイッチ プロトコル**：ネットワーク スイッチ プロトコルを選択します。日本、香港、台湾などのアジア諸国の一部では、NET5/CTR4 も提供されています。

国名設定を変更すると、新しい一連の PRI スイッチ プロトコルが読み込まれます。

現行スイッチ プロトコルがもはや利用可能ではない場合、「継続しますか？」というプロンプトが表示されます。継続する場合、現行スイッチ プロトコルは選択した国のデフォルト値に変更されます。この場合、PRI インターフェイスがリセットされます。

1 つ以上のスイッチ プロトコルがサポートされている場合は、電話サービス プロバイダに連絡しどのプロトコルを選択するか決定します。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、データ通話だけの送受信を行い、受信 PRI 選択通話やその他の非 PRI 回線とは作動しません。発信者の ID ブロックまたは通話転送などの特別サービスはサポートされていません。

- **回線信号方式：** Extended Super Frame（拡張スーパーフレーム）(ESF)/B8ZS（Binary 8 Zero Substitution [バイナリ 8 ゼロ代用]）は、それぞれデフォルト フレーミング フォーマットとデフォルト回線エンコード フォーマットです。D4 のようなレガシ フレーム フォーマットはサポートされていません。
- **CSU (PRI T1 のみ)：** デフォルト値では、T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールが内部 CSU モードに設定されています。

外部 CSU を使用したい場合は、この画面で以下の情報を指定しなければなりません。

1. [CSU] フィールドで、[外部]を選択します。
2. [回線レベル修正] フィールドで、PRI インターフェイスと外部 CSU 間のケーブル距離に対応する適切なケーブル距離範囲を選択します。

注記 北米 T1 のみ：外部 CSU の CPE 装置側面からの RJ-45 を PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに接続します。

CSU についての詳細は、243 ページの「チャネル サービス ユニット」を参照してください。

回線レベル修正 (PRI T1 のみ)： 内部 CSU を使用している場合は出力希釈を dB で入力します。外部 CSU を入力している場合は出力希釈をフィート (1 ft = 30.48 cm) で入力します。

PRI 状況 (T1 と E1)

「PRI 状況」画面には、次のようにしてアクセスします。[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[PRI ネットワーク]>[PRI 状況]。以下は、E1 と T1 の「PRI 状況」画面を示しています。

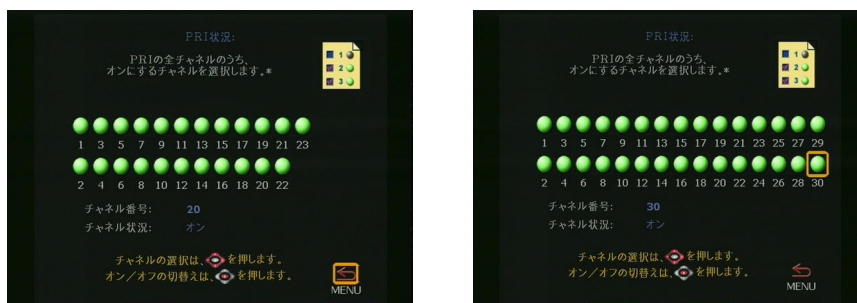


図 4-10. 「PRI 状況」(E1) と「PRI 状況」(T1) 画面

注意 この画面は、知識を持ったネットワーク管理者だけが処理すべきです。

この画面では、ViewStation FX または VS4000 が通話を送信または受信するのに使用できるチャンネル数を制限できます。

チャンネル選択の方法

発信通話 : FX または VS4000 では、通話を発信する際には、チャンネル範囲 (PRI T1 には 1-23、PRI E1 には 1-30) の最低番号 から開始して、最初のアクティブで使用可能なチャンネルを使用します。追加チャンネルが必要な場合、システムでは次の増分番号を選択します。たとえば、チャンネル 1 から 7 までは非アクティブで、8 がアクティブで使用可能な場合は、8 が ViewStation FX または VS4000 の通話発信に使用できる最初のチャンネルです。追加チャンネルが必要な場合、範囲中で次に利用可能でアクティブなチャンネルを使用します (チャンネル 9 などになる可能性があります)。

受信通話 : FX または VS4000 では、通話を受信する際は、範囲内の最高番号チャンネルを使用し、システムに付帯するサードパーティ装置のタイプによっては、必要に応じて、増分順序で次の番号チャンネルに進みます。たとえば、受信通話は、最初はチャンネル 23、それから 22、21 へという順番で到着します。

専用 PRI T1 または E1 回線：FX または VS4000 専用の T1 または E1 回線に対するすべてのチャンネルはアクティブである必要があります。

フラクショナル PRI T1 または E1：チャンネル選択は PRI ネットワーク管理者によって取り扱われるべきです。

PRI E1 チャンネル情報

「PRI 状況」画面（E1 用）は 30 チャンネルを示しています。しかし、E1 トランク回線には、番号 0 - 31 の 32 のタイムスロットがあります。タイムスロット 0 はフレーミングに使用され、タイムスロット 16 は通話シグナル（D チャンネル）に使用されます。残りの 30 タイムスロットは、ベアラ（データ）チャンネルとして使用されます。

装置とスイッチ間の通話シグナルでは、これらのチャンネル番号は 1-15、17-31 です。「PRI 状況」画面では、これらのチャンネルを連続した 1-30 の範囲として番号を付けます。このため、「PRI 状況」画面では、チャンネル 1-15 がタイムスロット 1-15 の状態を制御し、チャンネル 16-30 がタイムスロット 17-31 の状態を制御します。

詳細 PRI 設定（T1 と E1）

T1 と E1 との両方の PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに対する複数の詳細 PRI オプションを「詳細 PRI 設定」画面で定義できます。

「詳細 PRI 設定」画面には、次のようにしてアクセスします。[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[PRI ネットワーク]>[PRI 設定]>[詳細 PRI 設定]。

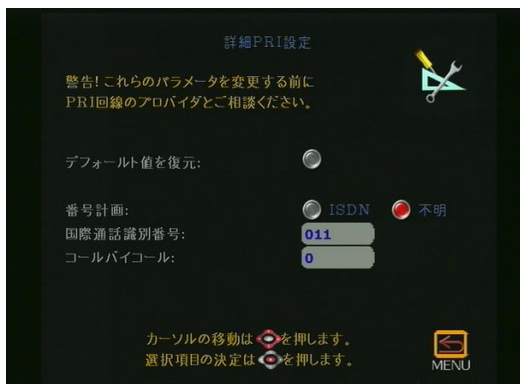


図 4-11. 「詳細 PRI 設定」(E1) 画面

以下の情報は、「詳細 PRI 設定」画面でのオプションについての説明です。

注意 デフォルト値を変更する前によく検討してください。コールバイコール値の決定は、電話サービス プロバイダと相談する必要があります。

- **デフォルト値の復元**：このオプションを選択すると、「詳細 PRI 設定」画面のすべてのフィールドでデフォルト値を復元します。
- **番号計画**：2 つのオプション、[ISDN] と [不明] を下記に説明します。

[不明]：デフォルト選択は [不明] です。このオプションでは、番号付けプランと番号タイプはアップストリームに不明として送られ、ダイヤル電話番号は通知なしにされます。アップストリーム スイッチまたは PBX は以下を担当します。

- ダイヤル文字列の解析
- 接頭番号またはアクセス コードの解釈
- 通話が国内か国際かの決定

デフォルト値 [不明] が推奨で、ほとんどの場合はこれで作動します。[不明] は、適切に構成された PBX またはほとんどの電話会社スイッチと作動します。注意すべき例外は、北米の ATT 5ESS スイッチで、Accunet または ATT 4ESS スイッチに設置されています。これらのスイッチに対しては番号付きタイプを ISDN に設定します。

ISDN：このオプションを選択した場合は、番号付けプランがアップストリームに ISDN として識別され、国内か国際のどちらかである番号タイプは、ダイヤル電話番号によって決定されます。ダイヤル電話番号が、現在選択されている [国際通話識別番号] で始まる場合、このタイプは国際に設定され、接頭番号は、アップストリームのスイッチへ送信される前に番号から除かれます。その他の場合は、番号は国内とマークされ、修正なしにアップストリームへ渡されます。

ISDN を選択した場合、アクセス コードまたは接頭番号が国際通話識別番号に先行すると、国際通話識別番号は識別されません。電話番号は、国際通話識別番号で始まらなければなりません。

- **国際通話識別番号**：国際通話識別番号のデフォルトは、北米では 011、ヨーロッパ諸国では 00 です。デフォルトは、国によって異なります。ISDN の番号付けタイプを指定した場合は、システムでこの値が検索されます。
- **コールバイコール**：コールバイコールは、1 から 31 までの番号で、アップストリームの電話会社スイッチの必要に応じオプションとしてされます。たとえば、T1 PRI ネットワークインターフェイス モジュールに値 6 を指定します。モジュールは、Accunet に設置されている ATT 5ESS スイッチに直接接続されています。電話会社サービス プロバイダに必ず相談して、コールバイコール値が PRI 回線に必要かどうか決定します。

ほとんどの場合、デフォルト値 0 が正確です。PBX に接続する際は必ず値 0 を使用します。ゼロでない値は、ヨーロッパでは必要ありません。31 より上の値は内部用に保存されているので、使用しないでください。

音質設定

1. 「音質設定」画面にアクセスするには、[システム管理]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[音質設定] を選択します。
2. 「音質設定」画面では、音声プロトコルで使用するダイヤル速度のしきい値を設定できます。選択速度以下の場合、システムでは G.728 音声プロトコルが使用されます。選択速度以上の場合、システムでは G.722 音声プロトコルが使用されます。G.722 は高質の音声を提供しますが、48 Kbps 通話帯域幅を使用します。G.728 は電話と同質の音声を提供し、通話帯域幅は 16 Kbps しか使用しません。
3. 音声プロトコルを設定するには、リモコンの [+] と [-] ボタンを使用して、スライダを移動します。H.320 の通話中に、音声バーを変更しても何の影響もありません。H.320 の通話中は、この画面にアクセスできないことに注意してください。

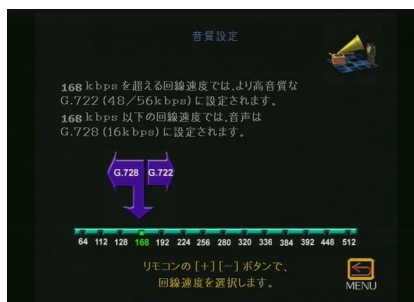


図 4-12. 音質設定

G.722 と G.722.1 : の音声プロトコルについての情報 非常に丈夫でエラーに強い G.722.1 音声プロトコルが ViewStation FX または VS4000 にプログラムされています。両方のシステムがサポートしている場合は、回線レートによって、G.722.1 か G.722 が自動的に選択されます。336 Kbps 以下の場合、システムでは G.722.1 が使用されます。それ以上の速度では、G.722. が使用されます。G.722 では、48 Kbps、56 Kbps、または 64 Kbps が使用できます。H.323 で G.722 を使用する場合は、必ず 64 Kbps を使用します。H.320 では、通話の速度に応じて、自動的にバイト率を選択します。

G. 722.1 と 音声エラー補正 : G. 722.1 は拡張フレーム損失補正をサポートしており、この音声標準をサポートしているシステム間で、自動的にまた透明に作動しています。これは、不足しているスピーチ データを検出し置き換えるアルゴリズムに基づいており、このようにして高度の音質を維持しています。

ダイヤル方式設定

「ダイヤル方式設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[ダイヤル方式設定] を選択します。

この画面では、平行してダイヤルされる ISDN チャンネルの数を定義します。デフォルトでは、ISDN チャンネルは一度に 3 本ダイヤルされます。PRI システムでは、平行してダイヤルされるチャンネルの数を選択します。

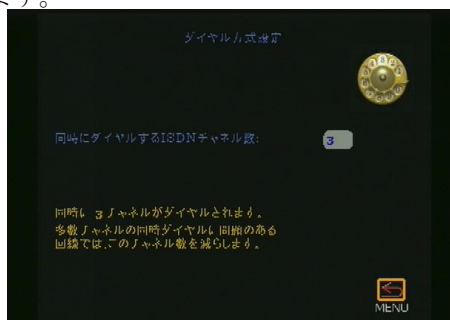


図 4-13. 「ダイヤル方式設定」画面

ダイヤル速度

「ダイヤル速度」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[ダイヤル速度] を選択します。

「ダイヤル速度」画面では、通話を行う際に利用できるダイヤル速度を指定します。リモコンの矢印ボタンを使用して、各速度の右のボックスをハイライトし、[選択] ボタンを押して速度を選択します。速度を選択すると、赤いチェックマークが表示されます。



図 4-14. 「ダイヤル速度」画面

詳細 BRI 設定

このセクションでは、以下の画面に対する情報と設定を説明します。

- IMUX 設定 (149 ページ)
- ISDN 番号 (150 ページ)
- 自動 SPID 検出 (150 ページ)
- 音質設定 (151 ページ)
- ダイヤル方式設定 (152 ページ)
- ダイヤル速度 (153 ページ)

IMUX 設定

「BRI 設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]を選択します。以下の「IMUX 設定」画面が表示されます。



図 4-15. 「IMUX 設定」画面

以下のセクションでは、「IMUX 設定」画面からアクセスできる画面の説明をします。

ISDN 番号

1. 「ISDN 番号」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[ISDN 番号] を選択します。「ISDN 番号」画面が表示されます。
2. 「ISDN 番号」画面で、市外局番および ViewStation FX または VS4000 に割り当てる ISDN 番号を入力します。この番号は、ISDN 回線を購入した際にサービス プロバイダから受け取っているはずです。

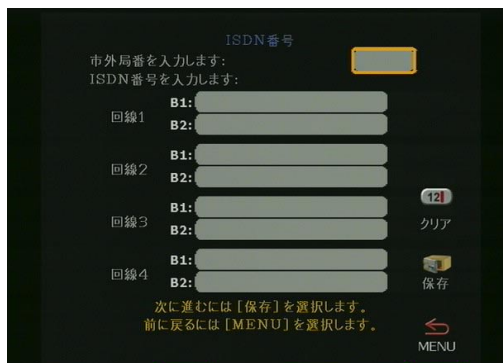


図 4-16. 「ISDN 番号」画面

自動 SPID 検出

1. 「自動 SPID 検出」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[SPIDS] を選択します。「自動 SPID 検出」画面が表示されます。

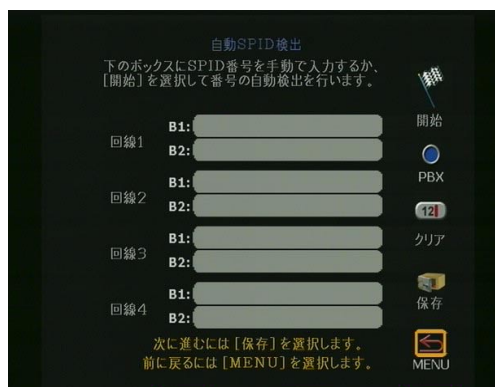


図 4-17. 「自動 SPID 検出」画面

注記 この画面が表示されるのは、国名画面で国として米国またはカナダを選択した場合です。

2. ViewStation FX または VS4000 の Service Profile ID numbers（サービス プロファイル ID 番号）を入力します。内線電話システム（PBX）に接続している場合は、SPID を入力する必要はありません。

SPID 番号が解らないときは、[開始] アイコンをハイライトしてリモコンの [選択] アイコンを押します。すると、ISDN 回線と関連した SPID 番号を自動的に検出するプロセスが開始されます。このプロセスは 10 分間ほどかかることもありますが、普通は 3 分間以内です。

音質設定

1. 「音質設定」画面にアクセスするには、[システム管理] > [管理者設定] > [通信設定] > [IMUX 設定] > [音質設定] を選択します。
2. 「音質設定」画面では、音声プロトコルで使用するダイヤル速度のしきい値を設定できます。選択速度またそれ以下の場合、システムでは G.728 音声プロトコルが使用されます。選択速度以上の場合、システムでは G.722 音声プロトコルが使用されます。G.722 は高質の音声を提供しますが、48 Kbps の通話帯域幅を使用します。G.728 は電話と同質の音声を提供し、通話帯域幅は 16 Kbps しか使用しません。
3. ビデオ プロトコルを設定するには、リモコンの [+] と [-] ボタンを使用して、スライダを移動します。H. 320 の通話中は、音声バーを変更しても何の影響もありません。H. 323 の通話中は、この画面にアクセスできないことに注意してください。

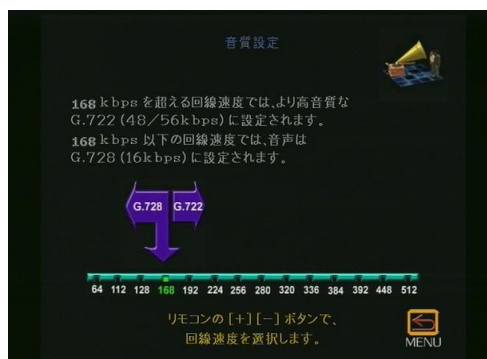


図 4-18. 音質設定

G. 722 と G. 722.1 の音声プロトコルについての情報：非常に頑丈でエラーに強い G. 722.1 音声プロトコルが ViewStation FX または VS4000 にプログラムされています。両方のシステムがサポートしている場合は、回線レートによって、G. 722.1 か G. 722 かを自動的に選択します。336 Kbps 以下では、システムは G. 722.1 を使用します。それ以上の速度では、G. 722. を使用します。

G. 722 では、48 Kbps, 56 Kbps, または 64 Kbps を使用できます。H. 323 が G. 722 を使用する場合は、必ず 64 Kbps を使用します。H. 320 では、通話の速度に応じて、自動的にバイト レートを選択します。

G. 722.1 と 音声エラー補正：G. 722.1 では拡張フレームロス補正をサポートしており、この音声標準をサポートしているシステム間で自動的にまた透明に作動しています。これは、不足しているスピーチ データを検出し置き換えるアルゴリズムに基づいており、このようにして高度の音質を維持します。

ダイヤル方式設定

1. 「ダイヤル方式設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[ダイヤル方式設定] を選択します。
2. 「ダイヤル方式設定」画面で、各 ISDN チャンネルをダイヤルする方法を定義します。通常、全チャンネルは同時にダイヤルされます。

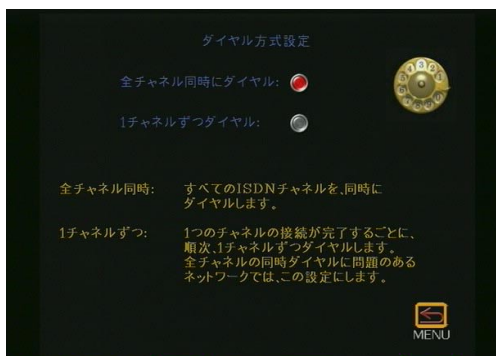


図 4-19. 「ダイヤル方式設定」画面

ダイヤル速度

1. 「ダイヤル速度」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [通信設定] > [IMUX 設定] > [ダイヤル速度] を選択します。
2. 「ダイヤル速度」画面では、通話を行う際に利用できるダイヤル速度を指定します。これを行うには、リモコンの矢印ボタンを使用して各速度の右のボックスをハイライトし、[選択] ボタンを押して速度を選択します。速度を選択すると、赤いチェックマークが表示されます。




図 4-20. 「ダイヤル速度」画面

LAN/H. 323 詳細設定

このセクションでは、以下の画面に対する設定情報を含んでいます。

- LAN / イントラネット (DHCP、DNS サーバ、および WINS サーバ) (155 ページ)
- H. 323 設定 (メイン) (157 ページ)
 - H. 323 設定 (基本構成) (157 ページ)
 - サービス品質とファイアウォール (159 ページ)
 - ダイアル速度 (161 ページ)
 - ゲートウェイ / ゲートキーパー (161 ページ)
 - ゲートウェイ番号 (164 ページ)
 - ゲートウェイ (ゲートウェイ設定) (165 ページ)
- ストリーミング (166 ページ)
- SNMP 設定 (167 ページ)
- グローバル アドレス帳 (169 ページ)
 - グローバル アドレス帳 (サーバ) (169 ページ)
 - グローバル アドレス帳基本設定 (170 ページ)
 - ダイアル ルール 1 (172 ページ)
 - ダイアル ルール 2 (174 ページ)
- グローバル管理 (メイン) (175 ページ)
 - グローバル管理 (設定) (175 ページ)
 - グローバル管理情報 (178 ページ)

注記 画面での情報編集を完了したら、変更を保存して前の画面に戻りますが、それには 2 つの方法があります。リモコンの [メニュー] ボタンを押すか、画面の [メニュー] アイコンをハイライトして、 ボタンを押します。

ViewStation FX または VS4000 の設定画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H.323] を選択します。
「LAN」画面が表示されます。

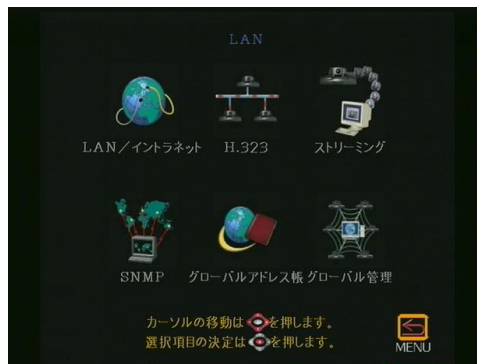


図 4-21. 「LAN」画面

以下のセクションでは、「LAN」画面からアクセスできる基本設定画面の説明をします。

LAN / イントラネット

「LAN / イントラネット」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/ イントラネット] を選択します。「LAN / イントラネット」画面では、ViewStation FX または VS4000 に対する LAN ホスト名、DHCP そして WINS 設定を変更できます。

DHCP 設定: ViewStation FX または VS4000 が LAN に接続されている場合は、[Client (クライアント)] オプションを [DHCP] フィールド (DHCP が利用できる場合) で変更します。ViewStation FX または VS4000 を、ネットワークに接続していない PC に直接に接続している場合は、このフィールドの [Server (サーバ)] オプションを有効にします。

注記 [サーバ] ボタンが「LAN / イントラネット」で表示されるのは、Allow System to be a DHCP Server (システムを DHCP サーバとして許可) オプションが、Softupdate アプリケーションの「システム情報」画面で事前に有効にされている場合だけです。

この詳細は、128 ページの「PC を使用したソフトウェアのアップグレード」を参照してください。

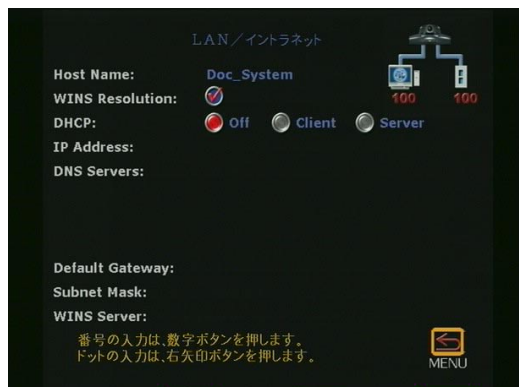


図 4-22. 「LAN / イン트라ネット」画面

注意 ViewStation FX または VS4000 が LAN で他のコンピュータに接続されている場合は、[サーバ] オプションを選択しないでください。選択すると、LAN には既に DHCP サーバがあるのに、ViewStation は LAN のコンピュータに IP アドレスを送ってしまいます。すると、システムネットワーク問題が生じ、管理者が修理しなければならなくなります。

H. 323 設定（メイン）

「H. 323 設定」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] を選択します。メイン「H. 323 設定」画面が表示されます。

以下のセクションでは、メイン「H. 323 設定」画面からアクセスできる設定画面について説明します。



図 4-23. 「H. 323 設定」（メイン）画面

H. 323 設定（基本構成）

「H. 323 設定」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [設定] を選択します。「H. 323 設定」メイン画面が表示されます。

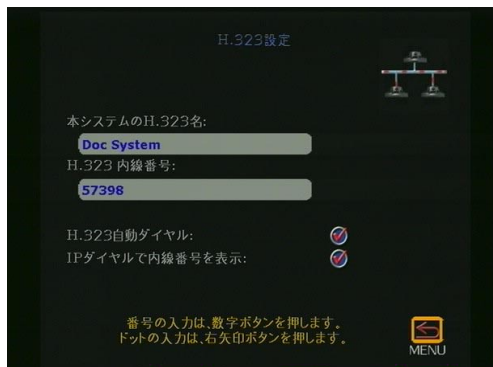


図 4-24. 「H. 323 設定」（基本構成）画面

この画面では、ViewStation FX または VS4000 でダイヤルするのに使用できる H. 323 名と内線を設定できます。

- **本システムの H. 323 名**：システム名が H. 323 名として表示されますが、この画面で変更できます。
- **H. 323 内線番号 (E. 164)**：これは、受信通話に対する特定 LAN デバイスにアクセスするのに必要な番号です。内線を簡単に覚えられる番号に変更できます。管理者が特定の名前と内線を保持している場合もあります。ネットワークにゲートキーパーをインストールしてある場合は、第三者が H. 323 名または内線を使用してユーザーを呼び出すことができます。H. 323 名と内線はゲートキーパーに登録されます。
- **H. 323 自動ダイヤル**：このオプションが有効にされていると、FX または VS4000 では、ユーザーが実行する通話タイプ (IP または ISDN) をビデオ番号フォーマットに基づいて自動検出できます。このため、[ISDN] と [H. 323] フィールドは、「テレビ電話」画面では見えません。このオプションのデフォルト値は有効です。
- **IP ダイヤルで内線番号の表示**：この内線は、ゲートウェイを通して通話する場合に必要です。このオプションを選択すると、[内線] フィールドが「テレビ通話」画面で表示されません。

H. 323 名と内線を変更する前には、ネットワーク管理者に相談してください。管理者が、ユーザーに使用してもらいたい特定の名前と内線を持っている場合があります。

サービス品質とファイアウォール

「QoS / ファイアウォール」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [QoS] を選択します。「QoS/ ファイアウォール」画面が表示されます。

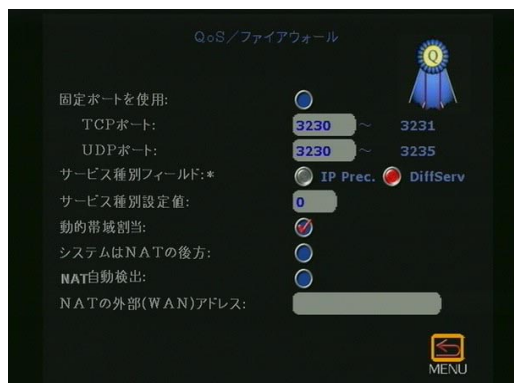


図 4-25. 「QoS / ファイアウォール」画面

この画面で以下のオプションを設定します。

- **固定ポートを使用**：ファイアウォールを使用する場合には、ViewStation FX または VS4000 に割り当てられている固定ポートを指定します。多地点通話でのポート割当についての詳細は 62 ページの「多地点通話とファイアウォール情報」を参照してください。
- **サービス 種別フィールド**：以下の 2 つのオプションの 1 つを選択します。
 - **IP Precedence**：これは、ViewStation FX または VS4000 にされる IP パッケージに与えられる優先レベルを示す番号です。値は 0 から 7 までの間です。このオプションを選択した場合は、[サービス種別設定値] フィールドに値を入力します。
 - **DiffServ**：これも、優先レベルを示す番号です。値は 0 から 63 までの間です。このオプションを選択した場合は、[サービス種別設定値] フィールドに値を入力します。
- **サービス種別設定値**：上記で選択した [サービス種別フィールド] オプションの値を入力します (IP Precedence または Diffserv)。

- **動的帯域割当**：動的帯域幅割当の使用を指定します。
ViewStation FX と VS4000 の動的帯域幅機能は自動的に最適の通話回線速度を見つけてます。通話中に過剰なパケット損失が生じた場合には、動的帯域幅機能はパケット損失がなくなるまで回線速度を減らします。パケット損失がなくなったら、今度はパケット損失が生じるまで、動的帯域幅機能は回線速度をだんだんに向上させます。この時点で、動的帯域幅機能は回線速度を少し下げ、最大スループットで最少のパケット損失になるようにします。これは、動的帯域幅をサポートするエンドポイントとの通話でもサポートされています。
- **システムは NAT の後方**：このオプションは、ViewStation FX または VS4000 に NAT Outside (WAN) Address (NAT の外部 (WAN) アドレス) フィールドで外部 IP アドレスとして表示される IP アドレスを使用するように指示します。VPN (Virtual Private Network [仮想プライベート通信網]) をネットワーク接続に使用する場合は、[システムは NAT の後方] が選択されていないことを確認してください。
- **NAT 自動検出**：このオプションが選択されている場合は、ViewStation FX または VS4000 は NAT デバイスから IP アドレスを取得できます。
- **NAT の外部 (WAN) アドレス**：NAT で使用される外部 IP アドレスを指定します。ViewStation FX または VS4000 が外部 IP アドレスを検出できなかった場合には、ここで入力できます。

NAT (Network Address Translation [ネットワーク アドレス変換]) 後方での操作に ViewStation FX または VS4000 を構成する方法の詳細については、219 ページの「ネットワーク アドレス変換」を参照してください。

ダイヤル速度

「ダイヤル速度」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [ダイヤル速度] を選択します。「ダイヤル速度」画面が表示されます。



図 4-26. 「ダイヤル速度」画面

この画面では、通話を行う場合に利用できるダイヤル速度を設定できます。ユーザーのダイヤル方法を簡単にするために、速度数を制約できます。

ゲートウェイ / ゲートキーパー

以下の画面（「ゲートウェイ / ゲートキーパー」、「ゲートウェイ番号」、そして「ゲートウェイ設定」）は、Polycom OneDial™ に結実した複雑な設定プロセスの一部です。Polycom の専用機能である Polycom OneDial™ では、複雑な設定ステップ、番号、接頭語コードなどを隠したままで、通話や多地点会議を行うことができます。Polycom OneDial™ とグローバルディレクトリの設定についての詳細は、付録 J 287 ページの「Polycom OneDial™ とグローバルディレクトリ」を参照してください。

ゲートキーパーは、そこを通るネットワークトラフィックを監督する「ネットワーク管理者」です。アドレス解決、帯域幅制御、受付制御などの機能を管理します。ゲートキーパーに登録されていないと、IP 通話を行う権限がありません。

ゲートウェイは、互換性がない 2 つのネットワークを接続するノードです。通常は、コードとプロトコルの変換プロセスを実行します。

注意： 以下の設定画面では、ゲートウェイとゲートキーパーを十分に理解している必要があります。これらのオプションの基本設定は知識豊かなネットワーク管理者が取り扱うべきです。

「ゲートウェイ / ゲートキーパー」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [ゲートウェイ / ゲートキーパー] を選択します。「ゲートウェイ / ゲートキーパー」画面が表示されます。

注記 この画面で基本設定しても、ゲートキーパーまたはゲートウェイを使用しないと効果がありません。

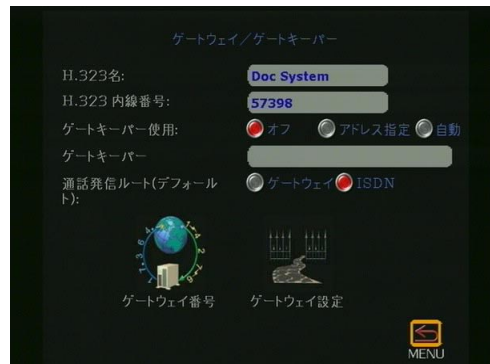


図 4-27. 「ゲートウェイ / ゲートキーパー」画面

この画面で以下のオプションを設定します。

- **H. 323 名：** ゲートキーパーに登録してあれば、これが ViewStation FX または VS4000 を呼び出すのに使用する名前です。
- **H. 323 内線番号 (E. 164)：** H. 323 内線は、ゲートウェイを通り抜ける着信通話に必要です。この内線番号は、特定の LAN デバイスと関連しています。通話の送信者は、ゲートウェイ背後の特定 LAN デバイスにアクセスするには、H. 323 内線を入力するようにプロンプトされます。この番号は、電話会社またはネットワーク管理者が割り当てます。
- **ゲートキーパーの使用**
 - **オフ：** ゲートキーパーにアクセスする必要がない場合には、このオプションを選択します。

注記 ゲートキーパーは IP-to-IP LAN 通話に必要ありません。この場合には、[オフ] オプションを選択します。

- **アドレス指定**：ゲートキーパーを指定するには、[アドレス指定] オプションと ゲートキーパーの IP アドレスまたは名前を [ゲートキーパーの IP アドレス] フィールドに入力します (たとえば、gatekeeper.companyname.usa.com) この情報はネットワーク管理者から取得できます。
- **自動**：ViewStation FX または VS4000 が自動的に利用可能なゲートキーパーを自動的に検出できるようにするには、[自動] オプションを選択します。
- **ゲートキーパー**：[アドレス指定] を [ゲートキーパー使用] で選択した場合には、このフィールドでゲートキーパーの IP アドレスを入力します。
- **通信発信ルート (デフォルト)**：このフィールドが表示されるのは、ゲートウェイまたは ISDN が以前に選択されている場合です。
 - **ゲートウェイ**：このオプションを選択するのは、送信通話がゲートウェイによって取り扱われる必要がある場合です。この情報はネットワーク管理者から取得できます。
 - **ISDN**：このオプションを選択するのは、ViewStation FX または VS4000 が ISDN 回線に接続されている場合です。ISDN がデフォルト値です。

ゲートウェイ番号

「ゲートウェイ番号」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [ゲートウェイ / ゲートキーパー] > [ゲートウェイ番号] を選択します。「ゲートウェイ番号」画面が表示されます。

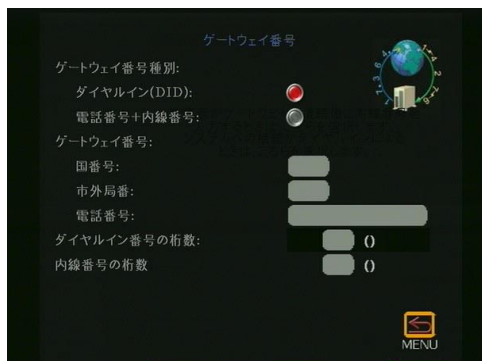


図 4-28. 「ゲートウェイ番号」画面

この画面で以下のオプションを設定します。

- ゲートウェイ番号種別
 - **ダイヤルイン (DID) :** DID を使用する場合、DID の桁数は Called Party Line Identifier (呼び出しパーティー回線識別子) として ISDN サービス プロバイダから供与されるゲートウェイのフル DID のポーションです。そして、これがゲートキーパーにアドレス解決として渡たされます。これが有効に作動するには、エンドポイントが DID のこのポーションを E.164 エイリアスとしてゲートキーパーに登録する必要があります。
 - **電話番号 + 内線番号 :** 有効にされている場合、このオプションは通話が直接通じるようにします (ゲートウェイ番号 + ### + 内線を 1 つの番号としてダイヤル)。
- **ゲートウェイ番号 :** この番号は外部世界 (WAN) が LAN にアクセスするために使用する番号です。LAN の特定デバイスにアクセスするにはゲートウェイ番号では H.323 内線が必要とされます (161 ページの「ゲートウェイ / ゲートキーパー」に説明されています)。国番号、市外局番そして電話番号を入力します。
- **ダイヤルイン番号の桁数 :** これはネットワーク管理者によって決定されます。

- **内線番号の桁数**：これはネットワーク管理者によって決定されます。

ゲートウェイ（ゲートウェイ設定）

「ゲートウェイ」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [ゲートウェイ / ゲートキーパー] > [ゲートウェイ設定] を選択します。「ゲートウェイ」画面が表示されます。

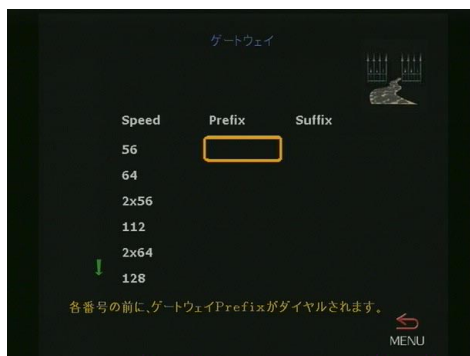


図 4-29. 「ゲートウェイ」画面

ゲートキーパーに送信する接頭番号または接尾番号を基本設定できます。接頭番号は、特定データレートで通話をダイヤルするのに、どのゲートウェイを使用するかを識別します。すると、ゲートキーパーは接頭番号で識別されるゲートウェイに通話をダイレクトします。

たとえば、256 Kbps ゲートウェイ通話を行う際に、ViewStation FX または VS4000 が接頭番号 “90” を番号の前に挿入します。接頭番号は、ゲートキーパーにどのゲートウェイを使用して 256 Kbps 通話をダイヤルするか伝えます。

ダイヤル速度に対する適切なコードを決定するには、ゲートウェイ指示マニュアルを参照します。これらのコードは、ゲートウェイとゲートキーパーにプログラムされています。この情報は、知識の豊かなネットワーク管理者が設定すべきです。

ストリーミング

「ストリーミング」画面 [システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[ストリーミング]に進みます。「ストリーミング」画面が表示されます。

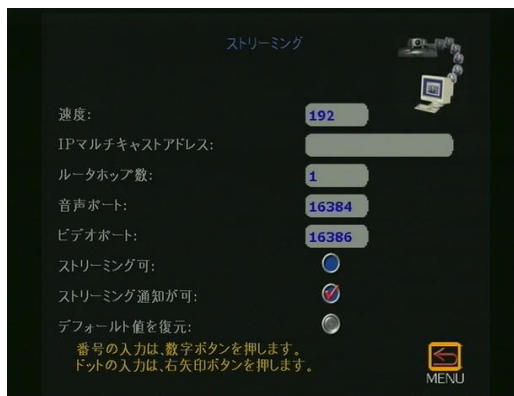


図 4-30. 「ストリーミング」画面

この画面では、ストリーミング パラメータが設定できます。以下のオプションを基本設定または修正できます。

- **速度**：ストリーミングに許可する速度（192, 256, 384, 512 Kbps）を選択します。ネットワーク帯域幅に影響する場合があるので、ネットワーク管理者に相談してください。
- **IP マルチキャスト アドレス**：デフォルト アドレスはシリアル番号に基づいて入力されます。これは、同じマルチキャストアドレスを別の ViewStation FX または VS4000 のアドレスとしないようにするためです。このアドレスは変更できます。これは複数のエンドポイントにストリームをユニキャストするリレー サーバのアドレスです。
- **ルーター ホップの数**：これは、ストリームの通過を許可するルーターの数です。これによって、ストリーミング画像を見ることができる人数をコントロールできます。
- **音声ポート**：これは固定ポートです。ユーザーがファイアウォールを通り抜けなくてはならない場合は、ネットワーク管理が変更することがあります。
- **ビデオポート**：これは固定ポートです。ユーザーがファイアウォールを通り抜けなくてはならない場合は、ネットワーク管理が変更することがあります。

- **ストリーミング可**：このオプションが有効にされると、ユーザー インターフェイスのメイン画面のアイコンが [電話] から [通話タイプ] に変更されます。[通話タイプ] をクリックして、「ストリーミング通話」画面にアクセスします。「ストリーミング通話」画面で [ミーティング パスワード] を設定できます。[開始] アイコンをクリックして、ストリーミングを開始します。
- **ストリーミング通知が可**：このオプションを有効にすると、ViewStation FX または VS4000 にログオンしたユーザーの名前が画面に表示されます。
- **デフォルト値を復元**：このオプションを選択すると、速度、IP マルチキャスト アドレス、ルーター ホップ数、音声ポートおよび画像ポートのデフォルトが復元されます。

SNMP 設定

「SNMP 設定」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [SNMP] を選択します。「SNMP 設定」画面が表示されます。



図 4-31. 「SNMP 設定」画面

SNMP (Simple Network Management Protocol [シンプルネットワーク管理プロトコル]) は複雑なネットワークの管理に使用される一連のプロトコルです。SNMP はデバイスまたは操作が正しく機能しているかどうかネットワークに知らせます。ViewStation FX または VS4000 は以下について SNMP レポートをします。

- リモコン電源が低下しています。
- 長いことオフになっていた後に、システムの電源がオンになりました。

- 認証失敗：間違ったパスワードで管理者としてログインしようとしてしました。
- 認証成功：管理者としてのログオンに成功しました。
- 話中回線以外の理由で通話に失敗しました。
- ユーザーはテクニカル アシスタンス センターにサポートを要請しました。
- ViewStation FX または VS4000 が電話中またはテレビ通話中です。
- 電話またはテレビ通話が切断されました。

以下の情報を「SNMP 設定」画面で入力できます。

- **Enable SNMP (SNMP 有効)**：このフィールドで SNMP を有効または無効にします。
- **Administrator Contact Name (管理者連絡先名前)**：このシステムをリモート管理する責任者の名前を入力します。このフィールドのデフォルト設定は IT Administrator (IT 管理者) です。
- **SNMP Console IP Address (SNMP コンソール IP アドレス)**：ViewStation FX または VS4000 がした SNMP トラップの IP アドレスを入力します。SNMP Console IP Address (SNMP 管理コンソール) がエージェントからの情報を受信できる場合、0.0.0.0 をこのフィールドに入力します。
- **Location Name (場所名)**：ViewStation FX または VS4000 の場所を入力します。このフィールドは、ViewStation FX または VS4000 の自国のシステム名がデフォルトとなります。
- **Community Name (コミュニティ名)**：このエージェントを有効にしたい SNMP 管理コミュニティを入力します。このフィールドのデフォルト設定は Public (公衆) です。
- **System Description (システム説明)**：このフィールドはテレビ会議デバイスのタイプを表示します。このフィールドは編集できません。

グローバル アドレス帳

この画面からアクセスできる機能を使用するには、ユーザーの組織が Polycom Global Management System (GMS) ソフトウェアを使用していなければなりません。

「グローバル アドレス帳」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル アドレス帳] を選択します。

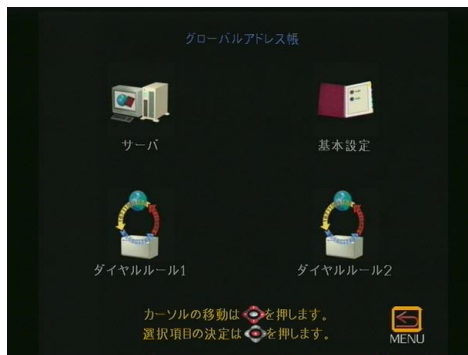


図 4-32. 「グローバル アドレス帳」画面

「グローバル アドレス帳」画面から、「グローバル アドレス (サーバ)」、「グローバル アドレス帳基本設定」、「ダイヤル ルール 1」、そして 「ダイヤル ルール 2」画面にアクセスできます。

グローバル アドレス帳 (サーバ)

「グローバル アドレス帳」(サーバ)画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル アドレス帳] > [サーバ] を選択します。

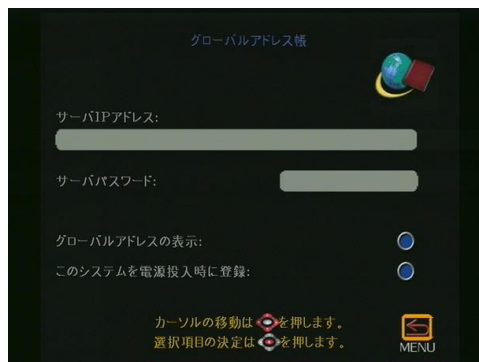


図 4-33. 「グローバル アドレス帳」(サーバ)画面

この画面で以下の GAB サーバ オプションを設定します。

- **サーバ IP アドレス** : サーバの IP アドレスを入力します。
- **サーバ パスワード** : サーバ パスワードがあれば、それを入力します。
- **グローバル アドレスの表示** : このオプションを有効にすると、グローバル アドレスが ViewStation FX または VS4000 アドレス帳に表示されます。
- **このシステムを電源投入時に登録** : このオプションを有効にすると、電源投入時に ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスが GAB に表示されます。このオプションを有効にしないと、ViewStation FX または VS4000 は GAB にアクセスできませんが、他の ViewStations FX または VS4000 のグローバル アドレス帳に表示されません。

グローバル アドレス帳基本設定

「グローバル アドレス帳設定」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル アドレス帳] > [基本設定] を選択します。

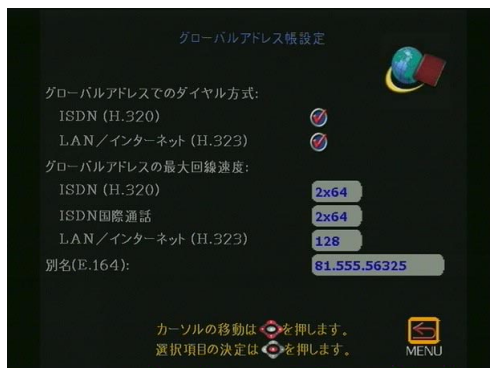


図 4-34. 「グローバル アドレス帳設定」画面

この画面では、以下の GAB 表示とダイヤル基本設定を設定できます。

- グローバルアドレスでのダイヤル方式：** グローバル アドレス帳で表示したいタイプの ISDN 番号を有効にします。このオプションを有効にすると、IP アドレスが ViewStation FX または VS4000 アドレス帳に表示されます。「通信タイプ設定」画面で有効にした通話オプションだけが、この画面に表示されます。
- グローバル アドレスの最大回線速度：** 有効にした各通話タイプの回線速度を設定します（ISDN テレビ通話、国際 ISDN 通話、LAN/Internet 通話）。選択した速度は、ViewStation FX または VS4000 アドレス帳のグローバル アドレス帳エントリにだけ影響を与えます。
- 別名 (E.164)：** このフィールドを選択して、「別名 (E.164)」画面にアクセスします。[ISDN]、[ゲートウェイ]または[内線]を優先エイリアスとして選択します。

ダイヤル ルール 1

「ダイヤル ルール 1」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル アドレス帳] > [ダイヤル ルール 1] を選択します。

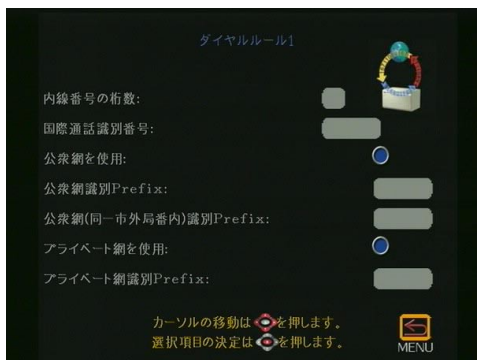


図 4-35. 「ダイヤルルール 1」画面

この画面で、ネットワーク ダイヤル ルールを設定できます。

ViewStation FX または VS4000 番号は、他の ViewStation FX または VS4000 のアドレス帳に自動的に標準化されます。グローバルダイヤルは電話の送受信をする ViewStation FX または VS4000 の番号、市外局番（または都市局番）、国番号、および国際ダイヤルアクセス番号を考慮に入れます。

たとえば、ユーザーがパリに住んでいて、ユーザーの ViewStation FX または VS4000 番号がパリ、シドニー、ニューヨークおよびケープタウンのアドレス帳に正しく表示されているとします。

ユーザーのシステムが組織のプライベート網にもパブリック網にもあります。ユーザーがプライベート網内外の他システムを呼び出す方法を GAB に決定させるには、追加情報を加える必要があります。ユーザーのシステムが公衆網だけを使用する場合は、「ViewStation FX または VS4000」画面に何も入力する必要はありません。

GAB は公衆網またはプライベート網を使用する場合、以下のダイヤル ルールを使用します。

電話の受信先	電話の送信先	通話タイプ
公衆網	公衆網	公衆網
公衆網	プライベート網	公衆網
プライベート網	公衆網	公衆網
プライベート網	プライベート網	プライベート網

以下のネットワーク ダイアル ルールを基本設定することができます。

- 内線番号の桁数**：ダイヤル内線に桁数を設定します。これは通常 PBX 上のシステムに該当します。ユーザーのシステムに同じ市外局番（または市 / City コード）と接頭番号でダイヤルするサイトからは、ユーザーの内線番号だけを使用してダイヤルします。たとえば、ユーザーの ViewStation FX または VS4000 番号が 1 512 231 5432 で、内線の桁数を 5 と設定すると、1 512 231 5632 の番号のシステムは 15432 を使用してユーザーのシステムにダイヤルします。
- 国際通話識別番号**：国際通話を行うのに使用しなければならない接頭番号を入力します。この接頭番号は自動的に GAB からダイヤルする国際電話番号の前に挿入されます。これは、ふつう ViewStation FX または VS4000 の「国名」画面に透過的に設定されている international dialing prefix（国際通話識別番号）を上書きします。
- 公衆網を使用**：このオプションを有効にするのは、システムがプライベート網の外にダイヤルできる場合です。
- 公衆網識別 Prefix**：ダイヤル電話局番を PBX の要求に応じて入力し、公衆網の外にダイヤルします。この接頭番号は GAB から公衆網へ番号をダイヤルする前に、自動的に挿入されます。
- 公衆網（同一市外局番内）識別 Prefix**：同じ市外局番内で必要な場合は、接頭番号を入力します。
- プライベート網を使用**：このオプションを有効にするのは、ユーザーの組織が通話にプライベート網を使用する場合です。
- プライベート網識別 Prefix**：プライベート網内でダイヤルするのに必要なダイヤル接頭番号を入力します。この接頭番号を使用するのは、通話している ViewStation FX または VS4000 がユーザー組織のプライベート網にアクセスがある場合です。

ダイヤル ルール 2

「ダイヤル ルール 2」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル アドレス帳] > [ダイヤル ルール 2] を選択します。この画面では、異なった市外番号に対するネットワーク ダイヤル接頭番号を設定できます。

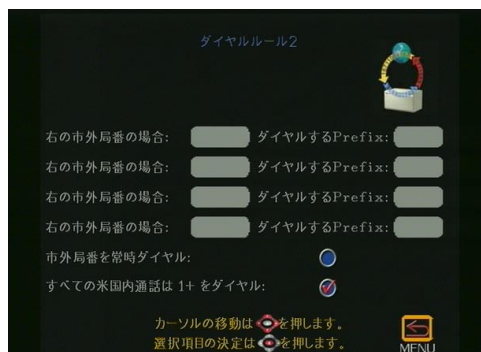


図 4-36. ダイヤルルール 2 画面

プライベート網が一定の市外局番（または市コード）にアクセスするのに、ダイヤル接頭番号を必要とする場合には、この画面でそれらの接頭番号を設定できます。

この接頭番号は市外局番の前にダイヤルされます。たとえば、場所によっては 1-800-xxx-xxxx 番号をダイヤルする前に、9 が必要になります。

ViewStation FX または VS4000 と同じローカル市外局番を持つ場所に市外局番をダイヤルする必要がある場合、[市外局番を常時ダイヤル] オプションを有効にします。これは、10 桁をダイヤルする場合に必要なことがあります。

グローバル管理（メイン）

「グローバル管理」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル管理] を選択します。

この画面からアクセスできる機能を使用するには、ユーザーの組織が Polycom Global Management System (GMS) ソフトウェアを使用していなければなりません。GMS は、遠隔地から ViewStation FX または VS4000 をモニタ、設定また保守するのに使用されます。

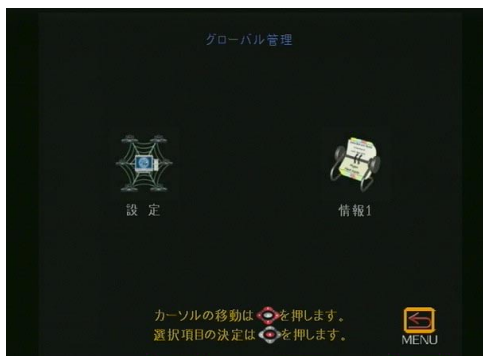


図 4-37. 「グローバル管理」（メイン）画面

グローバル管理（設定）

「グローバル管理設定」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [グローバル管理] > [設定] を選択します。以下の「グローバル管理」設定画面が表示されます。[設定] アイコンを選択して、「グローバル管理」画面にアクセスします。

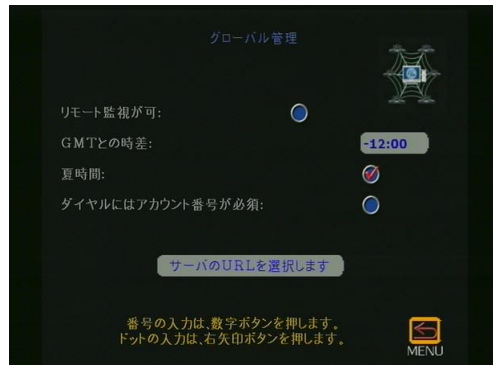


図 4-38. 「グローバル管理」(設定) 画面

この画面で以下のオプションを設定します。

- リモート監視が可**：このオプションを有効にして、システム管理者が通話あるいは ViewStation FX または VS4000 カメラがインストールされている部屋を表示できるようにします。
 プライバシー上の理由で、このオプションを有効にできるのはこちら側の ViewStation FX または VS4000 からだけです。また、オフィスの プライバシーを保護したい場合には、このオプションを無効にします。
 [リモート監視が可] オプションを有効にする際は、FX または VS4000 リモコンの [情報] を二度押してヘルプを要求することができます。GMS にシステムを追加するには、グローバル管理管理者 IP アドレスを入力して ViewStation FX または VS4000 を再起動します。
- GMT との時差**：ViewStation FX または VS4000 がインストールされている場所とグリニッジ標準時 (GMT) との時差を入力します。こうすると、グローバル管理者が、管理している ViewStation FX または VS4000 のローカル時間を表示できます。
- 夏時間**：このオプションを有効にするのは、ViewStation FX または VS4000 がインストールされている地域が Daylight Savings Time (夏時間) に参加している場合です。

- **ダイヤルにはアカウント番号が必須**：このオプションを使用するには、GMS 2.0 以降を使用しなければなりません。この機能は、トラッキングして適切な部署に請求できるように、特定アカウントにログ通話するのに使用されます。このオプションが選択されていると、最初にアカウント番号を入力せずに通話を行うことはできません。このアカウント番号は電話に特有な情報とともに GMS サーバ データベースに保存されます。通常は、GMS 管理者がアカウント番号を割り当てます。
- **アカウント番号の確認**：このオプションが表示されるのは、[ダイヤルにはアカウント番号が必須] が有効にされている場合です。通話が接続されると、ViewStation FX または VS4000 はアカウントが存在することを GMS サーバに確認します。アカウントが存在しない場合には、通話は切断されます。
- **グローバルマネージャーの URL (選択サーバ URL)**：このオプションを選択して、「グローバル管理者 URL」画面にアクセスします。次の画面が表示されます。

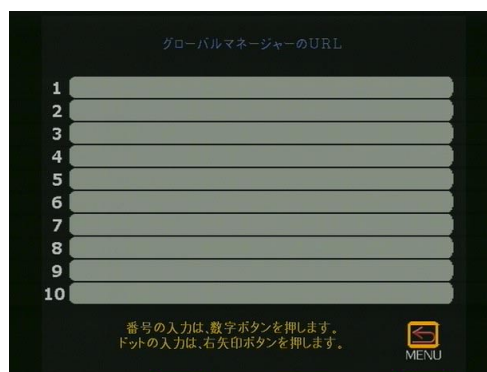


図 4-39. 「グローバル マネージャーの URL」画面

この画面では、システムをリモートから管理する GMS サーバを一覧します。ユーザーが GMS に登録されている場合は、この情報は自動的にこの画面に表示されます。ある場合には、GMS サーバ IP アドレスを手動で追加します。この情報はネットワーク管理者によって提供されます。

最初のフィールドはアカウント確認を実行するプライマリ GMS サーバのアドレスを含んでいます（上記の「アカウント番号の確認」を参照）。

不正確な IP アドレスをこのフィールドに入力すると、サーバとグローバル アドレスにアクセスできなくなります。

グローバル管理情報

「グローバル管理情報」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H.323] > [情報 1] を選択します。次の画面が表示されます。

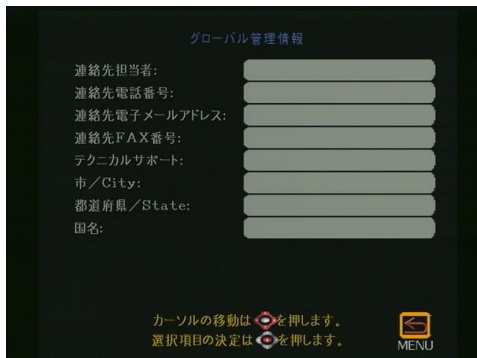


図 4-40. 「グローバル管理情報」画面


この画面では、GMS を管理する人の連絡先情報を入力します。ViewStation FX または VS4000 ユーザーが援助を必要とする場合は、この画面の連絡先情報を参照できます。

システム情報と診断

この章には「診断」画面、「ユーザー設定」画面そして「管理者設定」画面についての情報が含まれています。

「診断」、「ユーザー設定」そして「管理者設定」画面に、アクセスする「システム情報」画面についても説明します。

システム情報

システムと診断アイコンにアクセスするには、「システム情報」画面で、[システム情報] アイコンを選択して、リモコンの  ボタンを押します。「システム情報」画面が表示されます。

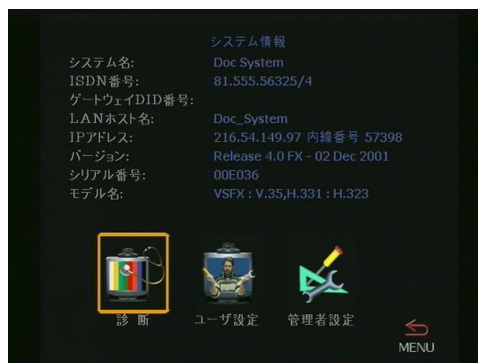


図 5-1. 「システム情報」画面

「システム情報」画面が、変更できない情報を表示します。以下の情報が提供されます。

- **システム名** : システム名は、ネットワーク管理者が ViewStation FX または VS4000 に割り当てた名前です。
- **ISDN 番号** : ISDN 番号は、ViewStation FX または VS4000 に割り当てられた ISDN 番号です。

- **ゲートウェイ DID 番号**：このフィールドには、「ゲートウェイ番号」画面で既に基本設定されているゲートウェイ番号（および内線）が表示されます。このフィールドが見えないのは、ゲートウェイが基本設定されていない場合です。ゲートウェイに関する詳細は、161 ページの「ゲートウェイ / ゲートキーパー」を参照してください。
- **LAN ホスト名**：この名前は、TCP/IP 設定用に割り当てられた ViewStation FX または VS4000 の名前です。LAN ホスト名を割り当てるには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [LAN/ イントラネット] に進みます。
- **IP アドレス**：IP アドレスは自動的に DHCP サーバを通して割り当てられるか、または手動で設定されます（静的）。手動で IP アドレスを設定するには、[システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [LAN/ イントラネット] に進みます。
- **バージョン**：ソフトウェアのバージョンとリリース日がこのフィールドに表示されます。ViewStation FX または VS4000 ソフトウェア バージョンの追加情報は、[システム情報] > [管理者設定] > [ソフト / ハード] > [ソフトウェア] にあります。
- **シリアル番号**：シリアル番号は各 ViewStation FX または VS4000 に一意です。この番号は、ユニットの底のバーコードステッカーにもあります。この番号は修正できません。
- **モデル名**：ViewStation FX または VS4000 のモデル タイプが表示されます。

[診断]、[ユーザー設定] そして [管理者設定] が画面の下に表示されます。これらのアイコンは、さまざまな設定または診断タスクを実行できる画面にリンクされています。

診断

ViewStation FX または VS4000 の「診断」画面からネットワーク統計の表示、あるいはさまざまな診断テストを実行することができます。

「診断」画面にアクセスするには、[システム情報] と [診断] を選択します。次の画面が表示されます。



図 5-2. 「診断」画面

以下のセクションでは、ネットワーク情報画面と診断テスト画面について説明します。「診断」画面には、リモコンの [MENU (メニュー)] ボタンを押して、いつでも戻ることができます。

注記 ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスから、統計の表示あるいは診断テストを実行できます。この方法について詳細は、116 ページの「システム設定とリモート管理」を参照してください。

ネットワーク情報

「ネットワーク情報」画面にアクセスするには、[システム情報] > [診断] > [ネットワーク情報] を選択します。

「ネットワーク情報」画面は、テレビ通話のネットワーク プロトコルとデータ速度を表示します。

詳細情報

「詳細情報」画面にアクセスするには、[システム情報]>[診断]>[詳細情報] を選択します。

「詳細情報」画面は、通話状態についての詳細な情報を表示します。通話中は、音声とビデオ双方の転送と受信スピードが表示されます。

Polycom Video Error Concealment (Polycom 画像エラー補正) (PVEC) : パケット損失が [% パケット損失] フィールドで指示されると、[画像プロトコル] フィールドは [PVEC] を [Tx] そして / または [Rx] データ列に、アクティブ画像プロトコルとして表示します。

PVEC は H. 263 画像コーディング標準に基づいた Polycom 専用の画像コーディング アルゴリズムです。その目的は、H. 323 通話のパケット損失によって生じる画像低下を透過的に修正することです。PVEC は洗練された画像補正アルゴリズムを使用して、消失画像データの内容を推定し継ぎ目なしに画像を修正します。PVEC は、高レベルのパケット損失が生じても、非常に効果的に画像の質を保持できることが証明されています。PVEC 機能がアクティブで画像の質低下が生じた場合は、IP ネットワークが適切に機能していないことを指示します。

PVEC がないと、最低レベルのパケット損失で、フレーム画像がぼけたり固定したりします。FX または VS4000 システムがパケット損失を検出すると、PVEC は自動的に起動されます。また、パケット損失が無視できるようになると、自動的にオフになります。

この機能は、テレビ通話、スナップショットそして 4CIF モードで作動します。今の時点では、デュアル ストリーム モードまたは 60 フィールド画像に基づいた標準では作動しません。


通話状況

「通話状況」画面にアクセスするには、[システム情報]>[診断]>[通話状況] を選択します。

この画面は、通話で使用する各チャネルの通話状況インジケータを表示します。この画面では、通話で機能していないチャネルを判別できます。通話進行インジケータの 1 つをハイライトして、そのチャネルの通話番号を表示します。この番号をダイヤルした番号と比較するか、または非機能のチャネルをチェックします。

カラーバー

「カラーバー」画面にアクセスするには、[システム情報]>[診断]>[カラーバー] を選択します。

テレビ モニタのカラー設定をテストするには、[カラーバー表示] アイコンをハイライトしてリモコンの  ボタンを押します。カラーバーが画面一杯に表示されます。テレビモニタのコントロールを使用して、カラー設定を調節します。



リモコンの任意のボタンを押すと、「カラーバー」画面に戻ります。

音声

「音声」画面にアクセスするには、[システム情報]>[診断]>[音声] を選択します。


「音声」画面から、「トーン作成」と「音声メータ」画面にアクセスできます。

以下の手順でトーンを生成します。

1. [トーン生成] アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。
2. 「トーン生成」画面が、このテストの実行方法の説明とともに表示されます。
3. [トーン生成] アイコンを再度ハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。
4. トーンが聞こえたら、ViewStation FX または VS4000 とテレビ モニタの音量制御を快適なレベルに調節します。
5. トーンを停止するには、任意のボタンを押します。

注記 システムが通話中の場合には、相手側サイトでもトーンが聞こえます。

以下の手順で、音声レベルを表示します。

1. 「音声メータ」アイコンをハイライトして、リモコンの  ボタンを押します。「音声メータ」画面は、ViewStation FX または VS4000 に接続されたすべての音声入力音声レベルを指示します。
2. マイクに話しかけて、音声レベルをテストします。

ニア ループ

「ニア ループ」画面にアクセスするには、[システム情報]>[診断]>[ニア ループ]を選択します。

「ニア ループ」画面では、ViewStation FX または VS4000 のエンコード/ディコードのテストができます。これで、H. 320 テレビ通話の問題を診断できます。通話中にニア ループテストを行うと、遠距離サイトでは自身のループが見えます。ループを停止するには、リモコンの任意ボタンを押します。

システム リセット

「システム リセット」画面にアクセスするには、[システム情報]>[診断]>[システム リセット]を選択します。

「システム リセット」画面は、既成のシステム基本設定をクリアします。システム設定とアドレス帳エントリを消去できます。いったんシステムをリセットすると、最初に ViewStation FX または VS4000 の電源をオンにしたときと同じように、システム基本設定画面を案内します。

システムをリセットするには、ViewStation FX または VS4000 シリアル番号を入力し、[リセット]ボタンを選択します。

注記 システムをリセットする前に、必ずシステム情報をコピーします。システムをリセットすると、すべての設定が失われます。

ユーザ設定

「ユーザー 設定」画面は、ViewStation FX または VS4000 に基本的オプションを設定するのに使用されます。

「ユーザー設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[ユーザー設定] を選択します。

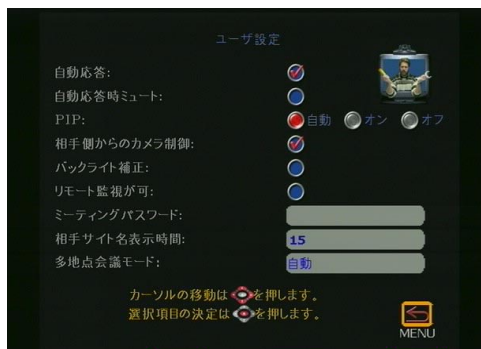


図 5-3. 「ユーザー設定」画面

「ユーザー設定」画面を使用して、以下のオプションを設定します。

- **自動応答**：[自動応答] オプションは ViewStation FX または VS4000 が自動的に受信通話に応答するようにします。このオプションが選択されていないと、受信通話は手動で応答するか、相手側が切断するまでリングします。
- **自動応答時ミュート**：このオプションが選択されていると、マイク ポッドがオフになり ViewStation FX または VS4000 が自動応答モードの場合、相手側からこちら側が聞こえないようにします。ViewStation FX または VS4000 がミュート状態の場合、メイン画面左側下にあるマイクの画像が表示され、両側にミュートであることを通知します。こちら側がミュートの状態の場合、マイク ポッドの赤色のライトが点灯します。
- **PIP (Picture-in-Picture [ピクチャ イン ピクチャ])**：PIP 機能は、テレビ会議中にこちら側からこちら側のカメラ表示が調整できるようにします。PIP が有効にされている場合、リモコンが平らな表面に置かれていると、画面の右上隅の [カメラ] アイコンが見えなくなります。PIP モードでは、以下のオプションが利用できます。

- **自動**：通話が最初に接続され、リモコンが平らな表面に置かれていない場合、ViewStation FX または VS4000 は PIP ウィンドウを表示します。
- **オン**：ViewStation FX または VS4000 は PIP ウィンドウを表示し、ウィンドウはテレビ通話が完了するまで右下隅に留まります。
- **オフ**：PiP を無効にします。
- **相手側からのカメラ制御**：このオプションを使用すると、相手側のユーザーはこちら側のカメラを調節することができます。このオプションを有効にすると、相手側ユーザーは、リモコンの [FAR (相手側)] ボタンを押して、こちら側のカメラのフレーミングや角度を調整できます。
- **バックライト補正**：[バックライト補正] は対象が背景よりも暗く見える会議室で使用されます。有効にすると、カメラは自動的に明るい背景に調節します。
- **リモート監視が可**：リモート監視では、ユーザーは ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスを使用して、会議前に会議室をリモート表示することができます。
- **ミーティング パスワード**：meeting password (ミーティング パスワード) は ViewStation FX または VS4000 の Web インターフェイスの非管理機能への無制限アクセスを許可または制限するのに使用されます。
- **相手サイト名表示時間**：このオプションは、相手側名を指定した秒数間だけ表示します。
 - **15 秒**：デフォルトでは、相手側の名前は 15 秒間表示されます。
 - **空白**：相手側名は、通話が終了するまで表示されます。
- **多地点会議モード**：MP モードは [自動]、[会話]、[プレゼンテーション] または [全画面] に設定できます。デフォルトでは、[自動] に設定されています。MP モードを変更するには、[MP モード] フィールドをハイライトしてリモコンの [選択] ボタンを押します。「多地点設定」画面が表示されます。MP モードについての詳細は、63 ページの「多地点表示モード」を参照してください。


管理者設定

「管理者設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]を選択します。

ViewStation FX または VS4000 設定の表示または変更は、「管理者設定」画面から行います。



図 5-4. 「管理者設定」画面

表示または変更したい設定オプションのアイコンを選択して、リモコンの  ボタンを押します。「管理者設定」画面には、リモコンの [メニュー] ボタンを押して、いつでも戻ることができます。[通話 / 終了] ボタンを押して、メイン画面に戻ります。

注記 ViewStation FX または VS4000 設定の表示または変更は、ViewStation FX または VS4000 Web インターフェイスから行うことができます。この詳細は、116 ページの「システム設定とリモート管理」を参照してください。

以下のセクションでは、「管理者設定」画面下にグループ化されている画面について説明します。

基本設定

「基本設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定] を選択します。基本設定画面は、基本的な管理設定の設定に使用されます（普通はネットワーク管理者によってコントロールされます）。

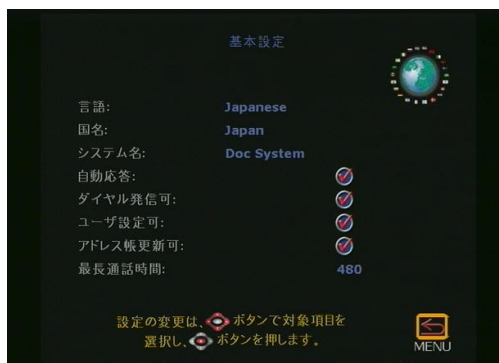


図 5-5. 「基本設定」画面

この画面で以下の基本設定オプションを変更します。

- **言語**：言語フィールドを選択して、言語フラグが表示される「ようこそ」画面にアクセスします。ViewStation FX または VS4000 ユーザー インターフェイスで使用したい言語に関連する適切なフラグを選択します。
- **国名**：[国名] フィールドをクリックして、「国名設定」画面にアクセスします。



図 5-6. 「国名設定」画面

「国名設定」画面のフィールドでは、ViewStation FX または VS4000 が存在する国を選択することができます。また、ユーザーの場所に国固有の通話パラメータ指定することもできます。

- **システム名**：スクリーン キーボードを使用して、ViewStation FX または VS4000 の名前を入力します。34 文字までの英数字文字組合せを使用できます。
- **自動応答**：このオプションを有効にして、ViewStation FX または VS4000 が受信通話に自動的に応答するようにします。
- **ダイヤル発信可**：このオプションを有効にして、ユーザーが ViewStation FX または VS4000 から通話が行えるようにします。このオプションが無効な場合、ViewStation FX または VS4000 は通話の受信だけが行えます。Web インターフェイスからは通話を発信できます。
- **ユーザー設定可**：このオプションは、「システム情報」画面の [ユーザー設定] アイコンを有効または無効にするのに使用します。管理者はこのオプションを使用して、[ユーザー設定] 機能がユーザーによって変更されるのを防ぎます。
- **アドレス帳変更可**：このオプションが有効にされていると、ユーザーは [新規]、[編集] と [削除] アイコンに「アドレス帳」画面でアクセスできます。
- **最長通話時間**：通話の長さに許可される最大分数を入力します。通話がその時間を超過すると、メッセージが表示され通話を切断するか続行するかたずねます。1 分以内に応答しないと、通話は自動的に切断されます。
- **キーパッド音声確認**：リモコンの数字キーを押さえると、このオプションは音声応答（英語）を有効にします。

通信設定

「通信設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定] を選択します。

以下に一覧するように、「通信設定」画面から V.35, PRI そして BRI ネットワーク インターフェイスに共通な画面、および各ネットワーク インターフェイスの特定画面とにアクセスできます。

V.35 ネットワーク インターフェイス用

多地点設定 (w/H.323) : 63 ページの「多地点表示モード」参照。

通信タイプ設定 : 21 ページの「通信タイプ設定」参照。

通信設定 : 18 ページの「システムの初期設定」参照。「通信設定」画面から以下の設定画面にもアクセスできます。

- **ダイヤル速度 :** 134 ページの「ダイヤル速度」参照。
- **ブロードキャスト モード :** 132 ページの「ブロードキャスト モード」参照。
- **ダイヤル方式設定 :** 135 ページの「ダイヤル方式設定」参照。

電話番号 : 138 ページの「PRI ISDN 番号」参照。

V.35 詳細設定 : 131 ページの「V.35 詳細設定」参照。

PRI インターフェイス用

インバース マルチプレクサ情報 (IMUX 設定) : [IMUX 設定] アイコンをクリックして、以下の設定画面にアクセスします。

- **番号 (PRI ISDN 番号) :** 138 ページの「PRI ISDN 番号」参照。
- **PRI ネットワーク :** この画面から設定画面にアクセスできます。
 - **PRI 情報 :** 137 ページの「詳細 PRI 設定」参照。
 - **PRI 設定 :** 138 ページの「PRI ネットワーク (T1 と E1)」参照。
 - **詳細 PRI 設定 :** 137 ページの「詳細 PRI 設定」参照。
 - **PRI 状況 :** 142 ページの「PRI 状況 (T1 と E1)」参照。

- **音質設定**：146 ページの「音質設定」参照。
- **ダイヤル方式設定**：135 ページの「ダイヤル方式設定」参照。
- **ダイヤル速度**：153 ページの「ダイヤル速度」参照。

通信タイプ設定：21 ページの「通信タイプ設定」参照。

多地点設定：63 ページの「多地点表示モード」参照。

ダイヤル速度：153 ページの「ダイヤル速度」参照。

BRI ネットワーク インターフェイス用

インバース マルチプレクサ情報 (IMUX 設定)：[IMUX 設定] アイコンをクリックして、以下の設定画面にアクセスします。

- **番号 (ISDN 番号)**：150 ページの「ISDN 番号」参照。
- **SPIDS (自動 SPID 検出)**：150 ページの「自動 SPID 検出」参照
- **音質設定**：146 ページの「音質設定」参照。
- **ダイヤル方式設定**：152 ページの「ダイヤル方式設定」参照。
- **ダイヤル速度**：153 ページの「ダイヤル速度」参照。

通信タイプ設定：21 ページの「通信タイプ設定」参照。

多地点設定：63 ページの「多地点表示モード」参照。

通信設定：「通信設定」画面にはシステム設定中に入力された情報が含まれています。

ユーザーは、以下の情報をさらに修正することができます。

- **国番号**：ViewStation FX または VS4000 が位置している国に対応する国番号を使用します。
- **市外局番**：ViewStation FX または VS4000 を使用している場所の市外局番または STD 局番。
- **電話番号 A**：ViewStation FX または VS4000 に割り当てられているプライマリ ISDN 番号。
- **電話番号 B**：ViewStation FX または VS4000 に割り当てられているセカンダリ ISDN 番号。

- **スイッチ プロトコル**：適切な ISDN スイッチ プロトコルを選択します。ISDN プロバイダを選択して ISDN スイッチ プロトコルを決定します。
- **ISDN Prefix**：ISDN ダイアル接続番号は、ViewStation FX または VS4000 が PBX の後ろにある場合、外線にアクセスする場合に使用します。

LAN

「LAN」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323] を選択します。「LAN」画面が表示されます。

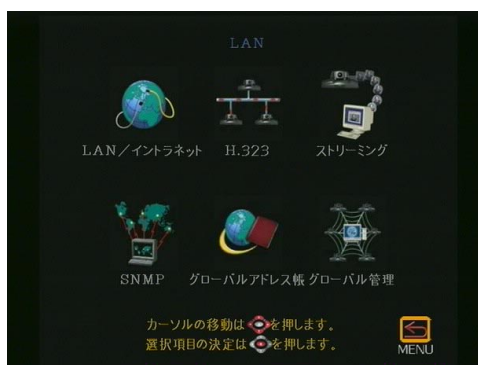


図 5-7. 「LAN」画面

LAN サブ画面（「LAN/ イントラネット」、「H. 323」、「ストリーミング」、「SNMP」、「グローバル アドレス」そして「グローバル管理」）に表示される LAN 設定を変更する情報については、154 ページの「LAN/H. 323 詳細設定」を参照してください。

データ会議

ViewStation FX または VS4000 は T.120- 互換で、ShowStation IP または Microsoft NetMeeting と組み合わせられた場合には、データ会議をサポートします。

データ会議機能は、2 地点間テレビ通話またはこの機能をサポートする外部 H. 320 ブリッジ/MCUs だけで利用できます。

データ会議は H. 320 通話中だけ利用でき、また相手側システムでサポートされていないかもしれません。

「データ会議」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[データ会議]を選択します。「データ会議」画面が表示されます。

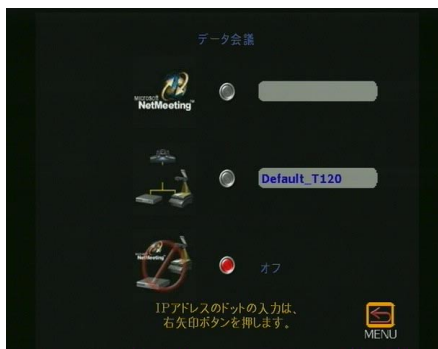


図 5-8. 「データ会議」画面

以下のセクションで説明するように、この画面から Microsoft NetMeeting または ShowStation IP を通してデータ会議を有効にできます。

ViewStation FX または VS4000 でのデータ会議の有効化

ViewStation FX または VS4000 データ会議機能を使用したい場合は、以下の手順で ViewStation FX または VS4000 で有効にしなければなりません。

1. [システム情報]>[管理者設定]>[データ会議]を選択します。「データ会議」画面が表示されます。
2. NetMeeting または ShowStation IP オプションのどちらかを有効にします。ShowStation IP オプションが表示されるのは、ShowStation が ViewStation FX、VS4000、または LAN に接続されている場合だけです。

注記 データ会議は H.320 通話中だけ利用でき、また相手側システムでサポートされていなければなりません。

ShowStation IP の使用

ShowStation が最善に作動するのは、2 つの ViewStation FX または VS4000 システム、2 つの LAN カード付き ShowStation そして RJ-45 ケーブルがある場合です。次の手順で、この基本構成を接続し使用します。

1. 付属の青色 RJ-45 ケーブルを使用して、ShowStation LAN カードを ViewStation FX または VS4000 の後にある青色 LAN ポートに接続します。ShowStation と ViewStation FX または VS4000 を同じ LAN に接続できます。
2. ShowStation の LAN 名を検索します。[ツールバー] アイコンを ShowStation のメイン メニューでクリックします。[サイト名] は [基本設定] タブの下です。
3. ViewStation FX または VS4000 の電源を入れます。
4. [システム情報] > [管理者設定] > [データ会議] を選択して ShowStation の名前を「データ会議」画面に入力します。
5. 2 つの ViewStation FXs または VS4000 の間にテレビ通話を実行します。ViewStation FX または VS4000 が接続すると、ShowStations は自動的に互いに同期化します。接続すると、ホワイトボードが ShowStation の LCD ディスプレに表示されます。テレビ通話がつながってから約 30 秒してホワイトボードが表示されます。ShowStation の使用準備が完了しました。

Microsoft NetMeeting の使用

NetMeeting を使用したデータ会議に関する詳細は、122 ページの「NetMeeting の基本設定」を参照してください。

音声設定

「音声設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[音声設定] を選択します。

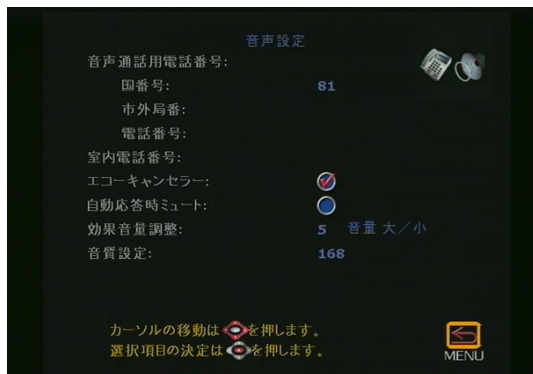


図 5-9. 「音声設定」画面

「音声設定」画面は ViewStation FX または VS4000 システム電話情報と音声プロパティを基本設定するのに使用します。

- **音声通話用電話番号**：国番号、市外局番、そして ViewStation FX または VS4000 システム電話番号に関連した番号を入力します。
- **室内電話番号**：ViewStation FX または VS4000 が存在する部屋に割り当てられた電話番号 も入力できます。
- **エコー キャンセラー**：このオプションはデフォルトでは有効です。これは、相手側サイトから自分の声がループバックして聞こえるのを防ぎます。
- **自動応答時ミュート**：受信通話をミュートまたは非ミュートにできます。マイク ポッドの上のボタンを押すか、リモコンのミュートボタンを押すまで、受信通話はデフォルトではミュートです。
- **効果音量調整**：このオプションでは、リモコンで画面上のオブジェクトを選択した場合に、ViewStation FX または VS4000 が出す音の音量を調節できます。リモコンのボリューム キー (VOL) を使用します。

- 音質設定**：このフィールドを選択して、「音質基本設定」画面にアクセスします。この画面は、「音質設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[音質設定]）からもアクセスできます。この画面では、使用する音声プロトコルを決定する通話速度しきい値を設定できます。このオプションと音声エラー補正に関する詳細は、146 ページの「音質設定」を参照してください。

注記 通話での音質の変更は、H. 320 通話でのみ可能です。
H. 323 通話中の場合、変更はできません。

画像設定

「画像設定」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]を選択します。次の画面が表示されます。

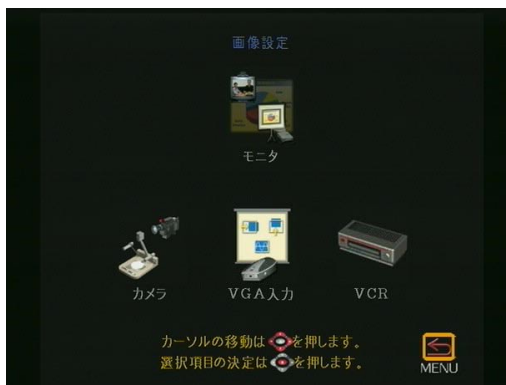


図 5-10. 「画像設定」画面

この画面から以下のサブ画面にアクセスできます。

モニタ (197 ページ)

カメラ (200 ページ)

VCR 設定 (202 ページ)

VGA 入力 (Visual Concert FX が ViewStation FX または VS4000 に接続されている場合だけです)。(203 ページ)

これらの画面と関連サブ画面は以下のセクションで説明します。

モニタ

「モニタ」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [画像設定] > [モニタ] を選択します。この画面から、「テレビモニタ」と「グラフィック モニタ」画面にアクセスできます。

テレビモニタ

「テレビモニタ」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [画像設定] > [モニタ] > [テレビモニタ] を選択します。次の画面が表示されます。

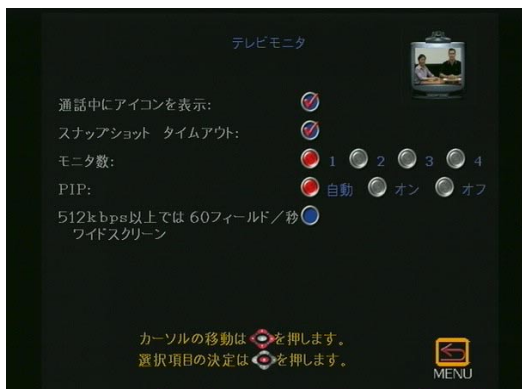


図 5-11. 「テレビモニタ」画面

この画面で以下のオプションを有効にします。

- **通話中にアイコンを表示**：このオプションはデフォルトで有効です。ライブ テレビ通話で、スクリーン グラフィックをすべてオフにしたい場合は（アイコンと情報テキストを含む）、このオプションを選択解除にします。
- **スナップショット タイムアウト**：デフォルトでは、すべてのスライドとスナップショットは 4 分間表示されます。4 分間の表示時間が終了すると、ViewStation FX または VS4000 は自動的にライブ画像に戻ります。このオプションを無効にした場合、ユーザーがリモコンの [スナップショット] ボタンを押してライブ ビデオに戻すまで、スナップショットやスライドは画面上に表示されます。

注記 [スナップショット タイムアウト] オプションが両側で無効にされていると、ViewStation FX または VS4000 はデフォルトのタイムアウト 4 分に戻ります。

- **モニタ数**：システムに接続されているモニタ数を選択します。

注記 4 つのモニタがマルチウェイ通話で同時にサポートできます。この機能についての詳細は、70 ページの「4 モニタサポート」を参照してください。

- **PIP**：ピクチャ イン ピクチャ モード (PIP) を選択します。オンを選択すると、PIP が継続的に表示されます。[自動] を選択すると、リモコンの位置によって、PIP は表示または非表示になります。オフを選択すると、PIP は表示されません。
- **512Kbps 以上では 60 フィールド / 秒 ワイドスクリーン**：このオプションを有効にして、モニタが、H. 323 または H. 320 通話中に、広角画面ビデオ形式で、512 Kbps 以上で、表示されるようにします。このオプションが作動するのは、バージョン 4.0 以上の FX または VS4000 システム間です。1 つのシステムのバージョンが 4.0 より古い場合には、専用レターボックス フォーマットがサポートされています。

グラフィックモニタ

「グラフィックモニタ」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [画像設定] > [モニタ] > [グラフィックモニタ] を選択します。次の画面が表示されます。

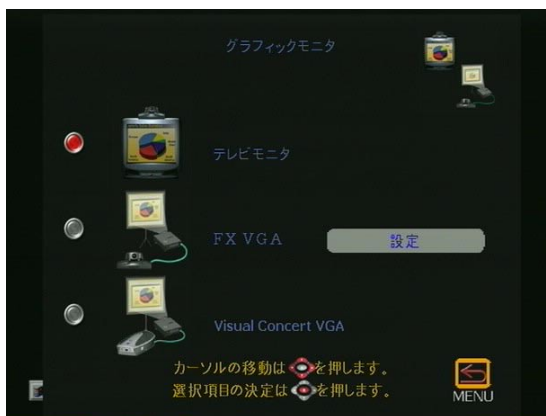


図 5-12. 「グラフィックモニタ」画面

この画面では、VGA モニタに適切な VGA モニタ設定を選択できます。以下のオプションが使用できます。

- **テレビモニタ**：このオプションが選択されていると、VGA モニタが利用でき、グラフィックと画像が テレビモニタに表示されます。
- **FX VGA**：このオプションを有効にするのは、ViewStation FX または VS4000 背面パネルに接続した高解像度の VGA モニタまたはプロジェクタがある場合です。VGA モニタの解像度を設定するには、[設定] を選択します。「FX VGA モニタ」画面が表示されます。

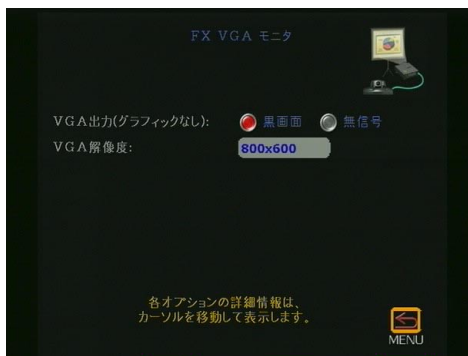


図 5-13. 「FX VGA モニタ」画面

以下の 2 つのオプションが使用できます。

- **グラフィックなしの VGA 出力**：[黒画面] を選択するのは、グラフィックも画像もない時には画面が黒くなるようにしたい場合です。[無信号] を選択するのは、VGA モニタが接続されていないかのように反応する場合です。
- **VGA 解像度**：[VGA 解像度] フィールドを選択して、ドロップダウン選択メニューにアクセスします。モニタまたはプロジェクタがサポートできる最大解像度を選択します。VGA モニタまたはプロジェクタのパフォーマンスについては、提供されたユーザー マニュアルを参照します。
- **Visual Concert VGA**：このオプションを有効にするのは、Visual Concert FX が ViewStation FX または VS4000 に接続されており、グラフィック モニタが直接に Visual Concert FX に接続されている場合です。このオプションを選択した場合、システムを有効にして、コンピュータ デスクトップを ViewStation FX または VS4000 VGA モニタに表示します。

カメラ

「カメラ」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]>[カメラ] を選択します。

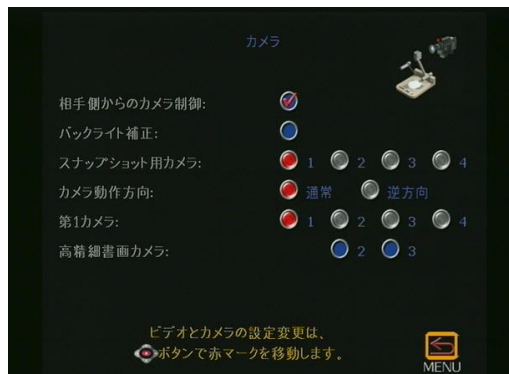


図 5-14. 「カメラ」画面

以下のオプションが使用できます。

- **相手側からのカメラ制御**：このオプションを有効にすると、相手側は、通話中にこちら側カメラを制御できます。
- **バックライト補正**：このオプションを有効にするのは、バックグラウンドが明るすぎる場合です。
- **スナップショット カメラ**：スナップショットをしたいデフォルト カメラを選択します。
- **カメラ動作方向**：カメラがリモコンの矢印と同じ方向または逆方向に動くように選択します。
- **第1カメラ**：ViewStation FX または VS4000 の電源を入れた時に使用するカメラを選択します。メイン カメラを切断することはできませんが、それをプライマリ カメラとして設定する必要はありません。
- **高精細書画カメラ（高解像度カメラ）**：このオプションを選択して、4CIF グラフィックを送信します。[高精細書画カメラ] フィールドで、対応する番号を選択して、以下の各デバイスを 4CIF（画像解像度標準）に設定します。
 - 1 = 第1カメラ
 - 2 = ドキュメント カメラ
 - 3 = VCR
 - 4 = 第2カメラ

4CIF について： ViewStation FX と VS4000 は両方とも、回線ごとに 704 ピクセル、ビデオ画像ごとに 576 回線で定義される画像解像度標準である 4CIF をサポートします。4CIF 解像度は

CIF（回線ごとに 352 ピクセル、ビデオ画像ごとに 288 回線）より 4 倍高度で、テレビ通信システムで共通にサポートされている標準です。4CIF ではより多くのデータが送信また処理されるので、画像がより鮮明になります。4CIF はドキュメント カメラまたは VGA スキャン変換器だけに実装されるべきで、ライブ画像モードにはお勧めしません、またサポートもされていません。

4CIF はこの標準をサポートしているテレビ通信システム間で作動します。受信システムが 4CIF をサポートしない場合には、送信システムは 4CIF データを送信しません。

システムが VS4000 の場合、VS4000 特定のカメラ設定オプションにアクセスできます。[VS4000 カメラ設定] を現在の「カメラ」画面で選択します。次の画面が表示されます。



図 5-15. 「VS4000 カメラ入力」画面

この画面では、VS4000 だけのカメラ装置を基本設定できます。4 つのカメラを VS4000 に接続できます。S-Video モードには 3 つ、またパン / 傾斜 / ズーム モードには 2 つのカメラを設定できます。

カメラを無効化するには、カメラ入力を S-Video またはコンポジット（VS4000 だけ）に設定して、カメラのパン / 傾斜 / ズーム機能を有効にします。適切なラジオ ボタンを選択するか、またはサークルをチェックします。

VCR 設定

「VCR 設定」画面に アクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]>[VCR 設定] を選択します。次の画面が表示されます。

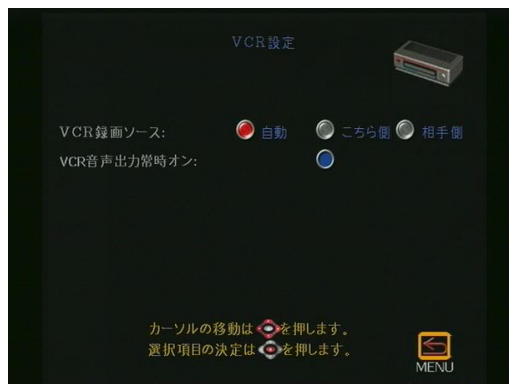


図 5-16. 「VCR 設定」画面

「VCR 設定」画面では、以下のオプションを有効にします。

- **VCR 録画ソース**：[自動] に設定すると、このオプションでは、VCR が 2 地点間通話での現在の話し手を自動的に録音します。[こちら側] が選択されると、VCR はこちら側プレゼンテーションを録音します。[相手側] が選択されると、相手側が録音されます。
- **VCR 音声アウト常にオン**：このオプションを有効にすると、システムは 2 つの VCR で作動します。1 つは録音用で、1 つは再生用です。また、こちら側と相手側の音声を選択した画像入力に必要な場合に、部屋の音声アプリケーションに対して、VCR 音声アウトを使用することを許可します。

注記 同じデバイスを VCR 入力と VCR 出力の両方に接続した場合は、音声フィードバック ループを防ぐためにこの機能を無効にする必要があります。

VGA 入力調節

この画面が表示されるのは、Visual Concert FX デバイスが ViewStation FX または VS4000 に接続されている場合です。「VGA Input Calibration (VGA 入力調整)」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[画像設定]>[VGA 入力]を選択します。「VGA 入力調整」画面が表示されます。

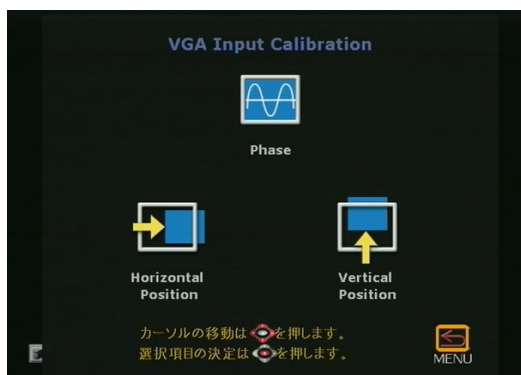


図 5-17. 「VGA 入力調整」画面

通常、Visual Concert FX は自動的に PC またはラップトップと同期化します。しかし、この画面のツールを使用して Visual Concert FX を PC に調整する必要がある場合もあります。

セキュリティ

「セキュリティ」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[セキュリティ]を選択します。

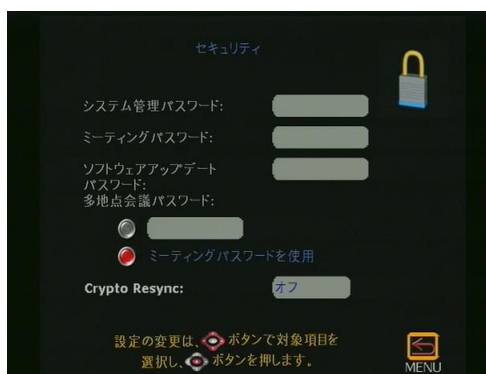


図 5-18. 「セキュリティ」画面

この画面では、ViewStation FX または VS4000 にリモートからアクセスするのに使用するパスワードを設定できます。ViewStation FX または VS4000 にパスワードを設定する必要はありません。

会議パスワードは、サードパーティーの MCU を使用する多地点会議で必要になることがあります。追加情報は 65 ページの「多地点会議パスワード」の詳細を参照してください。

ソフトウェア / ハードウェア

「ソフトウェア / ハードウェア」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [ソフト / ハード] を選択します。

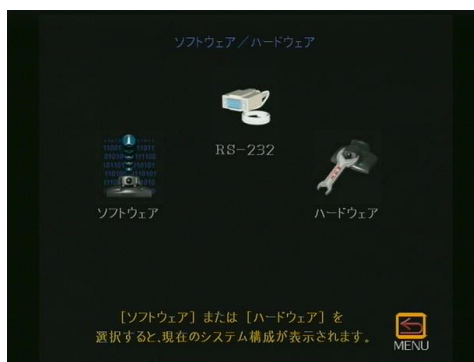


図 5-19. 「ソフトウェア / ハードウェア」画面

この画面から「ソフトウェア」、「RS-232」そして「ハードウェア情報」画面にアクセスできます。

注記 ISDN (H. 320) 通話中には、「アドレス帳送信」と「Far Site Software Update (相手側ソフトウェア更新)」画面にアクセスできます。「アドレス帳送信」画面に関する詳細は、72 ページの「アドレス帳へのエントリ追加」を参照してください。「相手側ソフトウェア更新」画面については、269 ページの「ISDN でのソフトウェア アップグレード (H. 320)」を参照してください。

ソフトウェア

「ソフトウェア」画面にアクセスするには、[システム情報] > [管理者設定] > [ソフト / ハード] > [ソフトウェア] を選択します。

ViewStation FX または VS4000 シリアル番号、バージョンそしてネットワーク インターフェイス特定がこの画面に表示されます。

RS-232

「RS-232」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[ソフト / ハード]>[RS-232] を選択します。次の画面が表示されます。

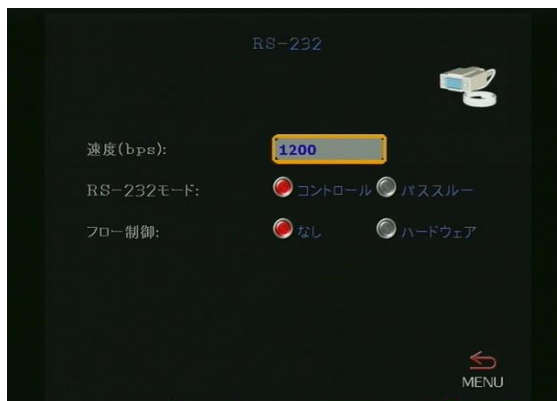


図 5-20. 「RS-232」画面

「RS-232」画面で [速度 (bps)]、[RS-232 モード] そして [フロー制御] オプションを基本設定します。

- 速度 (bps) : 以下のボーレートが ViewStation FX と VS4000 の RS-232 ポートでサポートされています。
 - 1200
 - 2400
 - 9600
 - 14400
 - 19200
 - 38400
 - 57600
 - 115200
- RS-232 モード : FX と VS4000 の RS-232 ポートは [コントロール] と [パススルー] の 2 つのモードをサポートしています。

コントロール モード：コントロール モードでは、RS-232 ポートに接続したデバイス（たとえば、PC）がリモート制御 API を使用して、ViewStation FX または VS4000 を制御できます。ドキュメンテーション CD に含まれている ViewStation FX と VS4000 リモコン API 文書を参照してください。

パススルー モード：Pass-Thru Mode（パススルーモード）では、両方のエンドポイントの RS-232 ポートの操作モードは、各エンドポイントのポート設定によります。以下のようにして、2 つの操作状況が生じます。

- パススルー モードからパススルー：モード両方のエンドポイントが [パススルー モード] に設定されています。
- パススルー モードから制御モード：こちら側が [パススルー モード] に設定されており、相手側が [制御モード] に設定されています。

以下では、操作モードの詳細について説明します。

パススルー モードからパススルー モード：パススルー モードに設定された 2 つのステーションは、基本的には各外部接続デバイス間のヌルモードとして機能します。これらの 2 つのステーションは、2 つの ViewStation FXs、または 2 つの VS4000s、または 1 つの ViewStation FX と 1 つの VS4000 であることができます。RS-232 ポートは H. 320 テレビ通話を通したデータ チャネルとして使用できます。こちら側の ViewStation FX または VS4000 ステーションの RS-232 ポートから受信したデータは、相手側エンドポイントへの通話を通してから、エンドポイントの RS-232 ポートに送信されます。同じように、相手側エンドポイントからのデータは、こちら側の ViewStation FX（H. 320 通話を通じて）に送信してから、こちら側 RS-232 ポートに送信されます。

データ チャネル速度は動的に割り当てられます。最大データ フロー レートは、通話の帯域幅に基づいています。

データ スループットは画像スループットに優先するので、画像帯域幅がデータ要件のサポートに制限されている場合もあります。

〔パススルー〕モードは専用機能で、両方のエンドポイントが ViewStation FX または VS4000 ステーションである場合だけサポートされています。RS-232 ポートは H.320 モードでのデータ パススルーだけをサポートします（ISDN または V.35）。H.323（IP）テレビ通話または多地点通話でのデータ パススルーはサポートされていません。ftp または Telnet などの代替ファイル送信方法が広く利用されています。

注記 〔パススルー〕モードでは、ローカル ステーションもリモート ステーションも同じデータレートに設定されている必要があります。

パススルー モードから制御モード：こちら側が〔パススルー〕モードに設定されていて、相手側が〔制御〕モードに設定されている場合、こちら側 RS-232 ポートに接続しているデバイスで、相手側のコマンドライン インターフェイスを使用し、相手側 ViewStation FX または VS4000 を制御できます。

以下の表は、各エンドポイントで基本設定された RS-232 モードに基づいたポート操作を要約したものです。

こちら側のモード	相手側モード	操作結果
制御	なし	こちら側 CLI（コマンドライン インターフェイス）
パススルー	制御	こちら側が相手側の CLI を制御
パススルー	パススルー	データは、こちら側 RS-232 ポートから相手側 RS-232 ポートに完全二重モードでパスされます。

- フロー制御：**ViewStation FX と VS4000 はハードウェアのフロー制御をサポートします。ハードウェアのフロー制御設定が、ViewStation FX または VS4000 と接続した両サイドの外部デバイスとの間で整合性があるように確認してください。

ハードウェア情報

「ハードウェア情報」画面にアクセスするには、[システム情報]>[管理者設定]>[ソフト / ハード]>[ハードウェア] を選択します。

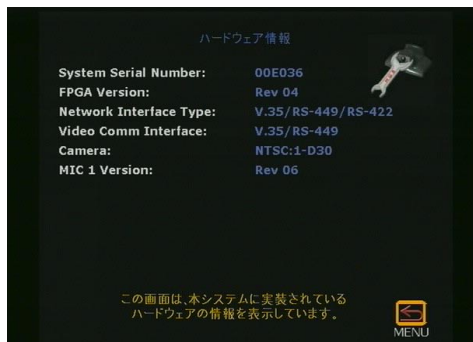


図 5-21. 「ハードウェア情報」画面

「ハードウェア情報」画面には、ViewStation FX または VS4000 を構成するハードウェア コンポーネントについての情報が含まれています。

Visual Concert FX が ViewStation FX または VS4000 に接続している場合は、Visual Concert ソフトウェア、VCFX In Resolution (VCFX イン解像度) そして VCFX Out Resolution (VCFX アウト解像度) についての情報が表示されます。

トラブルシューティング

音声

症状	原因	解決策
通話中の音量が足りません。	ViewStation FX または VS4000 での音量設定が低すぎます。	リモコンを使用して、ViewStation FX または VS4000 の音量を上げます。
	モニタの音量が低すぎます。	モニタまたは外部アンプの音量を上げます。
	マイク ポッドが話している人々から離れすぎています。	マイク ポッドを会議参加者の近くに動かしてください。
ViewStation FX VS4000 のスタートアップ音楽が内蔵 ViewStation FX または VS4000 のスピーカーから聞こえますが、モニタのスピーカーからは聞こえません。	モニタ スピーカーまたは音声アンプが正しく接続されていません。	モニタの音声接続と音量レベルを確認してください。
受信通話の呼出音とその他の効果音が大きすぎる、または小さすぎます。	効果音量が必要なレベルに設定されていません。	「音声設定」画面の効果音量を調整してください。効果音が必要な場合は、効果音量を 0 に設定します。
通話の音声がありません。	モニタの音声入力为正しく接続されていません。	〔診断〕の「Generate Tone (トーン生成)」画面で音声出力を確認します。スピーカーから 400 Hz のトーンが出ているのが聞こえるはずです。
	ViewStation FX または VS4000 がモニタの間違った音声入力に接続されています。	ViewStation FX または VS4000 音声出力線が、モニタで選択されたのと同じ入力コネクタに接続されていることを確認してください。
	相手側がミュートになっています。	[Far Site Mute (相手側ミュート)] アイコンを探します。相手側にマイクポッドのミュート解除を依頼します。
	ネットワーク回線エラーが多すぎます。	通話を切断し、後で再接続してください。

外部ワイヤレス マイクを使用した場合、相手側の音声クリップします。	ViewStation FX または VS4000 の音声入力オーバードライブしています。	ワイヤレス マイクの出力を下げます。ViewStation FX または VS4000 をローカル ループに入れて、音声鮮明に戻ってくるのが聞こえるまで、マイク出力を調節します。
マイクを使って話しているときにローカル音声聞こえます。	モニタまたは音声アンプが VCR 音声出力に接続されています。	モニタまたは音声アンプ ViewStation FX または VS4000 の音声モニタに接続します。
こちら側のサイトでエコーが聞こえます。	相手側のマイク ポッドの場所が音声スピーカーから近すぎます。	相手側のマイク ポッドを音声スピーカーから離して置くようにしてください。
	相手側の音量が大きすぎます。	相手側の音量を下げてください。
こちら側、または相手側で VCR 音声聞こえないか、VCR 画像が見えません。	VCR 入力を選択されていません。	[NEAR (ニア)] キーを 2 度押し、[VCR] アイコンを選択して、VCR 入力をオンにします。

画像

症状	原因	解決策
メイン モニタの画像が空です。	システムは 3 分間何の操作も行われないと「スリープ」モードになります。	リモコンでシステムのスリープ状態を解除してください。
最初のモニタと二番目のモニタが同じ画像を表示しています。	1 つだけのモニタが有効になっています。	ViewStation FX または VS4000 を「モニタ」画面で 2 モニタに有効にします。
	モニタが同じ出力に接続されています。モニタにはコンポジットと S-Video の出力があります。	ViewStation FX または VS4000 のモニタ 2 接続に、モニタ 2 を接続します。
通話中に画像が頻繁に固定します。	ネットワーク回線伝送エラーまたは IP LAN トラフィックが多すぎます。「診断」画面のエラー カウントをチェックして、より低い速度の IP 通話で試行します。	「診断」画面の下に [ニア ループ] テストを使用して、システムをチェックします。画像が固定しない場合には、相手側にも同じテストを実行するように依頼します。画像が固定する場合には、ISDN 回線に回線エラーがあります。 また、サービス プロバイダが提供する ISDN ループバック番号にテレビ通話を行って、テストすることもできます。

画像が遅いか、または安定しません。	64 Kpbs のチャンネルが 1 つしか通話に接続していません。	相手側の ISDN 番号を確認します。相手側に通話を依頼してください。
	受信画像の動きが多すぎます。	動きの少ない背景を使用すると、スムーズできれいな画像が得られません。
カメラの音声トラッキングが正しく動作しません。	カメラ トラッキングが相手側か、こちら側でオフになっています。	カメラ トラッキングは、どちらか一方がカメラを動かすとオフになります。トラッキングを回復するには、リモコンの [AUTO (自動)] ボタンを押します。
	相手側が話しています。	相手側が話し始めると、カメラはモニタのスピーカーを示さないようにトラッキングをやめます。
	相手側がうるさすぎます。	カメラがトラッキングをやめるのは、相手側にうるさい雑音がある場合です。ViewStation がカメラ プリセットをトラッキングするように設定してください。
	こちら側がミュートになっています。	こちら側がミュートになっていると、カメラはトラッキングしません。リモコンの [ミュート] ボタンでミュート機能を切り替えます。
	こちら側がうるさすぎるか、一度に話している人の人数が多すぎます。	室内の雑音を減らします。
PIP ウィンドウに青い画面が表示されます。	ビデオ入力がありません。	選択した入力にビデオ ソースがあるか確認してください。
	カメラ選択が正しくありません。	「カメラ」画面でカメラ選択を確認してください。
	VCR 入力を選択されていますが、VCR がアイドル状態か、または実行しません。テープを再生しないとき、ほとんどの VCR には青い画面が表示されます。	ViewStation FX または VS4000 の別の入力を選択するか、VCR でビデオを再生します。
こちら側のカメラがパンまたは傾斜しません。	パン、傾斜、およびズーム機能のないカメラを動かそうとしています。	パン、傾斜、およびズーム機能付きカメラを選択したか確認してください。

ネットワークと通信

症状	原因	解決策
テレビ通話をダイヤル中にエラーメッセージが表示されます。	これが H. 320 通話の場合、最初の回線が接続しませんでした。最初の回線が接続されないと通話できません。	すべてのネットワーク ケーブルが正しく接続されているか確認してください。システムを再起動してください。
	H. 323 通話で、IP ゲートウェイまたはゲートキーパーが動作していないか、正しく設定されていません。	ネットワーク管理者にお問い合わせください。
ISDN: [回線状況] アイコンが表示されたままなのでテレビ通話を確立できません。	ISDN 回線がありません。	ISDN 回線接続を確認してください。ViewStation FX または VS4000 には S/T インターフェイスがあり、ViewStation FX または VS4000 が PBX に接続されていない限り、NT-1 を ViewStation FX または VS4000 と ISDN 回線の間に接続する必要があります。下記を参照。
	ISDN 番号が正しく入力されていません。	ISDN 番号をサービス プロバイダにチェックします。
	TSPID 番号が正しく入力されていません。注記: AT&T ポイントツーポイント プロトコルでは SPID は必要ありません。	[自動 SPID 検出] ページの [クリア] アイコン選択してから [開始] アイコンを選択し自動的に新しい SPID を検出します。ISDN 番号を正しく入力してください。
	ViewStation FX または VS4000 が直接に U インターフェイスに接続されています。	ISDN 回線と ViewStation ISDN 接続の間に NT-1 をインストールしてください。
ISDN: [回線状況] アイコンが表示されたままなのでテレビ通話を確立できません。	ViewStation は NT-1 に接続してから直接に PBX に接続します。PBX 接続は S/T インターフェイスです。	PBX に接続している場合は、NT-1 は必要ありません。ViewStation FX または VS4000 を PBX S/T 接続に直接に接続します。ViewStation と PBX との間の ISDN 回線に終了レジスタを使用する必要があります。

	<p>ISDN 回線が、サービス プロバイダによって不正確に設置されています。</p> <p>ViewStation FX または VS4000 は、約 85% の米国とカナダのスイッチ SPID を自動検出します。ViewStation はユーザーの SPID を検出できませんでした。</p> <p>Voice/Data, Voice Data に ISDN 回線が設置されているかチェックします。</p>	<p>Voice/Data, Voice Data に ISDN 回線が設置されているかチェックします。</p> <p>ISDN サービス プロバイダに相談して、SPID とスイッチ プロトコルを手動で入力します。注記：AT&T ポイント ツー ポイント プロトコルでは SPID は必要ありません。</p> <p>ISDN プロバイダに連絡して、回線を NI 1 プロトコル標準に切り替えてもらう必要があります。</p>
ISDN: テレビ通話のダイヤル中にエラー メッセージが表示されます。	ISDN 回線から ISDN エラーコードを受け取りました。	ISDN 情報 付録を参照します。
ISDN: 通話する際、状況アイコンが緑になりません。	<p>[Call Progress (通話進行)] アイコンは、テレビ通話が確立しなかったことを示しています。</p>	<p>[通話状況] アイコンは、各 ISDN チャネルにおけるテレビ通話の送受信の状況を示します。</p> <p>青色：通話が開始されました。</p> <p>黄色：通話が相手側の ISDN スイッチに到着しました。</p> <p>オレンジ色：リモート システムが通話に応答しました。</p> <p>緑色：画像同期 OK</p>
システムは IP アドレスを待っています。「システム情報」画面の IP アドレス フィールドに、「待機中」と表示されます。	LAN が作動していません。	ハブに接続をチェックします。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

IMUX

症状	原因	解決策
BONDING 384 K 通話でリモート システムにダイヤルできません。	通話状況を示す丸に、青色か黄色しか表示されません。	1x64 Kbps か 2x64 K で相手側に通話を開始してください。これによってプライマリ番号が正しいかどうかを確認されます。これらの通話が完了したら、256 K、384 K の順に試してください。
128 K 以上の通話を使って遠隔地にダイヤルできません。	通話状況を示す丸が緑色にならないか、最初のチャネルの接続後、青色のままになっています。	「通話状況」画面に移動します。ダイヤルした各チャネルの丸印をそれぞれ選択します。対応する丸印をハイライトすると、各チャネルについてダイヤルした番号が表示されます。相手側が各 ISDN 回線について正しい番号を入力したか確認してください。回線 1 - 回線 4 の番号は、IMUX の接続 1 - 4 に対応するはずです。
システムが起動しません。	システムが繰り返し再起動します。	IMUX と ViewStation FX または VS4000 との間の欠陥ケーブル。各 ISDN カードの緑色ライトと IMUX 設定の上の緑色ライト（旧式デバイスでは赤色ライト）がオンであることをチェックします。IMUX 設定から ViewStation FX または VS4000 へのケーブルは真っ直ぐの RJ-45 x RJ-45 ケーブルです。悪い電源装置です。
テレビ通話の [Speed Selection (速度の選択)] アイコンから、BONDING 通話の速度に 112 または 128 を選択できません。	[Speed (速度)] アイコンを選択しても速度が表示されません。	「IMUX Dialing Speeds (IMUX ダイヤル速度)」画面から回線速度を追加します。

LAN/ イントラネット

症状	原因	解決策
PC ブラウザからは ViewStation FX または VS4000 にアクセスできません。	DHCP クライアント はオンで、DHCP サーバがどれも利用できません。	ネットワーク管理者にお問い合わせください。
	LAN ケーブルが PC ポートに接続されています。	LAN ケーブルを ViewStation FX または VS4000 背面の LAN ポートに接続します。
	悪い LAN ケーブル	ViewStation FX または VS4000 の背面のライトをチェックします。LAN 接続を示す緑色のライトがつき、LAN トラフィックを示すオレンジ色のライトが点滅しているはずです。
	PC と ViewStation FX または VS4000 の間にファイアウォールがあります。	ネットワーク管理者にお問い合わせください。
	PC が別のサブネットにあり、PC と ViewStation FX または VS4000 の間にルーターがありません。	PC または ViewStation FX または VS4000 のサブネット マスクと IP アドレスを変更して、両方が同じ LAN またはサブネットに存在するようにしてください。
Web からシステムを管理できません。	パスワードが間違っています。	正しいパスワードを入力してください。注記：デフォルトのパスワードは「admin」です。
	システムにログインしているマネージャが多すぎます。	同時にログインできるマネージャ数は 2 人だけです。全員をログアウトするには、ViewStation FX または VS4000 を再起動します。

プレゼンテーション

症状	原因	解決策
Web ブラウザでは、PC から ViewStation FX または VS4000 に PowerPoint プレゼンテーションを表示できません。	Web ブラウザのバージョンが正しくありません。	Windows 95/98/ME と Windows NT/2000 Workstation で Microsoft Internet Explorer バージョン 3.02 以上で、PowerPoint スライドをプレゼントします。PowerPoint スライドのプレゼンテーションは、Windows 95/98/ME/2000 上で、Internet Explorer 5.5 を使った場合にも使用できます。ブラウザにサービス パックを読み込む必要がある場合があります。この機能は、Netscape とは作動しません。
PowerPoint プレゼンテーションがエクスポートできません。	Microsoft Office のバージョンが適切ではありません。	Microsoft Office 97 または 2000 を使用してください。
	ディスク容量が不足しています。	スライドは JPEG ファイルに変換され、PC の Windows/Temp ディレクトリに保存されています。PC にもっと容量を作成します。
	ViewStation FX または VS4000 にあるプレゼンテーションが多すぎます。最大プレゼンテーション数は 8 つです。	ViewStation FX または VS4000 のプレゼンテーションをいくつか削除して、システムを再起動してください。
	プレゼンテーションが大きすぎます。	大きいプレゼンテーションを 2 つの小さいプレゼンテーションに分けてください。
ViewStation FX または VS4000 から PC に接続してプレゼンテーションすることはできません。PC 名はあるのに、[SLIDES (スライド)] ボタンを押しても PC プレゼンテーションにアクセスできません。	パスワードが間違っています。	PC に入力したパスワードと同じパスワードを正しく入力してください。
	ViewStation FX または VS4000 と PC との間のファイアウォール。	IT マネージャにお問い合わせください。
	プレゼンターが多すぎます。ViewStation FX または VS4000 では、一度に最大 8 名のプレゼンターまたは 8 台の PC をログオンすることができます。	余分なプレゼンターの接続を解除してください。

PC でスナップショットとプレゼンテーションを表示できませんが、ViewStation FX または VS4000 のメイン Web ページにはアクセスできます。	ログインしている閲覧者数が多すぎます。ViewStation FX または VS4000 は通話の Web ブラウザを通して最大 30 人の閲覧者をサポートします。	余分な閲覧者の接続を解除してください。
		「セキュリティ」画面のミーティング パスワードを変更して、認証された閲覧者だけが閲覧できるようにしてください。
プレゼンテーションまたはスナップショットを Web から閲覧できません。	Web ブラウザのセキュリティ レベルが「高」に設定されています。	ブラウザのセキュリティ レベルを「中」か「なし」に下げてください。
	Web ブラウザのバージョンが正しくありません。	Web からスナップショットやスライドを閲覧する場合、ViewStation FX または VS4000 では Internet Explorer 3.02 以上をサポートしています。The ViewStation FX または VS4000 は、Netscape 4.0 以上をサポートします。
	閲覧パスワードが正しくありません。	スライドおよびスナップショットの閲覧パスワードや、プレゼンテーションに関するその他の情報を調べるには、プレゼンテーション中にリモコンの「情報」ボタンを押します。閲覧パスワードは「セキュリティ 設定」画面で変更できます。

リモコン

症状	原因	解決策
システムがハンドヘルド リモコンに応答しません。	リモコンの電池がありません。	ViewStation FX または VS4000 前面の緑色のライトが、リモコンのボタンを押すたびに点滅するはずです。
	電池が正しくインストールされていません。	電池のプラス (+) とマイナス (-) の位置を間違えずに挿入してください。
画面に Low battery (低電池) アイコンが表示されます。	リモコンの電池の残量が低下しています。	3 リモコンの電池を交換します。3 本の 単四 (AAA) 電池を入れてください。

一般的な問題

症状	原因	解決策
ViewStation FX または VS4000 前面の緑のライトがゆっくり点滅します。	システムはスリープ中です。	システムは電源節約のスリープモードです。これは正常です。リモコンを操作したり通話を受信するとシステムのスリープ状態が解除されます。
ViewStation FX または VS4000 の前面にアンバ色のライトが表示されます。	システムは通話中です。	これは正常です。
ViewStation FX または VS4000 の前面に緑色のライトが表示されます。	システムは通話中ではありません。	これは正常です。
[管理者設定] メニューに入力できません。	システムがパスワード保護されています。パスワードが入力されていません。	「診断」画面に行って、システム リセットを実行します。アドレス帳を除くすべてのシステム設定が削除されます。「セキュリティ」画面で新しいパスワードを入力します。
システムが Software Update (ソフトウェアアップデート) 画面から開始します。	システム ソフトウェアが破損しているか、正しく読み込まれていません。	PC からシステム ソフトウェアを ViewStation FX または VS4000 に読み込ませます。



ネットワーク アドレス変換

一般情報

NAT (Network Address Translation [ネットワーク アドレス変換]) では、ホーム オフィスまたは小さなネットワーク環境がネットワーク内デバイスとコミュニケーションするには内部 IP アドレスを使用し、外の世界 (広域ネットワーク) とコミュニケーションするには 1 つのアドレスを使用するようにします。

注記 多くの SOHO (Small Office Home Office [小規模事業所]) ルーターでは H. 323 と完全には適合しない NAT 設定を提供しています。

ViewStation FX と VS4000 では、NAT をサポートはするが H. 323 とは完全には準拠しないルーターを持つ小規模事業所と小規模ネットワーク ユーザーを支援するためにこの機能を提供しています。

このソリューションの目的は、ユーザーが内部ネットワーク外 にダイヤルできることにあります。この時点では、このソリューションを使用する場合、内部ネットワーク内でテレビ会議通話をするにはできません。このソリューションを使用してネットワーク内でテレビ会議通話をするには、[システムは NAT の後方] オプションを非選択状態にして、ダイヤルします。[システムは NAT の後方] オプションを再度選択して、この機能を再起動させてから外部通話をします。

構成

NAT 構成開始前の注意事項

1. NAT の外部 (WAN) IP アドレスを決定します。このアドレスが NAT の外部インターフェイス (インターネットに接続されている) に割り当てられたアドレスです。
2. ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスを決定します。これは、「システム情報」画面にあります。

NAT の設定

1. 「QoS とファイアウォール」画面 ([システム情報] > [管理者設定] > [LAN/H. 323] > [H. 323] > [QoS]) に進みます。
2. [固定ポートを使用] を選択します。
3. [システムは NAT の後方] を選択します。
4. NAT の外部 IP アドレスを [NAT の外部 (WAN) アドレス] フィールドに入力します。

このスクリーンに表示される固定 TCP と UDP ポート番号を書き留めます。これらの番号は、以下のデフォルト番号です。

TCP: 3230 から 3231

UDP: 3230 から 3235

注記 多地点通話でのポート割当についての詳細は 62 ページの「多地点通話とファイアウォール情報」を参照してください。

5. NAT 内でステップ 4 の固定ポートを常にオープンの状態にリセットして、ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスにリダイレクトします。
6. 電話の受信には、ポート 1720 を開いて ViewStation FX または VS4000 の IP アドレスにリダイレクトします。

画像と音声の入出力レベル

画像レベル

この情報は Polycom テレビ会議製品のすべてに該当します。

画像出力レベル

コンポジットと S-video 出力

- 75 オーム出力標準
- NTSC または PAL 画像の標準波動形式
- NTSC/PAL 標準につき 1.0 Vpp 標準
- すべての画像出力口は DC（直流）電源連結

画像入力レベル

コンポジットと S-video 入力

- 75 オーム入力ターミネーション
- NTSC または PAL 画像の標準波動形式
- NTSC/PAL 標準予想入力につき 1.0 Vpp 標準
- すべての画像出力口は DC（直流）電源連結

音声出力

音声出力レベル

RCA 音声出力コネクタ

- 800 オーム最大出力インピーダンス
- 1.0 Vpp フルスケール出力標準
- 音声出力の全てに AC が連結

音声入力レベル

RCA 音声入力コネクタ

- 10 K オーム最小入力インピーダンス
- 1.0 V_{pp} フルスケール入力予想
- 音声入力の全てに AC が連結



V. 35 技術情報

シリアル インターフェイス コントロール シグナル

ViewStation FX と VS4000 は、テスト済のネットワーク装置に修正なしに互換するように設計されています。ユーザーのネットワーク装置が普通の V. 35 画像実装と異なる場合は、シグナル操作を調整できます。

V. 35 インターフェイスをカスタマイズする必要がある場合には、ネットワーク装置の製造元情報に加えて以下の技術情報を使用します。

以下のテーブルは、各シグナルの基本構成の説明です。

シグナル (ケーブル ピン)	方向	説明	基本構成オプション
ST (TC/TT)	出力	送信 タイミング (時計)	通常： 下降エッジはデータを送信 反転： 上昇エッジはデータを送信
RT (RC)	入力	受信 タイミング (時計)	通常： 上昇エッジはデータを受信 反転： 下降エッジはデータを受信
RTS (RTS)	出力	送信依頼	通常： 高電圧はロジック 1 反転： 低電圧はロジック 1
DCD (DCD)	入力	データ キャリア検出	通常： 高電圧はロジック 1 反転： 低電圧はロジック 1 フィルタ： 通話状態に変化するまで DCD が 60 秒間ドロップするのを許可
CTS (CTS)	入力	送信クリア	通常： 高電圧はロジック 1 反転： 低電圧はロジック 1

DTR (DTR)	出力	データ ターミ ナル準備完了	通常：高電圧はロジック 1 反転：低電圧はロジック 1 オン：常に高電圧 注記：ON に設定されている場合、 反転オプションなし
DSR (DSR)	入力	データ セット 準備完了	通常：高電圧はロジック 1 反転：低電圧はロジック 1 応答：DSR を発信音インジケータ として使用。

状態マシン

V.35 State Machine（状態マシン）は、通話確立中に V.35 インターフェイスがネットワークのインターフェイス装置とのハンドシェイクをシグナルする方法を説明します。

発信状態マシン

状態	ViewStation または VS4000 シグナル	ネットワーク装置シグナル
1	初期状態： DTR = 0<注記 3> RTS = 0<注記 2> CRQ = 0 ユーザーは通話を開始	初期状態： RI = 0 DL0 = 0 ACR = 0 DSR = 0
2	DTR = 1<注記 3>	
3	10 ms 待機	
4	CRQ = 1	
5		PND = 1
6	数値設定 (NB1, NB2, NB3, NB4)	
7	DPR = 1	
8		PND = 0
9	DPR = 0	
10	最後の桁でない場合は状態 4 に進みます。その他の場合は続 行します。	
11		ネットワークでの通話接続

12		DSR = 1 と / または DCD = 1 (と / または DSR = 1 <注記 1>)
13	DTR = 1<注記 2>	
14	データ フロー開始 S	データ フロー開始
	ユーザー切断	遠隔側切断
15	RTS = 0<注記 2> DTR = 0<注記 3> CRQ = 0 相手側またはユーザーの切断が 検出されると、すべてのシグナ ルは低くなります。	DSR = 1 から 0, または DCD = 1 から 0 DSR または DCD の下降エッジは FX または VS4000 によって切断と 解釈されます。
16	アイドル DTR = 0<注記 3> RTS = 0<注記 2> CRQ = 0	アイドル RI = 0 DLO = 0 ACR = 0 DSR = 0

注記 1: DSR が「V.35 詳細設定」画面で ANSWER（応答）に設定されている場合は、DSR は発信音インジケータとして使用されま
す。

注記 2: Security/Crypto-Resync（セキュリティ/暗号化再同期）
がオンになっている場合、RTS は下記のようにではなく再同期パ
ルスとして機能します。

注記 3: 「V.35 詳細設定」画面で DTR がオンに設定されている場
合、DTR は表示のように機能せずに高電圧のままになります。

受信状態マシン

状態	ViewStation FX または VS4000 シグナル	ネットワーク装置シ グナル
1	初期状態： DTR = 0<注記 3> RTS = 0<注記 2> CRQ = 0	初期状態： RI = 0 DLO = 0 ACR = 0 DSR = 0
		相手側ユーザー通話を開始
2		RI= 0 から 1、または DCD= 0 から 1、または DSR= 0 から 1 <注記 1>

3	ユーザーに発信音を通知（注記 4）	
4	システムが通話を受信	
5	DTR = 1	
6	RTS = 1<注記 2>	
7	DSR 高を待機	
8		DSR = 1 および / または DCD = 1（および / または DSR = 1 <注記 1>）
9	接続状態に移行	
10	データ フロー開始	データ フロー開始
11	ユーザー切断	遠隔側切断
12	RTS = 0<注記 2> DTR = 0<注記 3> CRQ = 0 相手側またはユーザーの切断が検出 されると、すべてのシグナルは低く なります。	DSR= 1 から 0、または DCD= 1 から 0 または CTS= 1 から 0 DSR または DCD または CTS の下降エッジは FX/VS4000 によって切断と解釈されま す。
13	アイドル DTR = 0<注記 3> RTS = 0<注記 2> CRQ = 0	アイドル RI = 0 DLO = 0 ACR = 0 DSR = 0

注記 1: DSR が「V. 35 詳細設定」画面で ANSWER（応答）に設定されている場合は、DSR は発信音インジケータとして使用されません。

注記 2: [セキュリティ / 暗号化再同期] がオンになっている場合、RTS は下記のようにではなく再同期パルスとして機能します。

注記 3: 「V. 35 詳細設定」画面で DTR がオンに設定されている場合、DTR は表示のように機能せずに高電圧のままになります。

注記 4: RS-366 Dialing（ダイヤル）が有効でない場合には、自動応答を有効にする必要があります。自動応答が有効でない場合、非ダイヤル モードでの発信音は無視されます。

注記 5: 「V. 35 詳細設定」画面で、DCD フィルタがオンに設定されている場合、DCD が 60 秒間低くなるまでシステムは低い DCD に反応しません。

非ダイヤル式ユーザー開始通話状態マシン

状態	ViewStation FX または VS4000 シグナル	ネットワーク装置シグ ナル
1	初期状態： DTR = 0< 注記 3> RTS = 0< 注記 2> CRQ = 0	初期状態： RI = 0 DLO = 0 ACR = 0 DSR = 0
	ユーザー通話を開始	
2	DTR = 1< 注記 3>	
3	RTS = 1< 注記 2>	
4		DCD = 0 から 1
5	データ フロー開始	データ フロー開始
	ユーザー切断	遠隔側切断
6	RTS = 0< 注記 2> DTR = 0< 注記 3> CRQ = 0 相手側またはユーザーの切断 が検出されると、すべてのシ グナルは低くなります。	DSR = 1 から 0、または DCD = 1 から 0 DSR または DCD の下降エッジ は FX/ VS4000 によって切断 と解釈されます。 DCD=< 注記 4>
7	アイドル DTR = 0< 注記 3> RTS = 0< 注記 2> CRQ = 0	アイドル RI = 0 DLO = 0 ACR = 0 DSR = 0

注記 1: 「V. 35 詳細設定」画面で、DSR が ANSWER（応答）に設定されている場合は、DSR は発信音インジケータとして使用されません。

注記 2: [セキュリティ / 暗号化再同期] がオンになっている場合、RTS は下記のようにではなく再同期パルスとして機能します。

注記 3: 「V. 35 詳細設定」画面で DTR がオンに設定されている場合、DTR は表示のように機能せずに高電圧のままになります。

注記 4: 「V. 35 詳細設定」画面で、DCD フィルタがオンに設定されている場合、DCD が 60 秒間低くなるまでシステムは低い DCD に反応しません。

非ダイヤル式ネットワーク開始通話状態マシン

状態	ViewStation FX または VS4000 シグナル	ネットワーク装置シグ ナル
1	初期状態： DTR = 0< 注記 3> RTS = 0< 注記 2> CRQ = 0	初期状態： RI = 0 DLO = 0 CR = 0 DSR = 0
		ユーザー通話を開始
2		DCD = 0 から 1
3	DTR = 1< 注記 3>	
4	RTS = 1< 注記 2>	
5	データ フロー開始	データ フロー開始
	ユーザー切断	遠隔側切断
6	RTS = 0< 注記 2> DTR = 0< 注記 3> CRQ = 0 相手側またはユーザーの切断 が検出されると、すべてのシ グナルは低くなります。	DSR = 1 から 0、または DCD = 1 から 0 DSR または DCD の下降エッ ジは FX/ VS4000 によって切 断と解釈されます。 DCD= < 注記 4>
7	アイドル DTR = 0< 注記 3> RTS = 0< 注記 2> CRQ = 0	アイドル RI = 0 DLO = 0 ACR = 0 DSR = 0

注記 1: DSR が「V. 35 詳細設定」画面で ANSWER（応答）に設定されている場合は、DSR は発信音インジケータとして使用されま
す。

注記 2: [セキュリティ / 暗号化再同期] がオンになっている場
合、RTS は下記のようにではなく再同期パルスとして機能します。

注記 3: 「V. 35 詳細設定」画面で DTR がオンに設定されている場
合、DTR は表示のように機能せずに高電圧のままになります。

注記 4: 「V. 35 詳細設定」画面で、DCD フィルタがオンに設定さ
れている場合、DCD が 60 秒間低くなるまでシステムは低い DCD
に反応しません。

暗号化再同期

暗号化エンコーダ / デコーダが ViewStation FX または VS4000 とネットワークとの間に接続されている場合は、ViewStation FX または VS4000 からの再同期化シグナルを必要とします。このシグナルは ViewStation FX または VS4000 がネットワーク故障のため画像同期を喪失し、接続先装置からの暗号化エンコード / デコード再同期化を必要としていることを示しています。

この機能を有効にするには、[システム情報] > [管理者設定] > [セキュリティ] を選択します。[暗号化再同期] オプションを選択すると、「暗号化再同期パルス」画面が表示されます。

この画面では、暗号化再同期を有効にし、パルス間に時間（秒）を設定し、パルス幅（ミリ秒）を設定できます。

ViewStation FX または VS4000 が通話中に H.320 同期を失った場合、H.320 が同期を再開するまで、継続して同期パルスを指定パルス幅で送信します。

再同期パルスは RTS シグナルの出力です。この機能が有効にされている場合は、RTS シグナルは RTS シグナルとして機能しません。

暗号化装置を使用してインストールする場合は、カスタム ケーブルを必要とします。このケーブルは ViewStation FX または VS4000 からの RTS シグナルを暗号化装置の適切な再同期化入力にルートするように作成されています。暗号化装置は、ViewStation FX または VS4000 の DTR 出力から、または常時高タイオフに接続することによって、RTS 入力を得ることができます。この非ダイヤル化モードでは、DTR 出力と RTS 出力は全く同じように機能します。これらのシグナルについての詳細は、この付録の 224 ページの「状態マシン」を参照してください。

LED

V.35 ネットワーク インターフェイス モジュール上の LED 動作状況

インターフェイス モジュールの接続を確認するには、DCE ケーブル ポートの横の LED を確認します。

ViewStation FX または VS4000 への P-LINK 側面の接続

インターフェイス モジュール前面の LED は ViewStation FX または VS4000 への接続状態を指示します（図 1-1）。

ViewStation FX または VS4000 の電源を入れると、次のライトが順次に点きます。

1. 両方の LED が一度点滅した場合は、LED が正しく作動していることを示しています。
2. 下のオレンジの LED が点灯した場合は、ViewStation FX または VS4000 がネットワーク インターフェイス モジュールと交信中であることを示しています。
3. 上の緑色の LED が点灯した場合は、ViewStation FX または VS4000 がネットワーク と交信中であることを示しています。

V. 35 DCE に接続する NETWORK 側面

ネットワーク インターフェイス モジュールの接続を確認するには、DCE ケーブル ポートの横の LED を確認します（図 1-2）。

上の緑色の LED はポート状態に対応し、下のオレンジの LED は DCE クロック状態に対応します。

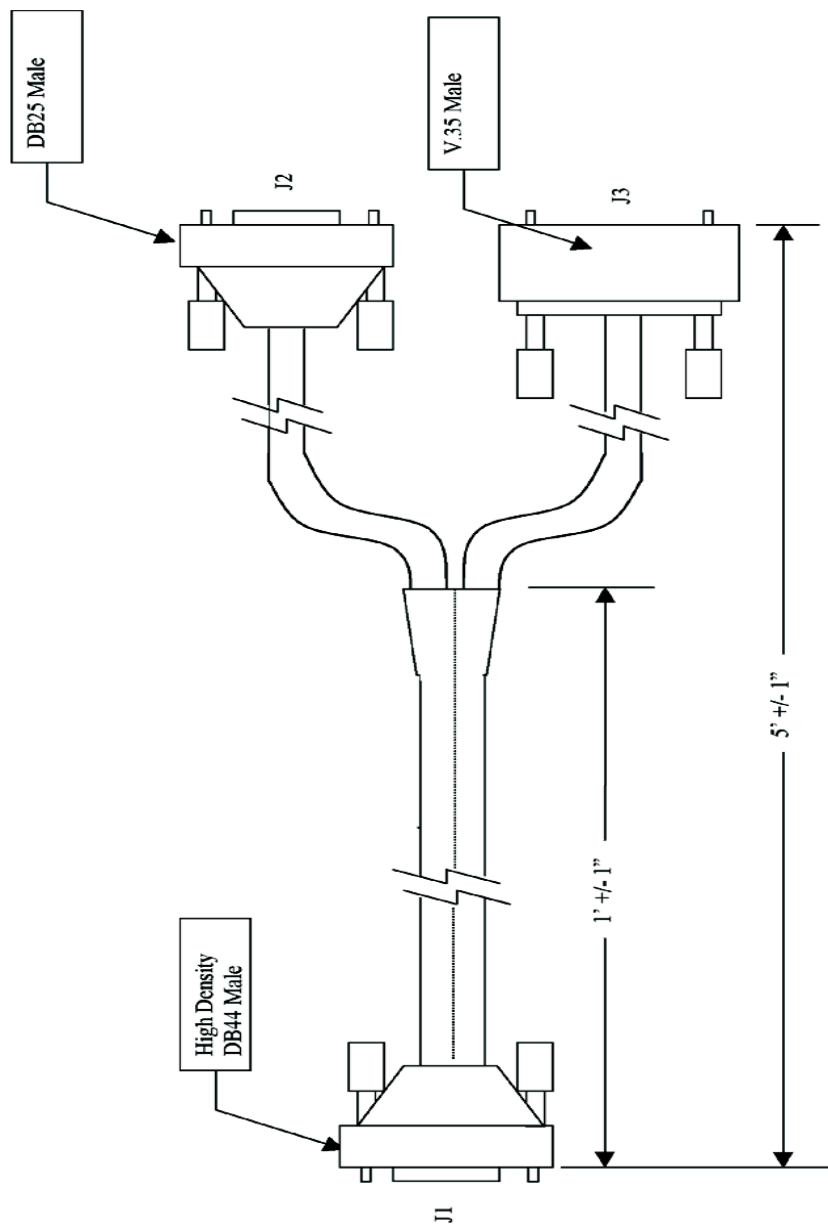
オレンジの LED	ポートがアクティブな DCE に適切に接続されており、ネットワーク クロックを受信していることを示します。
緑色の LED	ViewStation FX または VS4000 が通話中です。
緑色の LED がオフ	ViewStation FX または VS4000 は通話していません。

V. 35 ケーブル

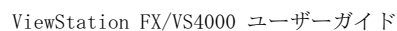
このセクションでは、V. 35 ネットワーク インターフェイス モジュールで使用するケーブル用のケーブル図とピン配置を提供します。

注記 これらのケーブルは ViewStation FX と VS4000 の両方に共通です。

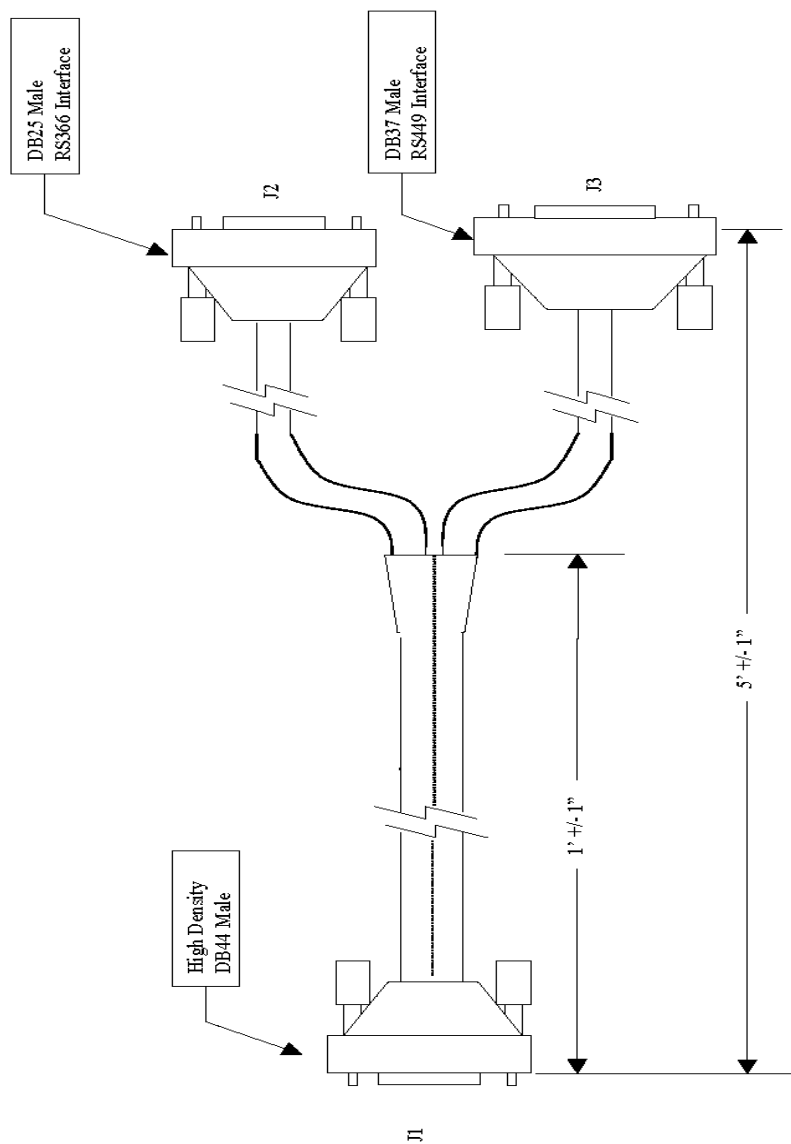
HD-44M から RS-366/V.35 Y 型ケーブル図



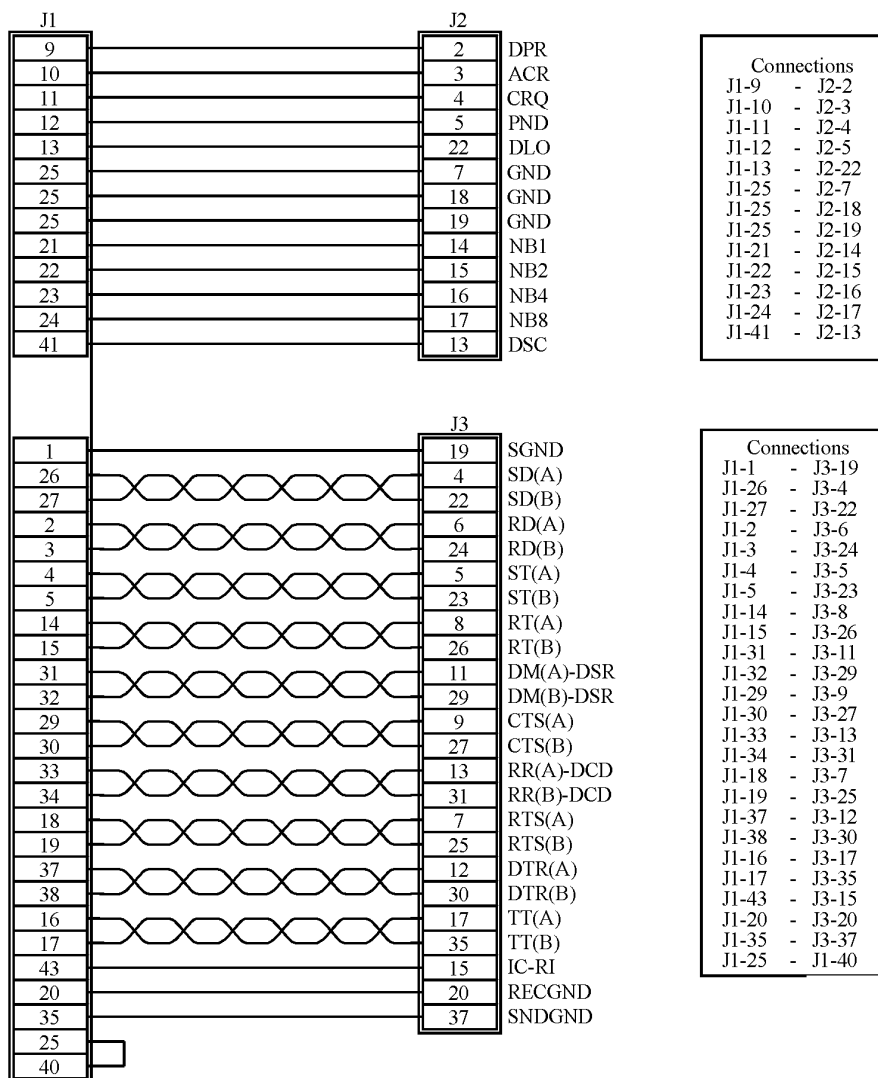
233



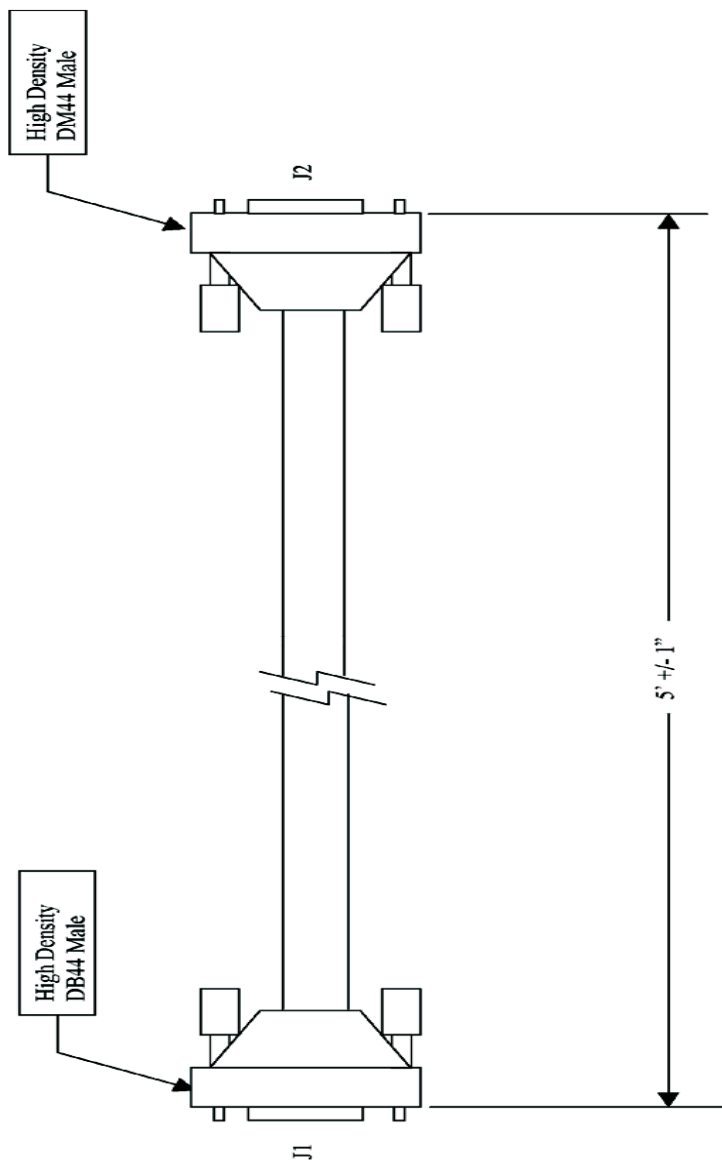
HD-44M から RS-449/V.-422 Y 型ケーブル図



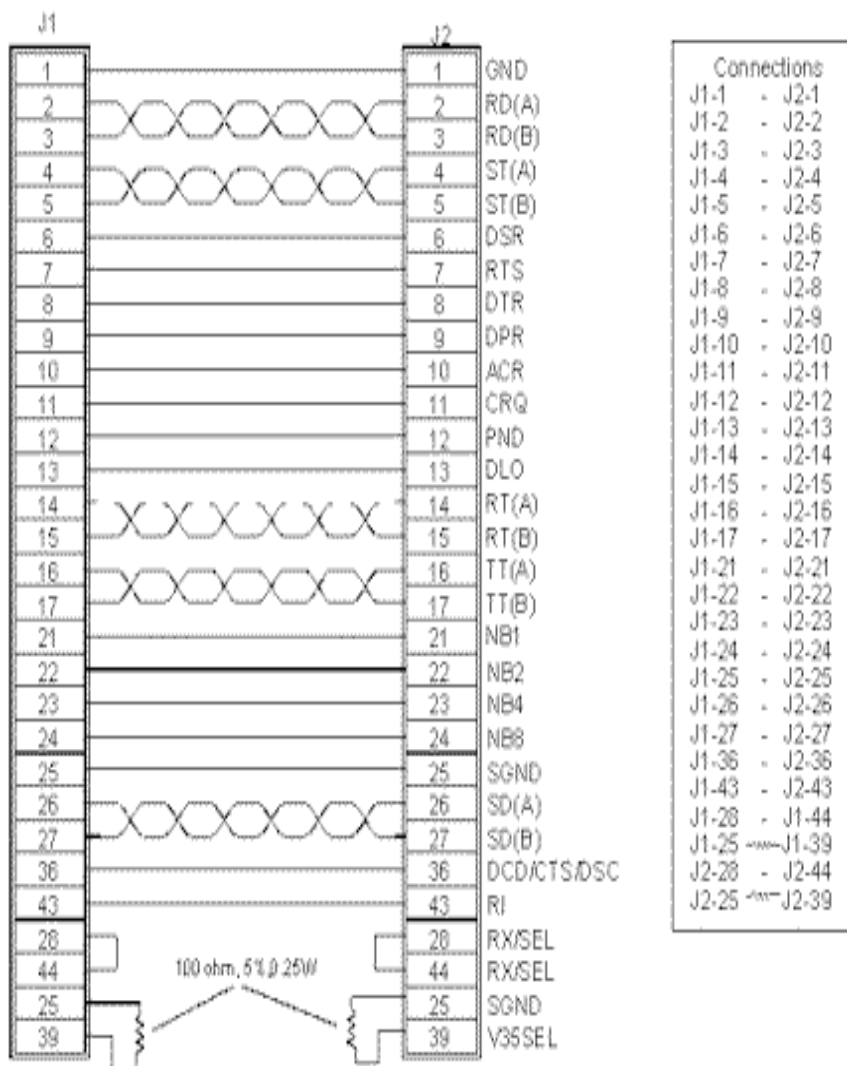
HD-44M から RS-449/V. -422 Y 型ケーブルへのピン配置図



Ascend HD-44M から HD-44M へのケーブル図



Ascend HD-44M から HD-44M ケーブルへのピン配置図





PRI テクニカル情報

概要

PRI インターフェイスは、ViewStation FX または S4000 で使用できる多数のネットワーク インターフェイスの 1 つです。

PRI インターフェイスを使用するには、外部ユニットである PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを ViewStation FX または VS4000 に接続しなければなりません。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの詳細については、11 ページの「PRI ネットワーク インターフェイス設定」を参照してください。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュール

2 種類の PRI ネットワーク インターフェイス モジュールがあります。

- T1 : 北米、日本、台湾および香港で使用されています。
- E1 : ヨーロッパおよび T1 を使用しないほとんどの国で使用されています。

T1 ネットワーク インターフェイス モジュールでは、23 本の 64 Kbps B チャネルと 1 本のシグナル用の D チャネル（チャネル 24）をサポートしています。E1 ネットワーク インターフェイス モジュールでは、30 本の 64 Kbps B チャネルと 1 本の D チャネル（チャネル 16）をサポートしています。このため、総計データ容量は以下の通りになります。

- T1 : 1472 Mbps
- E1 : 1920 Mbps

また T1 と E1 とでは、シグナルとフレーミングの方法が異なります。

P-LINK ケーブル

両側に薄青色のキー RJ-45 コネクタが付いている特別なケーブルを使用して、ネットワーク インターフェイス モジュールを ViewStation FX または VS4000 に接続します。

P-LINK ケーブルと呼ばれるこのケーブルは、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールまたは V.35 ネットワーク インターフェイス モジュールなどの周辺デバイスとの接続専用で作成された Polycom 特有の製品です。

このケーブルは、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールと共に提供されます。P-LINK ケーブル コネクタはキー方式なので標準 RJ-45 ネットワーク ポートには適合しません。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの NETWORK 側面

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの 一側面には、3 つの垂直 LED と [NETWORK (ネットワーク)] とラベルされた標準 RJ-45 ポートがあります。

RJ-45 ポートは、アップストリームの PBX または電話会社スイッチからの標準 CAT5 ケーブルに接続します。PRI ネットワーク インターフェイス モジュールのこの側面は ネットワーク側面と呼ばれます。ネットワーク側面に接続するケーブルは、ネットワーク ケーブルと呼ばれます。



図 D-1. PRI ネットワーク インターフェイス モジュール : ネットワーク側面

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの P-LINK 側面

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールのもう 一方の側面は P-LINK 側面と呼ばれます。この側面には以下があります。

- DC 電源装置用の循環スロット
- 2 つのキー RJ-45 コネクタ
- 2 つの垂直 LED

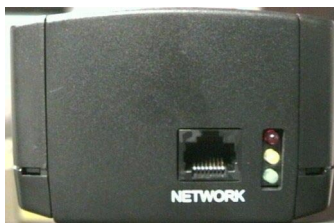


図 D-2. PRI ネットワーク インターフェイス モジュール : P-LINK 側面

ネットワーク ケーブルとネットワーク接続

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、CPE (customer premise equipment {顧客構内装置}) として作成されています。このため、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、ネットワークへのクロック シグナルを生成しません。その代わりに、このモジュールはアップストリーム のスイッチまたは接続 PBX からのクロックを誘導します。これを、スレーブ モードと呼ぶこともあります。

注記 1 アップストリームという用語は、電話サービス プロバイダにより近いネットワーク デバイスを意味します。ダウンストリームという用語は、Polycom テレビ通信ユニットにより近いネットワーク デバイスを意味します。PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは ユーザーの PBX からはダウンストリームですが、PBX は電話会社スイッチのダウンストリームです。ユーザーの PBX は、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールのアップストリームです。ViewStation FX または VS4000 は常に PRI ネットワーク インターフェイス モジュールからのダウンストリームです。

注記 2 クロック シグナルの生成はユーザーが設定できる項目ではありません。アップストリーム ネットワーク デバイスがクロックを提供しないと、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは作動しません。

T1 と E1 のネットワーク ケーブルは両方とも、以下のピン配置のある標準 CAT5 ケーブルです。

- 1 と 2 - アップストリーム デバイスから PRI ネットワーク インターフェイス モジュールにデータを受信します。
- 4 と 5 - アップストリーム デバイスから PRI ネットワーク インターフェイス モジュールにデータを送信します。

PBX が正しく作動するためには、交差ケーブルを必要とする場合があります。

地域によっては、E1 ネットワーク接続が 75 オームの同軸ケーブルを通して提供される場合もあります。PRI ネットワーク インターフェイス モジュールはこれを直接にはサポートしません。しかし、多くの販売元から廉価な受動アダプタ デバイスが簡単に入

手できます。E1 の「PRI 情報」画面の「回線終端」フィールドの値は 120 オームです。この値は変更できません。

チャネル サービス ユニット

北米でのみ、T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールのネットワーク ケーブルを CSU (Channel Service Unit [チャネル サービス ユニット]) と呼ばれる外部デバイスに接続できます。CSU では、PRI が実際ネットワークから隔離されるようにします。CSU は、実際のネットワーク ケーブル上の PRI ネットワーク インターフェイス モジュールからのシグナルを再生成します。PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの電源が喪失または切断された場合、CSU ではシグナルが継続してネットワークに送信されるようにします。こうして、回線が非アクティブ化することを防止します。普通 CSU が必要になるのは、T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールのネットワーク ケーブルが、PBX ではなくて、直接に電話会社スイッチに接続している場合です。

外部 CSU

外部 CSU を使用する場合は、「PRI 設定」画面（「システム情報」>「管理者設定」>「通信設定」>「IMUX 設定」>「PRI ネットワーク」>「PRI 設定」）で以下の情報を指定しなければなりません。

- 「CSU」フィールドで、「外部」を選択します。
- 「回線レベル修正」フィールドで、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを CSU に接続するケーブルの長さを選択します。

T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールが CSU として作動するように構成することもできます。これを行うには、外部電源装置が接続されていなければなりません。

内部 CSU

T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを内部 CSU として使用するには、「PRI 設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[IMUX 設定]>[PRI ネットワーク]>[PRI 設定]）で、以下の情報を指定しなければなりません。

- [CSU] フィールドで、[内部] を選択します。
- [回線レベル修正] フィールドで、適切な dB 設定を選択します。普通は電話会社が、回線の性質を測定して dB 値を決定します。以前に外部 CSU を使用していた場合は、その CSU に選択されていた設定を使用します。その他の場合は、ゼロからスタートします。

外部電源装置

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、P-LINK ケーブルを通して ViewStation FX または VS4000 から電源を得ます。モジュールに電力を供給するには、FX または VS4000 の電源がオンでブート済みである必要があります。FX または VS4000 が「Softupdate（ソフト更新）」画面を表示している場合は、FX または VS4000 は P-LINK ケーブルから電力を供給しません。

P-LINK 側面のコネクタ経由で、外部 DC 電源装置を PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに接続できます。P-LINK ケーブルが非接続あるいは、FX または VS4000 の電源がオフあるいはブート モードの場合でも、外部電源装置は、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールに電力を提供します。

電話会社のスイッチに直接接続している T1 または E1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの場合は、外部 DC 電源装置を常時接続しておくことをお勧めします。さらには、UPS を経由して DC 電源装置を建物の電源グリッドに接続しておくこともお勧めします。こうしておく、停電、FX または VS4000 障害、あるいは P-LINK の非接続が発生した場合でも、ネットワーク回線がシグナルを喪失したり電話会社スイッチとの同期を失うことはありません。

T1 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの内部 CSU 機能を使用する場合は、外部電源装置を接続しなければなりません。

LED

更新シーケンス

ViewStation FX または VS4000 へ 接続する P-LINK 側面

PRI ネットワーク モジュールの更新中には、以下の LED シーケンスが見られます。

注意 更新中はシステムを再起動したり、ケーブルを外したりしないでください。

1. データが PRI ネットワーク モジュールに転送中の場合は、黄色の LED が約 90 秒間以上点灯します。
2. モジュールの更新中は、黄色と緑色の LED が点灯し、数秒間点いたままになります。
3. それから、黄色の LED が消え、緑色の LED が点いたままになります。PRI が起動し、稼動します。

ISDN PRI ネットワークへ接続するネットワーク側

PRI 更新が完了すると、以下の LED 動作状況が見られます。

T1	E1
1. 赤色の LED が短期間オンになります。	1. 赤色の LED が短期間オンになります。
2. 黄色の LED が短期間オンになります。	2. 緑色の LED が点灯した場合は、システムがネットワークと同期化され完全に稼動中であることを意味します。
3. 緑色 LED がオンになります。緑色の LED が点いた場合は、システムがネットワークと同期化され完全に稼動中であることを意味します。	
注記： 緑色 LED ライトが点灯しなかった場合は、PRI ネットワーク接続をチェックします。	注記： 緑色 LED ライトが点灯しなかった場合は、PRI ネットワーク接続をチェックします。

LED 動作状況

ネットワーク側の LED

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの ネットワーク 側には、3 つの垂直の LED があります。LED は、上から順に赤色、黄色、緑色です。

PRI T1 と PRI E1 ネットワーク インターフェイス モジュールに対する LED の動作状況を以下の表で説明します。

PRI T1 ネットワーク インターフェイス モジュール

さまざまな LED は以下を示します。

PRI T1 ネットワーク インターフェイス モジュール	
赤色 LED が点滅	ネットワーク ケーブルが接続されていないか、あるいはアップストリーム スイッチまたは PBX ポートが非アクティブ化されています。回線に電源がありません。
赤色 LED が点灯	ネットワーク ケーブルが接続されており、回線に電源があります。しかし、クロック同期がありません。
黄色 LED が点灯	PRI ネットワーク インターフェイス モジュールがクロックとフレーム同期を受信しており、タイマーが経過するのを待機しています。タイマー経過以前にクロックとフレーム同期が失われると、黄色の LED が消え、赤色 LED が点灯します。
緑色 LED	ViewStation FX または VS4000 ネットワークと完全に同期化されており、使用準備完了です。

PRI E1 ネットワーク インターフェイス モジュール

さまざまな LED が以下のように指示します。

PRI E1 ネットワーク インターフェイス モジュール	
点滅する赤色 LED	ネットワーク ケーブルが接続されていないか、あるいはアップストリーム スイッチまたは PBX ポートが非アクティブ化されています。すなわち回線にエネルギーがありません。
赤色 LED が点灯	ネットワーク ケーブルが接続されており、回線にエネルギーがあります。しかし、クロック同期がありません。
黄色 LED が点灯	PRI ネットワーク インターフェイス モジュールがクロックとフレーム同期とを受信しており、またネットワークから CRC (Cyclic Redundancy Check [周期冗長検査]) エラーなしに、RAI (Remote Alarm Indication [リモート アラーム インジケータ]) を受信しています。
黄色 LED が点滅	PRI ネットワーク インターフェイス モジュールがクロックとフレーム同期とを受信しており、またネットワークから RAI を受信しているが、CRC エラーがあります。

PRI E1 ネットワーク インターフェイス モジュール	
赤色と黄色の LED が点灯	PRI ネットワーク インターフェイス モジュールがクロック同期を受信しており、また AIS (Alarm Indication Signal [アラーム インジケータ シグナル]) を受信しています (非フレーム化のすべての 1)。
緑色 LED	ViewStation FX または VS4000 i ネットワークと完全に同期化されており、使用準備完了です。

周辺リンク (P-LINK) 側 LED

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの P-LINK 側には、2 つの垂直 LED があります。緑色とオレンジ色です。さまざまな LED が以下のように指示します。

オレンジ色 LED	PRI ネットワーク インターフェイス モジュールはブートモードです。LED 1 分間以上点灯すると、新しいマイクロコードが ViewStation FX または VS4000 から DRAM にアップロードされます。
オレンジ色と緑色の LED が点灯	マイクロコードの DRAM へのアップロードが完了し、フラッシュに燃焼中です。
緑色 LED	PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは完全にブートされました。

注記 PRI ネットワーク インターフェイス モジュールが外部の電源に接続された場合、周辺リンク ケーブルが接続されていなくても、数秒後に緑色の LED が点灯します。

PBX

以下に、PBX についての情報を提供します。

- 交差ケーブルを必要とする PBX もあります。
- PRI ネットワーク インターフェイス モジュールはネットワークへのシグナルを生成しないので、PBX はクロック シグナルを提供する機能がなければなりません。
- PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは顧客構内装置 (CPE) として機能するので、PBX はレイヤ 1、2、および 3 に対するネットワーク側面として機能できなければなりません。
- 正しく構成された PBX は、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールからの通話の Unknown (不明) 番号タイプを受付けます。受付けない場合は、PBX の基本構成に問題があります。詳細は、137 ページの「詳細 PRI 設定」を参照してください。
- PSS1 として知られている QSIG シグナルはサポートされていません。しかし、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、普通の ETSI DSS1 シグナルを使用し、ゲートウェイを通して PISN に接続することができます。

スイッチ プロトコル

有効なスイッチ プロトコルの選択は、国およびネットワーク インターフェイス モジュールのタイプ、すなわち T1 か E1 かにによって決まります。

E1 には NET5/CTR4 がデフォルトです。NET5/CTR4 は ITU Q.931 から派生した標準の ETSI プロトコルです。

日本、香港および台湾などのアジアの国では T1 に対して NET5/CTR4 も提供されています。

1 つ以上のプロトコルがサポートされている場合は、電話サービス プロバイダに連絡しどのプロトコルを選択するか決定します。

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、データ通話の発信と受信だけを行います。PRI ネットワーク モジュールは、PRI の受信音声通話および非-PRI 回線とは作動しません。発信者の ID ブロックまたは通話転送などの特別サービスはサポートされていません。

回線信号方式

E1 には、「PRI 情報」画面の「回線信号方式」フィールドが 2 つのオプションを提供しています。

- CRC4/HDB3: これがデフォルト値です。データは、均一になるように HDB3 を使用してデコードされ、また CRC4 エラーチェックが発信と受信の両方で有効にされています。
- HDB3: CRC4 エラーチェックが無効になっています。

T1 には、ESF/B8ZS だけが使用できます。この値は、フレーミングフォーマットとエンコード方法との両方を選択します。D4 のようなレガシ フレーム フォーマットはサポートされていません。B7ZS のような古いエンコード方法もサポートされていません。

制限

- PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは制限付きまたは無制限のデータ通話だけを送受信し、PRI 受信音声通話または非 PRI T1/E1 回線とは作動しません。
- 発信者の ID ブロックまたは通話転送などの特別サービスはサポートされていません。
- H0 またはその他のより高度な帯域幅チャネルはサポートされていません。
- 「PRI 状況」画面でのチャネル基本設定によっては、（参照 142 ページの「PRI 状況 (T1 と E1)」参照）、以下の情報が適用できる場合があります。

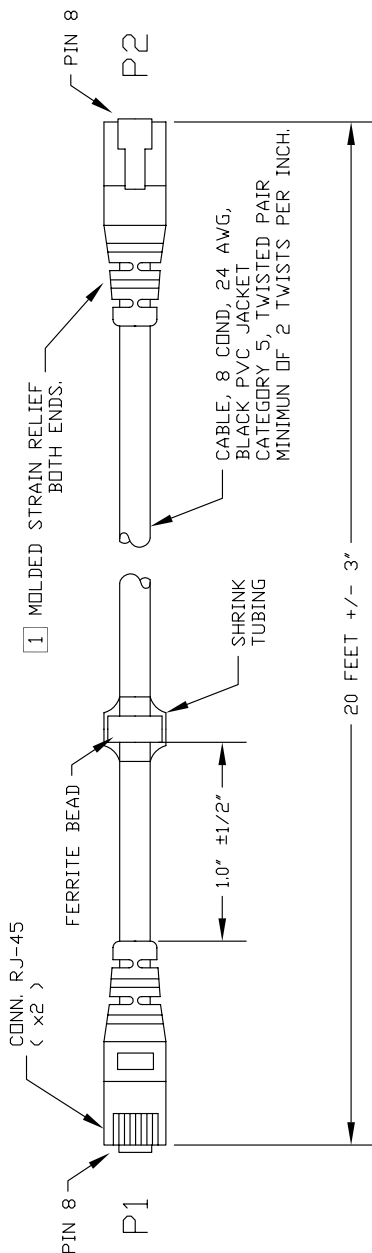
発信通話 : FX または VS4000 では、通話を発信する際には、チャンネル範囲 (PRI T1 には 1-23、PRI E1 には 1-30) の最低番号 から開始して、最初のアクティブで利用できるチャンネルを使用します。追加チャンネルが必要な場合、システムでは次の増分番号を選択します。たとえば、チャンネル 1 から 7 までは非アクティブで、8 がアクティブで利用できる場合は、8 が ViewStation FX または VS4000 の通話発信に利用できる最初のチャンネルです。追加チャンネルが必要な場合、範囲中で次に利用可能でアクティブなチャンネルを使用します (チャンネル 9 などになる可能性があります)。

受信通話 : FX または VS4000 では、通話を受信する際は、範囲内の最高番号チャンネルを使用し、システムに付帯するサードパーティー装置のタイプによっては、必要に応じて、増分順序で次の番号チャンネルに進みます。たとえば、受信通話は、最初はチャンネル 23、それから 22、21 へという順番で到着します。

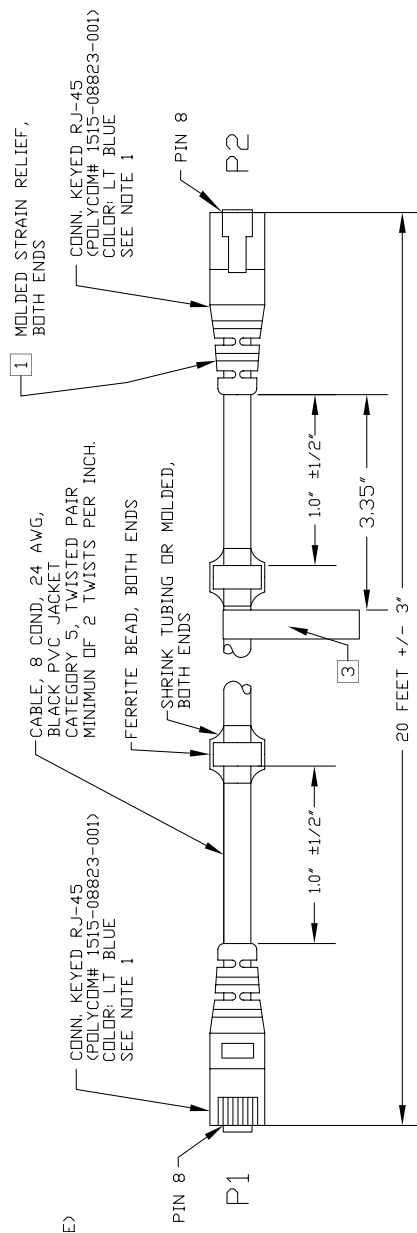
- NFAS (Non-Facility Associated Signaling [非機能関連シグナル]) はサポートされていません。これは、D チャンネルで管理されているグループの一部である T1 回線を通じてシグナルがサポートされていないことを意味します。また、バックアップ D チャンネルはサポートされていません。
- PSS1 として知られている QSIG シグナルもサポートされています。しかし、PRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、普通の ETSI DSS1 シグナルを使用しゲートウェイを通して PISN に接続することができます。

PRI ケーブル

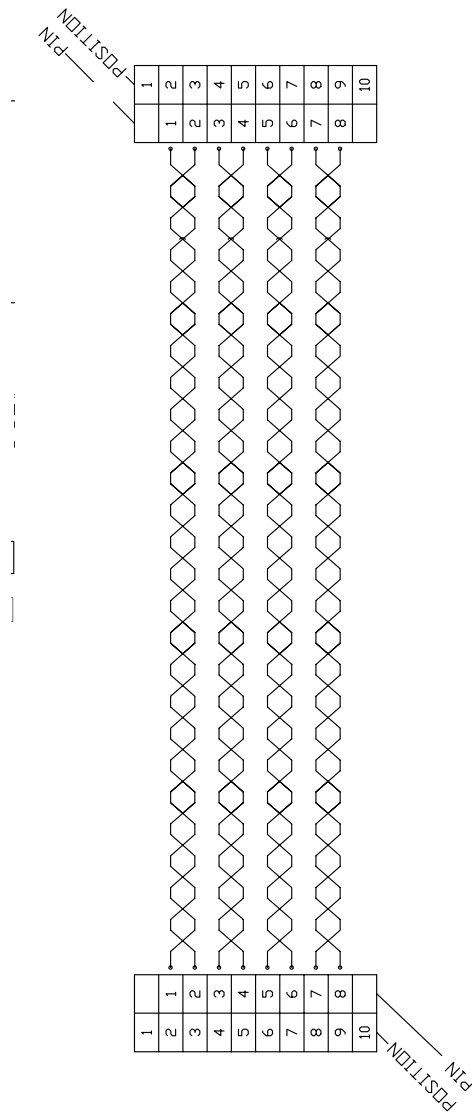
RJ-45 から RJ-45 へのクリア ケーブル図



キー RJ-45 からキー RJ-45 へのケーブル図



キー RJ-45 からキー RJ-45 へのケーブル図



用語集

以下で、PRI T1 と E1 に関連する用語を定義します。

B7ZS

T1 で使用するシグナル エンコード方法。この方法は広く使用されていません。

B8ZS

T1 で使用するシグナル エンコード方法。

CPE

顧客構内装置顧客サイトで使用されるネットワークのエンドポイント装置。

CRC

周期冗長検査エラー検出メカニズム。

CRC4

E1 で使用される CRC アルゴリズム。

CSU

チャネル サービス ユニット CPE をネットワークから隔離するデバイス北米だけで使用。

ダウンストリーム

ネットワークからより離れた顧客構内装置近くのこと。

D4

T1 データフレーミング フォーマットで、広くは使用されていません。

E1

64 Kbps で 30 本のデータ チャネルと 1 本のシグナル チャネルに供給する 2.048 Mbps のキャリア。

ESF

拡張スーパーフレーム フォーマット T1 データフレーミング フォーマット。

HDB3

E1 で使用するシグナル エンコード方法。

ネットワーク ケーブル

普通の RJ-45 コネクタのある標準 CAT5 ケーブルで、ネットワークに PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを接続します。

ネットワーク側面

アップストリーム スイッチまたは PBX に接続する PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの側面です。

PABX

構内領域交換機 (PBX 参照)。

PBX

構内交換機。

周辺リンク

P-LINK. PRI または V.35 モジュールを ViewStation FX または VS4000 に接続する専用シリアル インターフェイス。

P-LINK

周辺リンク。

P-LINK ケーブル

PRI ネットワーク インターフェイス モジュールを ViewStation FX または VS4000 に接続するキー RJ-45 コネクタのある特別ケーブル。

P-LINK 側面

FX または VS4000 に接続する PRI ネットワーク インターフェイス モジュールの側面。

T1

64 Kbps で 23 本のデータ チャネルと 1 本のシグナル チャネルに供給する 1.544 Mbps のキャリア。

アップストリーム

顧客構内装置からより離れ、ネットワークから近くに位置すること。

ViewStation FX と VS4000 のフレーム率の仕様

フレーム率仕様表

TV モード	双方向	3 方向	4 方向
NTSC	30	30	30
PAL	25	25	25

ISDN 情報

NT-1 情報

この情報は、Quad BRI インターフェイスを使用した ViewStation FX または VS4000 にだけ適用されます。

通常 PBX と呼ばれる内線電話システムに接続していない場合は、ViewStation FX または VS4000 の ISDN ケーブルを、ISDN ウォール ジャックに接続している NT-1 デバイスの IMUX モジュールに接続する必要があります。

すべてが接続されると、さまざまなデバイス上のライトによって適切に接続されているかがわかります。しかしライトで、SPID、スイッチタイプ、および ISDN 番号が正しく ViewStation FX または VS4000 に入力されているかどうかはわかりません。

以下にサンプル NT-1 の設定を表示します。診断情報の詳細に関しては、郵送された特定の NT-1 デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

注記 米国またはカナダ以外では、通常、サービス プロバイダまたは PTT がネットワーク端末 (NT-1) デバイスを提供します。

NT-1 設定のサンプル

Adtran NT-1 Ace

ADTRAN NT-1 ACE ISDN 端末 ユニット上で、ISDN 回線が正しく接続されている場合、以下の状態ライトが表示されます。

状態ライト		
待機中	エラー	電源
オン	オフ	オン

ディップ スイッチは、以下のように設定されています。

ディップ スイッチ	
構成	端末
短い	なし
長い	50
	100

Motorola NT-1D

Motorola NT1D 上で ISDN 回線が正しく接続されている場合、以下の状態 ライトが表示されます。

状態ライト					
SC	ACT	LB	LP	RP	RPR
オン	オン	オフ	オン	オフ	オフ

ディップ スイッチは、以下のように設定されています。

ディップ スイッチ			
1	2	3	4
オン	オン	オン	オン

Alpha Telecom UT620F

Alpha Telecom (AT1) UT620F 上で ISDN 回線が正しく接続されている場合、以下の状態ライトが表示されます。

状態ライト		
電源	ST&U	戻る
オン	オフ	オフ

ディップ スイッチは、以下のように設定されています。

ディップ スイッチ			
1	2	3	4
オン	オン	オフ	オン

ISDN スイッチ

使用している ISDN 回線のタイプによって、サービス プロバイダは 1 回線につき 0、1、あるいは 2 の SPID を割り当てます。

スイッチの種類	割り当てられた SPID
AT&T 5ESS カスタム	なし
AT&T 5ESS NI-1	B チャネルにつき 1 つ
NT DMS-100 NI-1	B チャネルにつき 1 つ
NI-2	デバイスにつき 1 つ
Siemens EWSD NI-1	B チャネルにつき 1 つ
Siemens EWSD NI-2	デバイスにつき 1 つ
インターナショナル（アメリカ合衆国またはカナダ）	なし

ISDN エラー

以下の表では、ISDN 通話状況を指示するために、ISDN スイッチからルーターに送られる ISDN 標準原因値を説明しています。原因データは標準化されていますが、各 ISDN サービス プロバイダは原因を異なった言い回しで表現しています。そのため、表に示された原因はテレビのモニタに表示されるメッセージと全く同一ではないことがあります。

コード	原因	定義
1	割り当てられていない番号 原因	スイッチは送信された ISDN の番号を正しい形式で受信しましたが、相手側の装置はその番号を使用しません。
2	特定トランジット ネットワークへのルートがありません。	ISDN 転換は、通話のルートを決定する中間ネットワークを認識できません。
3	相手側へのルートがありません。	通話のルートを決定する中間ネットワークは、相手側のアドレスへのサービスを提供していません。
6	チャネルを受け入れることができません。	特定のチャネルには、要求された接続を受け入れるだけの QoS がありません。

コード	原因	定義
7	与えられ届いた通話	ユーザーには、すでに確立された通話チャンネルに接続されている通話が割り当てられます。
16	通常の通話のクリアリング	通常の通話クリアリングが発生しました。
17	ユーザーは通話中です。	すべての B チャンネルは使用中です。通話システムは接続依頼を確認しましたが、通話を受けることができません。
18	ユーザーからの応答がありません。	相手側が通話に応答しないので、接続できません。
19	ユーザーからの応答なし（ユーザー警告あり）	相手側は接続の要求に応答しましたが、その後の規定時間内に接続を完了できません。相手側での接続に問題が発生しています。
21	通話が拒否されました。	相手側は通話の受信が可能です、不明の理由で通話を拒否します。
22	番号が変更されました。	通話を設定するのに使用する ISDN の番号が割り当てられたシステムがありません。 (メッセージの診断フィールドには、呼び出された装置に割り当てられた代替アドレスを戻す可能性があります。)
26	選択されていないユーザークリアリング	相手側は通話がユーザーに割り当てられていないために、通話の受信できるのに受信を拒否しました。
27	相手側は故障中です。	インターフェイスが正常に機能していないので、信号メッセージを送信できません。そのため、相手側につながりません。この状態は一時的ですが、しばらく継続するかもしれません。相手側の装置がオフになっている場合も考えられます。
28	無効な番号形式	相手側のアドレスが認識不能な形式で表示されているか、または相手側のアドレスが不完全であるため、接続を確立できませんでした。
29	設備が拒否されました。	ネットワークには、ユーザーが要求した設備がありません。
30	状態調査への応答	事前に受け取った状態調査のメッセージが、状態 メッセージを作成しました。
31	正常。詳細不明	標準原因を適応することなくノーマルが発生しました。その結果、何の行動も必要ありません。

コード	原因	定義
34	回線 / チャネルが利用できません。	接続を確立するための適切なチャネルが利用できないため、通話できません。
38	ネットワークは故障中です。	ネットワークは正常に機能していません。この状態は長期間継続する可能性があります。通話が相手側に届きません。すぐに接続を再試行してもうまくいかない可能性があります。
41	一時的故障	ネットワークは正常に機能していません。エラーが発生しました。問題は間もなく解決されます。
42	交換機の混雑状態	ネットワークの交換機は一時的に混み過ぎて、相手側につながりません。
43	アクセス情報が破棄されました。	ネットワークは要求されたアクセス情報を提供できません。
44	要求回線 / チャネルは利用できません。	原因不明の理由のため、相手側の装置から要求チャネルを提供できません。この問題は一時的なものかも知れません。
47	リソースが利用できません。 詳細不明	原因不明の理由のため、相手側の装置から要求チャネルを提供できません。この問題は一時的なものかも知れません。
49	QoS がありません。	ネットワークは (CCITT 推奨 X.213 で定義された) 要求された QoS を提供できません。この問題は購読に関するものかもしれません。
50	要求設備は購読していません。	相手側装置は要求補足サービスを、購読によって以外はサポートしません。
57	ベアラの権限が認められていません。	相手側はネットワークが提供できるベアラ権限を要求しましたが、ユーザーは使用を認められていません。この問題は購読に関するものかもしれません。
58	ベアラの権限は現在利用できません。	ネットワークには、通常要求されたベアラの権限がありますが、現在はその権限はありません。その理由は、一時的なネットワークの問題、または購読に関するものかもしれません。
63	サービスまたはオプションの入手不可。 詳細不明。	詳細不明の理由によって、ネットワーク、または相手側装置が要求サービス オプションを提供できません。この問題は購読に関するものかもしれません。

コード	原因	定義
65	ベアラの権限が実行されていません。	ネットワークはユーザーが要求したベアラの権限を提供できません。
66	チャンネル タイプが実行されていません。	ネットワークまたは相手側の装置は、要求したチャンネル タイプをサポートしていません。
69	要求設備は実装されていません。	相手側装置は補足サービスをサポートしていません。
70	限られたデジタル情報を持ったベアラのみを利用できます。	ネットワークはベアラの権限を使用して、無制限にデジタル情報を提供することができません。
79	サービスまたはオプションの入手不可。詳細不明。	ネットワークまたは相手側装置は詳細不明の理由で、要求サービス オプションを提供できません。この問題は購読に関するものかもしれません。
81	無効な通話照会値	相手側装置はユーザーネットワーク インターフェイス上で、現在使用していない通話照会を持った電話を受信しました。
82	特定のチャンネルは存在しません。	受信装置は、通話用インターフェイス上で有効にされていないチャンネルを使用することを要求しています。
83	一時停止中の通話が存在しますがこのコール ID は存在しません。	ネットワークは通話再開を要求されています。通話再開の要求には、コール ID が停止中の通話用に使用されていることを表示するコール ID の情報要素が含まれています。
84	コール ID は使用中です。	ネットワークはコール ID が停止中の通話用に使用されていることを表示するコール ID の情報要素を持った通話再開を要求されています。
85	通話一時停止なし	保留中の一時停止通話がないのに、ネットワークは通話再開を要求を受け取りました。これは一時的なエラーかもしれません。連続して通話を実行することで、このエラーは解決できます。
86	コール ID を要求した通話がクリアされました。	ネットワークは通話再開を要求されています。通話再開の要求には、かつて一時停止通話を表示したコール ID 情報の要素が含まれています。しかし、タイムアウトまたは相手側 ユーザーが一時停止通話をクリアしました。

コード	原因	定義
88	不適合な通信先	非 ISDN 装置に接続しようとした。たとえば、アナログ回線などです。
91	無効なトランジット ネットワーク指定	ISDN 転換は認識不能な中間ネットワークを通して、通話のルートを決定的に指示を受けました。
95	無効なメッセージ。詳細不明	無効なメッセージを受信しましたが、標準原因は適応されません。この問題は通常 D-チャンネル エラーが原因です。エラーが組織的に発生する場合は、ISDN のサービス プロバイダまで報告してください。
96	不可欠情報要素が見つかりません。	受信装置は不可欠情報要素の 1 つを含まないメッセージを受信しました。この問題は通常 D-チャンネル エラーが原因です。エラーが組織的に発生する場合は、ISDN のサービス プロバイダまで報告してください。
97	メッセージ タイプが存在しないか、または実装されていません。	メッセージ タイプが無効、あるいはメッセージ タイプは有効ですがサポートされていないために、受信装置が認識不能なメッセージを受信しました。原因 97 は相手側サイトの構成の問題か、またはローカルサイトの D-チャンネルの問題が原因です。
98	メッセージが通話状態に不適合か、またはメッセージ タイプが存在しません。	装置が無効なメッセージを受信しましたが、標準原因は適応されません。原因 98 は通常 D-チャンネル エラーが原因です。エラーが組織的に発生する場合は、ISDN のサービス プロバイダまで報告してください。
99	情報要素が存在しないか実行されていません。	装置は認識不能な情報要素を含んだメッセージを受信しました。この問題は通常 D-チャンネル エラーが原因です。エラーが組織的に発生する場合は、ISDN のサービス プロバイダまで報告してください。
100	無効な情報要素の内容	装置は情報要素内に無効な情報が含まれたメッセージを受信しました。この問題は通常 D-チャンネル エラーが原因です。
101	メッセージは通話状態に不適合です。	装置は現在の接続状態に対応しない予想外のメッセージを受信しました。この問題は通常 D-チャンネル エラーが原因です。
102	タイマ終了の復旧	タイマ終了によって、エラー処理（復旧）手順が開始されました。この問題は通常、一時的なものです。
111	プロトコル エラー。詳細不明。	他の標準原因が適応されない場合は、詳細不明な D-チャンネル エラーが発生しました。

コード	原因	定義
127	インターワーキング。詳細不明。	イベントが発生しましたが、ネットワークはその行動の原因を提供しません。問題の詳細は不明です。
145	ISDN 層 1 および / または 2 リンクが確立されていません。	ユーザーはケーブル配線、ISDN アダプタ状態、およびネットワーク接続を確認する必要があります。
146	ISDN スイッチ / ネットワークへの ISDN 層 3 接続がアクティブの状態になっていません。	スイッチ プロトコル エラーが存在します。または（アメリカ合衆国あるいはカナダで）SPID の割り当て問題が存在します。スイッチ プロトコル エラーが存在します。または（アメリカ合衆国あるいはカナダで）SPID の割り当て問題が存在します。
255	ISDN コマンド処理エラー	ISDN 信号コードは ISDN の活動を処理する際に、エラーを検出しました。ISDN アダプタは使用中です。しばらくして再試行してください。

ISDN でのソフトウェア アップグレード (H. 320)



ViewStation FX または VS4000 のソフトウェアは、その他の ViewStation FX または VS4000 からの H. 320 テレビ通話を通してアップグレードすることができます。

相手側のソフトウェア更新は、通話中に H. 35、PRI、または BRI 回線を通して行うことができます。320 更新作業は、512 Kbps 以下の速度が最善です。

注記 IP (H. 323) 経由でソフトウェアをアップデートする場合は、128 ページの「PC を使用したソフトウェアのアップグレード」を参照してください。

注意 ソフトウェア アップデート処理中に、ViewStation FX または VS4000 の電源をオフにしないでください。ダウンロード処理中に ViewStation FX または VS4000 の電源をオフにすると、システムは元のソフトウェア バージョンに戻ります。

以下のステップで、システムをアップグレードします。

1. アップグレードするシステムにテレビ通話をかけます。
2. [システム情報] > [管理者設定] > [セキュリティ] を選択し、アップグレードしたいサイトの「セキュリティ」画面に表示されたパスワードを書き留めます。
3. ソフトウェアをするサイトで、[システム情報] > [管理者設定] > [ソフト/ハード] > [アップデート] を選択し、「相手側ソフトウェア アップデート」画面にアクセスします。
4. [開始] アイコン をハイライトして、リモコン の  ボタンを押します。
5. ステップ 2 で書き留めたパスワードを入力し、[開始] アイコンをハイライトし、リモコンの  ボタンを押してアップグレード処理を始めます。

ソフトウェア アップグレード処理が完了すると、ViewStation FX または VS4000 は自動的に再起動します。



BRI テクニカル情報

Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール

Quad BRI は IMUX（インバース マルチプレクサ用）とも呼ばれます。Quad BRI では、マルチ回線 ISDN 接続を一緒にして、相手側デバイスへのより高度な接続帯域幅を生成することができます。各 ISDN 回線は、作動回線へ 128 Kbps を追加します。

BRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、4 つの S/T インターフェイス（ネットワーク インターフェイス）をサポートします。各インターフェイスは 2 本の B チャンネルと 1 本の D チャンネルから構成されています。

BRI ネットワーク インターフェイス モジュールのもう一方の側面には、周辺インターフェイス（P-LINK インターフェイス）があります。

BRI ネットワーク インターフェイス モジュールのネットワーク 側面

BRI のネットワーク インターフェイス側面には、4 つの RJ-45 ポートがあります。各ポートには、ネットワークの状態を示す 2 つの LED があります（下記の 274 ページの「Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール上の LED 動作状況」参照）。RJ-45 ポートは、アップストリームの PBX または電話会社スイッチからの標準 CAT5 ケーブルに接続します。



図 7-1. Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール（ネットワーク側面）

BRI ネットワーク インターフェイス モジュールの P-LINK 側面

P-LINK インターフェイスには、1 つのポートがあります。下記の図は、ViewStation FX または VS4000 に接続する Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュールの P-LINK 側面を示しています。



図 7-2. Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール（P-LINK 側面）

ケーブル

P-LINK ケーブル

P-LINK ケーブルは、BRI ネットワーク インターフェイス モジュールを FX または VS4000 に接続するためにだけ作成されています。このケーブルの先端は薄い青のキー RJ-45 コネクタで、もう一方の端は緑色の RJ-45 コネクタです。この薄い青のコネクタを ViewStation FX または VS4000 背後にある薄い青の RJ-45 キーポートに接続します。緑色コネクタをネットワーク インターフェイス モジュールの P-LINK インターフェイスに接続します。

注記 接続ケーブルについての詳細は、15 ページの「Quad BRI ネットワーク インターフェイス設定」を参照してください。

ネットワーク ケーブル

ネットワーク ケーブルは、以下のピン配置のある標準 CAT5 ケーブルです。

4 と 5 - アップストリーム デバイスから BRI ネットワーク インターフェイス モジュールにデータを受信 する。

3 と 6 - BRI ネットワーク インターフェイス モジュールからアップストリーム デバイスにデータを送信する。

PBX が適切に作動するために、交差ケーブルを必要とする場合があります。

注記 接続ケーブルについての詳細は、15 ページの「Quad BRI ネットワーク インターフェイス設定」を参照してください。

ネットワーク接続

BRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、顧客構内装置 (CPE) となるように作成されています。このため、BRI ネットワーク インターフェイス モジュールは、ネットワークへのクロック シグナルを生成しません。その代わりに、モジュールはアップストリーム のスイッチまたは接続されている PBX からクロックを誘導します。これは、スレーブ モードと呼ばれることもあります。

Quad BRI ネットワーク インターフェイス モジュール上の LED 動作状況

状態 ISDN S/T LED	説明
右 LED (緑色)	<p>オフ = スイッチへの接続がないか、またはクロックがないことを示しています。</p> <p>オン = クロックがスイッチと同期化されています。</p>
左 LED (黄色)	<p>オフ = インターフェイス カードがリセット モードでブート中です。</p> <p>オン = インターフェイス カードがアクティブです。</p>
両方の LED	<p>オン = 普通の稼動状態を示しています。</p>

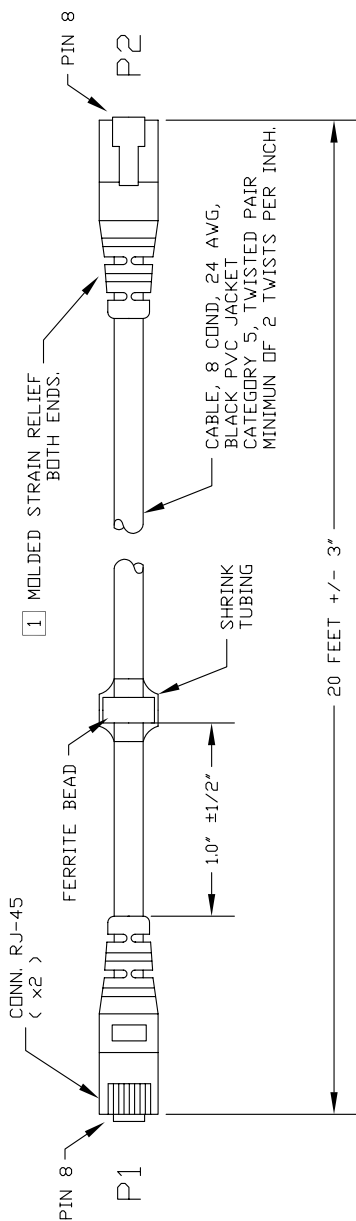
自動 Quad BRI ソフトウェア更新

Quad BRI には、少なくとも FX または VS4000 と同レベルのソフトウェア バージョンがあります。リブートした際、ViewStation FX または VS4000 が Quad BRI に古いバージョンがあることを検出した場合は、Quad BRI が同じバージョンになるように自動的に更新されます。これが起きた場合には、ダウンロードにはこれを説明するメッセージが付随します。ダウンロード中は、システムをオフにしないでください。

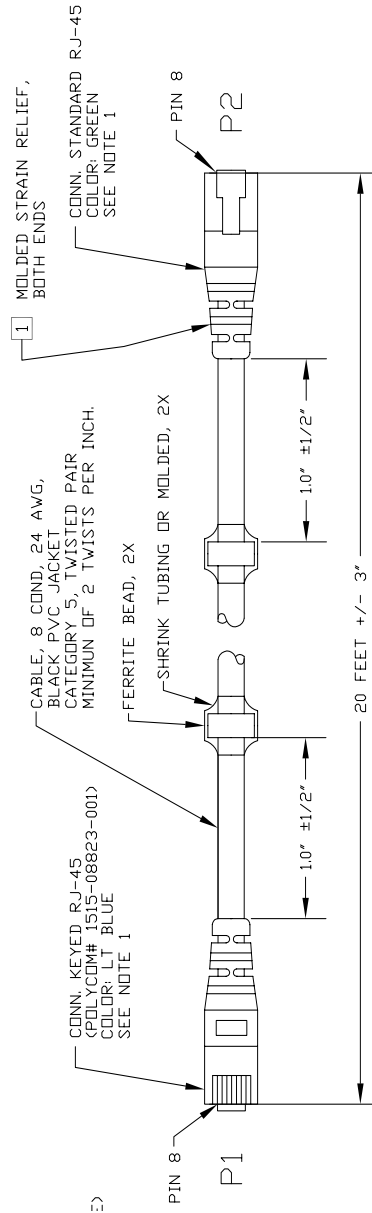
Quad BRI に ViewStation FX または VS4000 より最近のバージョンがある場合には、自動更新は行われません。

BRI ケーブル

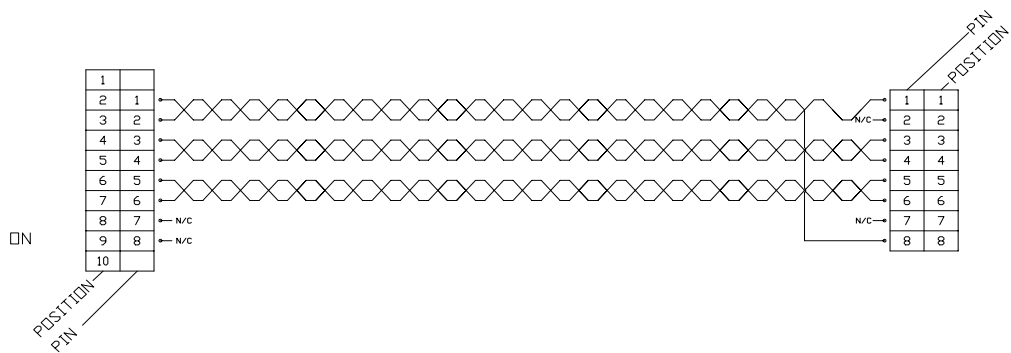
RJ-45 から RJ-45 へのクリア ケーブル図



キー RJ-45 から標準 RJ-45 へのケーブル図



キー RJ-45 のピン配置から標準 RJ-45 ケーブル





4- モニタ サポート表

サポート表

この表では、異なったモニタの基本構成、および異なったシナリオにおける各モニタの表示結果を示します。

注記	PIP	または Picture-in-Picture (ピクチャ イン ピクチャ)
	CP	継続表示
	最終話者	最後の話し手またはプレゼンターを全画面表示
	メイン /UI	FX または VS4000 ユーザー インターフェイスのメイン画面

	PIP	Monitor				One of	
		1	2	3	4	FX VGA	R2D2 VGA
Boot Up Mode	None	Splash	Splash	Splash	Splash	JPEG	
Diagnostics Color Bar	None	Color Bar	Color Bar	Color Bar	Color Bar		
Single Monitor Mode							
No VGA							
Not in a Call							
Main/UI	Near	Main					
Graphic	None	Graphic					
In a pt-to-pt Call							
Call Connect	Near	Far					
Graphic	Far	Graphic					
Main/UI	Far	Main					
3-way Call							
Graphic	Last Talker	Graphic					
Main/UI	Last Talker	Main					
Discussion Mode	None	CP					
Presentation Mode	None	CP					
Full Screen	Near	Last Talker					
4-way Call							
Graphic	Last Talker	Graphic					
Main/UI	Last Talker	Main					
Discussion Mode	None	CP					
Presentation Mode	None	CP					
Full Screen	Near	Last Talker					
VGA							
Not in a Call							
Main/UI	Near	Main				unchg	unchg
Graphic	None	Near				Graphic	Graphic
In a pt-to-pt Call							
Call Connect	Near	Far				unchg	unchg
Graphic	Near	Far				Graphic	Graphic
Main/UI	Far	Main				unchg	unchg
3-way Call							
Graphic	Near	Far				Graphic	Graphic
Main/UI	Last Talker	Main				unchg	unchg
Discussion Mode	None	CP				unchg	unchg
Presentation Mode	None	CP				unchg	unchg
Full Screen	Near	Last Talker				unchg	unchg
4-way Call							
Graphic	None	CP				Graphic	Graphic
Main/UI	Last Talker	Main				unchg	unchg
Discussion Mode	None	CP				unchg	unchg
Presentation Mode	None	CP				unchg	unchg
Full Screen	Near	Last Talker				unchg	unchg
Sleep Mode	None	None				None	None
Dual Monitor Mode							
No VGA							
Not in a Call							
Main/UI	Near	Main	Near				
Graphic	None	Near	Graphic				
In a pt-to-pt Call							
Call Connect	None	Far	Near				
Graphic	Near	Far	Graphic				
Main/UI	Far	Main	Far				
3-way Call							
Graphic	None	CP	Graphic				

4-way Call	Main/UI	Last Talker	Main	Last Talker	Last Talker			
	Discussion Mode	Near	Far	Far2				
	Presentation Mode	Near	Far	Far2				
	Full Screen	Near	Far	Far2				
	Graphic	None	CP	Graphic				
	Main/UI	Last Talker	Main	Last Talker				
	Discussion Mode	None	CP	Near ?				
	Presentation Mode	None	CP	Near ?				
	Full Screen	None	Last Talker	Near				
	VGA	Not in a Call						
Main/UI		Near	Main	Near				
Graphic		None	Near	None				
In a pt-to-pt Call								
Call Connect		None	Far	Near				
Graphic		None	Far	Near				
Main/UI		Far	Main	Far				
3-way Call								
Graphic		Near	Far	Far2				
Main/UI		Last Talker	Main	Last Talker				
	Discussion Mode	Near	Far	Far2				
	Presentation Mode	Near	Far	Far2				
	Full Screen	Near	Far	Far2				
	4-way Call							
	Graphic	None	CP	Last Talker				
	Main/UI	Last Talker	Main	Last Talker				
	Discussion Mode	None	CP	Last Talker				
	Presentation Mode	None	CP	Last Talker				
	Full Screen	None	Last Talker	Near				
	Three Monitor Mode	No VGA						
Not in a Call								
Main/UI		None	Main	Near	None			
Graphic		None	Near	Graphic	None			
In a pt-to-pt Call								
Call Connect		None	Far	Near	None			
Graphic		None	Far	Graphic	Near			
Main/UI		Far	Main	Near	Far			
3-way Call								
Graphic		Near	Far	Graphic	Far2			
	Main/UI	Last Talker	Main	Far	Far2			
	Discussion Mode	None	Far	Near	Far2			
	Presentation Mode	None	Far	Near	Far2			
	Full Screen	None	Far	Near	Far2			
	4-way Call							
	Graphic	None	CP	Graphic	Last Talker			
	Main/UI	Last Talker	Main	Far2	Far3			
	Discussion Mode	Near	Far	Far2	Far3			
	Presentation Mode	Near	Far	Far2	Far3			
	Full Screen	Near	Far	Far2	Far3			
VGA	Not in a Call							
	Main/UI	None	Main	Near				None
	Graphic	None	Near	None				None
	In a pt-to-pt Call							
	Call Connect	None	Far	Near				None
	Graphic	None	Far	Near				None
	Main/UI	Far	Main	Near				Far

3-way Call								
Graphic	None	Far	Near	Far2		Graphic	Graphic	
Main/UI	Last Talker	Main	Far	Far2				
Discussion Mode	None	Far	Near	Far2				
Presentation Mode	None	Far	Near	Far2				
Full Screen	None	Far	Near	Far2				
4-way Call								
Graphic	Near	Far	Far2	Far3		Graphic	Graphic	
Main/UI	Last Talker	Main	Far2	Far3				
Discussion Mode	Near	Far	Far2	Far3				
Presentation Mode	Near	Far	Far2	Far3				
Full Screen	Near	Far	Far2	Far3				
Four Monitor Mode								
No VGA								
Not in a Call								
default (main)	None	Main	Near	None	None			
Graphic	None	Near	Graphic	None	None			
In a pt-to-pt Call								
Call Connect	None	Far	Near	None	None			
Graphic	None	Far	Graphic	Near	None			
Main/UI	Far	Main	Near	Far	None			
3-way Call								
Graphic	None	Far	Graphic	Far2	Near			
Main/UI	Last Talker	Main	Near	Far2	Far			
Discussion Mode	None	Far	Near	Far2	None			
Presentation Mode	None	Far	Near	Far2	None			
Full Screen	None	Far	Near	Far2	None			
4-way Call								
Graphic	Near	Far	Graphic	Far2	Far3			
Main/UI	Last Talker	Main	Far	Far2	Far3			
Discussion Mode	None	Far	Near	Far2	Far3			
Presentation Mode	None	Far	Near	Far2	Far3			
Full Screen	None	Far	Near	Far2	Far3			
VGA								
Not in a Call								
default (main)	None	Main	Near	None	None			
Graphic	None	Near	None	None	None	Graphic	Graphic	
In a pt-to-pt Call								
Call Connect	None	Far	Near	None	None			
Graphic	None	Far	Near	None	None	Graphic	Graphic	
Main/UI	Far	Main	Near	Far	None			
3-way Call								
Graphic	None	Far	Near	Far2	None	Graphic	Graphic	
Main/UI	Last Talker	Main	Near	Far2	Far			
Discussion Mode	None	Far	Near	Far2	None			
Presentation Mode	None	Far	Near	Far2	None			
Full Screen	None	Far	Near	Far2	None			
4-way Call								
Graphic	None	Far	Near	Far2	Far3	Graphic	Graphic	
Main/UI	Last Talker	Main	Near	Far2	Far3			
Discussion Mode	None	Far	Near	Far2	Far3			
Presentation Mode	None	Far	Near	Far2	Far3			
Full Screen	None	Far	Near	Far2	Far3			

相互運用性情報

H. 320 エンドポイント相互運用性

製造元	モデル	バージョン
Intel	TeamStation	5.0
PictureTel	600 Series	3.0.0.815
PictureTel	900 Series	3.0.0.815
PictureTel	Concorde	6.5
PictureTel	Swiftsite	1.20.03
Sony	Contact Host	4.20
Tandberg	1000	B3.2
Tandberg	2000	B3.2
Tandberg	6000	B3.2
Tandberg	800	B3.2
Tandberg	500	B3.2
VCON	Cruiser	4.01
VCON	Media Connect 8000	4.01
VTEL	Galaxy	2.1.0.064a
VTEL	TC	2.20

H. 323 エンドポイント相互運用性

製造元	モデル	バージョン
Intel	Proshare	5.1
Intel	TeamStation	4.0 および 5.0 (G.722 では音声なし)
Microsoft	NetMeeting	2.1
Microsoft	NetMeeting	3.0 (アプリケーション共有、ファイル転送 またはホワイトボード なし)
Microsoft	NetMeeting	3.01 (アプリケーション共有、ファイル転送 またはホワイトボード なし)
PictureTel	550	
PictureTel	LiveLAN	3.1
PictureTel	600 Series	3.0.0.815
PictureTel	900 Series	3.0.0.815
Tandberg	1000	B3.1
Tandberg	2500	B3.1
Tandberg	6000	B3.1
Tandberg	800	B3.1
Tandberg	500	B3.1
VCON	Cruiser	4.01
VCON	Media Connect 8000	4.01
VCON	Falcon	0131.M03.D07.H15
VCON	Vigo	4.5
VTEL	Galaxy	2.1.0.064a

MCU H. 320 相互運用性

製造元	モデル	相互運用性
Accord	MGC-100	チェア コントロール、相手側カメラ コントロール、T. 120
Lucent	多地点会議ユニット	チェア コントロール カスケード通話では相手側カメラ コントロール、T. 120 は作動しません。
PictureTel	Montage 570、Prism	チェア コントロール、相手側カメラ コントロール、T. 120
VideoServer	2000 Series	チェア コントロール、相手側カメラ コントロール、T. 120
VTEL	SmartLink/W, SmartLink 1000 および 2000	チェア コントロール、相手側カメラ コントロール、T. 120

MCU H. 323 相互作用

製造元	モデル	バージョン
Accord	MGC-100	3. 00. 268
Whitepine	Meeting Point	5. 0
Ezenia	MCS	1. 2. 2
Radvision	MCU	2. 2. 0. 5

ゲートウェイ / ゲートキーパー / T120 サーバの 相互運用性

製造元	モデル	バージョン
Accord	MGC-100/ ゲートウェイ	3.00.268
Cisco	3640 ルーターの MCM ゲート キーパー	12.1 ビル ド 7
Whitepine	Meeting Point ゲートキー パー	5.0
Ezenia	ゲートキーパー	1.2.2
Radvision	L2W-323BRI ゲートウェイ / ゲートキーパー	2.2.3.2.1
Radvision	L2W-323PRI ゲートウェイ / ゲートキーパー	2.2.3.2.1
Radvision	MCU ゲートキーパー	2.2.1.0.5
Radvision	NGK 200 ゲートキーパー	1.0
Radvision	T120 データ共有サーバ	1.07

Polycom OneDial™ とグローバル ディレクトリ

この文書では、ネットワークのエンド ユーザーが他のエンド ユーザーに簡単にダイヤルできるようにする基本構成の手順を説明します。管理者が Polycom OneDial とグローバル ディレクトリで使用するエンドポイントを設定して、エンド ユーザーからの IP と ISDN ダイヤルの複雑性が見えないようにするかを示します。

エンドポイント間の異なったダイヤル方法

1 つのエンドポイントからもう 1 つのエンドポイントへ通信する際、優先メカニズムとして読解可能な名前または電話番号を使用します。これに加えて、内線を使用することもできます。しかし、ダイヤルに使用するすべてのメカニズムは、基本的ダイヤルフォーマットに分解する必要があります。IP アドレス、ISDN 番号 および / または内線 分解された後には、以下のダイヤル シナリオに組み込まれます。

- **IP アドレス** : このダイヤル フォーマットの使用
 - プライベート ダイヤル
 - 両方のエンドポイントがそれぞれのファイアウォールを通してアクセスを許可されているパブリック ダイヤル
- **IP アドレス + 内線** : このダイヤル フォーマットの使用
 - 受信するエンドポイントがファイアウォール ゲートウェイまたはプロキシの背後にあるパブリック ダイヤル
- **電話番号** : このダイヤル フォーマットの使用
 - ネイティブの ISDN があるエンドポイントへのダイヤル
 - エンドポイントに一意の番号をダイヤルするゲートウェイを通したダイヤル (DID [Direct Inward Dial (直接内部ダイヤル)])
- **電話番号 + 内線** : このダイヤル フォーマットの使用
 - エンドポイントに独自の電話番号がなく内線番号を使用して指定しなければならないゲートウェイを通したダイヤル

エンドポイントが互いに会話できる基本設定

エンドポイントが互いに通信するには、共通の通信メカニズムがあることが必要となります。これには、両方のエンドポイントが IP または ISDN を経由してアドレス指定できることが必要です。1 つのエンドポイントが IP 経由だけでアドレス指定でき、もう 1 つが ISDN 経由だけでアドレス指定できる場合、この 2 つのエンドポイントは通信できません。

H. 320 エンドポイント（ネイティブ ISDN のあるエンドポイント）

このエンドポイントを H. 320 と H. 323 との両方のエンドポイントと通信できるように基本設定するには、「通信タイプ設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[通信設定]>[通信タイプ設定]）で、H. 320 と H. 323 の両方との通話を許可するタイプ指定を基本設定しなければなりません（[ISDN ビデオ通話] と [LAN/Internet 通話] オプションを有効にしなければなりません）。

H. 323 エンドポイント（ネイティブ ISDN のないエンドポイント）

1. この H. 323 エンドポイントを H. 320 エンドポイントと通信するように基本設定するには、ゲートキーパーが以下のように指定されていなければなりません。
 - a. 「ゲートウェイ / ゲートキーパー」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[ゲートウェイ / ゲートキーパー]）の [ゲートキーパー IP アドレス] フィールドで IP アドレスを入力するか、または [自動]（発見）を使用します。
 - b. 「ゲートウェイ / ゲートキーパー」画面で、その他の情報を好きなように基本設定します。

2. H. 320 エンドポイントからこの H. 323 エンドポイントにダイヤルするには、この H. 323 エンドポイントの ISDN 番号を以下のように指定します。

- a. 「ゲートウェイ / ゲートキーパー」画面から「ゲートウェイ番号」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[ゲートウェイ / ゲートキーパー]>[ゲートウェイ番号]）を選択します。
- b. ここでダイヤルしなければならない ISDN 番号は、内線をダイヤルせずにこの H. 323 エンドポイントに届く DID（Direct Inward Dial [直接内部ダイヤル]）番号か、あるいはメイン ゲートウェイ番号と内線（電話番号 + [内線番号] オプション）です。

ダイヤルイン (DID) : DID を使用する場合、DID の桁数は Called Party Line Identifier（呼び出しパーティー回線識別子）として ISDN サービス プロバイダから供与されるゲートウェイの完全 DID 部分です。そして、これがゲートキーパーにアドレス解決として渡されます。これが有効に作動するには、エンドポイントが DID のこの部分を E. 164 エイリアスとしてゲートキーパーに登録する必要があります。

DID を使用する場合は、内線番号の桁数が企業内の短縮番号として使用され、またこの機能を有効にするためにだけ設定される必要があります。これが設定された場合、DID のこの部分が企業内のアドレス解決としてゲートキーパーに登録されます。

3. 以下の手順で、この H. 323 エンドポイントは H. 320 エンドポイントにダイヤルします。
 - a. 「ゲートウェイ」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[ゲートウェイ / ゲートキーパー]>[ゲートウェイ設定]）で、ゲートウェイが使用する接頭番号と接尾番号を基本設定します。これらの接頭番号は、ゲートキーパーが利用できるゲートウェイを通して通話をルートするために使用されます。

適切なエントリを表示するようにアドレス帳を基本設定する

このエンドポイントが H. 320 と H. 323 エンドポイントの両方と会話できるように設定できたので、今度は Global Directory（グローバル ディレクトリ）を基本設定する必要があります。

1. 「グローバル ディレクトリ（サーバ）」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[グローバルアドレス帳]>[サーバ]）で、[グローバル ディレクトリ サーバ] を [Server IP Address（サーバ IP アドレス）] フィールドに入力します。

「グローバルアドレス帳」画面で、他の情報も好みに応じて基本設定します。

2. 「グローバル アドレス帳設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[グローバルアドレス帳]>[基本設定]）で以下の設定を基本設定します。
 - a. このエンドポイントが、[グローバル ディレクトリ] を使用して発信できる通話タイプを指定します。これは、Show Addresses in Address（アドレス帳のアドレス表示）の下で適切なオプション（H. 320 そして / または H. 323）を選択して、行われます。
 - b. ネットワーク管理者が指定する通りに、[別名 (E.164)] オプションを基本設定します。この E.164 エイリアスは、多くのオプションの 1 つで典型的には階層的ゲートキーパー展開を通して通話をルートするのに使用されます。
 - c. 「詳細基本設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[グローバルアドレス帳]>[基本設定]>[詳細設定]）で、[Primary（プライマリ）] と [Secondary Call Type Choice（セカンダリ通話タイプ選択）] オプションを選択します。

注記 このオプションが利用可能なのは、[グローバル アドレス帳サーバ] に使用される GMS バージョンがバージョン 2.5 以降の場合です。

- d. 「グローバル アドレス帳設定」 画面に戻って、必要に応じて、[グローバル アドレスの最大回線速度] を基本設定します。

グローバル ディレクトリに必要なエンドポイント情報

グローバル ディレクトリは、このエンドポイントから以下の情報を収集します。

- **IP アドレス** : エンドポイントの LAN/ イン트라ネット セクション (「LAN / I イン트라ネット」 画面) に基本設定されています。
- **このエンドポイント の H. 323 内線 (E. 164 エイリアス)** : 優先 E. 164 エイリアスのように、このエンドポイントの [グローバルアドレス帳]-> [基本設定セクション] に基本設定されています。
- **ISDN 番号** : エンドポイントがネイティブの ISDN をサポートしている場合は、ネイティブ ISDN 番号です。

H. 323 だけのシステムでは、このエンドポイントにダイヤルするのに使用されるゲートウェイ番号です。この番号は、エンドポイントの「ゲートウェイ番号」画面 ([システム情報]> [管理者設定]> [LAN/H. 323]> [H. 323]> [ゲートキーパー / ゲートウェイ]> [ゲートウェイ番号]) に基本設定されています。

グローバル ディレクトリを使用した場合のダイヤル作動

以下では、エンドポイントが「グローバル ディレクトリ」でエンタリを表示また選択した際に何が生起するかを説明します。このエンドポイントが指定したアドレス タイプを表示するには、グローバル ディレクトリ基本設定がすでに設定されていることが前提となります。

- **IP アドレス エントリ**
 - このエンドポイントがゲートキーパーに登録されている場合 このエンドポイントには、相手側エンドポイントの [H. 323 内線] が表示されます。この [H. 323 内線] をゲートキーパーにアドレス解決として送信することによって、ダイヤルできます。
 - このエンドポイントがゲートキーパーに登録されていない場合 このエンドポイントには、相手側エンドポイントの IP アドレスが表示されます。この IP アドレスを直接にダイヤルして、接続することもできます。
- **ISDN アドレス エントリ（ネイティブ ISDN のあるエンドポイントから）**
 - デフォルト発信通話ルート が「ゲートキーパー / ゲートウェイ」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[ゲートキーパー / ゲートウェイ]）の ISDN に設定されている場合、このエンドポイントには相手側エンドポイントの ISDN 番号（指定がある場合は、内線も）が表示されます。また、このエンドポイントのネイティブ ISDN 回線を通して、直接にこの ISDN 番号（指定がある場合は、内線も）をダイヤルします。

- その他の場合このエンドポイントに、相手側エンドポイントの ISDN 番号（指定されている場合は、内線も）が表示されます。このアドレス（指定がある場合は、内線も）をゲートキーパーにアドレス解決として送信することによって、「ゲートウェイ設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[ゲートキーパー / ゲートウェイ]>[ゲートウェイ設定]）に設定されているように、指定ビット レートでゲートウェイ接頭番号、それに IP 通話と同じビット レートで ISDN 番号とゲートウェイ接尾番号を加えて ダイヤルできます。

注記 そうすると、ゲートキーパーは利用可能なゲートウェイを通して通話をルートし、相手側エンドポイントに接続します。

- **ISDN アドレス エントリ（ネイティブ ISDN のあるエンドポイントから）**
 - このエンドポイントに、相手側エンドポイントの ISDN 番号（指定されている場合は、内線も）が表示されます。「ゲートウェイ設定」画面（[システム情報]>[管理者設定]>[LAN/H. 323]>[H. 323]>[ゲートキーパー / ゲートウェイ]>[ゲートウェイ設定]）に設定されている指定ビットレートには、ゲートウェイ接頭番号を、また IP 通話と同じビットレートには、ISDN 番号、ゲートウェイ接尾番号 を加えて、このアドレス（指定がある場合は、内線も）をゲートキーパーにアドレス解決としてすることによって、ダイヤルします。

注記 そうすると、ゲートキーパーは利用可能なゲートウェイを通して通話をルートし、相手側エンドポイントに接続します。

索引

Numerics

4CIF 解像度 201

A

音

調節 45

音の制御 83

音声

プロトコル, 196

入力出力レベル 221

音量制御 83

暗号化 (V.35) 229

暗号化再同期情報 (V.35) 229

159

管理者設定 Web アイコン 117

効果音量制御 46

188

画像

入出力レベル 221

入力と出力レベル 221

呼び出しへの応答, 56

呼び出しの応答 44

176

ANNEX-D 情報 114

186

「音声設定」画面 195

「音質基本設定」画面

BRI 146, 151

PRI 146

「音質設定」画面

BRI 151

「管理者設定」画面 187

「画像とカメラ」画面 196

「会議への追加」画面 76

「会議の侮ヲ Web」画面 107

「外線通話」画面 35

「仮想リモコン」Web 画面 121

「基本設定」画面 188

「基本設定」Web 画面 118

「項目の追加 / 変更」(アドレス帳)
画面 72

「ようこそ (言語)」画面 18

「ようこそ

(情報)」画面 19

「国名」画面 21

「国名設定」画面 188

「ダイヤル速度」画面

BRI 153

H. 323 161

PRI 148

V.35 26, 134

「ダイヤル方式設定」画面

BRI 152

PRI 147

V.35 27, 135

「自動 SPID 検出」(BRI) 画面 150

「自動検出 SPID」画面 (BRI) 34

「多地点会議」画面 76

「詳細 PRI 設定」画面 144

「詳細 V.35」画面 (通話プロファイル一覧) 28, 135

「詳細設定」(V.35) 画面 131

「アドレス帳」画面 54, 71

「アドレス帳送信」画面 74

「モニタ」画面 197

「テレビ通話」画面 43

「手動ダイヤル」Web 画面 105

「ヤットウェア」画面 204

「診断」画面 181

「カメラ」画面 200

「グラフィック モニタ」画面 198

「ファイルを開く」画面
(pcPresent) 110
「新規アドレス帳エントリ」画面 72
「システム リセット」画面 184
「システム診断」Web 画面 120
「システム情報」画面 179
「システム情報」Web 画面 117
「システム名」画面 20
「ヘルプ」画面 (トピック) 47
「セキュリティ」画面 65, 203
「FX VGA モニタ」画面 199
「H. 323 設定」(基本告々) 画面 157
「H. 323 設定」(基本設定) 画面 22
「H. 323 設定」(メイン) 画面 157
「通信タイプ設定」画面 21
「通信タイプ設定」画面 (V. 35 と IS-
DN) 21, 22
「通信設定」画面
 BRI 191
 PRI 190
 V. 35 190
「通信設定」画面 (V. 35), 25, 29
「通話終了の選択」画面 44, 57
「通話状況」画面この 183
「通話プロファイル」画面 (V. 35) 27
「通話プロファイル」画面 (V. 35),
135
「通話発信 Web」画面 103
「電話通話」画面 58
「電話番号」画面 36
「IMUX 情報」(BRI) 画面 149
「IMUX 情報」画面 137
「ISDN スイッチ プロトコル」画面
(BRI), 34
「ISDN 通信設定」(BRI) 画面 191
「ISDN 番号」(BRI) 画面 150
「短縮ダイヤル」画面 55

「LAN & イントラネット」画面 155,
156
「LAN」画面 155, 192
「pcPresent」画面 109
「PIP」画面 41
「PRI チャンネル (E1)」画面 142
「PRI チャンネル (T1)」画面 142
「PRI 設定 (E1)」画面 140
「PRI 設定 (T1)」画面 140
「PRI 情報 (E1)」画面 139
「PRI 番号」画面 138
「PRI ISDN 番号」画面 30
「RS-232」画面 205
「SNMP 設定」画面 167
「Softupdate システム情報」画面
130
「Softupdate」画面 (メイン) 129
「TV モニタ」画面 197
「VCR 設定」画面 202
「VGA 入力調整」画面 203
「VS4000 カメラ設定」画面 201

B

BRI
 「ダイヤル速度」画面 153
 「ダイヤル方式設定」画面 152
 「自動 SPID 検出」画面 150
 「IMUX 情報」画面 149
 「ISDN 番号」画面 150
 自動 Quad BRI ャt トウェア更新
 17
 多地点通話 61
 IMUX 16
 IMUX 設定 191
 LED 情報 274

C

こちら側カメラの選択 78

189

カメラ

4CIF 解像度 201

こちら側カメラの選択 78

広角レンズ情報 6

自動音声トラッキング 82

設定 81

相手側カメラの制御 80

相手側カメラの調節 45

プリセット 81

追加 89

二番目カメラの調節 81

「メニュー項暴」 19

高解像度カメラ 200, 201

告

初期画面 18, 35

クリアリング 184

国際通話識別番号

(国際アクセス番号) 173

再同期パルス (V.35) 229

198

広角レンズ 6

CRC4/HDB3 (PRI) 251

D

DHCP 設定 155

E

E.164 内線 158

アイコンとインジケータ 83

インジケータ 40, 183, 37, 49

通話進行インジケータ 40, 183

ISDN

インジケータ 37

データ会議 122, 194, 193, 194

ShowStation IP

データ会議 194

「データ会議」 193

「音声メータ」 183

稲妻インジケータ情報 49

NT-1

状態インジケータ情報 261

177

ダイヤル接頭番号 28, 136

ダイヤル接尾番号 28, 136

189

ダイヤル内線 173

レター ボックス フォーマット 198

マイク ポッド

一般情報 4

ストリーミング 85, 119, 167

「ストリーミング Web」画面 119

ストリーミング画像 84, 167

「ストリーミング」画面 166

83, 23, 158

自動音声トラッキング 82

185, 189, 185, 195, 40

多地点通話

速度情報 61

アドレス帳の複数エントリ 76

発信 63

詳細設定

BRI 149

H.323 154

PRI 137

V.35 131

接続

DHCP 情報 97, 99

PC と FX/VS4000 を LAN に接続
96

PC を LAN にない FX/VS4000 に
98

PC 設定 98, 99

カメラ
 傾斜, パン、ズーム 79
チェア コントロール 69, 67, 69
インストーフェイス 15, 11, 9, 7,
8
Sony EVI-D30 カメラのインスト
89
ViewStation FX
 インストール 7
VS4000
 インストール 8
「ダイヤルルール 1」画面 172, 174
オプション装置
 パン / 傾斜 / ズーム カメラ 89
PRI
 モジュール 240, 241
 コール バイ コール 145
ボーレート 205
RS-232
 ボーレート 205
PRI
 モジュール外部電源装置 245
「QoS / ファイアウォール」画面 159
H. 323
 「QoS / ファイアウォール」
 画面 159
エラー メッセージとコード 41, 263
176
アイコン 39, 40
リモコン
 機種の説明 4
 作動しません。49
186
相手側カメラの選択 79
186
60 フィールド / 秒 >=512Kbps オプ
ション 198

アドレス帳
 既成エントリの編集 73
 多地点エントリ 76
 アクセス 71
 エントリの削除 73
 エントリの消去 184
 エントリの追加 72
 転送 74
189
アナログ通話
 テレビ通話への追加, 59
 テレビ通話の追加, 60
 終了 59
 発信 57
177
フレーム率 259
NTSC フレーム率 259
PAL フレーム率 259
RS-232
 パススルー モード 206
モニタ (オプション) 89
70, 198
グラフィック カーソル 93
テレビ モニタ 5
テレビ通話
 応答 44
 自動応答 56
 多地点 61
 手動ダイヤル (1 つの番号) 40
 手動ダイヤル (2 つの番号) 42
 終了する 57
 電話通話の追加 59
テレビ通話の終了 57
アドレス帳ユーティリティ 127
音声
 基本的トラブルシューティング
 50

- 詳細トラブルシューティング 209
- 画像
 - 基本的トラブルシューティング 51
 - 詳細トラブルシューティング 210
- リモコン
 - トラブルシューティング 217
- トラブルシューティング 50, 209, 51, 210, 218, 217, 212, 216, 214, 215
- IMUX
 - 詳細トラブルシューティング 214
- LAN/ イン트라ネット
 - 詳細トラブルシューティング 215
- Network and Communications
 - 詳細トラブルシューティング 212
- SPID 番号
 - トラブルシューティング 212
- テスト通話 37
- ディップ スイッチ (NT-1) 262 163
- 診断
 - 「音声」画面 183
 - 「システム リセット」画面 184
 - 「通話状況」画面 183
- 診断 Web アイコン 117
- 4 モニタ サポート 70, 198
- 多地点通話
 - TCP と UDP ポート 62
- H. 323
 - そして Y トラウェア アップグレード 269
- H. 323
 - そして Y トラウェア アップグレード 128
- マイク ポッド
 - ミュート ボタン 83
- リモコン
 - ミュート ボタン 83
- ミュート ボタン (マイク ポッド / リモコン) 83
- 音
 - ミュート ボタン (マイク ポッド / リモコン) 83
- 「ヘルプ」画面 (テクニカル サポ 48
- リモート管理 121, 122, 102, 186
- モニタ
 - マルチウェイ通話でサポ 70
- RS-232
 - ポート操作 207
- 「ゲートウェイ & ゲートキーパー」画面 162
- ゲートウェイ (ダイヤル) 申 / 貼 TM 番号 165
- 「ゲートウェイ」画面 165
- H. 323
 - 「ゲートウェイ」画面 165, 162
 - ゲートウェイ申 / 能 @ 番号 165, 164
 - 「ゲートウェイ番号」画面 164
- H. 323
 - 「ゲートウェイ番号」画面 164
- 状態アイコン
 - ゲートキーパー 39
- ゲートキーパー IP アドレス 163
- 「ゲートキーパー」画面 24
- ミュート受信通話 195
- テクニカル サポート連絡先 48
- 多地点会議パスワード 66, 65
- 多地点通話

パスワード 65
 悔7モード 63
多地点悔7モード 64, 65, 64
 ヤtトウェア アップグレード: ISDN
 経由 269, 128
 ヤtトウェアのアップグレード:
 ISDN 経由 269, 128
パスワード: 「セキュリティ」画面
204, 65, 170
スライド閲覧パスワード 186
RS-232
 制御モード 206
Softupdate
 ヤtトウェア アップグレード
 128
エンコード テスト 184
多地点通話
 カスケード機能 67
「ヤtトウェア / ハードウェア」画面
204
「ハードウェア情報」画面 208
H. 331 ブロードキャスト モード 132
V. 35
 「ブロードキャスト モード」画面
 132
「ブロードキャスト モード」画面
(V. 35) 132
ドキュメント カメラ (オプション)
90
スクリーン キーボード 20
「トーン作成」画面 183
プレーション: 多地点通話でのスラ
イド 63, 216, 106, 110, 108
「プレーション パスワード」画面
111, 112
「使用できるプレーション」画面 111
「悔7するプレーションの選択 Web」

画面 108
「スライド プレーション情報」画面
113
オプション 23, 130, 158, 159,
162, 163, 164, 176, 177, 185,
186, 188, 189, 195, 197, 198,
199, 200, 202
オプション
 70
オプション (PRI) 144
オプション (V. 35) 134
オプション装置
 モニタ
 89
 ドキュメント カメラ 90
 ShowStation IP 91
 VCR 90
「ローカル アドレス簿 d Web」画面
104
カメラ
 こちら側のカメラの調節 45
 高解像度カメラ 200
 相手側カメラの選択 79
 カメラ プリセットの自動トラッ
 キング 82
 バックライト補正 200
 プライマリ カメラ 200
 VS4000 互換性 6
カメラ制御 78
 200, 189
エコー キャンセル 195
ネットワーク ダイアル ルール情報
172, 219, 279, 160, 5, 15, 25, 8,
5, 11, 239, 5, 9

BRI
 ネットワーク インターフェイス
 インストール 15
 PRI
 ネットワーク インターフェイス
 インストール 11
 V. 35
 ネットワーク インターフェイス
 インストール 9
 PRI
 ネットワーク インターフェイス
 モジュール情報 239
 E1 ネットワーク ケーブル 242
 ネットワーク ケーブル情報 242
 「PRI ネットワーク」画面 138
 「詳細ネットワーク情報」画面 182
 診断
 「詳細ネットワーク情報」画面
 182
 「ネットワーク統計」画面 181
 診断
 「ネットワーク統計」画面 181
 GMS
 サーバ 177
 「カラー バー」画面 183
 診断
 「カラー バー」画面 183
 「グローバル アドレス (サーバ)」
 画面 169
 グローバル アドレス筆 d: 使用法 75
 状態アイコン
 グローバル アドレス筆 75
 「グローバル アドレス筆 Web」画面
 106, 170
 「グローバル管理」177, 176
 「グローバル管理」(申定)画面 175,
 176, 175, 177, 178
 グラフィックなしの VGA 出力 199
 サーバ情報 170
 パケット損失 182
 164, 162, 39
 ISDN
 エラーコード 263
 コンボジット入出力 221
 ESF/B8ZS (PRI) 251
 RS-232
 フロー制主 % 207
 GMS
 177
 159
 スナップショット
 Web インターフェイス 121
 NT-1
 S/T インターフェイス 6, 16,
 212
 RS-232 インターフ 205
 Web インターフ 116, 107, 121,
 122, 116, 103, 102, 103, 104,
 116, 120, 105, 125, 108, 106,
 116, 120, 119, 121, 103, 102, 122
 V. 35
 シリアル インターフ 223
 PRI
 スレーブ モード 242
 ユーザー申 119
 189
 状態アイコン
 メイン画面 38
 通話進行 40
 ISDN 38
 「ユーザ申」185
 BRI
 RJ-45 から RJ-45 へのクリア
 ケーブル 276

ケーブル 236, 11, 254, 277, 11,
232, 11, 234, 240, 14, 276, 253,
11, 1, 2
PRI
 P-LINK ケーブル 240
 RJ-45 から RJ-45 へのクリア
 ケーブル 253
 ケーブル アダプタ キット 14
V. 35
 ケーブル アダプタ キット 11
ケーブル ピン配置 233, 237, 278,
235
BRI
 ケーブル図 276
PRI
 ケーブル図 253
V. 35
 ケーブル図 229, 231
PRI
 ケーブル情報 13
V. 35
 ケーブル情報 11
「ニア ループ」 184
診断
 「ニア ループ」 184
シリアル番号 205
プライマリ カメラ 200
PC
 スナップショット アプリケ 125
 130
Softupdate
 130
システム設定の消去 184
 189
リモコン
 仮想 /Web ベース 121
スイッチ タイプ 263

スイッチ プロトコル (PRI) 140
スナップショット
 タイムアウト オプション 87,
 197
 送信 87
 PolycomSnap の使用 125
 197, 200
スナップショットの送信 87
クロズ キャプション 114, 115
F
FX VGA オプション 199
FX/VS4000 との PC の使用
 LAN への接続方法 96
 PC を LAN にない FX/VS4000 に
 接続する方法 98
G
G. 722 音声プロトコル 146, 151
G. 722. 1 音声プロトコル 146
G. 728 音声プロトコル 146, 151
 176
H
H. 320
 NetMeeting 124
H. 323
 「ダイヤル速度」画面 161
 「H. 323 設定」画面 157
 「H. 323 設定 / 基本告々」画面 157
 「LAN & イントラネット」画面 155
 「LAN」画面 155
 と NetMeeting, 125
 内線番号 (E. 164) オプション
 158
 動的帯域幅 160
 名前 158
H. 323 内線番号 (E. 164) オプション
23, 162
H. 323 名 23, 162

HDB3 (PRI) 251

I

調節

効果音量調整 195

カメラ 45

通話音量 45

通話実行

多地点 63

アドレス帳から発信 54

アナログ 57

手動ダイヤル 40

短縮ダイヤル 55

197, 144

音声エラー表 147, 196

画像

エラー表 182

Polycom 画像エラー表 182

動的帯域幅, 160

電源供給 Polycom

FX と VS4000, 5

PRI 245

IMUX

「IMUX 情報」画面 149

設定 (BRI) 191

設定 (PRI E1) 190

Quad BRI 16

直接内部ダイヤル (DID) 164

IP ダイヤルの内線番号オプション
を侮ヲ 21, 158

ISDN

回線チェック 38

スイッチ タイプ 263

NT-1 情報 261

SPID 263

短縮ダイヤル通話

かけ方 55

エントリのロック方法 56

L

LED

BRI 274

NT-1 261

LEDs

PRI 246

V. 35 229

M

186

N

NAT オプション 160

NET5/CTR4 スイッチ プロトコル
(PRI) 250

NetMeeting

一般情報 124

アクセス 123

システムの互換性 124

セキュリティ制限 124

H. 323 互換性 125

H. 323 回線速度 125

H. 323 テレビ通話情報 125

H. 323 制限 125

NT-1

ディップ スイッチ 262

状態ライト 261

P

PC

DHCP を有効にします。99

必要条件 96

IP アドレスの検索 123

PC を

FX/VS4000 と使用

PC 必要条件 96

PIP オプション 185, 198

Polycom OneDial 161

PolycomSnap 125

PRI

回線シグナル 251
「音質基本設定」画面 146
「ダイヤル速度」画面 148
「ダイヤル方式設定」画面 147
「PRI 設定 (E1)」画面 30
国際通話識別番号 (国際アクセス番号) 145
CSU 情報 32, 141, 243
チャンネル情報 142
多地点通話 61
E1 国名 239
E1 チャンネル情報 143
制限 251
スイッチ プロトコル情報 140, 250
電源装置 12
IMUX 設定 (E1) 190
NETWORK の LED 246
PBX 情報 250
P-LINK LEDs, 249
T1 国名 239

R
RCA 音声入出力コネクタ 221
PRI
RJ-45 へのケーブル 254
BRI
RJ-45 ケーブル 277, 278
RS-366 ダイヤル オプション (V.35) 25

S
134
ShowStation IP
FX/VS4000 に接続 194
SNMP 情報 167
SPID 番号
自動検出 151
スイッチ タイプごとの割当 263

S-video 入出力 221

T
199

V
V.35
暗号化 229
暗号化再同期情報 229
「ダイヤル速度」画面 26, 134
「ダイヤル方式設定」画面 27, 135
「詳細設定」画面 131
「通信設定」画面 25
「通話プロファイル」画面 28, 135
「ISDN 番号」画面 29
DCE 9
初期画面 25
状態マシン情報 224
LED 情報 229
VCR (オプション) 90, 199
VGA モニタ 5
VGA モニタ設定 198
ViewStation FX
装置 1
Visual Concert FX 91
Visual Concert FX, 208, 199
Visual ConcertDC, 91
VS4000
装置 2

W
WINS 設定 155